

ごん げん ぱる だい いち  
**權現原第1遺跡**

しも ほし の  
**下星野遺跡**

東九州自動車道(西都～清武間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ

2001

宮崎県埋蔵文化財センター

ごん げん ばる だい いち  
**權現原第1遺跡**

しも ほし の  
**下星野遺跡**

東九州自動車道(西都~清武間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IX

2001

宮崎県埋蔵文化財センター

## 序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（西都～清武間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度から10年度にかけて実施してまいりました。本書は、東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

本書に掲載した清武町所在の権現原第1遺跡・下星野遺跡は、平成7年度に発掘調査を行ったものです。調査によって旧石器時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されました。特に弥生時代から古墳時代の生活の跡が確認され、当時の人々の暮らしを知るうえで貴重な資料を得たことは意義深いものと言えましょう。

ここに報告する内容が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になることを期待しています。

最後になりましたが、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 矢野剛

## 例　　言

- 1 本書は、東九州自動車道（西都～清武間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎郡清武町所在の権現原第1遺跡・下星野遺跡の調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団の依頼により宮崎県教育委員会が実施した。
- 3 現地の実測・写真等の記録は、飯田博之（現宮崎県文化課）・柳田宏一・日高広人・鳥原孝仙・林田和人（現熊本市教委）が行った。
- 4 空中写真については（株）スカイサーベイに、自然科学分析については（株）古環境研究所に、地形測量については（株）フェニックス測量設計コンサルタント・（有）小城測量設計事務所に委託した。
- 5 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、図面作成・遺物実測・トレイスは整理作業員の協力を得て柳田と鳥原が行った。
- 6 土層断面及び土器の色調は『新版標準土色帖』に掲げた。
- 7 本書で使用した方位は座標北と磁北である。座標は国土座標第Ⅱ系に拠る。レベルは海拔絶対高である。
- 8 本書で使用した遺構略号は次の通りである。  
S A…竪穴住居跡　　S E…溝状遺構　　S C…土坑　　S I…集石遺構
- 9 本書の執筆及び編集は、第Ⅰ章と第Ⅲ章を鳥原孝仙が、第Ⅱ章を柳田宏一が、その他を柳田と鳥原が行った。
- 10 出土遺物・その他諸記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

# 本文目次

<b>第Ⅰ章 はじめに</b>	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2
<b>第Ⅱ章 権現原第1遺跡の調査</b>	4
第1節 調査の経過と概要	5
第2節 遺跡の層序	5
第3節 遺構・遺物	6
1 縄文時代の遺構	7
2 弥生・古代の遺構	10
3 遺物	12
(1) 縄文の石器	12
(2) 縄文の土器	21
(3) 弥生時代の遺物	26
(4) 古墳時代の遺物	35
(5) 古代の遺物	36
(6) 中世以降の遺物	36
第4節 権現原第1・第2遺跡の自然科学分析	44
第5節 調査区付近から採取された参考的資料	48
第6節まとめ	49
<b>第Ⅲ章 下星野遺跡の調査</b>	63
第1節 調査の経過と概要	63
第2節 A区の調査	65
1 A区の層序	65
2 縄文時代早期の遺構と遺物	66
(1) 集石遺構	66
(2) 遺物	67
3 縄文時代後期～晩期の遺構と遺物	68
(1) 縄文後期の土坑	68
(2) 土器	68
(3) 石器	81
4 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物	93
(1) 壁穴住居跡	93
(2) 土器	94

5 古代以降の遺構	107
(1) 古代の土坑	107
(2) 中世・近世の溝状遺構	108
第3節 C区の調査	109
1 C区の層序	109
2 細石刃文化期の遺構と遺物	110
(1) 集石遺構	110
(2) 土坑	110
(3) 遺物	113
3 縄文時代早期の遺構と遺物	116
(1) 集石遺構	116
(2) 土坑	121
(3) 土器	124
(4) 石器	126
第4節まとめ	128

## 挿図目次

### 権現原第1遺跡

第1図 調査区及び周辺地形図	4	第15図 縄文時代の遺物(土器2)	23
第2図 A区遺構分布状況	6	第16図 縄文時代の遺物(土器3)	24
第3図 1号・2号集石遺構実測図	8	第17図 弥生時代の遺物(石器1)	27
第4図 3号～8号集石遺構実測図	9	第18図 弥生時代の遺物(石器2)	28
第5図 1号・2号住居跡実測図	11	第19図 1号住居跡出土遺物	29
第6図 3号住居跡実測図	12	第20図 2号住居跡出土遺物	
第7図 縄文時代の遺物(石器1)	13	弥生時代の遺物(土器1)	30
第8図 縄文時代の遺物(石器2)	14	第21図 弥生時代の遺物(土器2)	31
第9図 縄文時代の遺物(石器3)	15	第22図 弥生時代の遺物(土器3)	32
第10図 縄文時代の遺物(石器4)	16	第23図 古墳時代の遺物(土器1)	37
第11図 縄文時代の遺物(石器5)	17	第24図 古墳時代の遺物(土器2)	38
第12図 縄文時代の遺物(石器6)	18	第25図 古墳時代の遺物(土器3)	39
第13図 縄文時代の遺物(石器7)	19	第26図 古代以降の遺物	42
第14図 縄文時代の遺物(土器1)	22	第27図 参考資料土器実測図	50

## 下星野遺跡A区

- 第1図 周辺地形図 ..... 64  
第2図 土層断面図 ..... 65  
第3図 縄文早期遺構分布図  
・集石遺構実測図 ..... 66  
第4図 縄文早期遺物実測図 ..... 67  
第5図 縄文後期遺構分布図  
・土坑実測図 ..... 68  
第6図 縄文後期～晚期土器実測図(1) ..... 70  
第7図 縄文後期～晚期土器実測図(2) ..... 71  
第8図 縄文後期～晚期土器実測図(3) ..... 72  
第9図 縄文後期～晚期土器実測図(4) ..... 73  
第10図 縄文後期～晚期土器実測図(5) ..... 74  
第11図 縄文後期～晚期土器実測図(6) ..... 75  
第12図 縄文後期～晚期土器実測図(7) ..... 76  
第13図 縄文後期～晚期土器実測図(8) ..... 77  
第14図 縄文後期～晚期石器実測図(1) ..... 82  
第15図 縄文後期～晚期石器実測図(2) ..... 83  
第16図 縄文後期～晚期石器実測図(3) ..... 84  
第17図 縄文後期～晚期石器実測図(4) ..... 85  
第18図 縄文後期～晚期石器実測図(5) ..... 86  
第19図 縄文後期～晚期石器実測図(6) ..... 87  
第20図 縄文後期～晚期石器実測図(7) ..... 88  
第21図 縄文後期～晚期石器実測図(8) ..... 89  
第22図 縄文後期～晚期石器実測図(9) ..... 90  
第23図 縄文後期～晚期石器実測図(10) ..... 91  
第24図 弥生～古墳遺構分布図 ..... 93  
第25図 弥生～古墳堅穴住居跡実測図 ..... 95～96  
第26図 弥生～古墳土器実測図(1) ..... 98  
第27図 弥生～古墳土器実測図(2) ..... 99  
第28図 弥生～古墳土器実測図(3) ..... 100  
第29図 弥生～古墳土器実測図(4) ..... 101  
第30図 弥生～古墳土器実測図(5) ..... 102  
第31図 弥生～古墳土器実測図(6) ..... 103

## 下星野遺跡C区

- 第32図 古代以降の遺構分布図  
・土坑実測図 ..... 107  
第33図 溝状遺構実測図 ..... 108  
第34図 土層断面図 ..... 109  
第35図 細石刃文化期  
・集石遺構実測図(1) ..... 110  
第36図 細石刃文化期  
・集石遺構実測図(2)・土坑実測図 ..... 111  
第37図 細石刃文化期遺構・遺物分布図 ..... 112  
第38図 細石刃文化期石器実測図(1) ..... 113  
第39図 細石刃文化期石器実測図(2) ..... 114  
第40図 細石刃文化期石器実測図(3) ..... 115  
第41図 縄文早期集石遺構実測図(1) ..... 117  
第42図 縄文早期集石遺構実測図(2) ..... 118  
第43図 縄文早期集石遺構実測図(3) ..... 119  
第44図 縄文早期集石遺構実測図(4) ..... 120  
第45図 縄文早期土坑実測図 ..... 121  
第46図 縄文早期遺構・遺物分布図(1) ..... 122  
第47図 縄文早期遺構・遺物分布図(2) ..... 123  
第48図 縄文早期土器実測図(1) ..... 124  
第49図 縄文早期土器実測図(2) ..... 125  
第50図 縄文早期石器実測図(1) ..... 126  
第51図 縄文早期石器実測図(2) ..... 127

# 表 目 次

## 椎原第1遺跡

第1表 出土石器計測表	20
第2表 繩文土器観察表	25
第3表 弥生土器観察表(1)	33
第4表 弥生土器観察表(2)	34
第5表 弥生土器観察表(3)	35
第6表 古墳時代土器観察表(1)	40
第7表 古墳時代土器観察表(2)	41
第8表 古代以降の遺物観察表	43

## 下星野遺跡A区

第1表 繩文早期集石遺構計測表	67
第2表 繩文早期土器観察表	67
第3表 繩文早期石器計測表	67
第4表 繩文後期～晩期土器観察表(1)	78
第5表 繩文後期～晩期土器観察表(2)	79
第6表 繩文後期～晩期土器観察表(3)	80
第7表 繩文後期～晩期土器観察表(4)	81
第8表 繩文後期～晩期石器計測表(1)	91
第9表 繩文後期～晩期石器計測表(2)	92
第10表 弥生～古墳土器観察表(1)	104
第11表 弥生～古墳土器観察表(2)	105
第12表 弥生～古墳土器観察表(3)	106

## 下星野遺跡C区

第13表 細石刃文化期石器計測表	116
第14表 繩文早期集石遺構計測表	120
第15表 繩文早期土器観察表	125
第16表 繩文早期石器計測表	127

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道延岡～清武間は平成元年2月に基本計画がなされ、平成3年12月には西都～清武間に於いては整備計画路線となっている。西都～清武間は、平成5年11月に建設大臣から日本道路公団へ施工命令が出され、公団では平成6年度から事業に着手している。その間、県教育委員会文化課では、平成3年度に西都～清武間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工による影響部分については工事着手前に発掘調査を実施することになった。調査は、平成7年度に文化課で実施し、権現原第1遺跡を平成7年9月6日から平成8年3月28日まで、下星野遺跡を平成7年5月10日から平成8年3月26日まで行った。平成8年度からは、宮崎県総合博物館から分離・独立した宮崎県埋蔵文化財センターで整理作業を実施した。

## 第2節 調査の組織

権現原第1遺跡・下星野遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教育長

田原直廣（平成7年・8年度）

岩切重厚（平成9年度）

笠山竹義（平成10・11・12年度）

文化課長

江崎富治（平成7・8年度）

仲田俊彦（平成9・10・11年度）

黒岩正博（平成12年度）

主幹兼埋蔵文化財第2係長

岩永哲夫（平成7年度）

埋蔵文化財係長

面高哲郎（平成8年度）

北郷泰道（平成9・10・11年度）

石川悦雄（平成12年度）

主　　査（調整担当）

石川悦雄（平成7年度）

（調整担当）

永友良典（平成8年度）

（調整担当）

柳田宏一（平成9年度）

主任主事（調整担当）

重山都子（平成10・11年度）

（調整担当）

飯田博之（平成12年度）

主　　査（権現原第1遺跡調査担当）

柳田宏一（平成7・8・10年度）

主　　事（権現原第1遺跡調査担当）

飯田博之（平成7年度）

主任主事（権現原第1遺跡調査担当）

飯田博之（平成9・10・11・12年度）

主任主事（下星野遺跡調査担当）

鳥原孝仙（平成7年度）

主　　事（下星野遺跡調査担当）

日高広人（平成7年度）

調　　査　員（嘱託・下星野遺跡担当）

林田和人（平成7年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	藤本健一（平成8・9年度）
	田中 守（平成10・11年度）
	矢野 剛（平成12年度）
副参事	木幡文雄（平成8年度）
副所長	岩永哲夫（平成8・9・12年度）
	江口京子（平成11年度）
	菊地茂仁（平成12年度）
調査第一課長	面高哲郎（平成12年度）
調査第一係長（兼）	岩永哲夫（平成8年度）
	面高哲郎（平成9・10・11・12年度）
主 事（調整担当）	飯田博之（平成8年度）
主 査（調整担当）	菅付和樹（平成9・10・11年度）
（兼・調整担当）	面高哲郎（平成12年度）
主 査（調査担当）	柳田宏一（平成11・12年度）
	鳥原孝仙（平成8・9・10・11・12年度）

### 第3節 遺跡の位置と歴史的環境

清武町は、県央、宮崎平野の南西部に位置し、日南山塊から延びる丘陵の先端部及びその間を流れる清武川とその支流水無川を中心とした低地からなり、川沿いの丘陵地には河岸段丘が発達し、町内の遺跡の大半は、この段丘上平坦面に形成されている。

本遺跡は、清武川右岸の標高約70mを測る小高いシラス台地の縁辺部に立地する。調査時は、畑作が営まれており、台地縁辺の崖面には湧水地が見られ、遺跡立地の好条件が備わっている。

近年、町内や隣接地では発掘調査が急増し、調査結果が報告されるようになり、貴重な文化遺産が紹介されている。本遺跡の東側に位置する竹ノ内遺跡では、縄文後期の集落跡が報告されている。また、辻遺跡は、貝殻腹縁による刺突文を連続した山形あるいは鋸歯状に施文する辻タイプと分類される縄文早期の土器が出土したことでも知られている。本遺跡の北側の台地には県営農地保全整備事業関連の複合遺跡群が立地している。その中で、椎屋形第1遺跡・第2遺跡では縄文草創期の土器が多量に出土するとともに、第1遺跡では弥生時代後期初頭の「花弁状住居跡」が検出され、上の原第1・第2遺跡では縄文中期から後期の竪穴住居跡・土坑群が検出されている。また、白ヶ野第1・第2・第3遺跡では縄文早期を中心とする構造・遺物が出土しており、特に第3遺跡B地区の古代の竪穴住居群は特筆に値する。東九州自動車道の白ヶ野遺跡は、縄文時代を中心とする構造・遺物の検出量が非常に多い。本遺跡の西南西約9kmに位置する丸野第2遺跡（田野町七野字丸野）は、縄文後期の竪穴住居跡が多数検出され、指宿式・市来式・鐘ヶ崎式等の土器も出土している。

#### 【参考文献】

清武町教育委員会 1990 「清武町遺跡詳細分布調査報告書」清武町埋蔵文化財調査報告書第4集



1 : 50,000 宮崎

- |            |            |            |           |            |
|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 1：椎原第1遺跡   | 2：下星野遺跡    | 3：水ノ原遺跡    | 4：杉木原遺跡   | 5：椎原第2遺跡   |
| 6：竹ノ内遺跡    | 7：江置遺跡     | 8：椎屋形第1遺跡  | 9：椎屋形第2遺跡 | 10：上の原第1遺跡 |
| 11：上の原第2遺跡 | 12：上の原第3遺跡 | 13：上の原第4遺跡 | 14：上の原遺跡  | 15：白ヶ野第1遺跡 |
| 16：白ヶ野第2遺跡 | 17：白ヶ野第3遺跡 | 18：白ヶ野第4遺跡 | 19：本城跡    | 20：生目村古墳群  |

遺跡位置圖



第1図 横須原第1遺跡調査区及び周辺地形図

## 第Ⅱ章 権現原第1遺跡

### 第1節 調査の経過と概要

権現原第1遺跡の調査対象面積は6,300m<sup>2</sup>である。平成7年9月6日から着手し、調査区の北側から調査を開始した。順次南の方へ調査場所を移し、平成8年3月に現場での発掘調査を終了した。

調査は、平成5年度の分布調査で地形的に遺跡がある可能性が高く、遺物が表面採集された部分を調査範囲として設定されていたので、先ず遺跡の範囲の確認調査を行い、2m×2mのトレンチを各所に入れて小林軽石層まで掘り下げていった。調査区は高速道路の建設予定地という性格上、東西方向の道路幅に対して道路延長方向の南北に長かったので、6つの小調査区（A区～F区）に分けた（第2図）。

次に重機で表土（第I層）の除去を行った。第II層以下は人力で掘り下げた。造構検出面はアカホヤ火山灰層（第VI層）上面である。アカホヤ火山灰層の上の黒色土層（第IV層）で縄文時代前期から古代にかけての遺物が出土した。精査の結果、竪穴住居跡が最北部のA区で2軒、南部のD区で1軒の合計3軒を確認した。

造構完掘後、実測と写真撮影を行いアカホヤ火山灰層直上の面（第1文化層）の調査を終了した。その後、人力で第VI層の除去を行い、縄文時代早期（第2文化層）の調査に着手した。その結果、第V層からA区で6基、D区で1基、F区で1基の合計8基の集石造構を検出し、他に土器片・石器類が出土した。

これらの造構はほとんど丘陵の端部で検出され、調査区中央部では遺物は第I層の耕作土中に多く見られたが、造構はほとんどなく、ピットがランダムに検出されたにすぎなかった。これは、ほ場整備事業で遺物・造構が包含されていた可能性のある層が削平されてしまったためと思われる。

（表土の下はわずかにアカホヤ火山灰層が残っている状態で第II層～第V層は残っていないところが大部分だった。）土自体がほ場整備で大幅に動いておりI層中の出土遺物はこの遺跡のものかどうかは疑わしい。A区やE区・D区は丘陵の端部であり、中央部の削平された土で埋められた結果、包含層が残ったものと思われる。

造構実測と遺物の取り上げを行った後、数カ所でトレンチを小林軽石層まで掘り下げ、第V層よりさらに下層からの造構・遺物の検出がないことを確認して調査を終了した。

### 第2節 遺跡の層序

権現原第1遺跡の基本層序を概説する。第I層（表土）は、大根畑の耕作土であり、灰色がかつた黒色土である。第II層は黄褐色土で粒の細かい、さらさらした砂質の土の層である。第III層は第II層よりやや暗い色調で土質は第II層とはほぼ同じである。第IV層は黒褐色の層であり、弥生時代の遺物の包含層となっている。第V層がアカホヤ火山灰が風化してきた、二次アカホヤの堆積した層である。第VI層がアカホヤ火山灰層で、その下に牛の臍ローム層（第VII層）がある。さらにその下に黒色土の層（第VIII層）があり縄文時代早期の遺物が検出された。第VIII層の下には褐色の

粘土質の層（第Ⅸ層）が厚く堆積している。第Ⅳ層を小林軽石層が検出されるまで掘り下げた。遺物は第Ⅳ層と第Ⅶ層を中心に検出された。

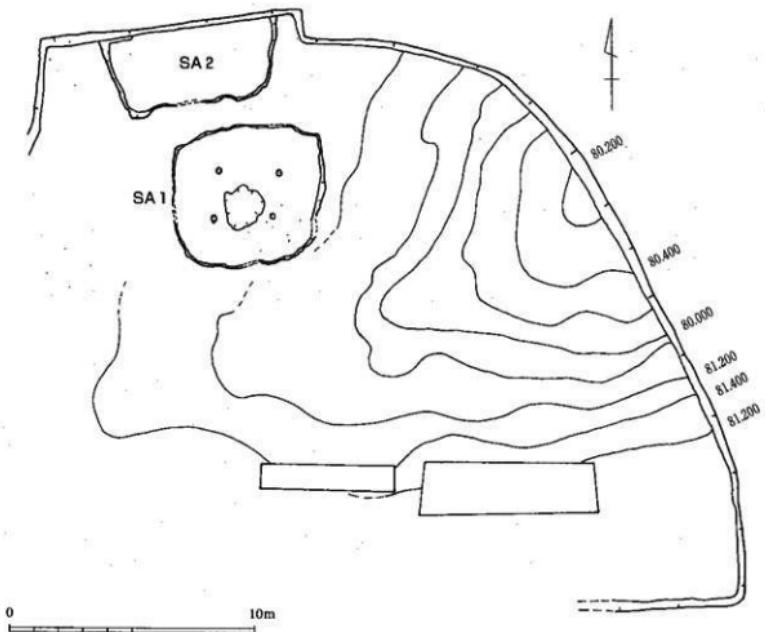
層序はⅠ層が灰褐色の表土（耕作土）、Ⅱ層が黄褐色の砂質土、Ⅲ層が暗褐色の砂質土、Ⅳ層が黒褐色の砂質土、V層が2次アカホヤ、VI層がアカホヤ火山灰層、VII層が牛の腸ローム層、VIII層が粘土質の黒色土、IX層が粘土質の褐色土となっている。

### 第3節 遺構・遺物

遺構については、前述のようにアカホヤ火山灰上面で弥生時代の竪穴住居跡2軒と古墳時代の竪穴住居跡1軒、アカホヤ火山灰層下から集石遺構8基を検出した。

その内、弥生時代の住居跡2軒と集石遺構6基はA区北側に集中して検出された（第2図）。

A区以外からは、古代の住居跡1軒がD区から、集石遺構2基がD区・F区から検出された。



第2図 遺構分布図(A区)

## 1 縄文時代の遺構

集石遺構が8基がアカホヤ火山灰層の下の層（Ⅴ層）から検出された。

### (1) 1号集石遺構（第3図）

調査区の最北端部から検出された遺構で、一部は現道の下にあるが、掘り込み等はほぼ確認できた。掘り込みは長径約1.6m、短径約1.3m（推定）の梢円形である。礫は砂岩が主体であり、礫の分布は中心部が疎で周辺部が密なドーナツ状になっている。礫の多くが赤変しているが、割れたものは少ない。

### (2) 2号集石遺構（第3図）

約1mの正円に近い集石遺構であり、10cm程度の浅い掘り込みを持つ。偏平な大型の礫を掘り込みの中央付近に配している。礫はほとんどが赤変しており、碎けたものも多い。

### (3) 3号集石遺構（第4図）

1号住居の張床の下にあり、4号集石遺構と隣り合って検出された。掘り込みは長径が約90cm、短径が約80cmのやや梢円になっており、深さは約10cmの浅いものである。礫は掘り込みの中央部に集中している。赤変して碎けた礫が多い。

### (4) 4号集石遺構（第4図）

3号集石遺構と同様に1号住居の張り床の下から検出された。掘り込みは持たず、礫が散らばった状態である。赤変し碎けた礫が多いことから3号集石遺構の廃棄された石の集積の可能性がある。

### (5) 5号集石遺構（第4図）

1号住居の約1m東側から検出された。掘り込みはなく、ごく浅い窪みに礫が散在しているが、重なりはあまり認められない。赤変した礫が多いことから、隣接して検出された6号集石遺構の廃棄礫の集積の可能性が大きい。

### (6) 6号集石遺構（第4図）

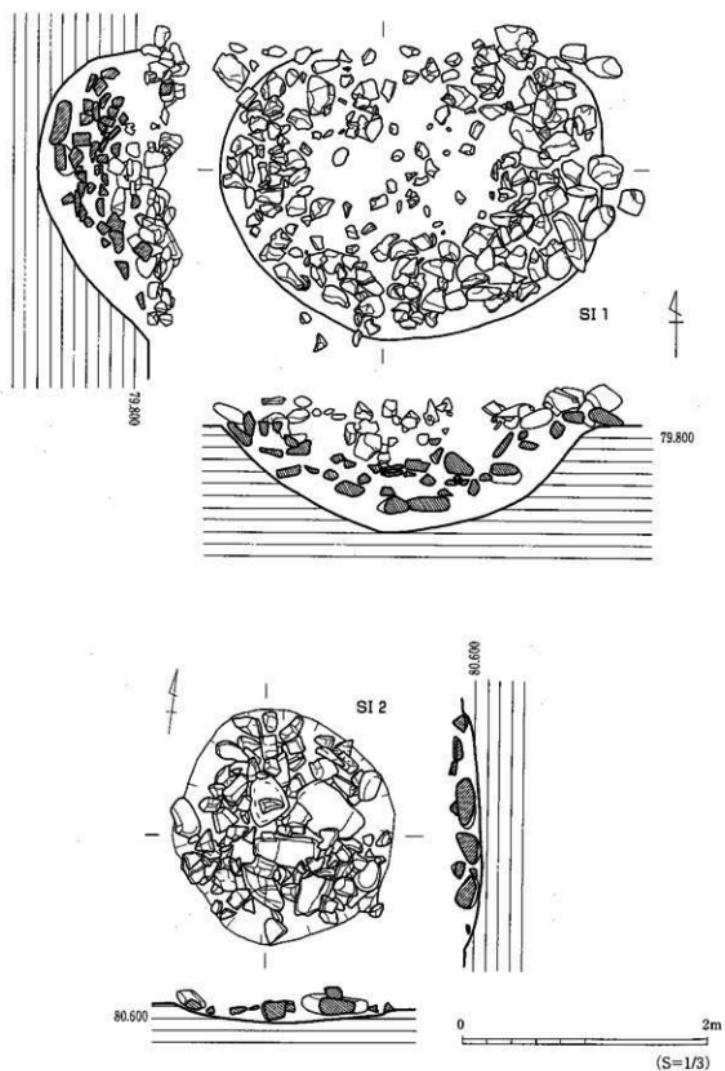
僅かに窪んでいるが、掘り込みとは認められなかった。大きな礫が数個ある他は比較的小な礫が約1mの円状に散在する。埋土には炭化物が認められた。

### (7) 7号集石遺構（第4図）

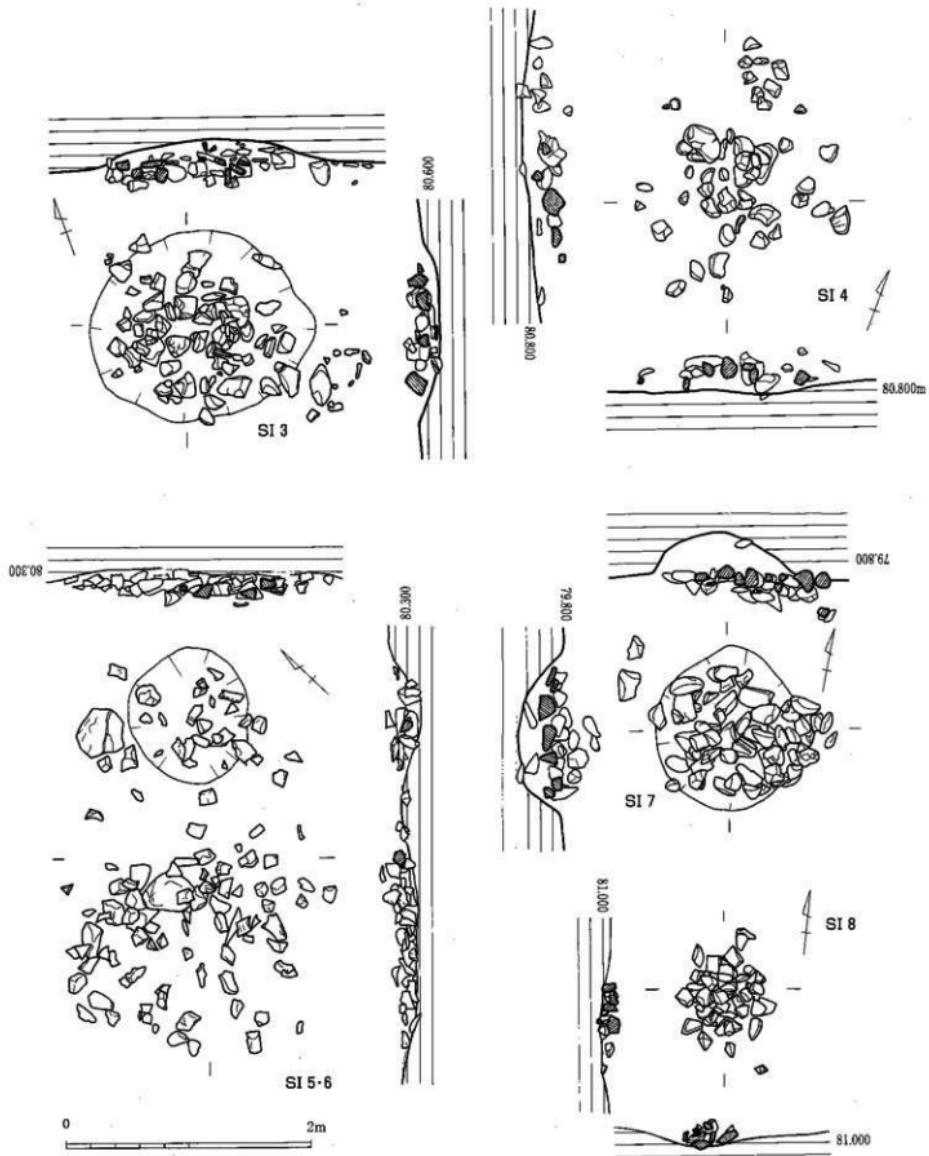
D区の3号住居の北壁に近いところから検出された。長径70cm、短径約60cm、中央で20cmほど深さの掘り込みをもつ。礫は丸石状の砂岩・安山岩が多い。礫の数は掘り込みの東側に偏りがみられる。また、掘り込みから10cmほど浮いて、水平に配されている礫が多い。

### (8) 8号集石遺構（第4図）

F区の南東側で検出された。集石の分布は直径約40cmで、窪んでいるが明瞭に掘り込みとは認めできなかった。礫は中央に集中しており、赤変したものが多い。



第3図 1・2号集石遺構実測図



第4図 3・4・5・6・7号集石道構成測図

## 2 弥生時代～古墳時代の遺構

弥生時代の住居跡がA区から2軒、古墳時代の住居跡がD区から1軒検出された。

### (1) 1号住居（第5図）

方形の竪穴住居跡で、アカホヤ面（第VI層）上に二次アカホヤの落ち込みとして検出された。残存状況としては西側の壁面が後世の掘り込みによって破壊されている外は良好であった。検出面からの深さは壁際で約20cm、ほぼ水平であり張床があった。住居跡の中央よりやや南側には焼土が確認された。柱穴は4本が張床を剥いだ時点で検出された。

遺物としては床面近くから突帯のついた甕や壺が出土した。また、台石が中央北壁に近いところから出土した。

この住居跡は出土した土器から弥生中期以降のものかと思われる。

### (2) 2号住居（第5図）

方形と思われるが、住居跡の北半分が現道下であり、南半分のみの調査である。落ち込み面直上まで攪乱を受けているが、残存状況はほぼ良好である。

長さは東西方向が約5.8m、南北方向が現道下まで約2.8mある。調査可能部分がほぼ半分程度なので、南北方向もだいたい東西方向と同程度の長さと思われることから正方形に近い住居と推定される。西側の壁際に集石遺構（1号集石遺構）があり、その部分の壁が1号集石遺構と重なり合っている。調査区の一番北側であり、北側の斜面の落ち際に位置し、1号住居と南北に並んでいる。

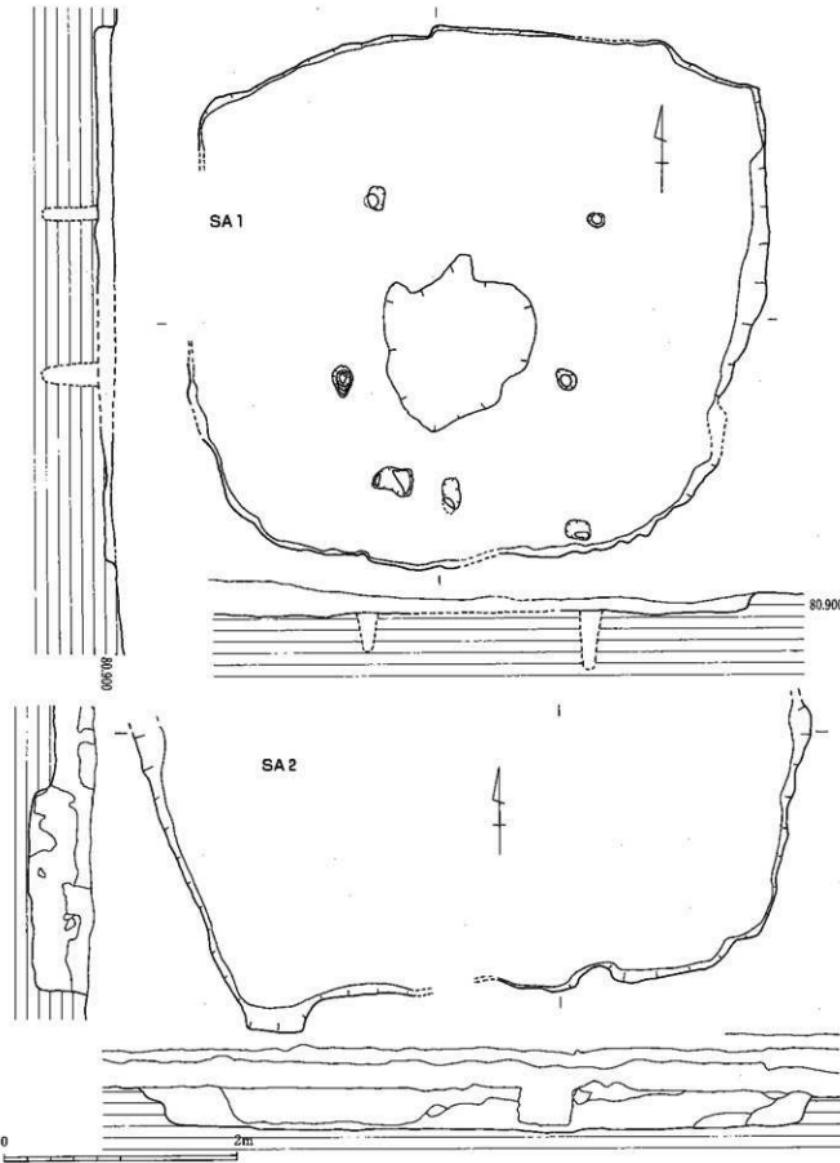
時期は遺構内から出土した土器から1号住居よりやや新しく弥生後期と思われる。検出面から床までの深さは約40cmあり、1号住居と同じくアカホヤ面（第VI層）上に二次アカホヤの落ち込みとして検出された。張床及び柱穴は確認できなかった。中央部に焦土が確認された。

遺物の量は1号住居より少ないが、中央より西側にやや数が偏って出土した。

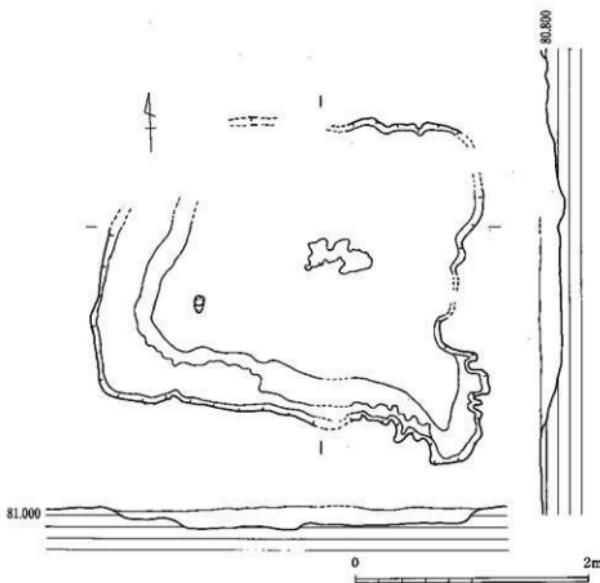
### (3) 3号住居（第6図）

方形の住居跡とみられるが、ほ場整備でかなり削られている上にトラクターによる攪乱を受けており、壁の落ち込み面は不明である。表土を剥いだ時点で遺物が集中して出土して検出された。推定で南北約2.4m、東西約3mの東西にやや長い長方形をしている。また、検出面（第IX層）から床面までの比高差が中央部の一番深い所で20cm前後あるが、壁面から中央にゆるやかに傾斜しており壁の落ち際がはっきり分からなかった。中央部には焼土が残っていた。

床面付近に土師器の甕・高杯類がまとまって出土していることから、この住居跡は古墳時代のものと思われる。



第5図 1・2号住居跡実測図



第6図 3号住居跡実測図

### 3 遺物

遺物に関しては、石器と土器が大半である。攪乱土中からは鉄製品や近世・近代の陶片やキセルの吸い口等も出土している。

#### (1) 縄文時代の石器

石器に、ついてはその形状からスクレイパー、石鎌類と石斧、敲石・磨石、石錐、その他の石製品の6類に分類した。個々の製品については観察表を参照されたい。

##### ①スクレイパー（第7図）

スクレイパーは1点（1）のみ第Ⅶ層の黒褐色土層より出土した。後期旧石器時代から縄文早期にかけての遺物と思われる。

##### ②石鎌・石匙（第7図）

本遺跡で石鎌及び石匙は6点出土している（2～7）。うち石匙は1点（2）のみで、石鎌は石材により2類に小分類した。いずれも第Ⅶ層の黒褐色土の中から出土した。

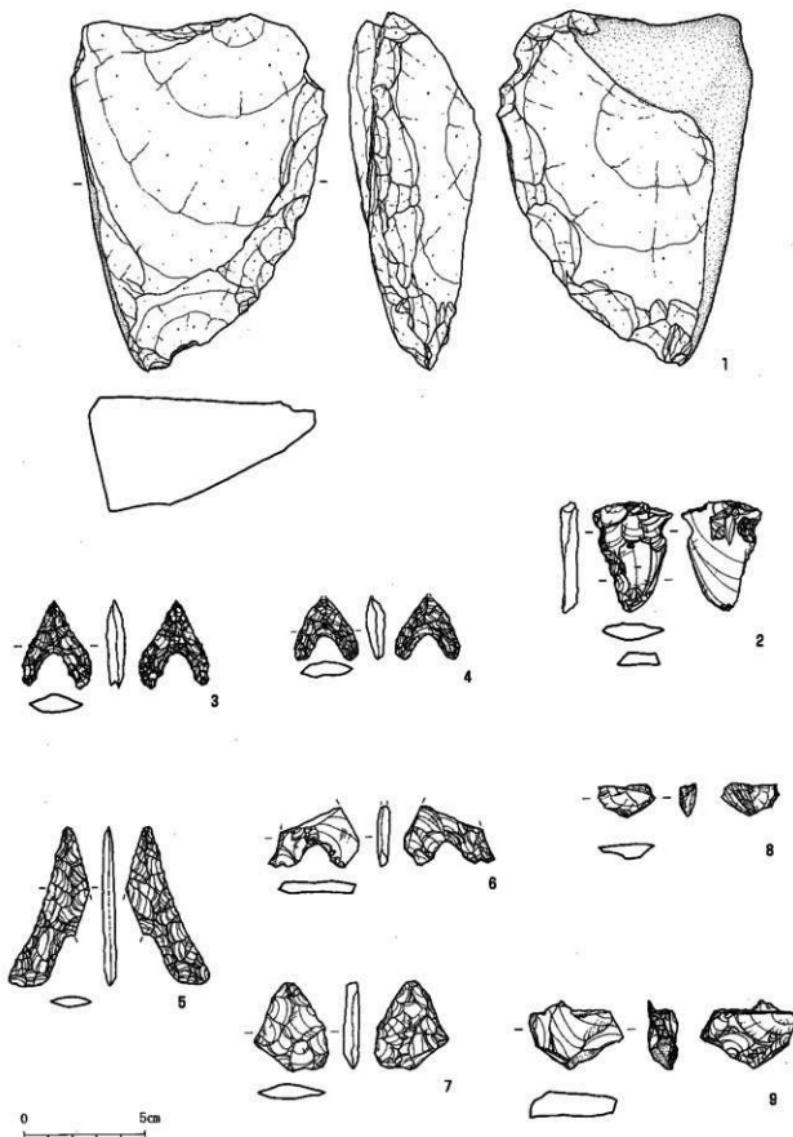
1類 石匙（2） 黒曜石製

2類 石鎌～チャート製のもの（3～5）

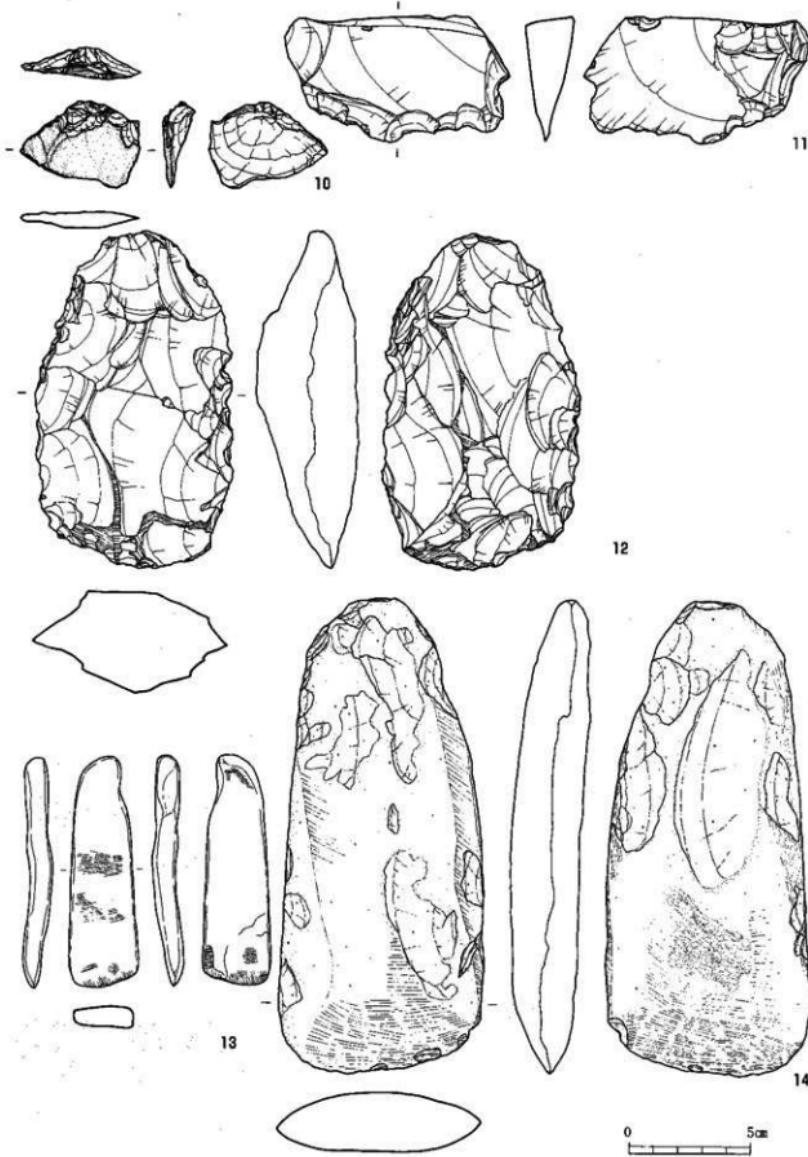
3類 石鎌～黒曜石製のもの（6,7）、石材は2点とも大分県姫島産のものと思われる。

##### ③剥片（第7図・8図）

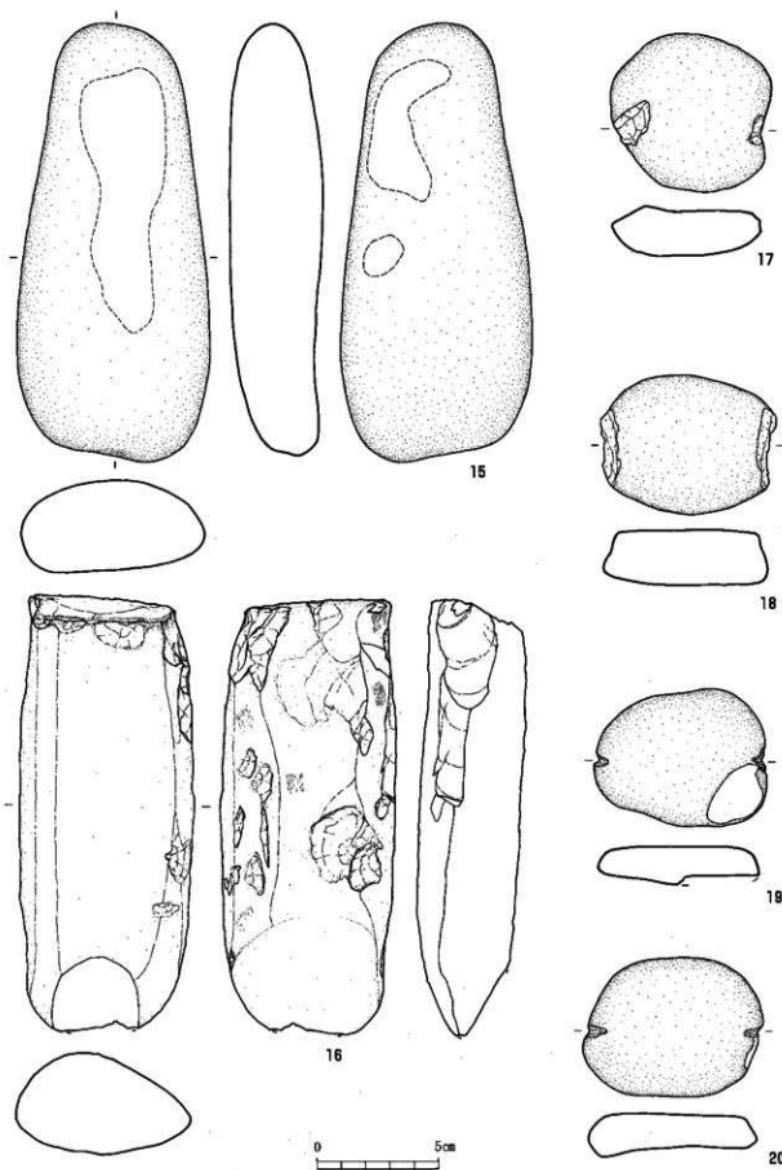
剥片は4点（8,9,10,11）出土している。流紋岩製が2点と黒曜石製、頁岩製が1点ずつである。第Ⅶ層の黒褐色土中から出土した。



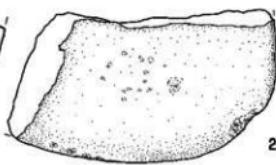
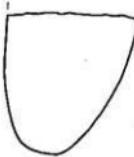
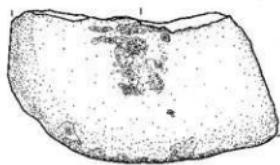
第7図 漢文時代の遺物(石器1)



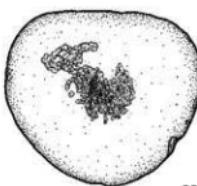
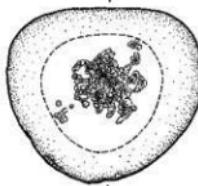
第8図 桐文時代の遺物(石器2)



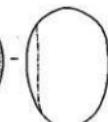
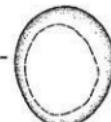
第9図 純文時代の遺物(石器3)



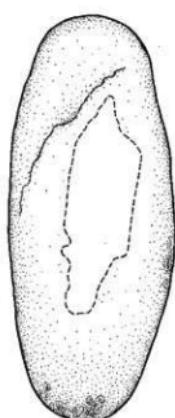
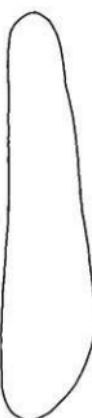
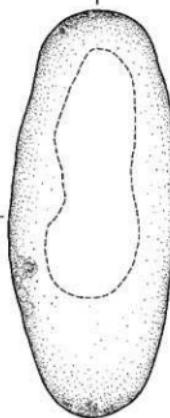
21



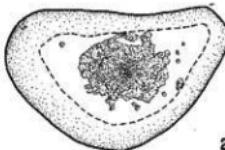
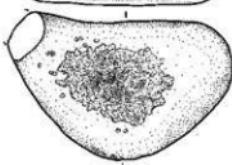
23



24



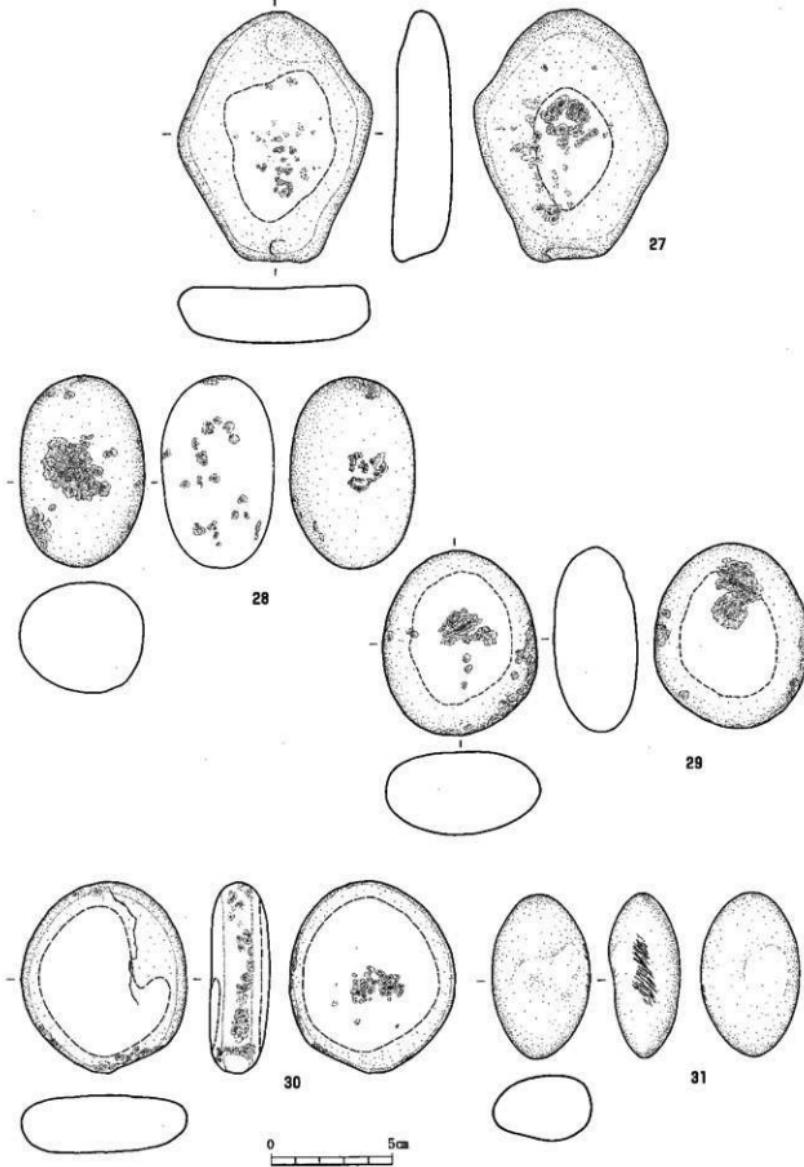
25



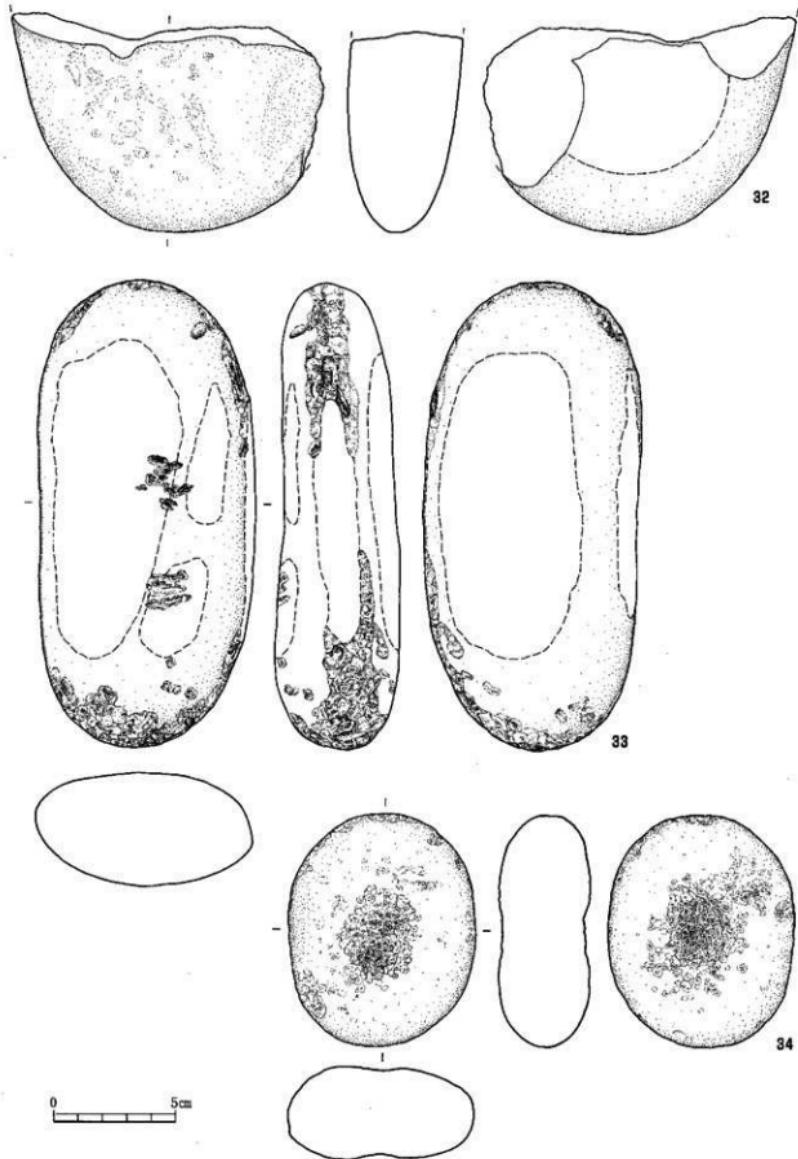
26



第10図 繪文時代の遺物(石器4)



第11図 純文時代の遺物(石器5)



第12図 繩文時代の遺物(石器6)

④石斧（第8・9図）

出土点数は5点だが、製作方法によって2類に分けた。

1類 打製のもの (12)

2類 磨製のもの (13,14,15,16)

このうち石材で分けると砂岩製のもの (15)、頁岩製のもの (12,13,14)、安山岩製のもの (16) に分類できる。

⑤敲石・磨石（第10～12図）

この類に含まれるものは12点 (21～25,27～31,34) ある。石材によって2類に小分類した。

1類 砂岩製のもの (21～23,25,27～30,34)

2類 流紋岩製のもの (24)、頁岩製のもの (26,31～33)

⑥石錐（第9図）

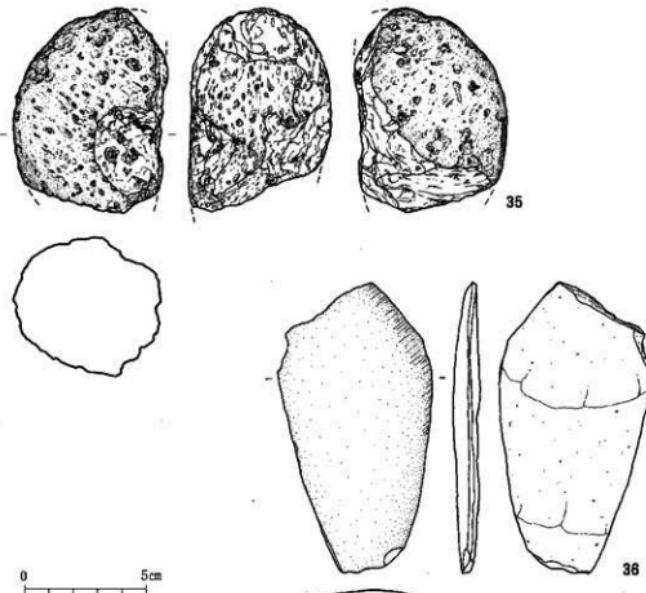
石錐は製作の手法の違いにより2類に小分類した。

1類 石の端部を打ち欠いて製作したもの (17,18)

2類 石を研磨して切れ目を入れたもの (19,20)

⑦その他の石製品（第13図）

①～⑥以外の石製品を⑦としたが、用途不明である (35,36)。



第13図 縄文時代の遺物(石器7)

第1表 出土石器計測表

遺物 番号	出土位置	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
1	G1-1	スクレイバー	10.95	7.8	4.05	192.7	砂岩	
2	D-44	石匙	3.4	2.43	4.76	3.3	黒曜石	
3	D-3	石鏟	1.8	1.4	3.54	0.6	チャート	
4	D-4	石鏟	1.3	1.3	3.5	0.4	チャート	
5	463	石鏟	3.3	1.65	2.58	0.98	チャート	
6	S240	石鏟	0.7	1.9	2.99	0.5	黒曜石	先端部欠損
7		石鏟	1.8	1.5	3.4	0.7	黒曜石	
8		剥片	1	1.73	0.5	0.5	流紋岩	
9	S240	剥片	2.1	2.9	0.85	4	黒曜石	
10		剥片	2.65	3.65	0.94	5.8	流紋岩	
11	402	剥片	3.9	6.95	2.37	50	頁岩	
12		石斧	10.4	6.1	3.1	180	頁岩	
13	S145	磨製小石斧	7.1	2.1	0.65	80	頁岩	
14		石斧	14.45	6.2	2.2	270	頁岩	
15	S121	石斧未製品	13.4	5.9	2.8	340	砂岩	
16		磨製石斧	13.3	5.4	3.1	395	安山岩	
17	953	石錐	5	4.8	1.4	50	砂岩	
18	945	石錐	5.4	4.3	1.8	60	砂岩	
19	956	石錐	5.35	4.2	1.2	40	砂岩	切れ目
20	952	石錐	5.55	4.25	1.4	50	砂岩	切れ目
21	S16	敲石	8.9	16.5	8.1	1700	砂岩	一部欠損
22	S118	敲石	10.9	4.9	3.15	250	砂岩	一部欠損
23	S250	敲石	10.85	12	3.25	620	砂岩	
24	401	磨石	7.4	6.1	5	300	流紋岩	
25	541	敲石	9.1	13.8	4.8	880	砂岩	
26	731	磨石	25.3	10.3	5.8	1800	頁岩	
27	S1	敲石	15.3	11.7	3.4	1000	砂岩	
28	123	敲石	11.9	7.7	6.85	880	砂岩	
29	775	磨石	9.5	9.45	5.15	735	砂岩	
30	934	磨石	11.9	10.1	3.6	645	砂岩	
31	D-60	磨石	10.15	6.05	4.3	360	頁岩	
32	S15	敲石	13.6	19.1	6.9	700	頁岩	
33	726	敲石	29.2	13.2	7.4	2200	頁岩	
34	137	敲石	14.35	11.6	5.7	1400	砂岩	
35	S1	不明	8.5	6.4	5.7	20	軽石	
36	S248	磨製石器未製品	8.9	4.75	0.8	33.3	砂岩	
67	SA1-17	台石	32.9	24.5	11.4	4200	砂岩	
68	SA1-7	台石	21.8	19.5	8	2000	頁岩	
69	SA1-42	台石	22.6	19.4	8.8	12500	砂岩	
70	SA1	石皿	20.3	30.2	9.6	2800	砂岩	

## (2) 縄文時代の土器 (第14図～第16図)

縄文土器はアカホヤ火山灰層の上下の層から土器片が出土している。それは縄文時代早期・前期・後期に位置づけられる土器類である。それらは文様や手法・器形により分類することができる。ここでは、分類の基準と根拠を示し、特徴のある土器について若干の説明を加える。個々の資料については観察表を参照されたい。

### ①貝殻条痕系の土器 (第14図)

施文や胎土の状況からさらに2類に分類した。

1類 アカホヤ火山灰下のⅦ層・Ⅷ層から出土した土器類で、口縁部は直立する。口唇部及び内器面にはミガキが施され、外器面には斜め、または横方向の貝殻腹縁条痕文を施している。前平式に近い土器群と思われる(37～49)。底部は平底で内外器面ともミガキが施されている。

2類 口縁部には刻み目があり、口縁部近くには楔形突帯を有し、底部付近には継位に貝殻条痕が施されている(50,51)。2点の内1点は角筒である。

### ②押型文系の土器 (第15図)

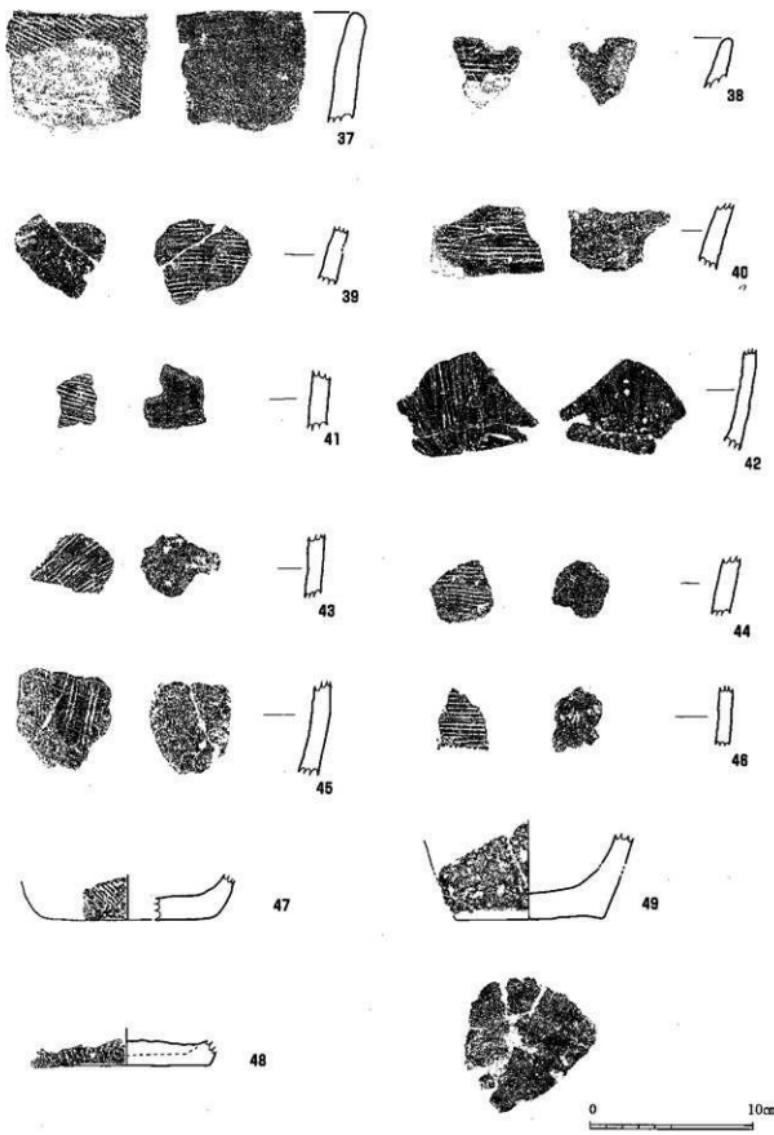
①類と同じくアカホヤ火山灰の下の層から出土した押型文系の土器群である。胎土に①類には見られなかった、金雲母が混入している。山形の押型文(52～59)は底部付近まで施文しており、底部外器面はミガキが、器内面は底部付近までていねいなナデが施されている。底部の形状は平底である(55)。同心円状の押型文を有するものも2点(58,59)出土している。

### ③みみず腫れ状突帯を有する土器 (第16図)

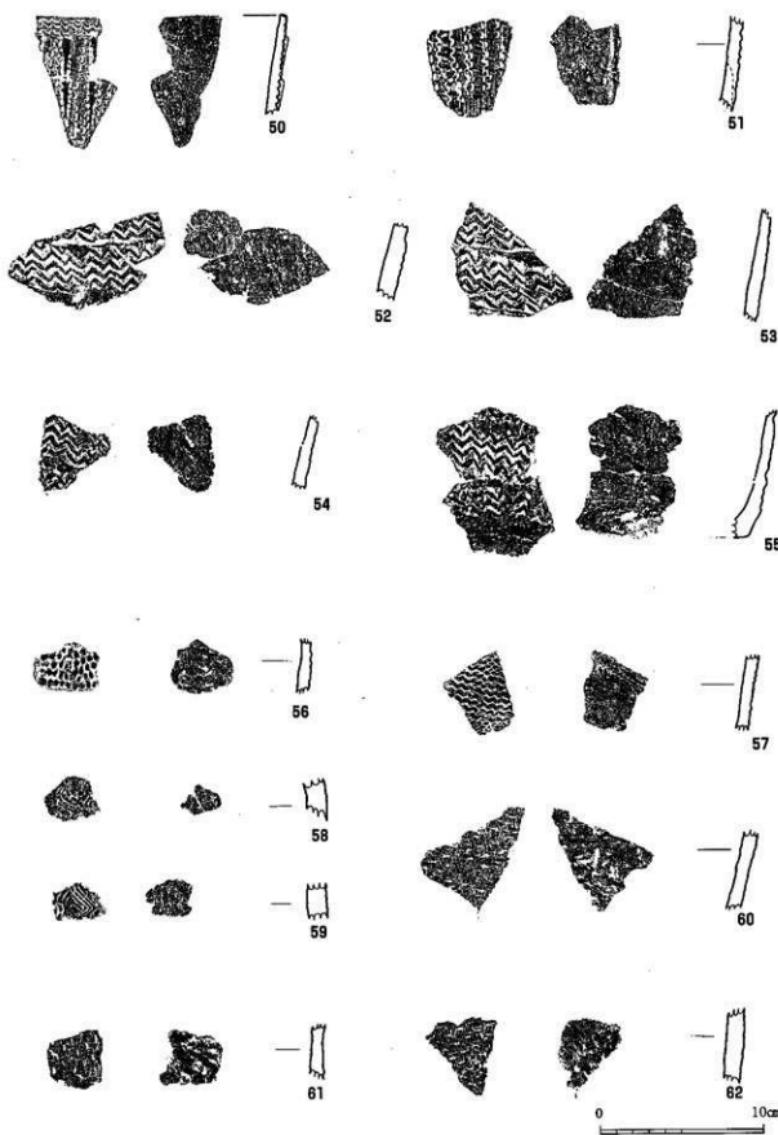
アカホヤ火山灰層上の第Ⅳ層から出土した土器である。みみず腫れ状の突帯を有した土器片が2点(63,64)出土している。内1点は穿孔が施してある(63)。

### ④その他の土器 (第16図)

③と同じくアカホヤ火山灰層の上の土層から出土した縄文土器であるが、③よりも後の時代の土器と思われる。2点出土しており(65,66)、内1点は黒色磨研土器である(66)。



第14図 繩文時代の遺物(土器1)



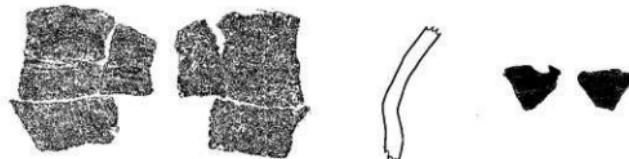
第15図 縄文時代の遺物(土器2)



63



64



65



66

0 10cm

第16図 縄文時代の遺物(土器3)

第2表 繩文土器観察表

遺物 番号	出土 位置	器種	部位	模様及び調整		色調	焼成	胎土	備考
				外面	内面				
37	F9	深鉢	口縁	斜方向の貝殻紋	丁寧なナデ、風化ぎみ	に bei 橙 (7.5YR7/4)	灰黄褐色 (10YR5/2)	良好	2mm以下の乳白色粒と0.5mm以下の透明光沢粒を含む
38	F22	深鉢	口縁	横方向の条痕文	横方向のナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 橙 (7.5YR6/4)	良好	1mm以下の透明光沢粒と黒色粒を含む
39	D27	深鉢	肩部	繩力印の貝殻条痕文、斜土縫跡等付帯	丁寧なナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の乳白色の粒と透明に光る粒を含む
40	F8	深鉢	肩部	横方向の貝殻腹条痕文	斜方向のナデ	に bei 橙 (7.5YR6/3)	灰黄褐色 (10YR6/2)	良好	1mm以下の白色粒と0.5mm以下の白色光沢粒を含む
41	F15	深鉢	肩部	斜方向の貝殻腹条痕文	横・斜方向のナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の乳白色粒と透明光沢粒を含む
42	F13	深鉢	肩部	横方向の条痕文	ナデ	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の透けガラス状の粒、赤褐色の粒を含む
43	D29	深鉢	肩部	ナデの上を斜めに刻めた貝殻条痕文	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	に bei 橙 (7.5YR6/4)	良好	2mm以下の透明光沢粒、1.5mm以下のガラス質の透明光沢粒を含む
44	D34	深鉢	肩部	横方向の条痕文	横方向のナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/8)	良好	4mm以下の褐色粒と1mm以下の透明光沢粒を含む
45	F11	深鉢	肩部	貝殻条痕文	ナデ	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	に bei 橙 (10YR6/1)	良好	1mm以下のガラス状の透明光沢粒、白色粒
46	D8	深鉢	肩部	横方向の条痕文	横方向のナデ	橙 (5YR6/6)	褐灰 (10YR4/1)	良好	5mm以下の乳白色粒と0.5mm以下の透明光沢粒
47	F20	深鉢	底部	斜方向の貝殻条痕文	ヨコナデ、ナデ	橙 (7.5YR7/6)	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	良好	2mm以下の黒色・褐色粒を含む
48	F18	深鉢	底部	丁寧なナデ、風化ぎみ	ナデ	橙 (5YR6/6)	に bei 橙 (7.5YR5/4)	良好	2mm以下の白色粒、1mm以下の柱状透明光沢粒を含む
49	F14	深鉢	底部付近	横方向の条痕文	ナデ	に bei 橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	良好	2mm以下の褐色粒を含む
50	F17	深鉢	口縁	口縁部に刻み、横方向の貝殻条痕文、斜土縫跡等付帯、ヘラ工具跡等	ナデ	に bei 橙 (7.5YR5/4)	に bei 橙 (7.5YR5/4)	良好	2mm以下の褐色粒を含む
51	F10	深鉢	底部付近	横方向の条痕文の上に斜方の貝殻条痕文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 橙 (7.5YR6/4)	良好	1.5mm以下のガラス質の透明光沢粒、2.5mm以下の褐色粒を含む
52	G1	深鉢	肩部	山形押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 橙 (7.5YR6/3)	良好	15mmの白色粒、1mm以下の金雲母の粒を含む
53	G1	深鉢	肩部	山形押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR5/4)	灰黄褐色 (10YR5/2)	良好	1mm程度の金雲母の粒を含む
54	G21	深鉢	肩部	山形押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR5/4)	に bei 黄褐色 (10YR6/4)	良好	3mm以下の白色粒、1.5mm以下の金雲母の粒を含む
55	G1	深鉢	肩部～底部	山形押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	良好	3mm以下のガラス質の粒、1mm以下の金雲母の粒を含む
56	D37	深鉢	肩部	捺円押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 橙 (10YR6/3)	良好	光るガラス状の微細粒砂を含む
57	D25	深鉢	肩部	山形押型文	ナデ	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	良好	黒色光沢粒・柱状黒色光沢粒を含む
58	G4	深鉢	肩部	条痕	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 黄褐色 (10YR6/5)	良好	2mm以下の乳白色、2mm以下の褐色粒を含む
59	G4	深鉢	肩部	捺円押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	に bei 黄褐色 (10YR5/3)	良好	2mm以下の乳白色、1mm以下の褐色粒を含む
60	S2	深鉢	肩部	爪跡の圧痕	丁寧なヨコナデ	に bei 橙 (7.5YR5/4)	灰黄褐色 (10YR5/2)	良好	1.5mm以下の乳白色の粒と2mm以下の金雲母の粒を含む
61	G1	深鉢	肩部	押型文	ヨコナデ	に bei 橙 (7.5YR5/4)	に bei 橙 (10YR5/3)	良好	2.5mm以下の金雲母の粒を含む
62	G1	深鉢	肩部	押型文	ナデ	に bei 橙 (7.5YR6/4)	灰黄褐色 (10YR5/2)	良好	2.5mm以下の金雲母の粒を含む
63	D35	深鉢	口縁	みみず躍れ状の貝殻条痕の上をナデ	ナデ	に bei 橙 (7.5YR7/4)	に bei 橙 (7.5YR7/4)	良好	2mm以下の白色・黄褐色を含む
64	II	深鉢	口縁	みみず躍れ状の突帯	貝殻条痕の上をナデ	に bei 橙 (7.5YR4/5, 7.5YR6/3)	に bei 橙 (7.5YR4/5, 7.5YR6/3)	良好	5mm以下のFの浅黃褐色粒を含む
65	II	深鉢	肩部	斜方向の丁寧なナデ、横方向のナデ	横方向のナデ	明赤褐色 (5YR5/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	良好	1mm以下の乳白色の粒と透明に光る粒を含む
66	A59	不明	肩部	ミガキ、ヘラミ	丁寧なミガキ	暗灰 (N3)	暗灰 (N3)	良好	乳白色的磨砂粒を含む

### (3) 弥生時代の土器

弥生時代の土器は150点近く出土した。最も出土点数が多かったのは壺類である。

1号住居では第23図に示す72~86の土器類が出土した。壺類は口縁部及び胴部に突帯を有するものが多い。そのうち72、73は刻目突帯を持つ。

2号住居からは1号住居と同じく口縁部・胴部に刻目突帯を有する土器類が出土した(87~92)。

1号住居、2号住居から出土したもの以外は堆積状況を明瞭にできなかったため、形態別に分類を行った。壺、壺、鉢の3類に分けられる。器形が分かるもののそれぞれは下記のようにさらに細分される。

#### ①壺(第19~21図)

壺は6類に分類した。

1類 口縁部に刻目突帯を持つもの(72,73,87,88,95,96,97,98,99,100,101)。

2類 逆L字口縁を持つもの(75,102,103,104)。

3類 胴部に突帯を持つもの(76,91,109,110,111)。

4類 胴部に刻目突帯を持つもの(89,90,113)。

5類 口縁に突帯を持たないもの(74,77,78,79,80,81,84,92,105,106,108,115)。

6類 底部だけのもの(82,83,114,117,118,119)。

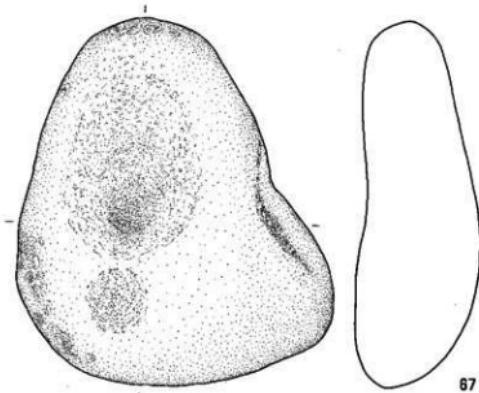
#### ②壺(第22図)

壺は部位で3類に分類した。

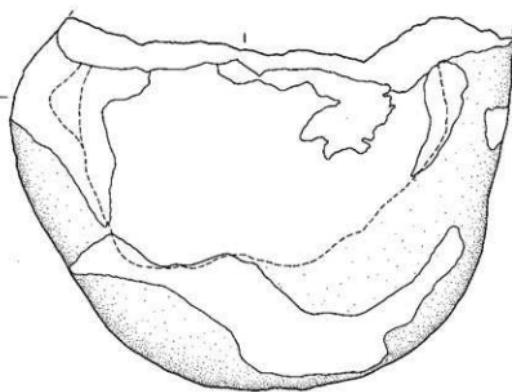
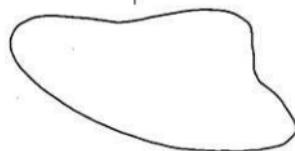
1類 額部だけのもの(112)。

2類 肩部だけのもの(94,122)。

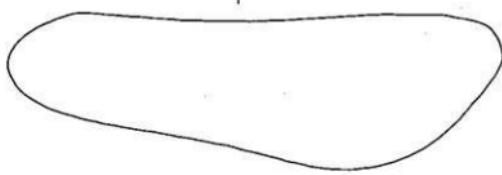
3類 底部が平底のもの(85,86,93,129,130,131,132)。



67

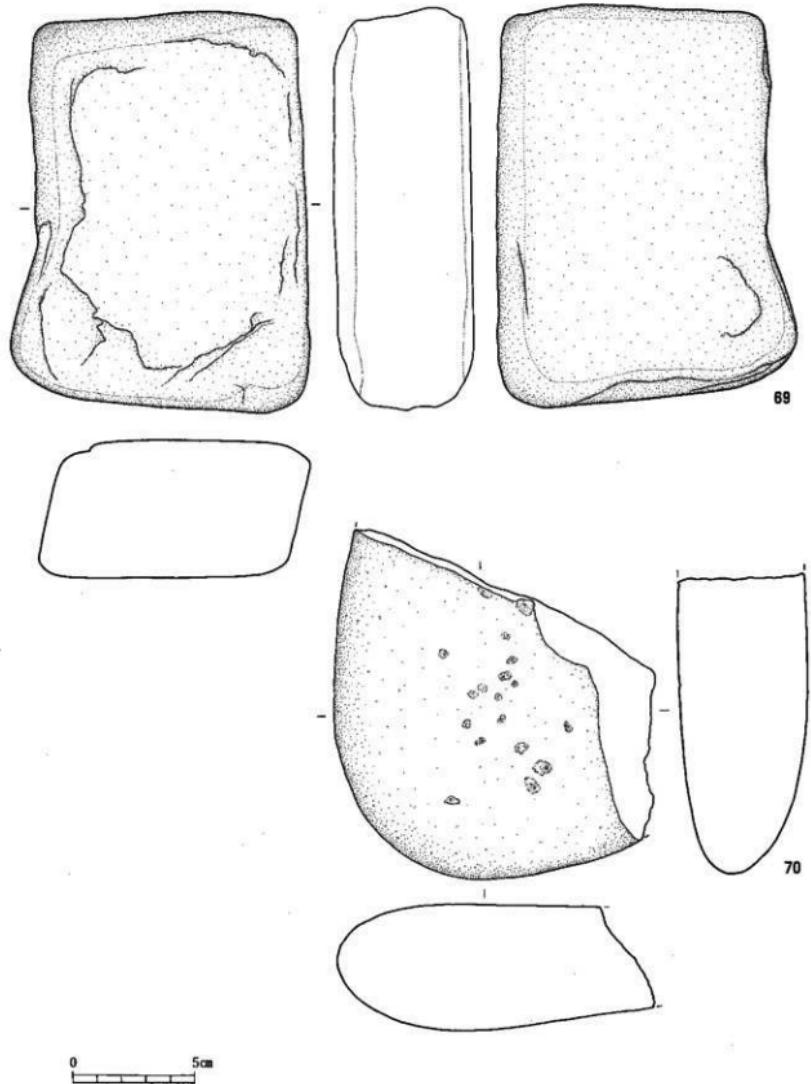


68

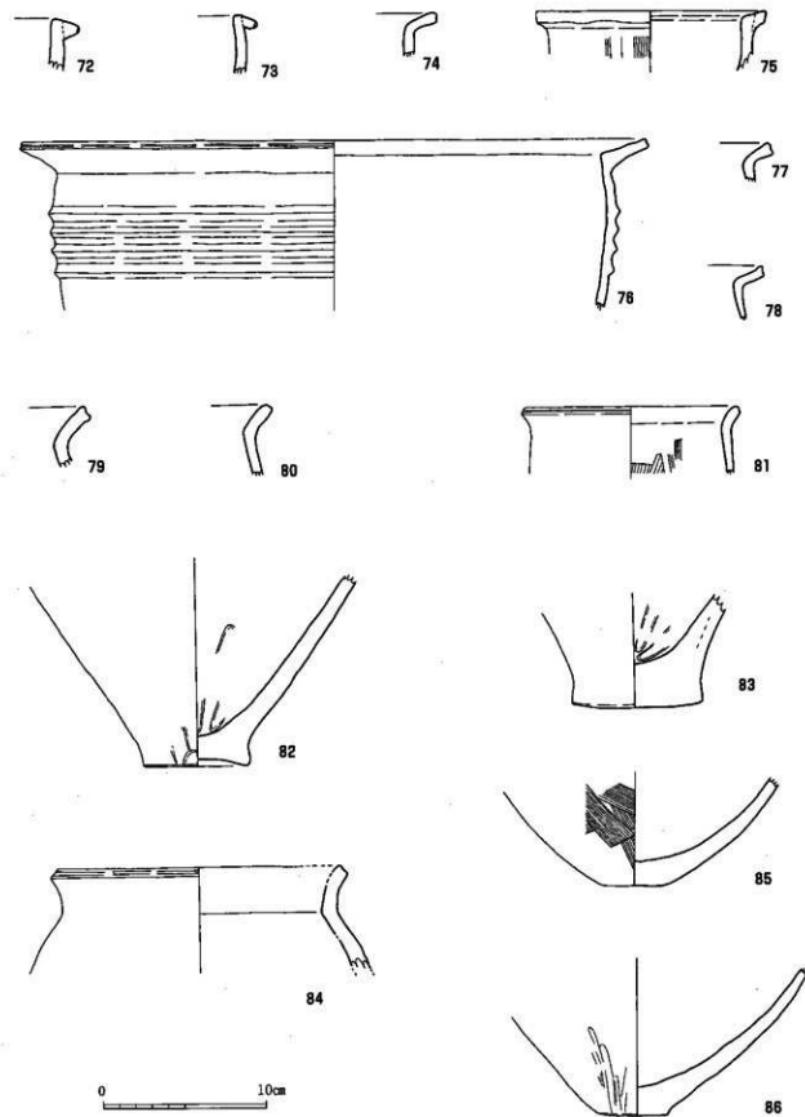


0 5cm

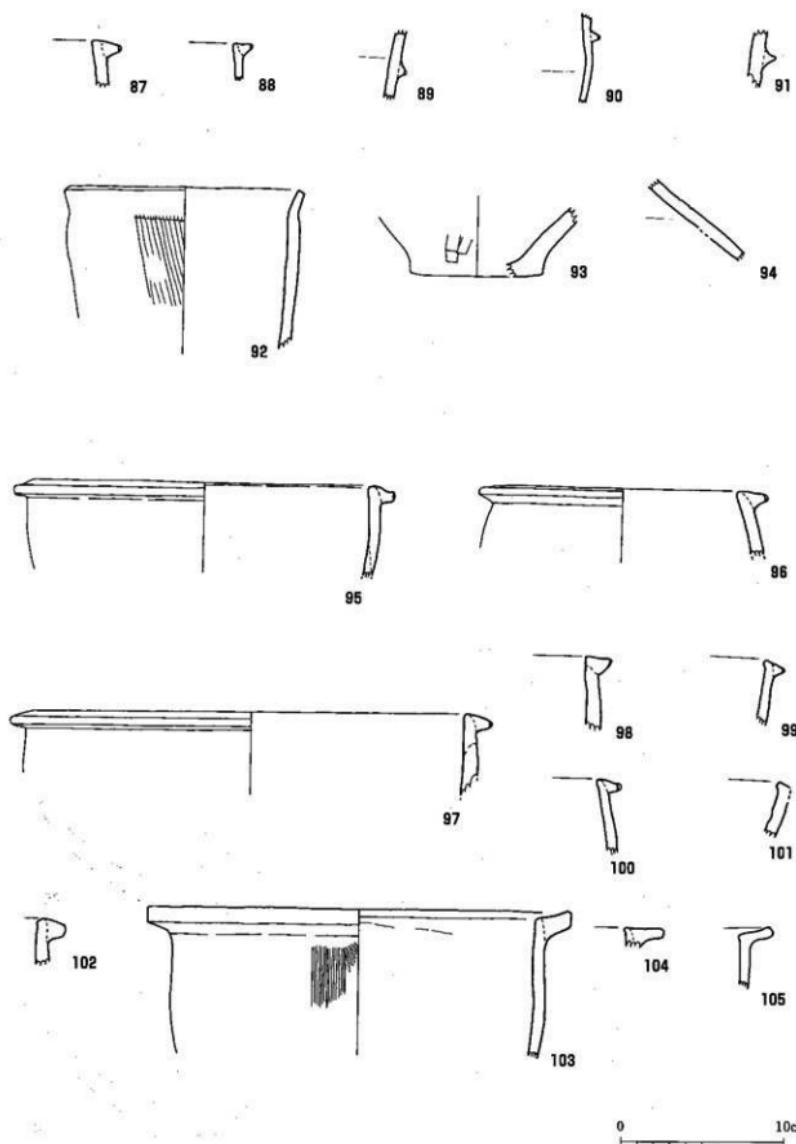
第17図 弥生時代の遺物(石器1)



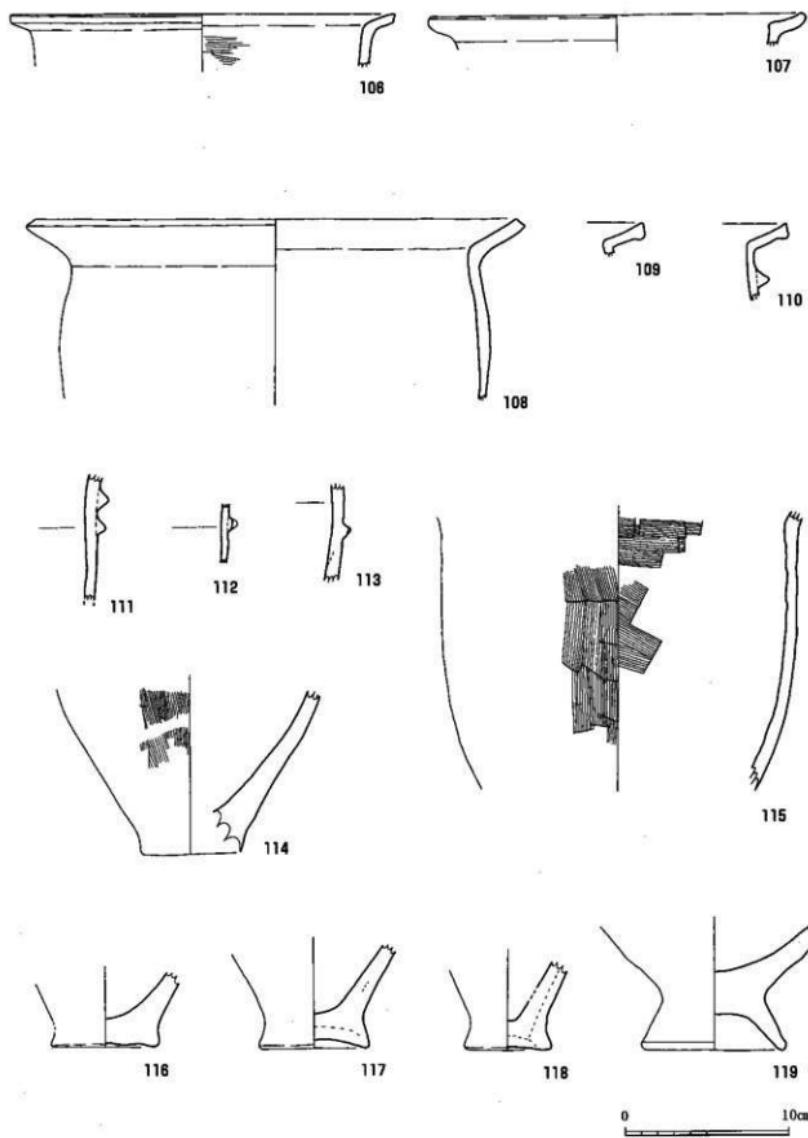
第18図 弥生時代の遺物(石器2)



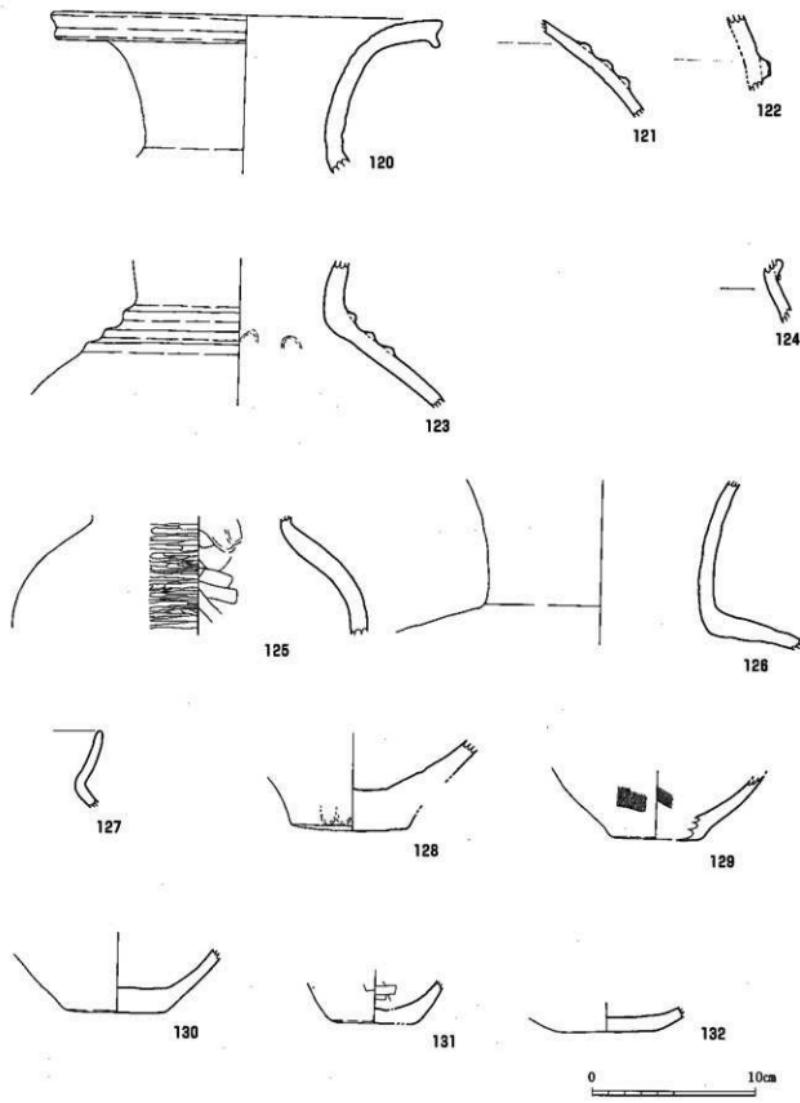
第19圖 1号住居跡出土土器実測図



第20図 2号住居跡出土土器実測図



第21図 弥生土器実測図(2)



第22図 弥生土器実測図(3)

第3表 弥生土器観察表(1)

番号	出土位置	器種	部位	口径	底径	器高	横溝・調整		色調		地成	埴土	備考
							外側	内面	外側	内面			
72 弥生 土器	SA1-22	壺	口縁部				割み付き突起、ヨコナダ、ナデ、底方向のナダ		にぶい黄緑(10YR7/5)	桜色(7.5YR7/6)	良好	1~2mmの灰、淡褐色の砂粒を含む	
73 弥生 土器	SA1	壺	口縁部				ヨコナダ、指頭痕、ナダ		浅黄緑(110YR8/4)	にぶい緑(7.5YR7/4)	良好	4mm以下の赤褐色の粒、2mm以下の灰褐色の粒を含む	
74 弥生 土器	SA1	壺	口縁				ヨコナダ	一部風化のため不明	暗色(5YR6/8)	桜色(7.5YR6/6)	良好	1mm以下の黒色の粒と1.5mm以下の透明に光る粒を含む	
75 弥生 土器	SA1-225	壺	口縁				ヨコナダ、底方向のハメテ	ヨコナダ、底方向のハメテ	底黄褐色(10YR7/5)	桜色(7.5YR6/6)	良好	1.5mm以下の黒褐色、灰褐色、光る黒色の粒を含む	気泡 復元
76 弥生 土器 958	SA1-877, 958	壺	口縁~ 胴部	38.4			浅い沈痕、横ナダ、四隅の付粘附痕		底方向のていねいなナダ	桜色(7.5YR6/6)	良好	2mm以下のガラス質の微物質及び1mm以下の金色に光る粒	
77 弥生 土器	SA1	壺	口縁				ヨコナダ、一部スス付着	ヨコナダ、一部風化のため不明	暗色(5YR6/8)	桜色(7.5YR6/6)	良好	1.5mm以下の透明に光る粒を含む	
78 弥生 土器	SA1	壺	口縁				ヨコナダ、底方向のナダ	ヨコナダ、底方向のナダ	桜色(5YR6/6)	桜色(7.5YR6/6)	良好	2mm以下の黒色の粒と1mm以下の半透明の粒を含む	
79 弥生 土器	SA1-17	壺	口縁				ヨコナダ、一部黒斑	ヨコナダ	桜色(5YR6/6)	桜色(7.5YR6/6)	良好	2mm以下の褐色の粒を含む	
80 弥生 土器	SA1-582	壺	口縁				ヨコナダ、底方向のナダ	ヨコナダ、底方向のナダ	にぶい黄緑(10YR7/5)	にぶい緑(10YR7/5)	良好	2mm以下の褐色の粒と0.5mm以下の透明に光る粒を含む	
81 弥生 土器	SA1-30	壺	口縁~ 胴部				ヨコナダ、深い沈痕、スス付着	ヨコナダ、一部工具によるナダ	暗色(5YR6/6)、にぶい緑(7.5YR7/3)	桜色(5YR6/6)、にぶい緑(10YR7/4)	良好	2.5mm以下の褐色を含む	
82 弥生 土器	SA1-13	壺	胴部~ 底部	6 (推定)			横ナダ、やや底方向ナダ、指揮され痕、ナダ	横ナダ、底方向ナダ、指揮され痕、ナダ	底色(2.5YR6/6)、 桜色(7.5YR6/6)	にぶい緑色(7.5YR6/6)	良好	3.5mm以下の黒褐色、灰色、黑色、茶色斑、乳白色を含む	気泡 復元
83 弥生 土器	SA1-34	壺	底部	7.85			横ナダ、ヨコナダ、ナダ、スス付着	横ナダ上部後方斜めナダ	にぶい黄褐色(10YR6/3)、 黄褐色(2.5Y5/1)	暗褐黄色(2.5Y5/2)、 黄褐色(5Y4/1)	良好	2mm以下の茶、白、灰、黑色、1mm以下のガラス質透明粒、柱状の黒色光沢粒を含む	気泡 復元
84 弥生 土器	SA1-16	壺	口縁~ 胴部				凹線、ヨコナダ、ナダ、スス付着	ヨコナダ、指揮され痕、ナダ	桜色(5YR7/6)	にぶい緑(7.5YR7/4)	良好	1mm以下の暗褐色の粒、1mm以下の明褐色の粒、1mm以下の灰褐色の粒	
85 弥生 土器 SA1-1, SA1-1, SA1-32	SA1-1, SA1-1, SA1-32	壺	胴部~ 底部	3.4			腹・底方向ハケ日、ナダ	底方向ナダ	にぶい橙色(7.5YR7/6)	にぶい緑色(7.5YR7/6)	良好	4.0mm以下の赤褐色粒、3mm以下の灰褐色粒、1mm以下の茶色粒、1mm以下の黒褐色を含む	
86 弥生 土器 914, 924	SA1-1, SA1-1, 914, 924	壺	胴部ナダ後瓶方向 底部ナダ	10, 12, 300, 866, 909,			横方向ナダ後瓶方向ナダ(ミガキに近い)、横方向ナダ	横方向ナダ、風化著しく黒變化する(ミガキに近い)、横方向ナダ	にぶい橙色(7.5YR7/6)	にぶい緑色(7.5YR7/6)	良好	2mm以下の褐色を多く、3.5mm以下の黒褐色を含む	
87 弥生 土器	SA2-37	壺	口縁				ヨコナダ、ヘラ工具による新方向の逆跳、押正サザニ	ヨコナダ、ヘラ工具による新方向の逆跳、押正サザニ	桜色(7.5YR7/6)	桜色(7.5YR6/6)	良	微細~0.8mmの赤褐色粒、0.5~0.8mmの茶褐色粒、3mm以下の灰褐色粒、1mm以下の茶色粒を含む	
88 弥生 土器	SA2-2	壺	口縁				ヘラ工具による新方向の押正サザニ、ナダ、タケナダ	ナダ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	桜色(5YR6/6)	良	0.3~0.8mmの灰白色の颗粒、0.3~1.0mmの墨灰色の颗粒を含む	
89 弥生 土器	SA2-36	壺	胴部				新方向のナダ、ヨコナダ、キザミ付黏付突痕、押正サザニ	ナダ	浅黄緑(10YR8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	良	1mm以下の柱状黒色光沢粒	
90 弥生 土器	SA2-45	壺	胴部				新方向のハケ日、貼付突痕、貼付突痕、押正サザニ、ヨコナダ、新方向のハメテ	ナダ、新方向のナダ	桜色(7.5YR6/6)	明黃褐色(10YR7/6)	良好	2mm以下の黒色の粒を含む	
91 弥生 土器	SA2-3	壺	胴部				貼付突痕、ヨコナダ、新方向のハメテ	ナダ	にぶい黄緑(10YR7/4)	にぶい黄緑(10YR7/4)	良好	2.5~5.5mmの褐色粒、2mm以下の茶色粒を含む	
92 弥生 土器 28, 30, 31	SA2-27, 28, 30, 31	壺	口縁~ 底部	13.9			ヨコナダ、やや新方向のハメテ、指揮後あり	ナダ、指揮後あり	にぶい緑(7.5Y7/3)	にぶい緑(7.5Y7/4)	良好	4~4.1mmの茶褐色粒、0.5~1mmの黒褐色・灰色粒	
93 弥生 土器	SA2-44	壺	底部				底方向のハメテの上ナダ、指揮後の後横方向のナダ	ナダ	にぶい緑(7.5YR7/4), 黄灰(2.5YRS/1)	桜色(7.5YR7/6), 黄灰(2.5YRS/1)	良好	0.6~1.2mmの灰褐色の颗粒、0.1~0.2mmの墨褐色の颗粒、微細~0.8mmのガラス様に光る砂粒を含む	
94 弥生 土器	SA2-20	壺	胴部上半				斜め方向のナダ、丁寧なナダ	ナダ	にぶい黄緑(10YR6/4)	灰黃褐色(10YR6/2)	良好	4.5mm以下の灰白色粒、2mm以下の茶褐色・灰色粒、褐色粒を含む	
95 弥生 土器 121, 300, 301, 932	SA1	壺	口縁部	20.8			ヨコナダ、刻み、ナダ	底方向のナダ、全体的に風化者しい	浅黄緑(7.5YR8/6)	浅黄緑(7.5YR8/6)	良好	4~2mmの赤褐色粒、3~1mmの灰褐色、1mm以下の黒褐色	
96 弥生 土器	818, 931	壺	口縁部	14.2			ヨコナダ、刻み、ナダ	ヨコナダ、新方向のナダ	にぶい緑(7.5YR6/4)	にぶい緑(7.5YR6/4)	良好	3mm以下の茶色、褐色、黑色、1.5mm以下の茶色粒を含む	ヨコナダ 復元
97 弥生 土器	496	壺	口縁部				ヨコナダ、底方向のナダ後横方向のナダ	ナダ、指揮	にぶい黄緑(10YR7/3)	にぶい黄緑(10YR7/3)	良好	2~1mmの赤褐色粒、1mm以下の茶色粒	ヨコナダ 復元 後日
98 弥生 土器	16	壺	口縁部				ヨコナダ、刻み、ナダ	指頭痕	浅黄緑(10YR8/4), にぶい黄緑(10YR7/4)	桜色(7.5YR7/6)	良好	2.2mm以下の暗褐色・黒褐色、灰白色の光沢粒を含む	灰白色 復元

第4表 弥生土器観察表(2)

番号	種別	出土位置	器種	部位	口径	底径	器高	模様・調整		色調		地成	胎土	備考
								外面	内面	外面	内面			
99	弥生 土器	962	甕	口縁部				ヨコナデ、彫み、板状工具による範方向のナデ	ヨコナデ、板状工具による範方向のナデ	桜(7.5YR7/6)	にぶい黄緑(10YR7/4)	良好	2.5mm以下の灰色・褐色の砂粒を含む。	
100	弥生 土器	605	甕	口縁部				彫み、ヨコナデ、便用方向のナデ	ナデ、便用方向のナデ	桜(7.5YR7/6)	桜(7.5YR6/5)	好	6.3mm以下の黄褐色の長方型の砂粒、2mm以下の暗褐色・灰褐色の砂粒を含む。	
101	弥生 土器	SK1-239	甕	口縁部				ヨコナデ	ナデ、便用方向のナデ	にぶい桜(7.5YR7/4)	浅黄緑(7.5YR8/4)	良好	2mm以下の灰色・茶色・黑色の砂粒、ガラス質透明光沢粒	
102	弥生 土器	381	甕	口縁部				ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい桜(7.5YR7/4)	にぶい桜(7.5YR7/4)	良好	3mm以下の灰白色の粒、1mm以下の柱状黒褐色光沢の粒を含む。	反転復元
103	弥生 土器	353, 493, 495, 510, 515	甕	口縁部 ～胴部	21.7			ヨコナデ、便用方向の ハケメ、部分的にス 付番	ヨコナデ、板状工具ナ デ	桜(5YR7/6, 7.5YR7/6)	桜(5YR7/6, 7.5YR6/6)	良好	2mm以下の柱状褐色、5mm以下の灰色粒を含む。	
104	弥生 土器	449	甕	口縁部				ヨコナデ	ヨコナデ	桜(7.5YR7/6)	にぶい黄緑(10YR7/4)	良好	灰褐色の繊維状の粒を多量に含む、ガラス状に光る銀継粒	
105	弥生 土器	SG1-7	甕	口縁部				ナデ、ヨコナデ、や 斜め方向のナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄緑(10YR7/4)	浅黄緑(110YR8/4)	好	1mm以下の柱状黑色光沢粒、1mm以下のガラス質の粒	
106	弥生 土器	553, 554	甕	口縁部	23.6			ヨコナデ、便用方向の ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい桜(7.5YR6/4)	桜(5YR6/6)	良好	1mm以下の黑色・灰褐色の砂粒、ガラス質の光沢粒を含む。	
107	弥生 土器	SK1-213	甕	口縁部	22.8			ヨコナデ、左上りの ナデ	ヨコナデ、左上りの ナデ	便用(5YR8/4)	浅黄緑(7.5YR8/6)	良好	1mm以下の黒色、灰色粒、2mm以下の褐色光沢粒、ガラス質光沢粒	反転復元
108	弥生 土器	332, 333	甕	口縁部 ～胴部	30.7			ヨコナデ、部分的に ス付番、風化化し い	便用方向にナデ	桜(5YR7/6)	桜(5YR7/6)	良好	1～3mmの茶褐色の粒を多量に含む。	反転復元
109	弥生 土器	D4	甕	口縁部				ヨコナデと思われる ヨコナデが風化化し い	ヨコナデと思われる ヨコナデが風化化し い	にぶい黄緑(10YR7/4)	にぶい黄緑(10YR7/4)	良好	2mm以下の茶色の砂粒	
110	弥生 土器	B43, 862	甕	口縁				ヨコナデ、貼付穴突 き	ナデ？風化化し い	便用(10YR8/3)	浅黄緑(10YR8/4)	良好	2mm以下の黒灰色の砂粒、1.5mm以下の柱状黒褐色の粒	
111	弥生 土器	SK1-223, 234	甕	胴部				ヨコナデ、便用方向の ナデ、貼付穴突	やや左上がり便用方向 ナデ	浅黄色(2.5YR7/2)	浅黄色(2.5YR8/3)	良好	1mm以下の茶褐色の粒、1.5mm以下の柱状黒褐色の粒	
112	弥生 土器	597	甕	口縁付 近				ヨコナデ、貼付穴突 き、横方向のナデ	ヨコナデ、斜方向の ナデ	にぶい桜(10YR7/3)	にぶい桜(5YR7/4)	好	1.5mm以下の茶褐色の粒、3mm以下の赤褐色の粒、1mm以下の茶色の粒	
113	弥生 土器	498	甕	胴部				横・斜め方向ナデ、 や斜め方向のナデ	にぶい黄緑(10YR2/4)	にぶい黄緑(10YR2/4)	良好	3mm以下の茶色の粒、4mm以下の黒褐色の粒		
114	弥生 土器	SK1-353, 490, 491, 492	甕	胴部～底 部付近				ハケメ、丁字なみ、 ヨコナデ、ナデ	便用方向のナデ	にぶい桜色(7.5YR7/4)	にぶい桜色(7.5YR7/4)	良好	4mm以下の灰色・茶色・白色・白褐色の砂粒	反転復元
115	弥生 土器	138-552 - 553-556 - 558-559 - 650-651 - 659-661	甕	胴部				ヨコナデ、便用方向ナ デ	ナデ、横方向ハケメ 目	にぶい桜色(7.5YR6/4)	にぶい桜色(7.5YR6/4)	好	4mm以下の茶褐色、3mm以下の褐色、1.5mm以下の黑色粒、ガラス質の微細粒を含む。	
116	弥生 土器	919	甕	底部	6.45			縱方向ナデ、横ナ デ、指觸痕	ナデ	にぶい黄緑色(10YR8/2), 灰色(10YR8/1)	灰色(N4/1)	良好	2mm以下の白・黑色粒を含む。	
118	弥生 土器	394-395-463 749-752-761 762-763	甕	底部	5.55			縱方向工具痕り、工 具痕跡後押捺され た	丁寧なナデ	桜色(7.5YR6/6)	桜色(5YR6/6)	好	2mm以下のガラス質の粒、乳白色の粒を含む。	
119	弥生 土器		甕	胴部～ 脚部				縱方向の丁寧なナ デ、指觸え跡後押 捺、丁寧なナデ、 ナデ	にぶい桜色(7.5YR6/4) 桜色(5YR6/6)	明赤褐色 (SYR8/6)、にぶい 黄緑色(10YR6/3)	良好	5mm以下の茶色粒、2mm以下の乳白色・黒褐色を含む。	反転復元	
120	弥生 土器	194, 195	甕	口縁部 ～底部				ヨコナデ、横ハケ メ、風化化し、ナ デの前抱捺され た、横ナデ	風化化し、ナデ、 ナデの前抱捺され た、横ナデ	にぶい桜色(7.5YR7/4)	にぶい桜色(7.5YR5/4)	良好	1.5mm以下の黒色光沢粒、2mm以下の褐色・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒(石英)を含む。	反転復元
121	弥生 土器	SK1-215	甕	胴部				ナデ、貼付穴突、ナ デ、貼付穴突、ナ デ、貼付穴突、經 目、ナデ、水平ライ ンは横ナデ	ナデ、埋ぎ目、全体 ヨコナデ、キザミ	浅黄褐色 (10YR8/4)	灰色(SY5/1)	良好	1mm以上の茶色・褐色・赤褐色・黑褐色の砂粒を含む。	
122	弥生 土器	592	甕	胴部				石上上がりのミカ ナデ	風化化し、調整不 明、押捺され	桜色(7.5YR7/6)	灰黄(2.5YR5/1)	良好	2mm以下のガラス質の粒、1mm以下の乳白色の粒を含む。	
123	弥生 土器	S15, SK1- 215	甕	胴部～ 脚部				ナデ、三条密着、 横ナデ、縦ナデ、ナ デ	ナデ、指觸痕、ナ デ、ナデ、ナデ	明黄褐色 (5YR6/6)、にぶ い黄緑色(10YR6/4)	灰色(2.5YR4/1)	良好	2mm以下のガラス質の粒、白褐色・乳白色の砂粒を含む。	反転復元
125	弥生 土器	308	甕	頭部～ 脚部上 半				便用方向のミガキ	便用工具のナデ	にぶい黄緑色 (10YR6/4)	好	1mm以下の白色・白色・褐色・茶色・黑色の砂粒を含む。	反転復元	
126	弥生 土器	SE-04, 05, 07, 22, 30, 31, 32, 33, 34, 35	甕	頭部				風化化し、調整不 明、押捺され	風化化し、調整不 明、押捺され	にぶい桜色 (7.5YR6/4)	灰褐色(7.5YR5/2)	良好	1mm以下の白色・灰色・褐色・黑色の砂粒、透明に光る粒を含む。	

第5表 弥生土器観察表（3）

番号	種別	出土位置	基盤	部位	口径	底径	器高	模様・調整		色調		被膜	胎土	備考
								外面	内面	外面	内面			
127 弥生 土器		小 型 壺	口縁部				3.20	ナデ、風化、横ナデによるふくらみ	ヨコナデ	褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	良好	2mm以下の白色半透明粒を含む。	
128 弥生 土器		壺	底部		7.15			ナデ、指揮さえ、ナデ		淡黄色 (2.5YR7/4)	淡黄色 (2.5YR7/3)	良好	2mm以下のガラス質高色粒を含む。	
129 弥生 土器	SK1-232	壺	底部		2.7			斜め方向のハケヌ、ナデ、新方向のハケヌ、ナデ、指揮痕		明黄褐色 (10YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	良好	1mm以下の灰褐色の粒、微細で光る粒、灰白色の微細な粒	
130 弥生 土器		壺	底部		6.2			ナデ、一部風化、ナデ、風化著しい		淡黄色 (7.5YR8/4)、黒色 (7.5YR2/1)	灰褐色 (10YR5/2)	良好	3mm以下の白色粒・褐色粒・反転黒色光沢粒・灰色粒、復元1.5mm以下の透明光沢粒を含む。	
131 弥生 土器		不明	底部		5.3 (推定)			工具痕、継方向工具痕方向工具ナデ後槽孔ナデ、ナデ		褐色 (7.5YR6/6)、黃褐色 (2.5YR4/1)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	良好	2mm以下の灰白色でガラス質の砂粒、1.5mm以下の象牙質赤褐色砂粒を含む。	反転黒色光沢粒、復元底無理存1/3
132 弥生 土器		不明	底部		5.6 (推定)			風化著しく調整不明		にぶい黄褐色 (10YR6/4)、橙色 (5YR6/6)	橙色 (5YR6/6)	良好	2mm以下の灰色・黒色・褐色の砂粒、ガラス質に光る粒を含む。	反転黒色光沢粒、復元

## (4) 古墳時代の遺物

古墳時代の遺物としては土師器が出土した。須恵器は1点も出土しなかった。土師器は壺、壺、鉢、高杯、小型丸底壺、器種不明の6類に大別した。

## ①壺（第23～24図）

壺は形状で5類に小分類した。

- 1類 大型壺（133,134,135）。
- 2類 中型壺（137,138）。
- 3類 小型壺（139,140,141,142）。
- 4類 格子目突帯を有するもの（124,143,144）。
- 5類 尖底を有するもの（146,195）。

## ②壺（第24図）

壺は部位により3類に小分類した。

- 1類 直口を有するもの（150,156）。
- 2類 肩部だけのもの（152）。
- 3類 底部だけのもの。
  - I) 平底を有するもの（151）。
  - II) 尖底を有するもの（153,154,155）。

## ③鉢（第24図）

鉢は口縁部が外へ開いているものと内湾しているものの2類に小分類した。

- 1類 口縁部が外へ開いているもの（162,166）。
- 2類 口縁部が内湾しているもの（160,163）。

#### ④高坏（第25図）

- 高坏は坏部と脚部の形状から5類に小分類した。
- 1類 坏部が広がったもの（165,166,167,170）。
  - 2類 坏部が塊状のもの（174,175）。
  - 3類 脚部がなだらかなもの（173）。
  - 4類 脚部に段がついているもの（171,176,177）。
  - 5類 分類が困難なもの（172,174）。

165,170はほぼ完形で出土しており、166も口縁部以外は残っている。175は坏部の大部分が残っている。他は脚部の一部が出土したものである。

#### ⑤小型丸底壺（第25図）

- 小型丸底壺は口縁部の特徴から1類と2類に小分類した。
- 1類 口縁部がなだらかに彎曲しているもの（178,180）。
  - 2類 口縁部の途中にくびれがみられるもの（179）。

### （5）古代の遺物

古代の遺物は平安時代の土器（土師器）を中心に出土している。第Ⅲ層から出土しているが、遺構は検出されず、散布状態で出土した。そのほとんどは塊類である。壺の取っ手が1点出土した。

### （6）中世以降の遺物

中世以降の遺物は土層が搅乱を受けており、時期を確定できるものはほとんどないが、主な出土遺物を挙げておく。ふいごの羽口（195）、土錘（196）、近世陶器数点、煙管の一部、陶器には肥前系のものと波佐見系のものがみられた。

## 第4節 権現原遺跡の自然科学分析

### I. 権現原遺跡の土層とテフラ

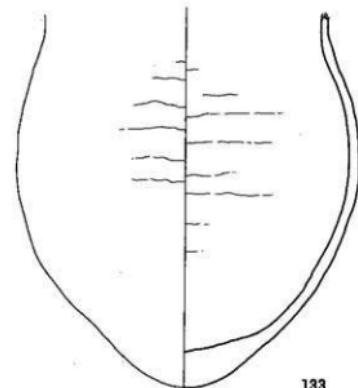
#### 1. はじめに

権現原遺跡の発掘調査では、遺跡の位置する台地上の火山灰土の良好な土層断面が作成された。そこで地質調査を行い土層の層序を記載するとともに、テフラ検出分析を合わせて行い、示標テフラとの同定を行って、土層の堆積年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、権現原第1遺跡A-18グリッド、権現原第1遺跡A-3グリッド、権現原第2遺跡S-28グリッドの3地点である。

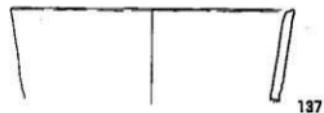
#### 2. 土層の層序

##### （1）権現原第1遺跡A-18グリッド

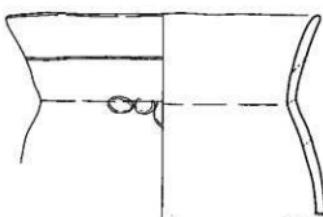
権現原の位置する台地上の火山灰土のうち、いわゆるローム層の堆積状況をよく観察することが



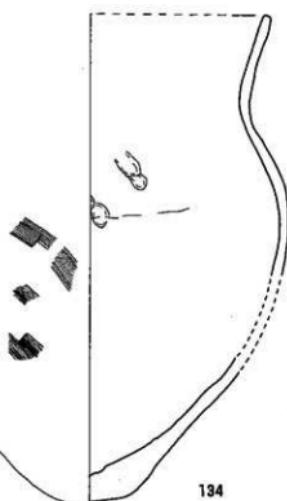
133



137



138



134



136



139



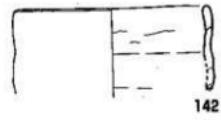
140



141



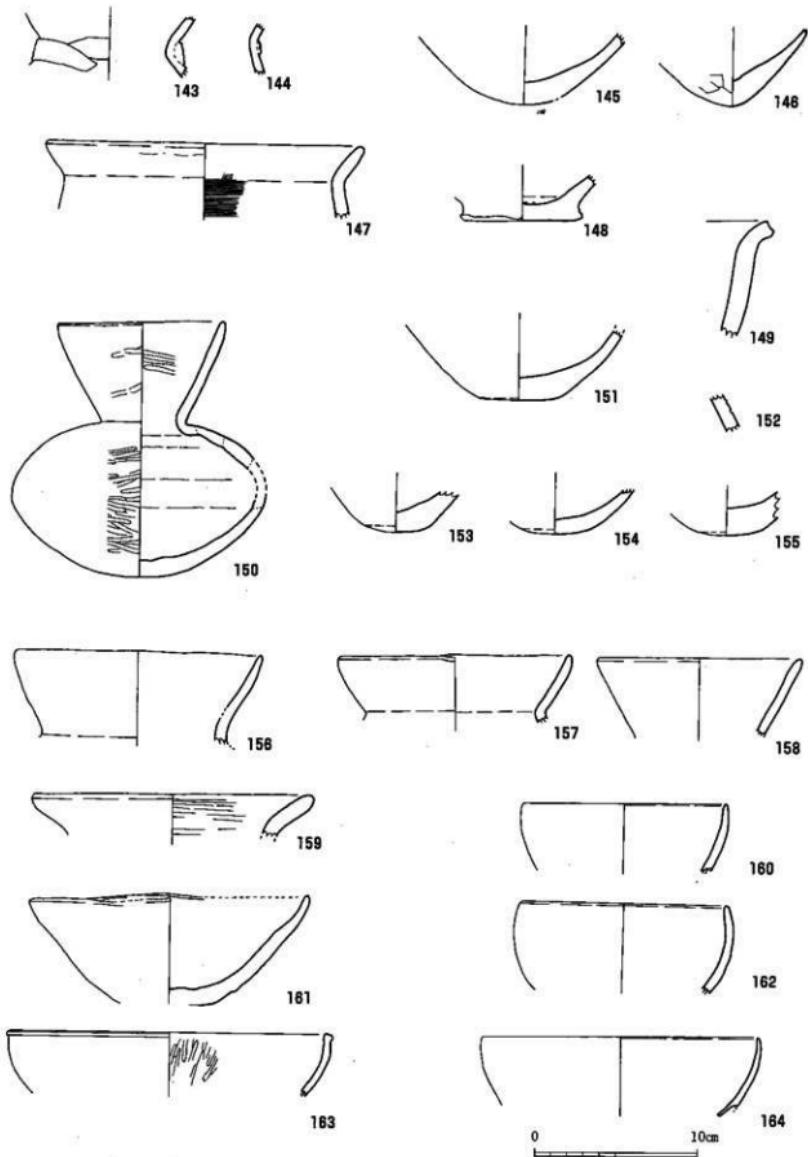
135



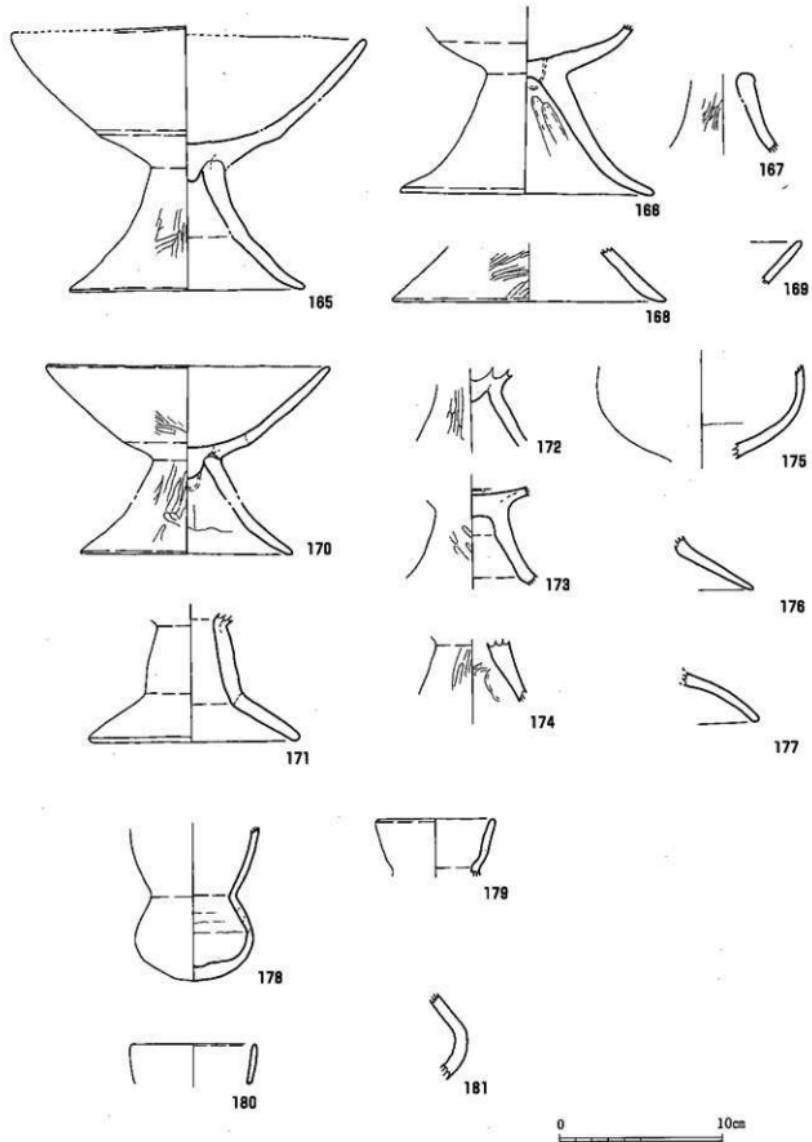
142

0 10cm

第23図 古墳時代土器実測図(1)



第24図 古墳時代土器実測図(2)



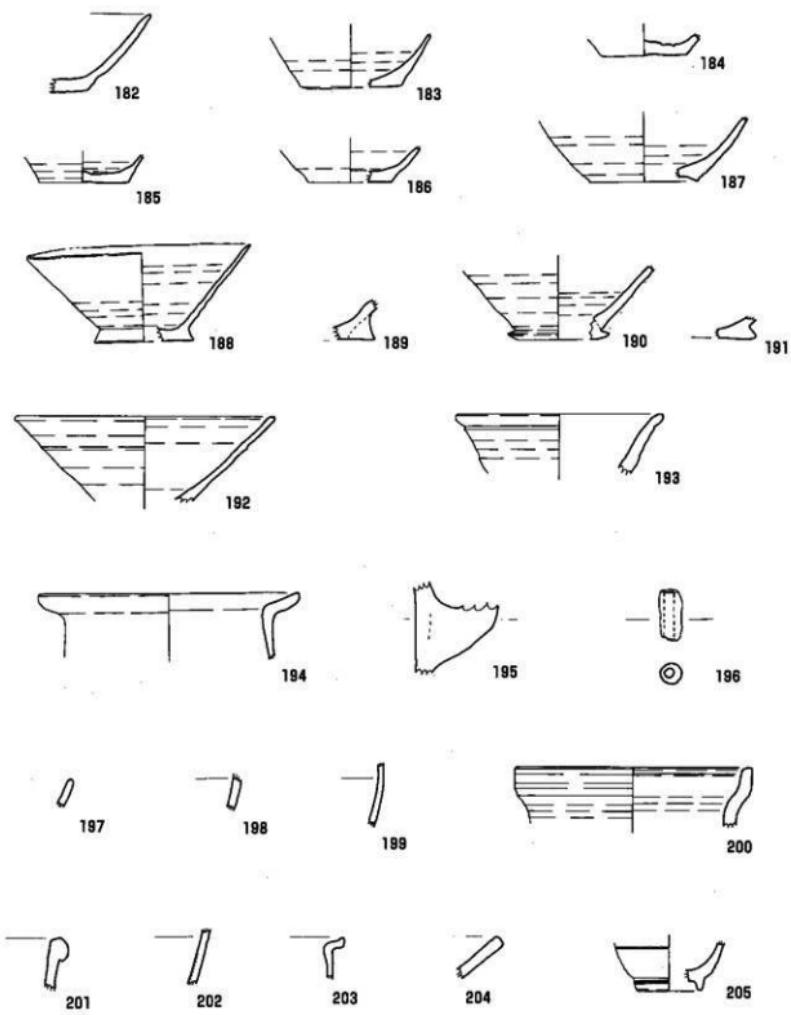
第25図 古墳時代土器実測図(3)

第6表 古墳時代土器観察表(1)

番号	種別	出土位置	基盤	部位	口径	底径	器高	横様・開窓		色調		成形	胎土	備考		
								外底	内面	外面	内面					
124	土器 器	413	壺	男部				ナデ、押立キザミ (底有り)	ナデ	灰 (7.5YR6/6)	灰 (7.5YR6/6)	良 好	3mm以下の褐色の粒、2mm 以下の茶褐色の粒を含む。			
133	土器 器		壺	男部～ 肩部				前方拘ナデ、ススキ付 蓋、前方拘、新方向ナ デ、ススキ付蓋、ナデ	指押さえ痕、ナデ、 褐色 (7.5YR6/6)、 灰 (7.5YR7/6)	褐色 (5YR6/6) 橙色 (7.5YR5/1)	良 好	3mm以下の褐色の粒を含む。	成形			
134	土器 器		壺	口縁～ 底部		3.9	30.5	指押立によるナデ、浅い 指押立しが多く見られ る、新方向のナケメ、 所々斜方向の真珠張が 多く見られる	ナデ、一部斜方向のナデ	灰 (7.5YR8/6)、 灰 (7.5YR7/6)	灰 (7.5YR7/6)、 灰 (7.5YR5/1)	良 好	6mm以下の黄褐色の砂粒、 1.5mm以下の軟質な赤褐色 の砂粒			
135	土器 器	DB1, 89, 83, 96, 109	壺	口縁部～ 底部上位			18.6	ナデ、斜方向のナデ	ナデ	淡黃褐 (10YR8/4)	淡黃褐 (10YR8/4)	良 好	2mm以下の褐色粒、3mm以 下の褐色灰粒			
136	土器 器	SA3	壺	男部 底部上位				光沢あり、やや風化さ ぎみ	布痕、やや風化さぎ み	灰 (5Y6/1)	灰 (5YR6/6)	良 好	2.5mm以下の褐色粒、1.5mm 以下の白色粒・茶褐色粒を 含む。			
137	土器 器	SA3	壺	口縁部				斜方向のナデ	ヨコナデ	灰 (5YR7/6)	灰 (7.5R7/6)	良 好	2mm以下のガラス質の粒、 2mm以下の柱状黒色の粒を 含む。			
138	土器 器	SA3	壺	口縁～ 底部上半				ヨコナデ、横・斜め 方向のナデ	ヨコナデ、ナデ	灰 (2.5YR7/6, 6/6)	明赤褐 (5YR5/6)、 灰 (7.5YR6/6)	良 好	3.3mm以下の褐・灰・乳白 色の砂粒を含む。			
139	土器 器	SA3	壺	口縁～ 底部				ヨコナデ、新方向の ナデ	ヨコナデ、横・斜方 向のナデ	灰 (7.5R6/6)	明黄褐 (10YR6/6), 暗 色 (2.5YR8/6)	良 好	3mm以下の茶・灰の砂粒 を含む。			
140	土器 器	D45, 72	壺	口縁部～ 底部上位				斜方向のナデ後横方 横・斜方向のナデ	横・斜方向のナデ	灰 (2.5YR6/6)	灰 (2.5YR6/6)	良 好	5mm以下の赤褐色の粒を含 む。	ススキ付		
141	土器 器	S31, 651, 652	小口 瓶	底部上 半		12.5		ヨコナデ、下から上 ヨコナデ、横斜方向 へのナデ	ヨコナデ、横斜方向 へのナデ	灰 (5YR6/6) 7.5YR6/6	灰 (5YR6/6, 7.5YR6/6)	良 好	2.5mm以下の茶・白・褐 色灰粒、1mm以下の透明光 沢粒を含む。			
142	土器 器		鉢	口縁部～ 脚部上半		11.6		ヨコナデ、ヨコナデ 後斜方向のナデ	横方向のナデ	にぶい灰 7.5YR7/6	にぶい灰 7.5YR7/4	良 好	2.5mm以下の後黄色でガラ ス質の砂粒	混合 成形	成形 が見ら れる	
143	土器 器	F18	壺	底部				ナデ、貼付尖唇	ナデ、指押さえ	灰黄 (2.5YR6/2)	灰 (5YR6/8)	良 好	2mm以下の茶褐色の粒を含む。			
144	土器 器	SA3	壺	底部				横方向のナデ、格子 目状紋と直交窓	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	灰 (7.5YR6/6)	明黄褐 (10YR7/6)	良 好	2.6mm以下の灰色・褐色の 砂粒			
145	土器 器	D62, 67, 90	壺	底部 少々 歪				縦・斜方向のナデ	横・斜方向のナデ	黄褐色 (2.5YR6/1)	淡黃 (10YR8/4)	良 好	3~3mmの灰褐色の粒			
146	土器 器	SA1-1	壺	底部				一部横方向指捺ナデ 後 斜・横方向のナデ	横・斜方向のナデ	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (5YR6/6)	良 好	0.5~5mmの黄褐色砂粒、 0.5~3mmの茶褐色砂粒、 鋼器~2mmの黑色砂粒を含む。			
147	土器 器		壺	口縁		18.95		ヨコナデ、ススキ付 向・横方向のナケメ	ヨコナデ、斜・横方 向のナデ	にぶい淡黃 10YR7/3	にぶい淡黃 10YR7/4	良 好	3mm以下の褐色粒を含む。	風転 腹元		
148	土器 器	D-8	壺	底部		8.4		横方向のナデ	横方向のナデ	にぶい灰 10YR6/4	灰 (5YR6/6, 5YR7/6)	2.5mm以下の黒色の粒、4mm 以下の茶色の粒				
149	土器 器	SK1-218	壺	口縁～ 底部上 半				ヨコナデ、指押え ナデ、横方向のナデ	ヨコナデ、下から上 ナデ、横方向のナデ	にぶい茶 7.5YR7/4	灰黄 (2.5YR6/2)	良 好	1.5mm以下の茶色の粒、3mm 以下の茶色の粒			
150	土器 器	SA3	壺	(は)完 底膨		10.1	3.3	15.85	ヨコナデ、ミガキ ナデ	ヨコナデ、ミガキ ナデ	にぶい青褐 (10YR5/5), 灰 (5YR8/6)	にぶい青褐 (10YR5/5), 灰 (5YR8/6)	良 好	1mm以下の透明光沢粒、灰 色の粒		
151	土器 器	SA3	壺	底部		2.5		横方向のナデ、一部 横方向のナデ	ヨコナデ、一部横方向 のナデ、黒斑	黒褐 (2.5YR3/1), 洗黄 (2.5YR8/6)	灰 (10YR8/6)	良 好	1mm以下のガラス状光沢 粒、長方形の茶色光沢粒、灰 色光沢粒			
152	土器 器	S20	不 明	縦・横 底部				縦・横方向のナデ、 横斜	ナデ	にぶい灰 10YR7/3	灰 (2.5YR5/1)	良 好	1mm以下の茶色・底色・茶 色の砂粒を含む。			
153	土器 器	42-67	壺	底部		2.1		ナデ、ナデ	ナデ、ナデ	褐色 (5YR6/8), にぶい青褐 (10YR7/6)	にぶい褐色 (10YR7/3)	良 好	4.5mm以下の赤褐色砂粒、 1.7mm以下の黒褐色・茶褐色・ 褐色・茶色光沢粒を含む。			
154	土器 器	61-67	壺	底部		2.2		ナデ、ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR6/6), 橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	良 好	4.7mm以下の褐色・灰褐色 の砂粒を含む。			
155	土器 器	D34, 84	壺	底部				指押さえ後縫、横方 向のナデ	ナデ、横方向のナデ	にぶい灰 10YR7/4	にぶい灰 10YR7/4	良 好	1mm以下の無色透明、灰白 色の粒			
156	土器 器	SA3, D-95	壺	口縁～ <td>15</td> <td></td> <td></td> <td>ヨコナデ、黒斑</td> <td>ヨコナデ、ナデ、黒斑</td> <td>にぶい灰 7.5YR6/6, 灰 (2.5YR5/1)</td> <td>にぶい灰 10YR6/4</td> <td>良 好</td> <td>1mm以下の褐色砂粒、光沢 粒の有無を含む。</td> <td></td> <td></td>	15			ヨコナデ、黒斑	ヨコナデ、ナデ、黒斑	にぶい灰 7.5YR6/6, 灰 (2.5YR5/1)	にぶい灰 10YR6/4	良 好	1mm以下の褐色砂粒、光沢 粒の有無を含む。			
157	土器 器	DS1	壺	口縁～ <td>14.4</td> <td></td> <td></td> <td>ヨコナデ、一部黒斑</td> <td>ヨコナデ、一部黒斑</td> <td>指押さえ (5YR6/8), 施灰 (5YR5/1)</td> <td>施灰 (5YR6/8), 拋灰 (5YR5/1)</td> <td>良 好</td> <td>2mm以下の褐色砂粒を含む。</td> <td></td> <td></td>	14.4			ヨコナデ、一部黒斑	ヨコナデ、一部黒斑	指押さえ (5YR6/8), 施灰 (5YR5/1)	施灰 (5YR6/8), 拋灰 (5YR5/1)	良 好	2mm以下の褐色砂粒を含む。			
158	土器 器	D72	壺	口縁	12.4			ヨコナデ、全体的に 風化	ヨコナデ、全体的に ナデと思われるが風 化化している	にぶい灰 7.5YR6/8	にぶい灰 7.5YR7/4	良 好	1mm以下の褐色の砂粒、 1.5mm以下の茶褐色の砂粒	風転 腹元		
159	土器 器		壺	口縁部	7.0			ナデによる横方向の ナデ	ナデ	にぶい灰 7.5YR6/4	にぶい灰 10YR6/4	良 好	1mm以下の無色透明の光沢 砂粒			
160	土器 器	865	壺	口縁部	17			ヨコナデ、接合面糊	ヨコナデ	にぶい灰 10YR7/4	にぶい灰 10YR7/4	良 好	2mm以下の茶色の砂粒、 1mm以下の褐色の砂粒			
161	土器 器	不 明	口縁	口縁	5.8			ヨコナデ、横・斜方 向のナデ、指押え後ナ ナデ	ヨコナデ、指押え後ナ ナデ	灰 (5YR7/6)	灰 (5YR7/6)	良 好	褐色・4mmのガラス様の 砂粒			
162	土器 器	129, 130	壺	口縁部	12.3			横方のミガキ	横方のミガキ	にぶい灰 7.5YR7/4	にぶい灰 10YR7/6	良 好	3mm以下の茶色・茶色・褐 色の砂粒	風転 腹元		

第7表 古墳時代土器観察表（2）

番号	種別	出土位置	部位	口径	底径	器高	構造・調整		色調		地質	地土	備考
							外面	内面	外面	内面			
163 土器 器	630, 655	鉢	口縁部			21.5	ミガキ	鏡・斜方向のミガキ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	2.5mm以下の灰色・茶色・褐色の砂粒	
164 土器 器	866	碗	口縁部	17			ヨコナデ、接合剥離	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (10YR7/4)	良好	2mm以下の茶色の砂粒、褐色の砂粒	
165 土器 器	D-52, 67, 69 71, 94, 95 701	高 環 形	21.5	14.2			横・斜方向のミガキ ヨコナデ、指押	丁寧なナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6), 灰 好 (SY5/1)	良好	2mm以下の淡茶色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	
166 土器 器	471, 473, 503 594, 622	高 环 形	13.05				ナデ、斜方向のナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6, 2.5YR6/6)	良好	2.5mm以下の灰色粒・褐色粒、反転ガラス状の光沢・微細粒	復元
167 土器 器	544	高 脚 盆					斜方向のミガキ、擦 き	横・斜方向のナデ、風化 合開	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	1mm以下のガラス状の光沢粒、褐色粒、灰色粒	復元
168 土器 器	D69	高 脚 盆	16.8				ヨコナデの後脱・横 方向のミガキ	ヨコナデ	橙 (7.5YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	良好	1mm以下の光沢のある黒・白 の粒を含む	反転 復元
169 土器 器	SA3	高 环 形					ミガキ	ミガキ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	1mm以下のガラス質の粒、 1mm以下の褐色の粒を含む	
170 土器 器	高 脚 盆	高 脚 盆	17.4	11.6			斜方向のヘミミガキ、 斜方向の壁ミガキ	丁寧なナデ、黒斑	明赤褐色	橙色 (5YR6/6)	良好	1.5mm以下の茶状の黒色光沢 粒、1mm以下の灰色・透明粒	反転 復元
171 土器 器	994	高 脚 盆		12.6			ヨコナデ、指押え、 やや斜め方向のミガキ	丁寧な後脱方向のナ デ	同赤褐色	橙色 (5YR6/6)	良好	1.5mm以下の乳白色粒、1mm以下の茶褐色粒	反転 復元
172 土器 器	SA3	高 脚 盆					指押え後ナデ、斜方 向のミガキ	工具による横方向の ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	良好	2mm以下の褐色の粒と1mm以下の白色の粒を含む	
173 土器 器	D74	高 脚 盆					ヨコナデ、堅・斜方 向のミガキ	指痕痕、ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (2.5YR6/6)	良好	1mm以下の灰褐色・茶色の砂 粒	反転
174 土器 器	SA3	高 脚 盆					ヘリ工具による縱縫 間のミガキ	横方向のナデ、削痕 間のナデ	にじ・削 (5YR7/4)	橙 (5YR6/6)	良好	0.5mm以下の灰褐色・茶褐色 の粒と1mm以下の乳白色の光沢粒を少 量含む	
175 土器 器	SA3-65, 93	高 环 形					ナデ	ナデ、ミガキ	橙 (2.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	1.5mm以下の褐色の粒と2mm以下の乳白色の光沢粒を少 量含む	
176 土器 器	D50	高 脚 盆					ていねいなヨコナデ	ヨコナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の灰・白色的砂粒	
177 土器 器		高 环 形					ヨコナデ、横・斜方向の ミガキ、新方向のミ ガキ	ヨコナデ	橙 (7.5YR6/6)	にじ・黄褐 (10YR6/6), 灰灰 (2.5YR6/6)	良好	1mm以下の灰茶色・淡 黄色ガラス質の砂粒を含む	
178 土器 器	SA3	小 型 九 底 盆		1.1			ヨコナデ、ナデ、て いねいなナデ	ヨコナデ、指痕痕	にじ・黄褐 (10YR6/4)	にじ・黄褐 (10YR6/4)	良好	3mm以下の黄褐色を少量含む	
179 土器 器	SA3	小型 丸 底 盆					ヨコナデ、一部縱 向のナデ	ヨコナデ、一部縱・ 斜方向のナデ、指押 え	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	薄い褐色の細粒	
180 土器 器	708	小 型 丸 底 盆	口縁	7.30			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の茶色の粒を微量に含む	
181 土器 器	SK-639	盆	脚部				やや左上がりのミガ キ	ヨコナデ、指ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橘 (5Y4/1)	良好	2mm以下の褐色の粒、2mm以下の灰茶色光沢粒を含む	



0 10cm

第26図 古代土器実測図

第8表 古代以降の遺物観察表

番号	種別	出土位置	器種	部位	口径	底径	器高	模様・調整		色・調		地質	土質	備考
								外面	内面	外面	内面			
182	土器 器	SA2	环	口縁～ 底部				ヨコナデ後斜方向の ナデ、工具痕	ヨコナデ、指揮え	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (SYR6/6)	良好	2.5mm以下の軟な赤茶色の 砂粒、1.5mm以下の茶褐色の 砂粒、1mm以下の黒色の光沢 粒	
183	土器 器	869	环	底部	6.2			ヨコナデ、ヘラクス リ	ヨコナデ	橙 (SYR7/6)	橙 (SYR7/6)	良好	2mm以下の灰茶色の砂粒、 灰好 3mm以下の茶褐色の砂粒 復元	
184	土器 器	288	不	底部 明		5.25		ヨコナデ、ヘラクス リ	反時計回りに巻き 状の工具による溝	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/5)	良好	2mm以下の白色粒を少量含む 灰好	反転 復元
185	土器 器	389	环	底部				ヨコナデ、ヘラクス リ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/5)	にぶい黄橙 (7.5YR8/4)	良好	2mm以下の黒色・赤褐色の粒 好	反転 復元
186	土器 器	环	底部					ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	良好	1mm以下の黒色・灰色の粒を 含む	
187	土器 器	283, 286	环	口縁～ 底部	6.6			丁寧なヨコナデ、一 部周塗	丁寧なヨコナデ、一 部周塗	淡黄橙 (7.5YR8/5), 橙 (SYR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	3mm以下の褐色の粒を含む 灰好	反転 復元
188	土器 器	257	环	底部 先形	6.8	13.8		ヨコナデ、ヘラクス リ	ヨコナデ、ヘラクス リ	淡黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	良好	2mm以下の黒色の粒を含む 好	
189	土器 器	388	环	底部				ヨコナデ、ヘラクス リ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	良好	1mm以下の茶褐色の粒 好	
190	土器 器	SA2	环	胸筋～ 底部				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	2.5mm以下の黒色の粒、2mm 以下の灰茶色の粒を含む	反転 復元
191	土器 器	SA2	环	底部				ヨコナデ、ナデ	ナデ	淡黄橙 (10YR6/2)	淡黄橙 (10YR6/2)	良好	2mm以下の黒色・茶色の粒を 含む	
192	土器 器	267	环	口縁～ 胸筋	7.75			工具による丁寧なヨ コナデ、ヘラによる 横方向の条線	工具による丁寧なヨ コナデ、ヘラによる 横方向の条線	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	2mm以下の褐色・赤褐色・黑 色の粒	反転 復元
193	土器 器	SA2	环	口縁～ 胸筋	12.6			ヨコナデ、沈縫	ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	2mm以下の茶褐色の砂粒、 0.5~2mmの灰褐色のガラス 質砂粒	反転 復元
194	土器 器	SA2	直	口縁～ 底部	16			ヨコナデ、やや突い 調整で凸凹がみられ る、指揮え後ナデ	工具調整の後に握方 向のナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	良好	1~4mm以下の灰褐色の砂粒、 0.5~0.5mmの黒色の砂粒を 含む	反転 復元
195	土器 器	直	瓶	瓶の取 っ手				ナデ	瓶の方向のケズリ	橙 (SYR7/6)	橙 (SYR7/6)	良好	4mm以下の赤褐色の粒	
196	中壺	D8	上	完形	1.5	3.2	-	-	灰灰 (1.5YR6/2)	灰灰 (2.5YR5/1)	良好			
197	陶器	D1-10	直	L1縁				施釉貫入	施釉貫入	淡黄 (2.5YR7/3)	淡黄 (2.5YR7/3)	極良		
198	陶器	D1-4	不明	瓶				施釉貫入	施釉貫入	淡黄 (2.5YR7/3)	淡黄 (2.5YR7/3)	極良		
199	陶器	D1-4	不明	瓶				施釉	施釉	淡黄 (2.5YR7/3)	淡黄 (2.5YR7/3)	極良		
200	実器 き		口縁部	14.6				ヨコナデ	ヨコナデ、工具によ る横方向のくぼみ	灰灰 (2.5Y4/1)	灰灰 (2.5Y4/1)	良好	1mm以下の灰白色の砂粒を 含む	反転 復元
201	肥前	615	体	口縁部				施釉、ヨコナデ	施釉、ヨコナデ	暗赤 (5YR3/4)	暗赤 (5YR4/3)	極良		
202	肥前		下	瓶部				施釉、横方向のナデ	施釉、横方向のナデ	暗褐 (7.5YR3/3)	暗褐 (7.5YR3/2)	極良		
203	陶器		瓶	口縁部				施釉	施釉	暗褐色 (10YR3/1)	暗灰 (10YR4/1)	極良		
204	陶器		口縁部					施釉	施釉、横方向の非奈 に浅いくぼみ	灰白 (5YR8/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	極良		
205	佐佐 見系		瓶部～ 底部		3.9			施釉	施釉、横方向のナデ	灰白 (2.5YR2/2)	淡黄橙 (10YR2/3)	極良		反転 復元

できたこの地点では、下位より褐色土（層厚57cm）、黄色軽石に富む暗灰褐色土（層厚23cm）、最大径9mm）、灰色がかった暗褐色土（層厚17cm）、灰褐色土（層厚24cm）、褐色土（層厚19cm）、繩文時代早期の遺物を含む炭化物混じり暗灰褐色土（層厚5cm）、炭化物混じりで灰色粗粒火山灰および黄色粗粒火山灰に富む暗灰褐色土（層厚7cm）、暗灰褐色砂質土（層厚7cm）、成層したテフラ層、褐色土（層厚10cm）、暗灰色表土（層厚45cm）の連続が認められる（図1）。

これらの土層のうち、下位より2層目の暗灰褐色土中に多く含まれる黄色軽石は、岩相から約1.6万年前に霧島小林軽石（Kr-Kb, 伊田ほか, 1956, 町田・新井, 1992）に由来すると考えられる。また繩文時代早期の遺物包含層を覆う土層中に含まれる灰色粗粒火山灰および黄色粗粒火山灰は、霧島火山から噴出した軽石（早田, 執筆中）に由来している可能性が大きい。成層したテフラ層は、下部の火山豆石混じり黄色細粒軽石層（層厚5cm, 軽石の最大径5mm, 火山豆石の最大径4mm）と上部の橙色細粒火山灰層（層厚22cm）から構成される。このテフラ層は、層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah, 町田・新井, 1978）に同定される。

### （2）権現原第1遺跡A-3グリッド

ここでは、K-Ahより上位の土層をよく観察できた。ここでは「二次アカ」とも呼ばれるK-Ahを母材としてできたガラス質の褐色土（層厚14cm）の上位に、下位より暗褐色土（層厚16cm）、黒味をおびた暗褐色土（層厚18cm）、弥生時代の遺物を含む褐色土（層厚18cm）、暗灰褐色砂質土（層厚6cm）、白色粗粒火山灰混じり暗灰褐色砂質土（層厚6cm）、暗灰褐色土（層厚14cm）、暗灰褐色砂質作土（層厚51cm）、表土（層厚21cm）が認められる（図2）。

### （3）権現原第2遺跡S-28グリッド

この地点では、下位より黄色軽石に富む灰色土（層厚21cm, 軽石の最大径9mm）、灰色土（層厚23cm）、褐色土（層厚27cm）、褐色土（層厚9cm）、黄色軽石混じり褐色土（層厚4cm, 軽石の最大径6mm）、黄橙色細粒火山灰層のブロック混じり褐色土（層厚12cm）、「二次アカ」に相当するガラス質の褐色土（層厚18cm）、道路盛土（層厚37cm）が認められた。これらのうち、最下位の土層中に含まれる軽石は、その岩層からKr-Kbに由来すると考えられる。また褐色土中に含まれる黄色軽石や、黄橙色細粒火山灰層のブロックは、岩相からK-Ahに由来すると考えられる。

## 3. 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。権現原第1遺跡A-3グリッドの試料番号2には、褐色のスコリア（最大径4.7mm）が多く含まれている。このスコリアは、その岩相から従来788年に噴出したと考えられてきた霧島高原スコリア（Kr-ThE, 井ノ上, 1988, 町田・新井, 1992）に由来すると考えられる。したがって試料番号2にKr-ThEの降灰層準があると考えられる。なおこのテフラの噴出年代については、加速器を用いた放射性炭素年代測定法により、10~13世紀の可能性が指摘されている（奥野, 1996）。この試料には、発泡のよい白色軽石（最大径2.4mm）も少量含まれているが、この軽石は次に述べる試料番号1に降灰層準のあるテフラに由来すると思われる。

試料番号1には、発泡のよい白色軽石（最大径2.3mm）が多く含まれている。この軽石は、その

岩相から1471年に桜島火山から噴出した桜島3テフラ (Sz-3, 文明軽石, 小林, 1986, 町田・新井, 1992) に由来すると考えられる。したがって試料番号1にSz-3の降灰層準があると考えられる。この試料には褐色のスコリア (最大径2.2mm) が少量含まれている。このスコリアは、その岩相からKr-ThEに由来するものと考えられる。

#### 4. 小結

権現原遺跡の土層の堆積年代に関する資料を収集するために、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より霧島小林軽石 (Kr-Kb, 約1.6万年前以降)、桜島火山起源の縄文時代のテフラ、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約6,300年前)、霧島高原スコリア (Kr-ThE, 10-13世紀?)、桜島3テフラ (Sz-3, 文明軽石) の層位を検出することができた。

表1 権現原第1遺跡A-3グリッドのテフラ検出分析結果

試料	軽石			スコリア		
	量	色調	最大径	量	色調	最大径
1	+++	白	2.3	+	褐	2.2
2	+	白	2.4	+++	褐	4.7

++++: とくに多い, ++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。  
最大径の単位は, mm.

#### II. 権現原遺跡における放射性炭素年代測定結果

##### 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	第2遺跡, SI-6集石覆土中	炭化物	酸-7カリ-酸洗浄 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法

##### 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 交点 (1 $\sigma$ )	測定No. (Beta-)
No. 1	$8540 \pm 60$	-27.2	$8500 \pm 60$	BC7520 (BC7545~7490)	92431

### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した値。 $^{14}\text{C}$  の半減期は5,568年を用いた。

### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比を補正するための炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$  測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

### 4) 曆年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$  濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正是年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$  の詳細な測定値を使用した。この補正是10,000年BPより古い試料には適用できない。曆年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$  年代値と曆年代補正曲線との交点の曆年代値を意味する。 $1\sigma$  は補正 $^{14}\text{C}$  年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した曆年代の幅を示す。

## II 権現原遺跡における植物珪酸体分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、1987）。

### 2. 試料

試料は、第1遺跡A-18グリッドで10点、第1遺跡A-3グリッドで5点、第2遺跡S-28グリッドで5点の計20点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1～図3に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕 機動細胞由来：イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族、ウシクサ族（大型）、シバ属、Bタイプ、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、タケア科（未分類等）

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕 ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、

その他

### （1）第1遺跡A-18グリッド（図1）

K-Ah直上層（試料1）からKr-Kb直下層（試料10）までの層準について分析を行った。その結果、Kr-Kb直下層（試料10）から縄文時代早期の遺物包含層（試料5）までの層準では、棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族型やクマザサ属型も比較的多く検出された。棒状珪酸体はおもにイネ科植物の結合組織細胞に由来しているが、イネ科以外にもカヤツリグサ科やシダ類などでも形成される。棒状珪酸体の形態についてはこれまであまり検討がなされていないことから、その給源植物の究明については今後の課題としたい。

K-Ahの下層（試料3、4）では、クマザサ属型やウシクサ族型が大幅に減少し、かわってネザサ節型が急激に増加している。また、スキ属型やメダケ節型なども検出された。K-Ah層（試料2）およびその上層（試料1）では、スキ属型やネザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、縄文時代早期の遺物包含層より下位ではクマザサ属型が卓越しており、K-Ahの下層ではネザサ節型が優勢となっていることが分かる。

### （2）第1遺跡A-3グリッド（図2）

Sz-3混層（試料1）から二次アカ層の上層（試料5）までの層準について分析を行った。その結果、全体的に棒状珪酸体が多量に検出され、ネザサ節型も比較的多く検出された。また、Kr-ThE混層およびSz-3混層では、スキ属型やウシクサ族型が多く検出され、Sz-3混層では少量ながらイネが検出された。また、イネ科以外にもブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）が出された。樹木はイネ科と比較して一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、植物珪酸体分析の結果から古植生を復原する際には、他の分類群よりも過大に評価する必要がある。

おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、二次アカ層の上層ではネザサ節型が優勢であり、Kr-ThE混層およびSz-3混層ではスキ属型が優勢となっていることが分かる。

### （3）第2遺跡S-23グリッド（図3）

盛土直下層（試料1）からK-Ahの下層（試料5）までの層準について分析を行った。その結果、K-Ahより下層（試料4、5）では棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族型やクマザサ属型も比較的多く検出された。また、少量ながらブナ科（シイ属）も検出された。K-Ah混層（試料3）では各分類群とも大幅に減少しているが、ブナ科（シイ属）は増加傾向を示している。K-Ah直上の「二次アカ」と呼ばれる褐色土（試料1）ではブナ科（シイ属）がさらに増加し、密度は4万個/g以上にも達している。また、ブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）なども検出された。

## 4. 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

以上の結果から、権現原遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

霧島小林軽石（Kr-Kb、約1.6万年前以降）の下位から縄文時代早期の遺物包含層にかけては、クマザサ属などのササ類を主体としたイネ科植生が継続されていたものと推定される。タケ亜科のうち、クマザサ属とメダケ属ネザサ節は一般に相反する出現傾向を示し、前者は寒冷、後者は温暖の指標とされている。ここでは、クマザサ属が圧倒的に卓越していることから、当時は寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。クマザサ属は氷点下5℃程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている（高槻、1992）。気候条件の厳しい氷期にクマザサ属などのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

その後、縄文時代早期頃にはクマザサ属が急激に減少し、メダケ属ネザサ節を主体としてススキ属やチガヤ属なども見られる草原植生が成立したものと推定される。このような植生変化は、関東周辺などの調査例でも認められており（杉山ほか、1992、佐瀬ほか、1987）、いずれも約1万年前を境にクマザサ属主体のイネ科植生からネザサ節・ススキ属を主体とする草原植生に移行している。この植生変化は、後氷期における気候温暖化に対応しているものと考えられる（杉山・早田、1996）。

イネ科植物を主体とした草原植生は、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah、約6,300年前）直下層まで継続されたと考えられるが、この頃には遺跡周辺でシイ属などの照葉樹林が見られるようになったものと推定される。照葉樹林は鬼界アカホヤ火山灰の堆積以降さらに増加し、「二次アカ」と呼ばれる褐色土の堆積当時は、シイ属を主体としてアカガシ亜属やクスノキ科、イスノキ属なども生育する照葉樹林に覆われていたものと推定される。「二次アカ」と呼ばれる褐色土は、このような森林植生下で形成された褐色森林土の一種とみなされよう。なお、シイ類の種実（ドングリ）は、アクリ抜きの必要がなく、そのままでも食用となる。

霧島高原スコリア（Kr-ThE、10-13世紀？）から桜島3テフラ（Sz-3、文明軽石、1471年）にかけては、ススキ属やチガヤ属を主体としてネザサ節なども見られる草原の状態であり、遺跡周辺ではシイ属などの照葉樹林が生育していたものと推定される。また、桜島3テフラ混層の頃には周辺で稲作が開始されたと考えられる。遺跡の立地や周辺の植生などから、ここで行われた稲作は畑作の系統（陸稻）と推定される。

## 第5節 調査区付近から採取された参考資料

椎原原第1遺跡出土のものではないが、本遺跡の調査の数年前、遺跡の近辺で茶畠の造成の時に発見したということで、その畠の地権者が調査を見学に来訪されたおり、縄文時代前期の土器片をミカン箱に入れて持ってこられた。考古学的資料として使ってほしいとの希望を伝えられた。ほとんどが轟B式土器と曾畠式の土器片で状態のいいものが多く、出土状態が分からないと出土地点が明確でないという部分はあるが、土器片がまとまっており状態がよかつたので掲載することにした。（い～お）

## 第6節 まとめ

本遺跡は調査当初は一つの台地を横切る相当広い面積の調査対象区であったが、確認調査を行なながら調査を進めたところ、最終的に調査区の両端部分しか遺構、遺物包含層が残っていなかった。

縄文早期の集石遺構は清武町内の遺跡ではかなりの数が検出されており、本遺跡の南側の竹ノ内・杉木原遺跡、北側の権現原第2遺跡でも確認されている。さらに清武川を挟んだ対岸の船引地区遺跡が現在清武町教育委員会の手で発掘調査が進められているが、そこでも台地の縁辺部を中心に多数の集石遺構が発見されている。また、清武町と宮崎市にわたる時屋地区遺跡群は縄文時代の住居跡が多数検出されている。このような例から縄文時代早期から清武川流域の台地上で生活が営まれていたことをうかがわせる。縄文土器については早期の貝殻条痕文と押型文が出土しており、前期・後期・晩期の土器片も出土していることから縄文時代全体を通じて一時に途切れることはあっても永続的にこの近辺で生活を営んでいたと思われる。

石器類が数十点出土しているが、アカホヤ火山灰下の層からのものは、黒曜石製の打製のものが多くを占める。石の特徴から大分県姫島産のものと考えられる。

土器の編年については、アカホヤ火山灰の下の層から出土したもので1類が前平式に器形や施文が酷似している。2類は口縁部の楔形突帯や底部付近の縱方向の貝殻条痕の特徴から知覧式と思われる。3類はアカホヤ火山灰層の上から出土したことと、みみず腫れ状の突帯を有する等の特徴から轟B式に比定される。1類・2類は数点が集石遺構から疊と共に出土したが、大半は包含層から散発的に検出され遺構に伴うものは少なかった。

住居跡は出土した遺物等からA区の2軒は弥生中期～後期のもので、D区の1軒は古墳時代のものと思われる。

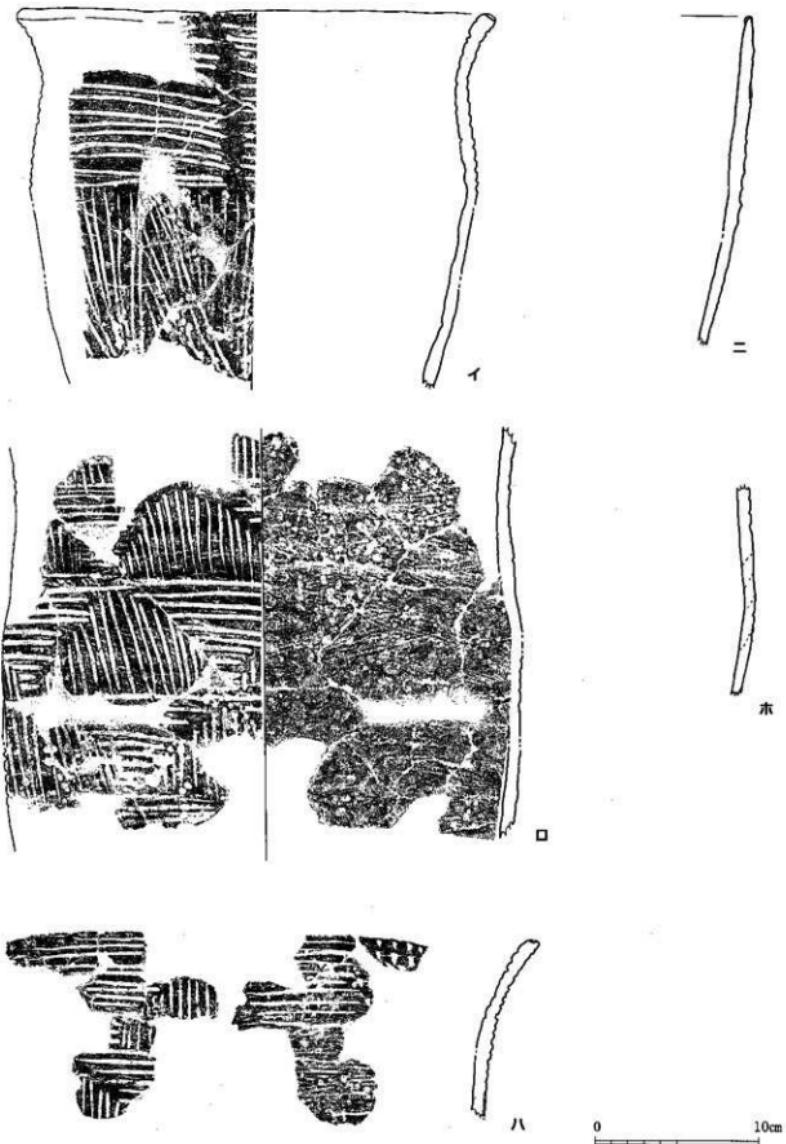
弥生土器は住居跡及びその周辺から出土したものが大半である。器種としては壺と壺が大半で鉢が僅かに1点だけ検出されたのが特徴的である。

土師器は弥生土器と同じく壺と壺が大半を占めるが、鉢、高杯、小型丸底壺など多様な器形が出土している。中でも高杯は完形のものを含め、かなりの点数を数える。

古代以降も遺構は確認できなかったが、遺物は出土しており、ほとんど途切れることなくこの台地上に生活が営まれていたことをうかがわせる。A区の北側の斜面中腹から戦後まで水が湧いていたということであるが、そのようなこともここでの生活が長年にわたって営まれてきた要因の一つとなっていたのかもしれない。中世以降の遺物も出土しているが、すべて擾乱層からの出土であり出土地点を確定できない状況である。

以上、権現原第1遺跡について述べてきたが、遺跡の中央部が削平されて遺構が残っていなかつたため、遺跡の広がりがどのようなものであったかを明らかにできなかったことは残念であったが、参考資料の存在は、縄文時代の遺跡はかなり西側の部分まで広がっていたことをうかがわせる。

最後に、発掘調査で作業をしてくださった方々、整理作業をしていただいた方々、資料の提供や助言をいただいた方々に厚くお礼を申し上げます。



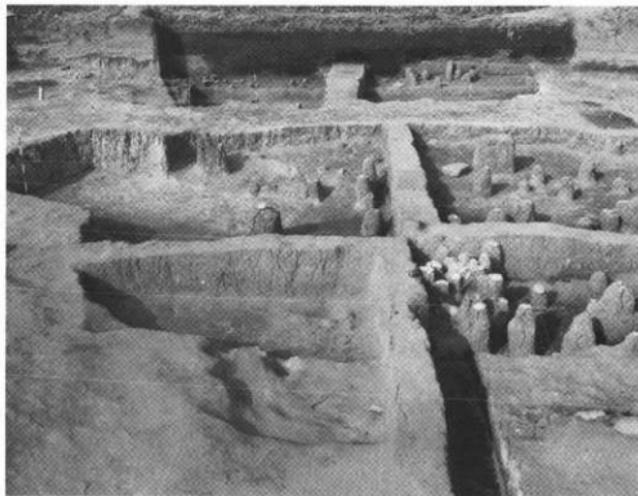
第27図 參考資料実測図(1/3)



A区遠景



C区～F区遠景



1号住居跡(遺物出土状況)



1号住居跡(完掘状況)



3号住居跡（遺物出土状況）



3号住居跡（完掘状況）



2号集石遺構



4号集石遺構



5号集石遺構



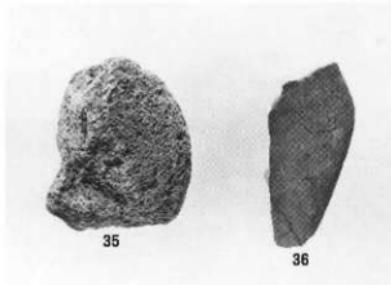
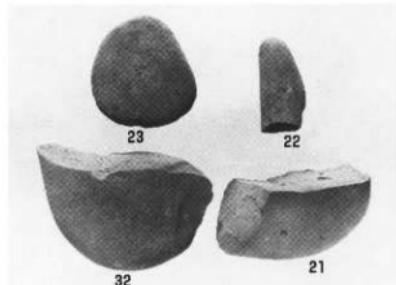
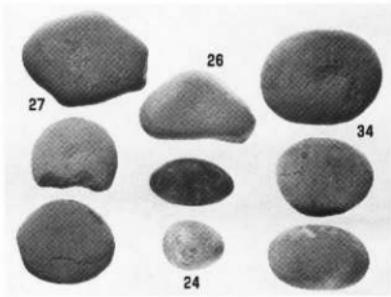
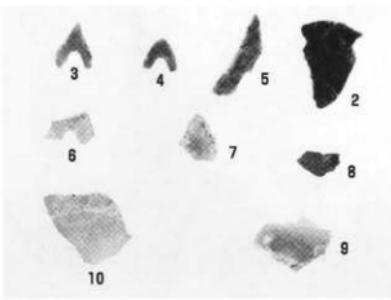
7号集石遺構



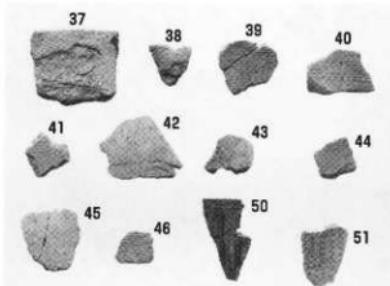
8号集石遺構



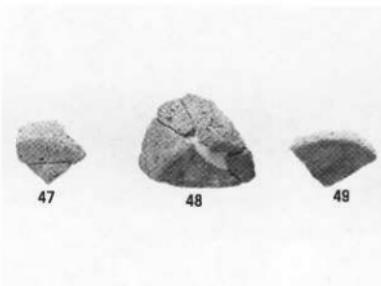
A区 土層断面



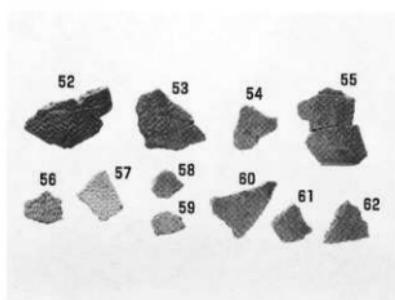
縄文時代の石器



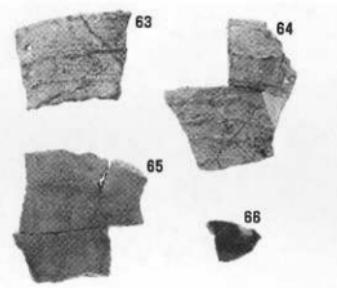
繩文早期 貝殼条痕系土器



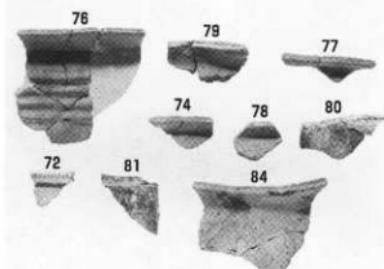
繩文早期 土器 底部



繩文早期 押型文土器



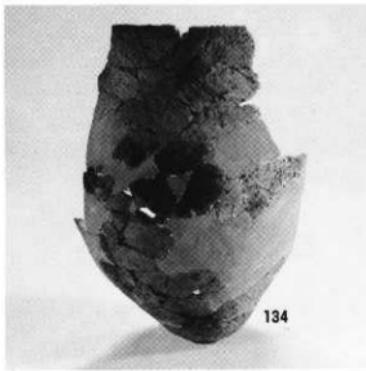
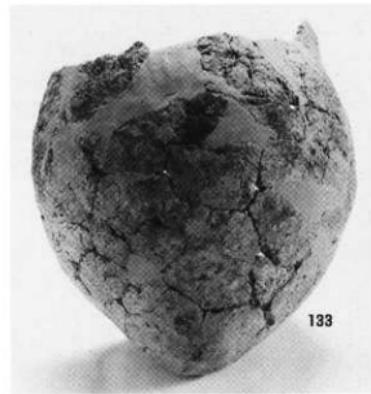
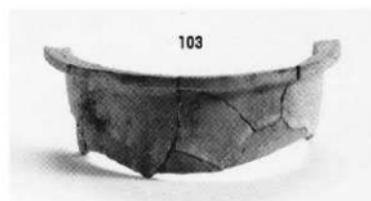
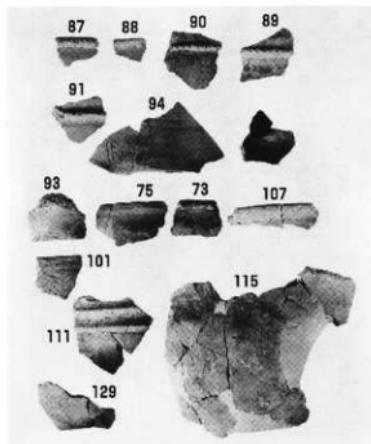
繩文後·晚期 土器



弥生土器 口縁部



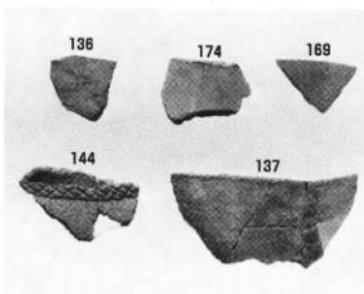
弥生土器 底部



弥生土器・土篩器



114



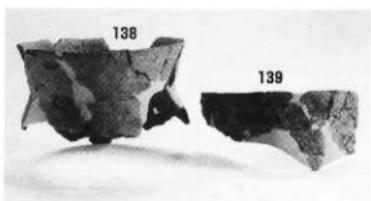
136

174

169

144

137



138

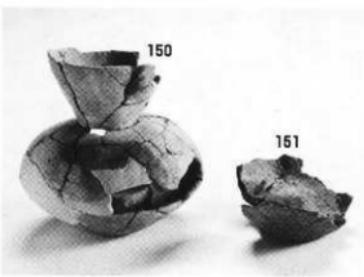
139



170

166

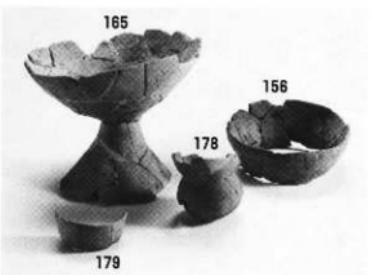
161



150

151

141

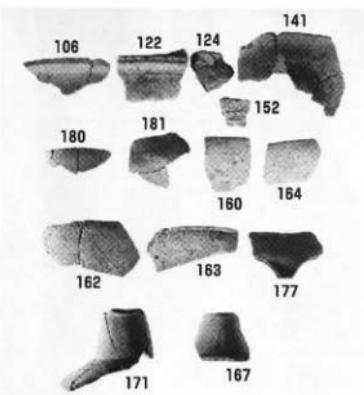


179

156

178

弥生土器・土師器



106

122

124

141

152

180

181

160

164

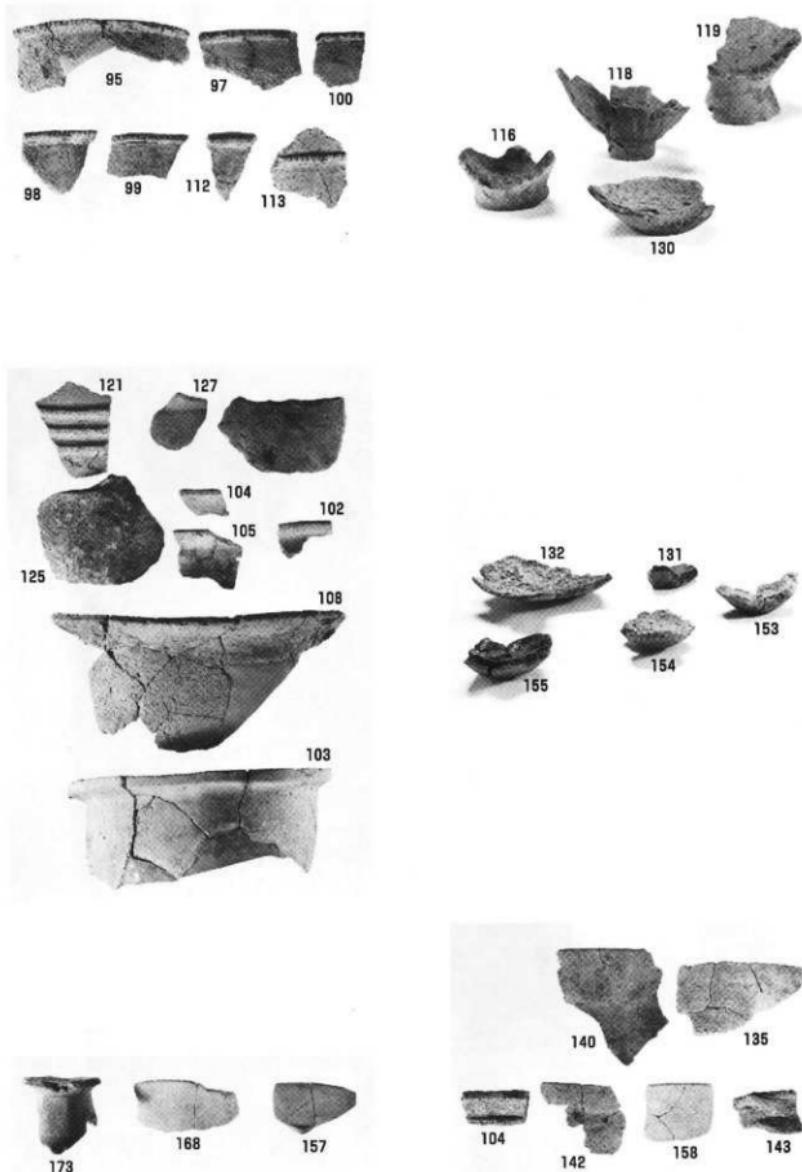
162

163

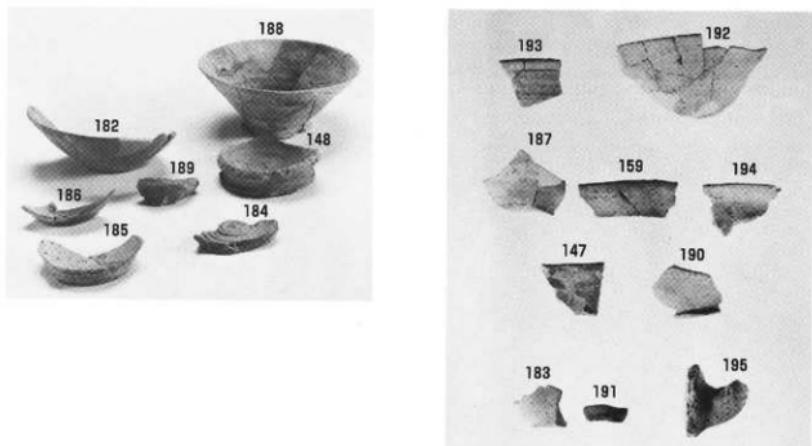
177

171

167



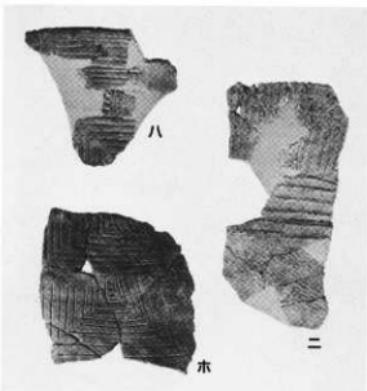
弥生土器・土築器



古代の土師質土器

## 参考資料

(権現原第1遺跡近くで出土した曾畠式土器)



## 第三章 下星野遺跡の調査

### 第1節 調査の経過と概要

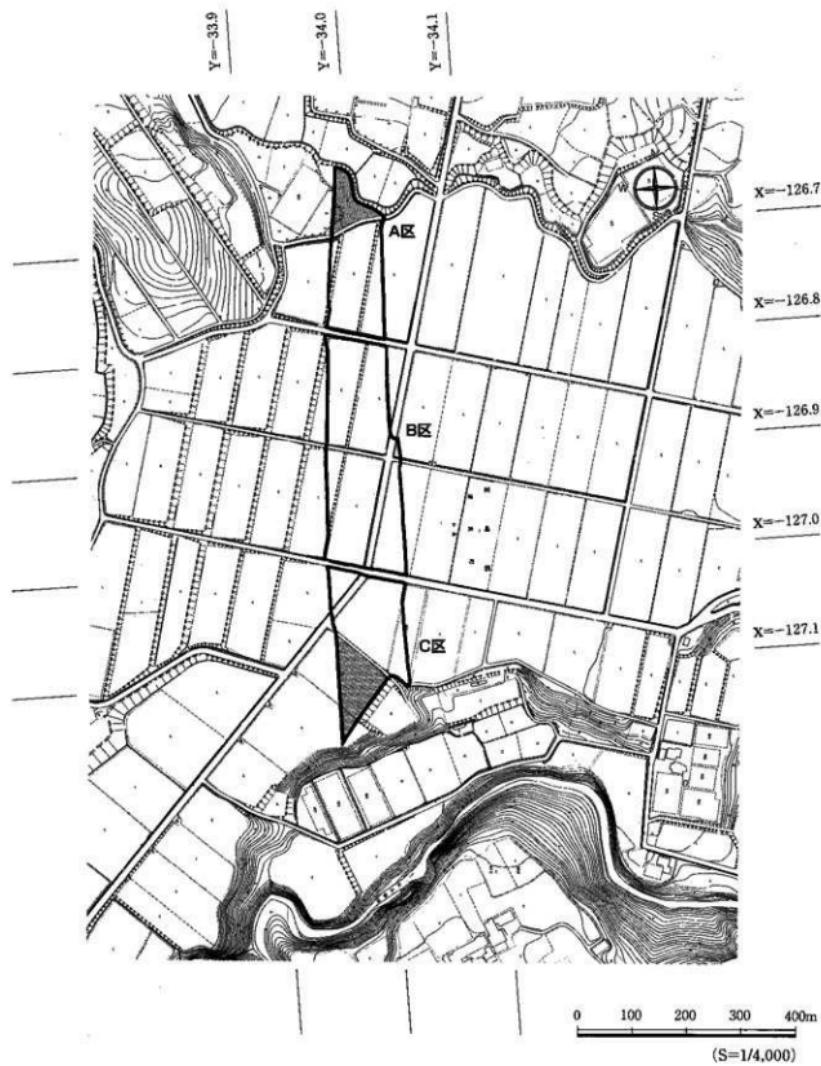
下星野遺跡は、宮崎郡清武町西部の標高約70mのシラスを基盤とした台地上に位置し、北は杉木原遺跡に、南は谷間を挟んで永ノ原遺跡に面している。遺跡一帯は昭和40年代に圃場整備が行われており、現在、原地形を伺い知ることはできないが、調査の結果、西から東に向けて傾斜しており調査区の中央に谷が存在していたと思われる。調査は、調査対象面積を32,600m<sup>2</sup>として調査区全体をA区・B区・C区の3区に分け、B区を一次調査として平成7年5月10日から8月10日まで行い、A区とC区を二次調査として9月13日から平成8年3月26日まで行った。調査は、初めに土層を確認するためのトレンチを重機で掘削し、その成果如何によって調査地の拡張を検討することとした。

初めにB区を調査した。トレンチ調査の結果、地形はB区の中央部に向けて南北から傾斜しており谷が存在していたと推測された。遺構はなかったが、遺物が僅かに出土した。縄文早期の無文土器が30点と石錐（図版参照）が2点である。遺物の出土範囲が限られていたため、トレンチ調査のみで終了した。

A区の調査は、まず南側に土層確認のためのトレンチを重機で掘削したところ、アカホヤ層以下の土層が残存していた。遺構・遺物は確認されず土層は南に向けて次第に下がり、谷を埋めたような埋土が確認された。次に、調査区最北端の区画の薄い表土を重機で除去中に土器片が多数出土したため全範囲を調査することとした。表土を除去後土層確認のトレンチを設定し、土層の堆積状況を観察した。それによると、調査区の中央部のアカホヤ層上部にシラス2次堆積層が確認されたが、これは上層に縄文後期から晩期の土器を含む包含層があることから、縄文前期に付近で大規模な崩落が起きたものと思われる。A区はもともと西から東へ傾斜する谷地形であり、西側斜面からの崩落などで次第に埋没し古墳時代にはかなり平坦になっていたことが確認された。また、トレンチの壁に住居らしき落ち込みが確認されたため、住居跡の検出と土器片との関係に留意しながら調査を行った。調査の結果、A区は縄文早期から近世の遺構・遺物を埋蔵しており、切り合っている住居跡や溝状遺構・土坑・集石遺構などが検出され、縄文早期・縄文後期から晩期の遺物や弥生中期から古墳中期までの遺物などが出土した。

C区の調査は、北側に土層確認のためのトレンチを重機で掘削したところ、アカホヤ層以下の土層が残存していたが、遺構は確認されず少量の遺物のみの出土であることから人力によるトレンチ調査で終了した。次に調査区最南端の区画に土層確認のためのトレンチを人力で掘削している途中で土器や石器・焼け石などが多数確認されたため、全範囲を調査することとした。表土を重機で除去後、土層確認のトレンチを設定し土層の堆積状況を観察した。それによると、調査区のほとんどのところでアカホヤ層以上が削平されており、北から南の谷に向けて少しづつ傾斜している地形であることが確認された。調査の結果、細石刃文化期から縄文早期の集石遺構や土坑が検出され、細石器や縄文早期の土器や石器などが出土した。

以上のように、下星野遺跡では細石刃文化期から近世までの遺構・遺物が確認された。



第1図 周辺地形図

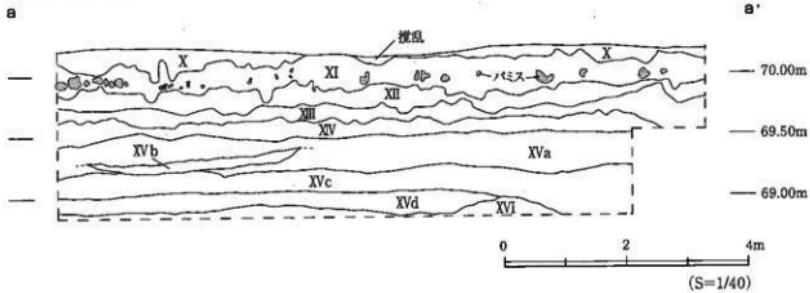
## 第2節 A区の調査

### 1 A区の層序

A区の基本層序は右の通りであるが、A区の北側は表土を除去するとIX層の黄褐色土が現れそれ以上の地層は削平されており、南側はアカホヤ火山灰から下の層が残っていた。中央部は谷を埋めるような形で土層が残っていた。各層の特徴を簡単に示すと、I層は耕作土で柔らかい。II層は白色火山灰が混入しており、これは文明蛭石と思われ締まっている。III層は赤褐色の高原スコリアが混入しており締まっている。IV層は黄色の粒や炭化物が混入しており締まりはややゆるい。土師器を含む古墳時代の包含層である。V層は市来式土器等を含む縄文後期の包含層で締まりはややゆるい。VI層は崩落によるシラスの二次堆積層である。VII層は白色の細粒を少し含む層であるが、遺物は含まれておらず締まっている。VIII層はアカホヤ火山灰層である。IX層は締まっている層である。X層は縄文早期の集石遺構や土器を含む締まっている層である。XI層は桜島薩摩軽石（桜島バミス）を含む層でよく締まっている。XII層は締まっている層である。XIII層は粘質が強い層である。XIV層は砂を含むが粘質もありよく締まっている層である。XV層はシラスで硬く締まっている。XVI層は硬い粘土である。

I層	表土（耕作土）
II層	黒褐色土
III層	黒褐色土
IV層	オリーブ褐色土
V層	黒色土
VI層	黄色土
VII層	黒色土
VIII層	橙色土アカホヤ火山灰
IX層	暗褐色土
X層	黄褐色土
XI層	暗褐色土
XII層	黒褐色土
XIII層	明褐色土
XIV層	にぶい黄褐色土
XV層	黄色土
XVI層	灰白色土

トレンチ3 (T3)



トレンチ3(T3)a-a'

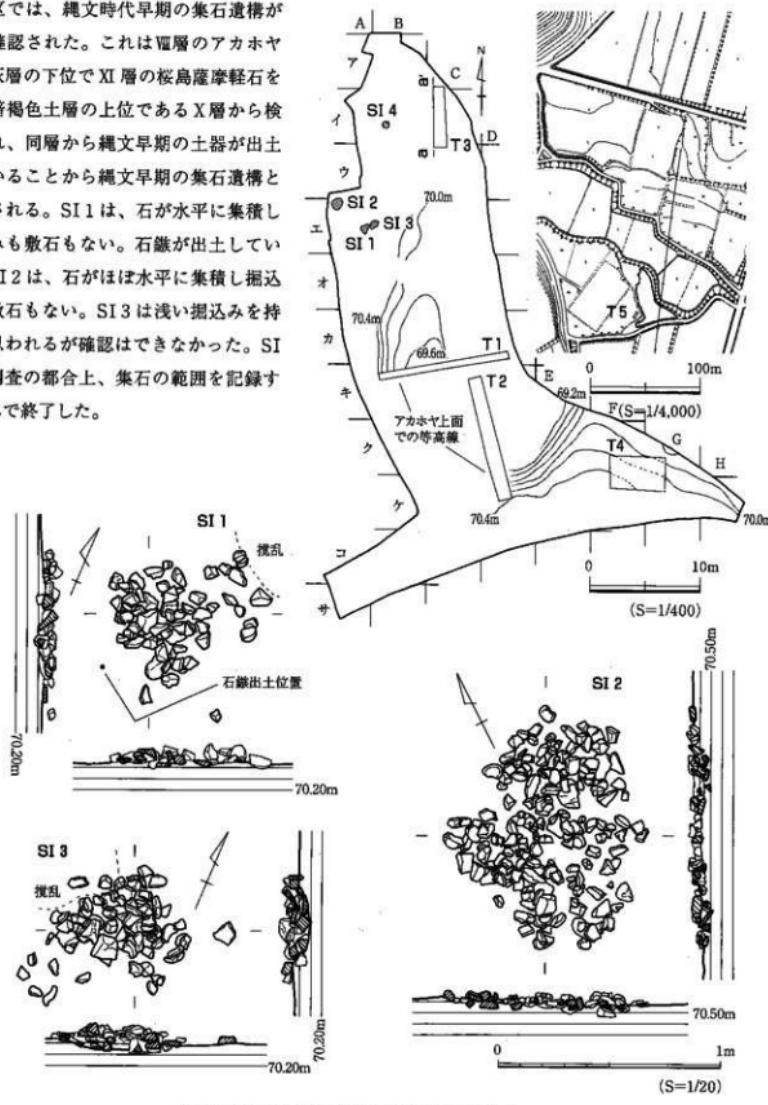
X 層	黄褐色土	シルト質土。粘質弱い。締まっている。白色繊維を含む。縄文早期の集石遺構・土器・石器出土。
XI 層	暗褐色土	よく締まっている。桜島薩摩軽石（桜島バミス）の径が大きい。黒褐色土のブロックも含む。
XII 層	黒褐色土	締まっている。
XIII 层	明褐色土	粘質強い。岡の右ほど粘質が弱く砂質が強くなる。
XIV 层	にぶい黄褐色土	ある程度帶を感じるが粒もある。よく締まっている。
XV a 层	灰褐色土	砂質土。シラス。上層に比べやや締まり弱い。
XV b 层	灰褐色土	水性堆積のシラス。硬く締まっている。
XV c 层	淡黄色土	水性堆積のシラス。水平に模様。1~5mmの小石を含む。締まっている。
XV d 层	褐色土	硬い。よく締まっている。
XVI 层	灰白色土	粘土。硬い。きわめて緻密。

第2図 土層断面図

## 2 繩文早期の遺構と遺物

### (1) 集石遺構

A区では、縄文時代早期の集石遺構が4基確認された。これは畠層のアカホヤや火山灰層の下位でXI層の桜島薩摩軽石を含む暗褐色土層の上位であるX層から検出され、同層から縄文早期の土器が出土していることから縄文早期の集石遺構と判断される。SI1は、石が水平に集積し掘込みも敷石もない。石礫が出土している。SI2は、石がほぼ水平に集積し掘込みも敷石もない。SI3は浅い掘込みを持つと思われるが確認はできなかった。SI4は調査の都合上、集石の範囲を記録するのみで終了した。

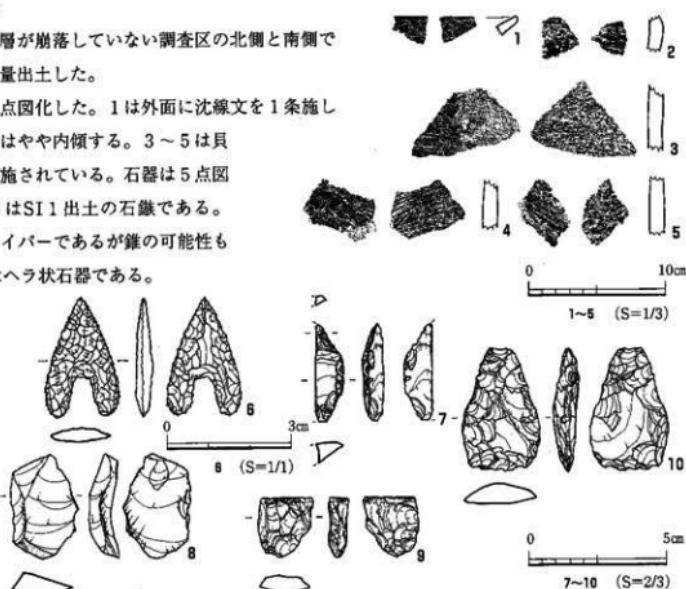


第3図 縄文早期遺構分布図・集石遺構実測図

## (2) 遺物

遺物は土層が崩落していない調査区の北側と南側でX層から少量出土した。

土器は5点図化した。1は外面に沈線文を1条施している。2はやや内傾する。3~5は貝殻条痕文が施されている。石器は5点図化した。6はSI 1出土の石鏃である。7はスクレイパーであるが錐の可能性もある。10はヘラ状石器である。



第4図 縄文早期遺物実測図

第1表 下星野遺跡A区 縄文早期集石遺構計測表

	検出位置・層	腰の範囲 (cm)	土坑の大きさ (cm)	土坑の深さ (cm)	散石の有無	石数	備考
S I 1	A-エ・X層	7.0×6.5	—	土坑なし	土坑なし	なし	約6.0 一部耕作の擾乱あり・石鏃出土
S I 2	A-エ・X層	11.0×9.2	—	土坑なし	土坑なし	なし	約1.80 一部耕作の擾乱あり
S I 3	B-エ・X層	8.5×5.5	推定5.4×3.5	推定4.4×2.7	検出面から7	なし	約6.0 一部耕作の擾乱あり・石の小片15個
S I 4	B-イ・X層	6.0×5.8	—	—	—	—	穀の範囲のみ記録

第2表 下星野遺跡A区 縄文早期土器観察表

試番号	種別	出土位置	器種・部位	文様及び調整		色調	焼成	胎土	備考
				外面	内面				
1	縄文土器	X層	深鉢 A-ア	横ナデ、沈線1条 口縁部	横ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	良好	1mm以下の白色・黒色・透明の粒 基ノ持式
2	縄文土器	X層	深鉢 A-ア	横ナデ 口縁部付近	横ナデ	にぶい灰褐色	灰黄褐色	良好	2mm以下の黒色・褐色・透明光沢 の粒
3	縄文土器	X層	深鉢 B-イク	横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	にぶい灰褐色	黄褐色	良好	2mm以下の透明な粒、1mm以下 の褐色・白色光沢・褐色の粒 扁平式
4	縄文土器	X層	深鉢 B-ア	横方向の貝殻条痕文の後ナデ 新方向の貝殻条痕文	新方向の貝殻条痕文	灰黄	灰黄	良好	2mm以下の透明光沢の粒、1mm 以下の黒色・白色の粒 扁平式
5	縄文土器	X層	深鉢 A-ア	新方向の貝殻条痕文 剥離部	ナデ	にぶい灰褐色	にぶい灰褐色	良好	2mm以下の白色・透明・褐色・灰 色の粒 扁平式

第3表 下星野遺跡A区 縄文早期石器計測表

試番号	種別	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
6	石鏃	A-エ・X層	2.8.5	1.8	4.0	1.3	砂岩	凹基無茎鏃
7	スクレイパー	B-ア・X層	3.5	1.0.5	0.8	2.3	チャート	錐の可能性あり
8	使用痕剥片	A-エ・X層	3.7.5	2.5	1.0.9	7.1	頁岩	—
9	使用痕剥片	G-ク・X層	2.1.5	2.0.1	7.0	3.4	シルト岩	ミトレニチのアカホヤ下から出土
10	ヘラ状石器	B-イ・X層	4.4.5	2.8	0.9.3	9.7	チャート	石器の未製品の可能性あり

### 3 縄文後期～晩期の遺構と遺物

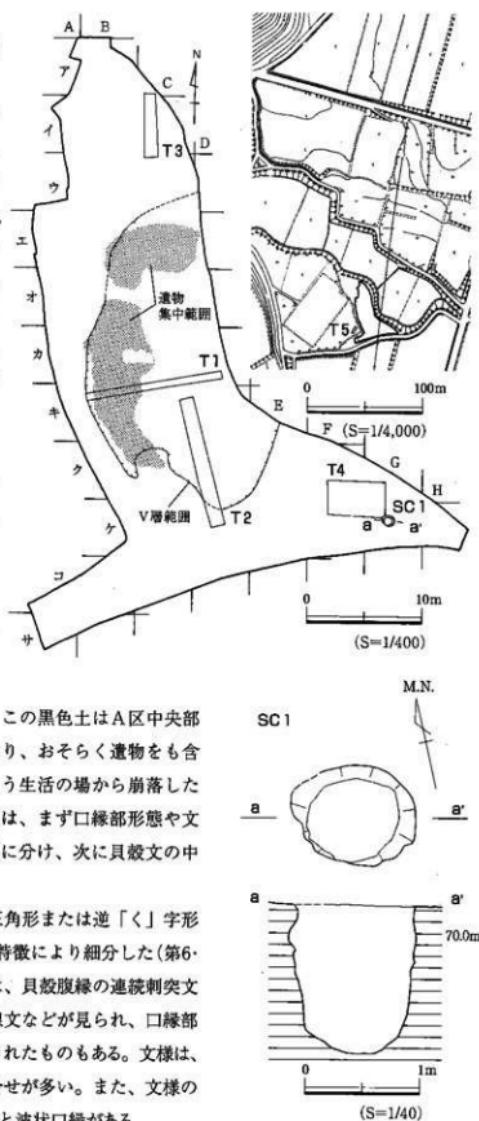
#### (1) 縄文後期の土坑

1号土坑は、Ⅶ層のアカホヤ火山灰上面で、調査区の南東部（G-ケグリッド）に土層確認のトレンチを人力で掘削中にトレンチの壁に1基検出された。長軸が110cm、短軸が85cmのほぼ円形を呈する。断面形は円筒形を呈し、底面はやや平坦、もっとも深い部位の検出面からの深さは130cmである。埋土は黒色土でアカホヤ火山灰の小さいブロックが少量混入しているが、埋土の中から市来式土器が出土し、埋土が一層であることからこの土坑が一時期に埋まつたと考えられ、時期の判断を行った。しかし、遺物量が少なく流れ込みの可能性も否定できないため遺構の時期はなお検討の余地がある。

#### (2) 土器

縄文後期～晩期の土器は、第V層の黒色土から在地の貝殻条痕文系を中心には多数出土したが、完形に復元できたものはなく、すべて破片の資料である。この黒色土はA区中央部の谷を埋めるようななかたちで堆積しており、おそらく遺物をも含めて背後の丘陵地に展開していたであろう生活の場から崩落したのではないかと考えられる。土器の分類は、まず口縁部形態や文様により貝殻文と磨消繩文と晩期の土器に分け、次に貝殻文の中で特徴ごとに分類していった。

I類 口縁部を肥厚させ、断面が三角形または逆「く」字形に整形されるもので、その中で特徴により細分した（第6・7・8図 1～32）。文様には、貝殻腹縁の連続刺突文や棒状工具による刺突文、沈線文などを見られ、口縁部や肥厚部下位の胴上部に施されたものもある。文様は、單一文の繰り返しや単純な組合せが多い。また、文様の施されないものもある。平口縁と波状口縁がある。



第5図 縄文後期遺構分布図・1号土坑実測図

a. 貝殻刺突文を1条施すもの（1～2）。

1は口唇部内面に粘土の返しがある。2は肥厚が著しい。どちらも古い様相が見られる。

b. 貝殻刺突文を1条施すもの（3～7）。

c. 貝殻刺突文を2条施すもの（8～16）。

11・12・13・14は口縁の波状部に肥厚部をもつもので、他の器面には肥厚部はつくらない。

波頂部と肥厚部の間に貝殻刺突文を施し、肥厚部下位の胴上部に貝殻刺突文を巡らしている。

d. 貝殻刺突文を3条施すもの（17）。

e. 貝殻刺突文と沈線文を施すもの（18～25）。

18と19は口縁部の文様が合致することから同一個体の可能性がある。21・22・23は沈線が主文様になっている数少ないタイプである。24・25は棒状工具による深い沈線が施されている。

f. 貝殻刺突文と沈線文と工具による刺突文を施すもの（26）。

26は沈線の端部に棒状工具による刺突文が施されるものである。

g. 沈線文と工具による刺突文を施すもの（27）。

h. 文様のないもの（28～32）。

29は整形が粗く内外面共に粘土の付け足し痕が明瞭に残っている。31は肥厚部が整形の時に押圧され瘤状になったものである。

II類 口縁部の肥厚が強調されず低い段のようになり、口縁部断面の逆「く」の字形の屈曲が間のびし、その下にくびれが生じないもの（第9図 33～42）。文様は、I類で見られた貝殻腹縁の連続刺突文や棒状工具による刺突文、沈線文などを施している。平口縁と波状口縁がある。

a. 貝殻刺突文を2条施すもの（33～35）。

33は波状口縁の可能性もある。35は貝殻刺突の後、貝殻条痕で整形している。34には穿孔がある。

b. 貝殻刺突文を3条施すもの（36～37）。

36は横位の貝殻刺突文を1条、斜位の貝殻刺突文を2条、横方向に施している。37は斜位の貝殻刺突文を3条施している。

c. 貝殻刺突文と沈線文と工具による刺突文を施すもの（38～42）。

いずれも波状口縁の波頂部である。38・39・40・41は沈線文・刺突文の上下に貝殻刺突文を施すが、42は貝殻刺突文の上下に沈線文と刺突文を施している。

III類 口縁部の肥厚や逆「く」字形の屈曲が見られないもので、外面のくびれ付近から口縁部が外傾または外反するもの（第9・10・11図 43～67）。文様は、貝殻腹縁の単純な連続刺突文が施される。平口縁と波状口縁がある。

a. 貝殻刺突文を1条施すもの（43～62）。

b. 貝殻刺突文を2条施すもの（63～67）。

64は63・65に比べて器壁がやや厚い。

IV類 口縁部に肥厚部や屈曲部をもたないもの（第12図 68～70）。

いずれも文様が施されず、粗い整形で粘土の継ぎ目が見られる。69の口縁部には注ぎ口のような部分が見られる。

V類 胴部（第12図 71～73）。

71は土坑から出土した胴部片で器壁が厚い。72・73は71と同一個体と思われる器壁が特に厚いものである。73には貝殻刺突文が1条施されている。

VI類 底部（第11図 74～80）。

底部までわかる完形の土器が出土していないので、どの類の土器の底部かは不明であるが、底面から真っ直ぐに立ち上がるものの、底面が外へ張り出してその上部が少しきびれているもの、底面から開いて立ち上がるものなどに分けることができる。76は網代底である。80は緩やかに立ち上がる黒色磨研の土器と思われる。

VII類 磨消繩文土器（第12図 81～86）。

81は口縁部に棒状工具による沈線が施してある。82は外面に貝殻疑似繩文が、内面に沈線文が施してある。83・84・85は沈線文と貝殻疑似繩文が施してある。86は丹塗が施してある。

VIII類 その他の土器（第13図 87～109）。

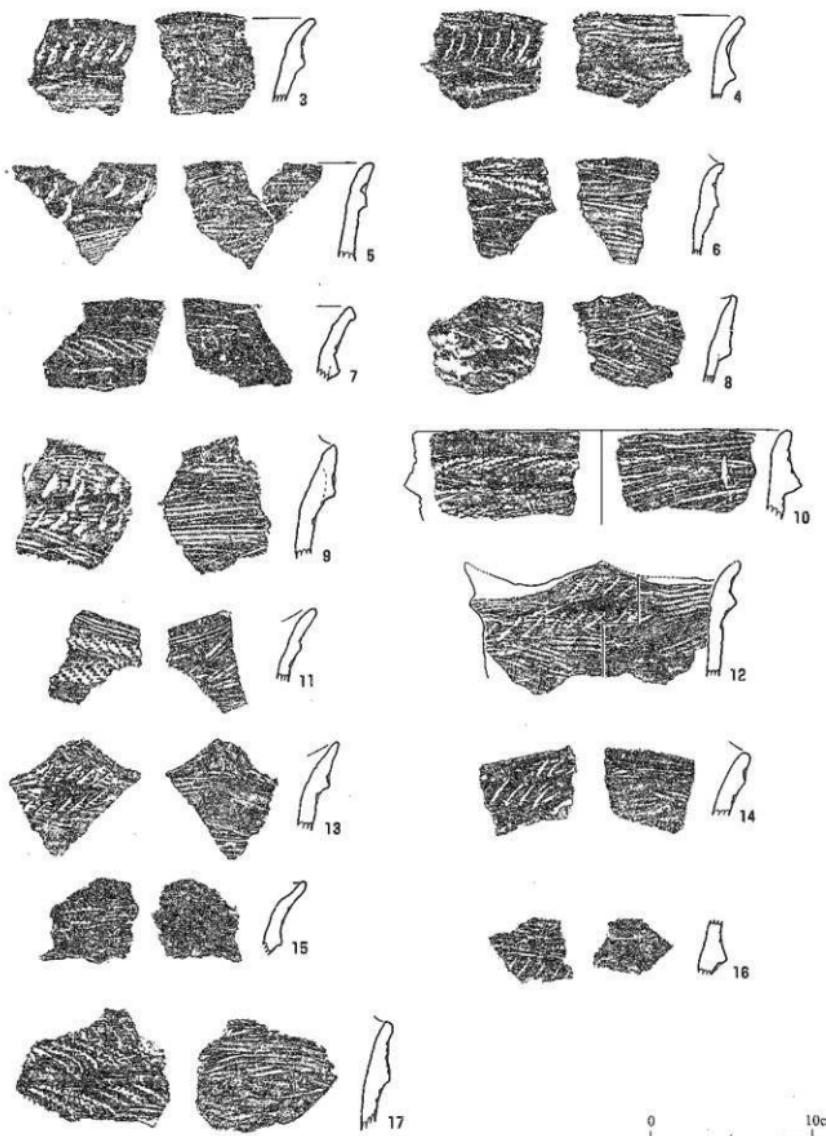
87は口縁部の上位に貝殻刺突文が施されている。88・89は外面と内面に貝殻刺突文が施されている数少ない土器である。90・94・95は工具による刺突文が施されており、94と95は同一個体と思われる。91は外面と内面にヘラ状工具で曲線の沈線が刻まれている。93は口唇部に突起がついている。96は瘤状の突起がついている。97は赤色顔料の施してある脚台付皿である。98は脚台付皿の装飾部である。99は注口土器の注口部で、外面には注口部の上位に工具による刺突文が施され、内面には斜方向の貝殻条痕文が施されている。傾きは注口部の先端がもっと上を向く可能性がある。100は口唇部につけられる飾りである。貝殻腹縁による刺突文が施されている。101・102・103・104は脚台付浅鉢の脚部である。101には工具による刺突文が、102には刻み状の沈線文が、103には刺突文と沈線文が施されている。106・107・108は加工円盤である。109は長軸の両端に切目を入れた土器片錠である。

IX類 繩文晩期の土器（第13図 110～123）。

118はリボン状突起のついている口縁部である。119はリボン状突起である。120は穿孔のある土器である。121・122・123は粗いつくりの土器で、121の口縁部はやや厚くつくられている。

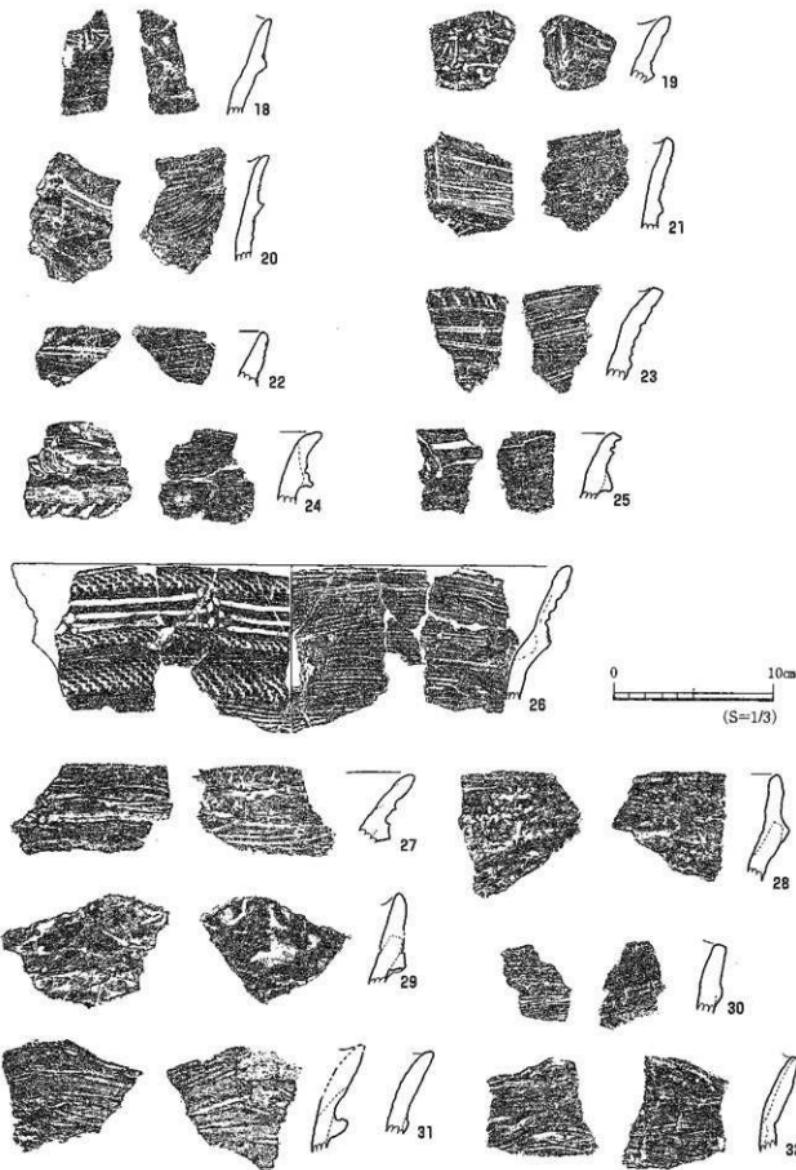


第6図 繩文後期～晩期土器実測図(1)

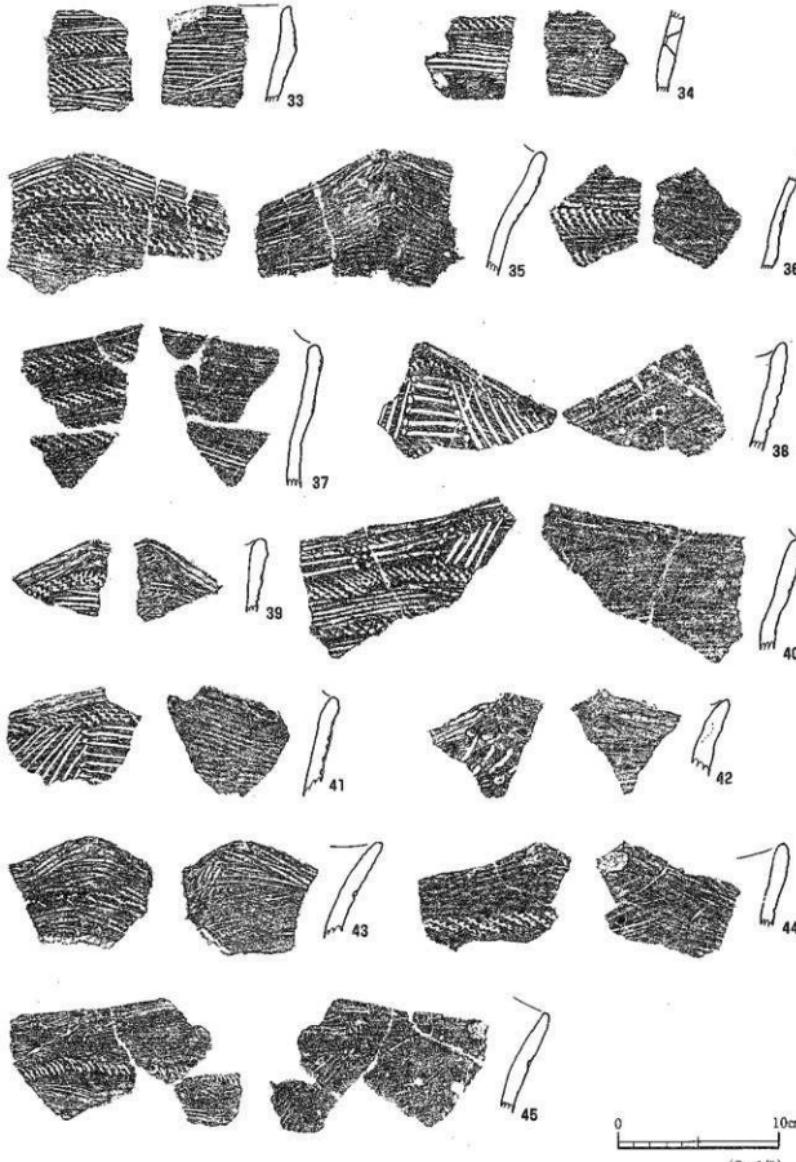


第7図 純文後期～晩期土器実測図(2)

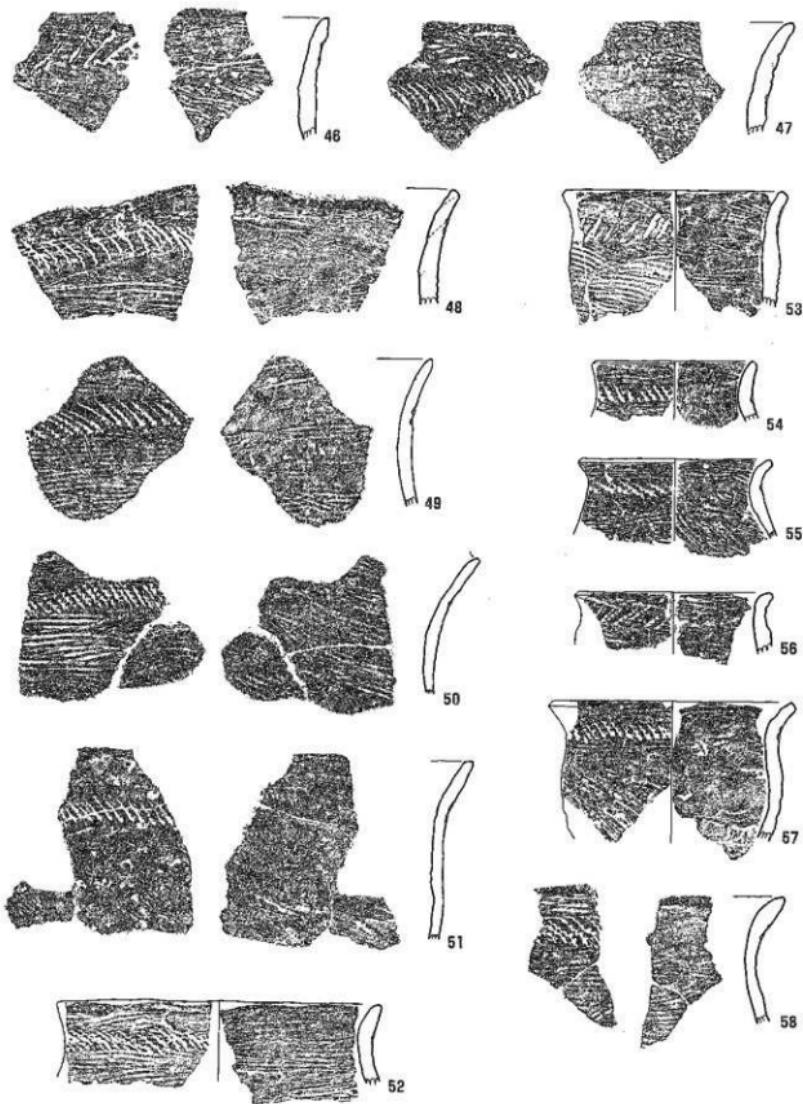
0 10cm  
(S=1/3)



第8図 縄文後期～晩期土器実測図(3)

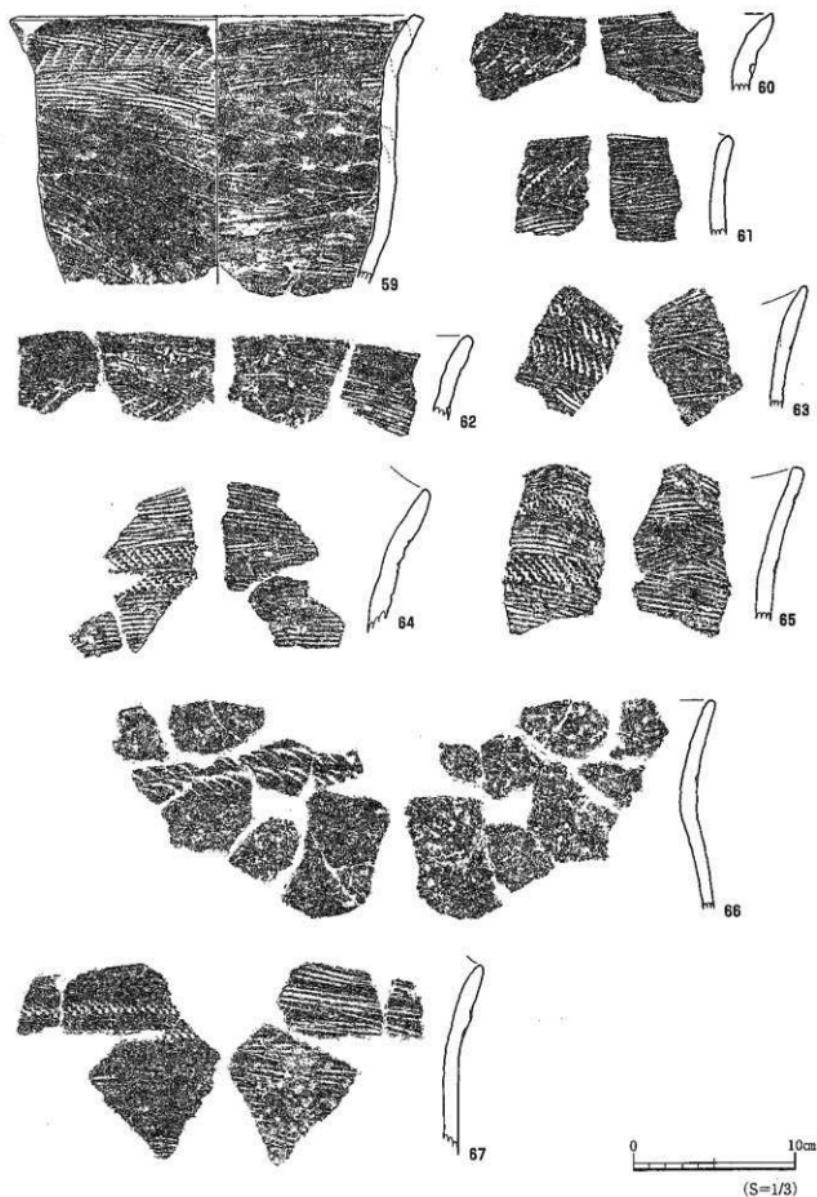


第9図 綱文後期～晩期土器実測図(4)

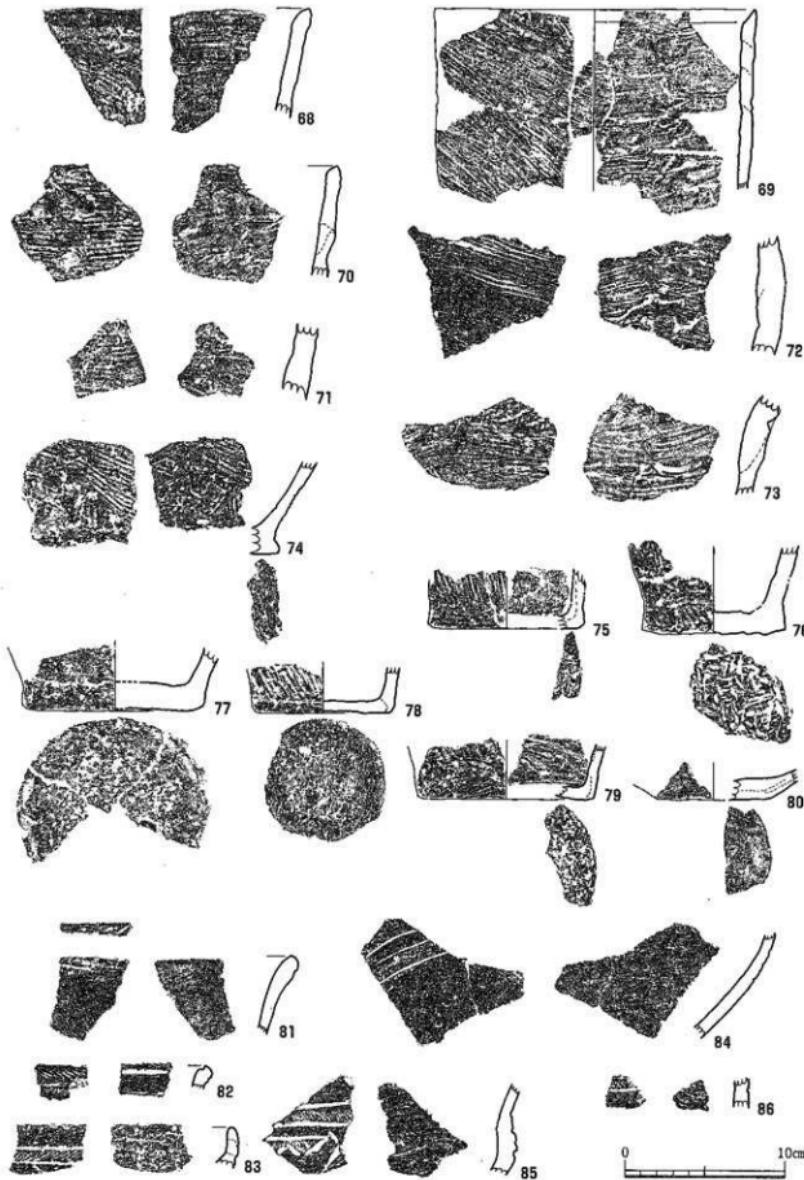


0 10cm  
(S=1/3)

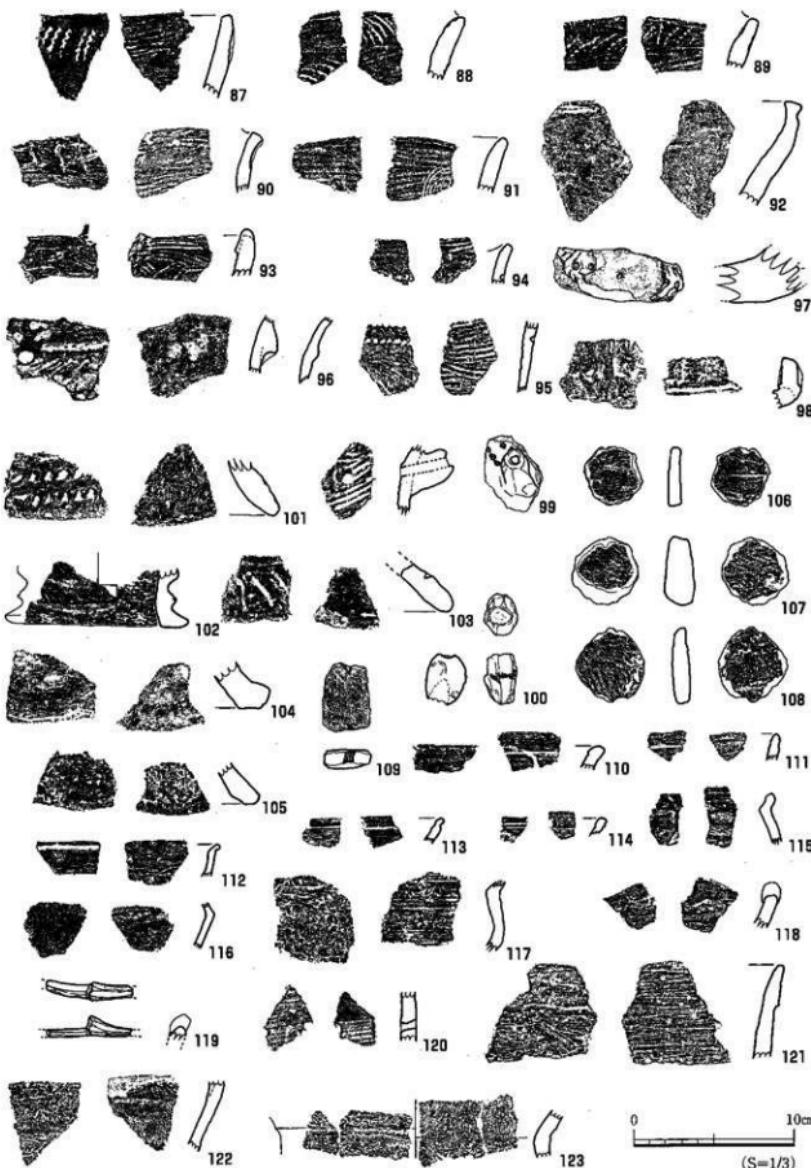
第10図 調文後期～晩期土器実測図(5)



第11図 縄文後期～晩期土器実測図(6)



第12図 繩文後期～晩期土器実測図(7)



第13図 純文後期～晩期土器実測図(8)

第4表 下星野遺跡A区 繩文後期～晩期土器観察表（1）

件番号	種別	出土位置	縄文・部品	文様及び型式		色調	焼成	胎土	備考
				外 面	内 面				
1	縄文土器	B-カ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、斜方向の貝殻模様連續 斜方文	粗い横ナデ	にぶい緑	にぶい緑	良好	5mm以下の褐色の粒を多く含み、 1mm以下の黒色光沢の粒を含む。
2	縄文土器	B-キ V層	縄 釜 口縁部付近	横ナデの上をやや斜方向に貝殻 模様連續斜方文、横ナデ	粗い横ナデ	緑	にぶい緑 褐	良好	3mm以下の暗褐色の粒、1mm以下の 深褐色の粒、微細な光沢の粒
3	縄文土器	B-キ V層	縄 釜 口縁部	丁字ナデナデ、横ナデの上を斜 方の貝殻模様連續斜方文、後の 貝殻模様斜方文	粗い横ナデ	にぶい黄褐 灰黄褐	良好	2mm以下の暗褐色の粒、1mm以下の ガラス様の光る粒	
4	縄文土器	B-ク V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、横ナデの上に横方内の 貝殻模様連續斜方文	横 方向の貝殻模様文	緑 灰黄褐	緑	良好	3mm以下の灰白色の粒、 0.8mm以下の黒色の粒、0.5mm以下 のガラス様に光る粒
5	縄文土器	B-キ C-エ V層	縄 釜 口縁部	ナデ、横ナデの上の上を前の貝殻 模様連續斜方文、横ナデ	粗い貝殻模様文	にぶい緑	褐灰	良好	0.5mm以下の墨褐色の粒、微細な 光沢の粒
6	縄文土器	S E 2	縄 釜 口縁部	ナデ、横の貝殻模様文、横ナデ の上斜方の貝殻模様連續斜方 文及、浅い沈窓	横 方向の貝殻模様文	明赤褐	明赤褐	良好	1mm以下のガラス質の粒
7	縄文土器	C-カ V層	縄 釜 口縁部	横ナデの上を斜方の貝殻模 様連續斜方文	横の粗いナデ	にぶい緑	にぶい赤褐	良好	4mm以下の灰白色、1mm以下の 褐色光沢、黑色光沢、褐色の粒
8	縄文土器	S E 2	縄 釜 口縁部	ナデ、横ナデ、ナデの上を斜方 の貝殻模様連續斜方文	横 方向の粗い貝殻模様文	緑 褐灰	緑 褐灰	良好	5mm以下の白褐色の粒、微細な光 沢の粒
9	縄文土器	C-エ V層	縄 釜 口縁部	横ナデの貝殻模様文の後方の 貝殻模様連續斜方文、横・斜の 貝殻模様文	横・斜の貝殻模様文	明赤褐	にぶい緑	良好	1.5mm以下の白褐色の粒、0.5mm 以下の黒色光沢の粒
10	縄文土器	B-カ B-オ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、貝殻模様文、貝殻模様 文ヒビの上に横の貝殻模様連續 斜方文	横 の貝殻模様文	にぶい赤褐	赤褐	良好	2mm以下の灰白色の粒、1.8mm以 下の黒色の粒、1mm以下のガラス 様に光る粒
11	縄文土器	B-キ TR V層	縄 釜 口縁部	貝殻模様文、斜の貝殻模様連續 斜方文	貝殻模様文の後ナデ、貝殻模 様文	明赤褐	明赤褐	良好	2mm以下の白褐色の粒、1mm以下 のガラス質の粒
12	縄文土器	C-エ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、ナデ上を斜方の貝殻模 様連續斜方文、横ナデ	横・斜の貝殻模様文	明赤褐	にぶい黄褐	良好	5mm以下の灰白色の粒、2mm以下 のガラス質の粒
13	縄文土器	B-キ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、横の貝殻模様連續斜方 文ナデ、貝殻模様文の後部分的 ナデ	横ナデ	明赤褐	明赤褐	良好	1mm以下の乳白色、ガラス質の粒
14	縄文土器	S E 1	縄 釜 口縁部	ナデ、ナデの上を斜の貝殻模 様連續斜方文	貝殻模様文の後ナデ	明赤褐	にぶい黄褐	良好	2mm以下のガラス質の粒、1mm以 下の乳白色的粒
15	縄文土器	D-オ V層	縄 釜 口縁部	ナデ、貝殻模様文の後横の貝殻 模様連續斜方文、灰化物 付帯	貝殻模様文の後横ナデ、灰化物 付帯	明赤褐	灰褐	良好	3mm以下の灰白色、1.5mm以 下の褐色、微細な黑色光沢の粒
16	縄文土器	C-エ V層	縄 釜 口縁部付近	貝殻模様文の後横方向に横・斜 の貝殻模様連續斜方文、灰化物 付帯	貝殻模様文の後横ナデ	にぶい緑	明赤褐	良好	微細な黑色光沢、灰白色、黑色の 粒
17	縄文土器	B-カ V層	縄 釜 口縁部	口縁部に貝殻模様文、ナデ上を斜 の貝殻模様連續斜方文、横ナデ、 貝殻模様文	横 の貝殻模様文	赤褐	赤褐	良好	3mm以下の灰白色の粒、0.8mm以 下のガラス質に光る粒、1mm以下 の黒色の粒
18	縄文土器	B-オ V層	縄 釜 口縁部	工具による沈窓文、ナデ	ナデ、風化著しい、全体的に風 化文	明赤褐	灰褐	良好	1.8mm以下の赤褐色、淡黄色の粒
19	縄文土器	A区 一括	縄 釜 口縁部	ナデ、沈窓文、剥落と斑状化 ナデ、ナデ	沈窓文	明赤褐	暗赤	良好	1mm以下のガラス質の粒、乳白色 の粒
20	縄文土器	B-ク V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、斜方向の沈窓文、其設 置窓刻文	横ナデ、横・斜方向の貝殻模 様連續斜方文	明赤褐	明赤褐	良好	2mm以下の茶色、褐色の粒、1mm 以下の透明ガラス質の粒
21	縄文土器	B-キ V層	縄 釜 口縁部	斜方の2条の沈窓文、横ナデ、 沈窓文、其設置窓刻文	横ナデ	褐	褐	良好	4mm以下の茶色の粒、1mm以下の 灰褐色、褐色、白色の粒、ガラス 質の透明感の粒
22	縄文土器	D-オ V層	縄 釜 口縁部	ナデ、横方の上に斜の貝殻模 様連續斜方文、2条の沈窓文	貝殻模様文の後横ナデ	にぶい緑	にぶい緑	良好	微細な灰褐色、白色光沢、無色透 明光沢の粒
23	縄文土器	S E 1	縄 釜 口縁部	横ナデ、横方の上に斜の貝殻模 様連續斜方文、横ナデ後横斜工具 による3条の沈窓文	横・斜の貝殻模様文の後ナデ	褐灰	にぶい緑	良好	1.5mm以下の灰白色、微細な無色 透明光沢の粒
24	縄文土器	D-キ V層	縄 釜 口縁部	ナデ、神社T字による沈窓文、 斜方向の貝殻模様連續斜方文	横の貝殻模様文、神社の跡あり	褐	褐	良好	2mm以下の茶色の粒
25	縄文土器	D-カ V層	縄 釜 口縁部	口縁部に神社の跡み、ナデ、神 社T字による横・横の2条の沈 窓文	横の貝殻模様文の横ナデ	にぶい緑	赤褐	良好	2mm以下の茶色光沢、微細な無色 光沢の粒、細長い植物紋
26	縄文土器	C-カ B-カ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、貝殻模様文、斜の貝殻模 様連續斜方文、斜斜工具による横 3条の沈窓文で横に刻文	横・斜方向の貝殻模様文	明赤褐	明赤褐	良好	1mm以下の白色、黑色光沢の粒
27	縄文土器	C-カ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、球形、横ナデ、沈窓文、 横の部品に刻文	横ナデ、粘土の擦り目、工具に による横ナデ	にぶい黄褐	灰褐	良好	1mm以下の白色の粒、黑色光沢の 粒
28	縄文土器	C-カ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、一部分付着	ナデ	にぶい緑	明赤褐	良好	3mm以下の茶色の粒、1mm以下の 乳白色、黑色光沢の粒
29	縄文土器	B-キ TR V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、全体的に黒変、一部削 付着、粘土の擦り目	横ナデ	にぶい黄褐	明赤褐	良好	4mm以下の茶色の粒、1mm以下の 乳白色、黑色光沢の粒
30	縄文土器	B C-キ V層	縄 釜 口縁部	ナデ、貝殻模様文の後ナデ	貝殻模様文の後ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	良好	2.5mm以下の灰白色の粒、1mm以下 の黑色光沢の粒
31	縄文土器	B-キ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ貝殻模様連續斜方文、横 の貝殻模様文	横ナデ貝殻模様文の後ナデ	にぶい緑	灰褐	良好	1mm以下の暗褐色の粒
32	縄文土器	B-オ V層	縄 釜 口縁部	横ナデ、斜ナデ、斜・横の貝殻 模様文	横の貝殻模様文の後ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	良好	3mm以下の褐色の粒、0.5mm以下 の褐色、白色の粒、ガラス質の透明 光沢の粒
33	縄文土器	C-ニ V層	縄 釜 口縁部	ナデ、横の貝殻模様文、研の貝 殻模様連續斜方文	横の貝殻模様文	明赤褐	明赤褐	良好	2.5mm以下の灰白色の粒、1mm以下 の黑色光沢の粒、透明光沢の粒
34	縄文土器	B-カ V層	縄 釜 口縁部	研の貝殻模様連續斜方文、横の 貝殻模様文、横ナデ	横の貝殻模様文	にぶい緑	明赤褐	良好	1mm以下の灰白色光沢、白色光沢の 粒

第5表 下星野遺跡A区 繩文後期～晩期土器觀察表（2）

図番号	種別	出土位置	種類・部位	文様及び測定		色調	地成	黏土	備考
				外面	内面				
35	縄文土器	B一オ B一エ V層	深 体 口縁部	新の貝殻腹縫連続刺突文・押引文、貝殻条痕の上を被ナデ	横・斜方向の貝殻条痕文	灰褐色	にぶい褐色	良好	2mm以下の白色光沢・黒色光沢の粒
36	縄文土器	B一カ V層	深 体 口縁部附近	横方向の貝殻条痕文、横方向に横・斜の貝殻条縫連続刺突文、葉付骨	横・斜方向の貝殻条痕文	灰褐色	褐色	良好	2mm以下の灰白色・1.5mm以下の黒色、微細な無色光沢の粒
37	縄文土器	C一カク V層	深 体 口縁部	横ナデ、横方向に前の貝殻腹縫	横方向の貝殻条痕文	明赤褐色	明赤褐色	良好	2mm以下の灰白色・黒色、微細な無色光沢の粒
38	縄文土器	B一ク V層	深 体 口縁部	ナデ、斜・貝殻腹縫連続刺突文、斜に6本の沈線文、端部に工具刻文	斜・横の貝殻条痕文	明赤褐色	明赤褐色	良好	2mm以下のガラス質の粒
39	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	ナデ、貝殻条痕文、貝殻腹縫連続刺突文、横の沈線文	斜・横の貝殻条痕文	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良好	0.5mm以下の褐色の粒、透明ガラス質の粒
40	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	家の貝殻条痕文、斜の貝殻腹縫連続刺突文、3条の沈線と沈線筋筋に工具刻文	横方向の貝殻条痕文	にぶい褐色	明赤褐色	良好	2mm以下の乳白色の粒、1mm以下ガラス質の粒
41	縄文土器	B一カ V層	深 体 口縁部	家の貝殻条痕文の後ナデ、ナデ・貝殻腹縫連続刺突文・工具刻文、横の沈線文	横方向の貝殻条痕文の後ナデ	灰褐色	褐色	良好	1mm以下の茶色・褐色・白色・ガラス質の透明光沢の粒
42	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横ナデ、引込文、ナデに斜の貝殻条痕文の後ナデ、貝殻条痕文	貝殻条痕文の後ナデ	灰褐色	明赤褐色	良好	1mm以下の白色・黒色光沢の粒
43	縄文土器	B一カ V層	深 体 口縁部	横ナデ、斜の貝殻条痕文、横ナデ	横の貝殻条痕文、横ナデ	暗赤褐色	にぶい赤褐色	良好	1mm以下の透明光沢・白色の粒
44	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	ナデ、貝殻条痕文、ナデの上から斜の貝殻腹縫連続刺突文	剥離面あり、斜の貝殻条痕文	灰褐色	にぶい赤褐色	良好	1mm以下の黒色光沢・白色光沢の粒
45	縄文土器	C一エ V層	深 体 口縁部	ナデ、貝殻条痕文の後ナデにナデ、斜の貝殻腹縫連続刺突文、横の粗い貝殻条痕文	横・斜の貝殻条痕文の後ナデ	暗赤褐色	黑褐色	良好	2mm以下の褐色の粒、1mm以下の赤茶色の粒、0.5mm以下の透明光沢の粒
46	縄文土器	B一カ V層	深 体 口縁部	引い横ナデ、横ナデの後の斜の貝殻条痕文、斜・横の貝殻条痕文	引い横ナデの後の貝殻条痕文	褐色	褐色	良好	6mm以下の多くの粒を多く含む。0.5mm以下の白色・褐色の粒
47	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	ナデ、家の貝殻条痕文、斜の貝殻条痕文、横ナデ	貝殻条痕文、横ナデ	褐色	にぶい褐色	良好	5mm以下の灰白色の粒、0.5mm以下のガラス質の透明光沢の粒
48	縄文土器	B一タ V層	深 体 口縁部	横ナデ、斜の貝殻腹縫連続刺突文、斜の貝殻条痕文	貝殻条痕文の後ナデ	灰褐色	褐色	良好	3mm以下の灰白色の粒、0.5mm以下のガラス質の透明光沢の粒
49	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横の貝殻条痕文の後横ナデ、斜の貝殻条痕文の後ナデ、斜の貝殻条痕文	横の貝殻条痕文の後ナデ	にぶい褐色	にぶい赤褐色	良好	1mm以下の白色の粒
50	縄文土器	A区一階	深 体 口縁部	横・斜の貝殻条痕文、斜の貝殻条痕文	横・斜の貝殻条痕文	黑褐色	褐色	良好	1.5mm以下の灰褐色の粒、0.5mm以下の無色透明光沢の粒
51	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横ナデ、全體的に黒皮	横ナデ	褐色	褐色	良好	3.3mm以下の金色・褐褐色・灰褐色の粒を含む。黄色を多量に含む。
52	縄文土器	C一カ V層	深 体 口縁部	ナデ、貝殻条痕文、貝殻条痕文	貝殻条痕文の後ナデ、貝殻条痕文	明赤褐色	明赤褐色	良好	3mm以下の灰白色の粒、2mm以下の赤茶色の粒
53	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	ナデ、貝殻条痕文、貝殻条痕文	貝殻条痕文の後ナデ、貝殻条痕文	明赤褐色	にぶい褐色	良好	2mm以下の褐色の粒、1mm以下の乳白色の粒
54	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横ナデ、部分的に薄付有、横の貝殻条痕文の斜の貝殻腹縫連続刺突文	横ナデ	褐色	褐色	良好	1mm以下の黑色の粒、3mm以下の白灰色の粒、0.5mm以下のガラス質に光る粒
55	縄文土器	B一オ V層	深 体 口縁部	横・斜の貝殻条痕文、斜の貝殻条痕文	横・斜の貝殻条痕文	にぶい褐色	にぶい褐色	良好	1mm以下の白色的粒
56	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横・斜の貝殻条痕文、斜の貝殻条痕文	横・斜の貝殻条痕文	にぶい褐色	にぶい褐色	良好	1.5mm以下の白色的粒、繊り巻きガラス質の粒の0.5mm以下の白色の粒
57	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横・斜の貝殻条痕文の後ナデ、ナデ・横の貝殻条痕文	横・斜の貝殻条痕文の後ナデ、ナデ・横の貝殻条痕文	灰褐色	黑褐色	良好	4mm以下の灰褐色・褐褐色の粒、柱状細かい先兆の粒
58	縄文土器	B一キ C一カ V層	深 体 口縁部	横の貝殻条痕文の後ナデ、斜の貝殻条縫連続刺突文	横ナデ、斜のナデ、横の貝殻条痕文	褐色	黑褐色	良好	3mm以下の褐色の粒、1mm以下のガラス質光沢粒・灰色の粒
59	縄文土器	B一オ V層	深 体 口縁部	横ナデ、斜・横の貝殻条痕文、斜の貝殻条縫連続刺突文・斜のナデ	貝殻条痕文の後横ナデ	明赤褐色	明赤褐色	良好	2mm以下のガラス質の粒・灰白色の粒
60	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	横ナデ、貝殻条痕文の後横方向	横の貝殻条痕文	黑褐色	黑褐色	良好	微細な灰白色・黒色光沢・無色光沢の粒
61	縄文土器	C一エ V層	深 体 口縁部	横ナデ、ナデの後横方向に斜の貝殻条痕文、斜の貝殻条痕文	横・斜の貝殻条痕文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良好	1.5mm以下の無色透明光沢、微細な灰白色・黒色光沢の粒
62	縄文土器	A区一階	深 体 口縁部	横の貝殻条痕文の後横方向に斜の貝殻条痕文	横の貝殻条痕文	明褐色	褐色	良好	2mm以下の黒色、1mm以下の白色、微細な無色光沢の粒
63	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	ナデ、斜の貝殻条縫連続刺突文、斜の貝殻条縫連続刺突文	斜・横の貝殻条痕文、ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	良好	1.8mm以下の灰白色の粒、1mm以下の黒色の粒、1.2mm以下のガラス質に光る粒
64	縄文土器	B一キ V層	深 体 口縁部	ナデ、横の貝殻条痕文、斜の貝殻条縫連続刺突文・工具刻文	横・斜の貝殻条痕文	灰褐色	にぶい赤褐色	良好	3mm以下の灰白色の粒、0.8mm以下のガラス質に光る粒
65	縄文土器	B一カ V層	深 体 口縁部	ナデ、貝殻条痕文、横の貝殻条縫連続刺突文、会陰的に黒皮	貝殻条縫連続刺突文	にぶい褐色	明赤褐色	良好	4mm以下の乳白色の粒、1mm以下の透明光沢の粒
66	縄文土器	A区一階	深 体 口縁部	横の貝殻条縫連続刺突文、横方向に斜の貝殻条縫連続刺突文	横ナデ、風化気味	黑褐色	褐色	良好	5mm以下のいぶい褐色の粒、2mm以下の白色的粒
67	縄文土器	A区一階	深 体 口縁部	横・斜の貝殻条痕文、横方向に斜の貝殻条縫連続刺突文	横の貝殻条縫連続刺突文	暗褐色	にぶい赤褐色	良好	2mm以下の白色・灰白色・黑色・にぶい褐色の粒
68	縄文土器	B一カ V層	深 体 口縁部	横の粗いナデ、口唇部に深付有	横の粗いナデ、ナデ、会陰的	褐色	オーリーブ褐色	良好	2mm以下の褐色・ガラス質の粒

第6表 下星野遺跡A区 繩文後期～晩期土器観察表（3）

回番号	種類	出土位置	構様・部類	文様及び調整		色調	焼成	胎土	備考
				外 面	内 面				
69	縄文土器	B一カ V層	深 枝口縁部 付脚	ナデ、斜の貝殻条文、一部彫 ねだらかな底面あり	横の貝殻条文の後ナデ	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の赤褐色の粒、1.5mm以下の褐色 の粒、0.5mm以下のガラス質透 明光沢の粒	赤褐色 赤褐色	直径15cm 厚さ10cm
70	縄文土器	B一キ V層	深 枝口縁部 付脚	ナデ、斜の貝殻条文、横の貝殻条文 の後斜ナデ、薄底面	ナデ、斜・横のナデ、粘質の柔 らかい底面あり	灰褐色 にぶい赤褐色	良好 4mm以下の赤褐色の粒、1mm以下 のガラス質の粒	赤褐色	
71	縄文土器	S C 1	深 枝口縁部 付脚	横の貝殻条文、横の貝殻条文 の後斜ナデ、全体的に底面 が貝殻条文	横の貝殻条文の後ナデ	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 5mm以下の暗褐色・灰褐色の粒	赤褐色	
72	縄文土器	B一キ V層	深 枝口縁部 付脚	横の貝殻条文	横の貝殻条文	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の茶褐色の粒	赤褐色	
73	縄文土器	B一カ V層	深 枝口縁部 付脚	横の貝殻条文、横の貝殻条文 の後斜ナデ、一部黒斑	横の貝殻条文の後ナデ、一部 黒斑	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 3mm以下の暗褐色・灰褐色の粒	赤褐色	
74	縄文土器	B一カ V層	深 枝口縁部 付脚	斜の貝殻条文、ナデ	斜・横の貝殻条文	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 1mm以下の赤褐色の粒、微細な金 色の光沢	赤褐色	
75	縄文土器	B一エオ V層	深 枝口縁部 付脚	斜の貝殻条文、底面はナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の赤褐色の粒、1.5mm以下 の灰白色の粒	赤褐色	全体的に 渦巻が見 られる。
76	縄文土器	B一キTR V層	深 体 底板	貝殻条文の後ナデ、底部は網	貝殻条文の後強いナデ	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の暗灰色の粒	赤褐色	直径15cm 厚さ10cm
77	縄文土器	B一カ V層	深 枝口縁部 底板	ナデ、底面風化著しい	貝殻条文、ナデ	にぶい青褐色 にぶい青褐色	良好 3mm以下の灰褐色の粒、0.5mm以 下のガラス質に見える粒	赤褐色	直径14cm 厚さ11cm
78	縄文土器	B一キTR V層	深 体 底板	斜の貝殻条文、底面は丁寧な	ナデ	にぶい青褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下のガラス質の粒、1mm以 下の乳白色の粒	赤褐色	直径15cm 厚さ10cm
79	縄文土器	B一カ V層	深 枝口縁部 底板	ナデ、底面は風化氣味	横ナデ	明赤褐色 明赤褐色	良好 2mm以下の黄褐色・柱状黑色光 沢の粒	赤褐色	
80	縄文土器	B一オ V層	深 体 底板	丁寧なナデ	ナデ	暗赤褐色 灰褐色	直好 2mm以下の褐褐色・柱状黑色光沢 の粒	赤褐色	
81	縄文土器	B一カ V層	深 枝口縁部 底板	口唇部に深い花紋、深い比較 火、ミガキ	ミガキ	にぶい青褐色 にぶい青褐色	良好 1.5mm以下の黄褐色光沢粒、1mm以 下の墨色光沢砂粒	赤褐色	
82	縄文土器	B一キ V層	深 枝口縁部 底板	ミガキ、貝殻条文、北極文、 底板	沈羅文、ミガキか 底板	明赤褐色 灰褐色	良好 2.5mm以下の灰褐色・淡黄色の粒、 0.8mm以下の黒色光沢砂粒	赤褐色	
83	縄文土器	C一カ V層	深 体 底板	ミガキ、沈羅文、貝殻条文	風化しいため調査不明	にぶい青褐色 灰褐色	良好 1.8mm以下の黄褐色・褐色・ 灰褐色	赤褐色	
84	縄文土器	D一カ N-V層	深 枝口縁部 底板	横の沈羅1条、横の沈羅2条、ミ ガキ、貝殻条文、北極文、 底板	ミガキ、黒斑	灰褐色 灰褐色	良好 1mm以下の浅灰色	赤褐色	
85	縄文土器	B一キ V層	深 体 底板	ミガキ、北極文、貝殻条文	ミガキ	暗赤褐色 灰褐色	良好 2.8mm以下の黒灰・茶・灰褐色砂 粒	赤褐色	
86	縄文土器	B一カ V層	深 体 底板	横の比線1条、ミガキ、貝殻条 文、丹絵	丁寧な横ナデかミガキ	暗赤褐色 にぶい青褐色	良好 1mm以下の灰白色光沢、1mm以下 の灰白色を多量に含む。	赤褐色	
87	縄文土器	B一カ V層	深 体 底板	ナデ、丁寧なナデ後傾方向に 斜の貝殻条文	横の貝殻条文の後ナデ	暗赤褐色 にぶい青褐色	良好 微細な灰白色の粒	赤褐色	
88	縄文土器	B一キ V層	深 体 底板	ナデ、貝殻条文の後傾方向に 斜の貝殻条文	貝殻条文の後傾方向に斜の貝 殻条文	暗赤褐色 灰褐色	良好 2.5mm以下の灰褐色・茶褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢	赤褐色	
89	縄文土器	B一キ V層	深 体 底板	ナデ、貝殻条文の後傾方向に 斜の貝殻条文	貝殻条文の後傾方向に斜の貝 殻条文	暗赤褐色 灰褐色	良好 4mm以下の赤褐色・2mm以下の灰 白色・黑色、微細な無色透明白光 沢の粒	赤褐色	内面に貝 殻条文
90	縄文土器	C一カ V層	深 枝口縁部 底板	横ナデ、工具による連続刻突文 斜方向のナデ	横ナデ	黑褐色 明赤褐色	良好 3mm以下のガラス質の粒、1mm以 下の乳白色の粒	赤褐色	
91	縄文土器	A IX -H	深 枝口縁部 底板	横ナデ、貝殻条文、鉈痕	貝殻条文、線形	にぶい青褐色 にぶい青褐色	良好 0.5mm以下の褐色・白・灰色砂粒	赤褐色	
92	縄文土器	S E 1	深 体 底板	横ナデ、沈羅が工具痕	横ナデ	灰褐色 にぶい赤褐色	良好 1mm以下の灰褐色光沢、0.5mm以下 のガラス質に見える粒を含む。微細 な金色光沢を多く含む。	赤褐色	94と同一 個体
93	縄文土器	B一キ V層	脚台付加 口縁部	丁寧なナデ	横・斜の貝殻条文	にぶい青褐色 にぶい青褐色	良好 5mm以下の茶褐色・無い褐色の粒、 微細な金色光沢	赤褐色	
94	縄文土器	B一キ V層	深 体 底板	ナデ、横方向の貝殻条文の後 横ナデ、工具による連続刻突文	横方向の貝殻条文、ナデ	明赤褐色 明赤褐色	良好 2mm以下のガラス質の粒、1mm以 下の乳白色の粒	赤褐色	95と同一 個体
95	縄文土器	C一エ V層	深 体 底板	ナデ、工具による連続刻突文、 横・斜方向の貝殻条文の後ナ デ	横・斜方向の貝殻条文	明赤褐色 明赤褐色	良好 2mm以下のガラス質の粒、1mm以 下の柱状黑色光沢の粒	赤褐色	
96	縄文土器	B一キ V層	深 体 底板	横ナデ、風化氣味、貝殻条文 の後ナデか、斜の貝殻条文か 沈羅文	横ナデ	オーピー陶 にぶい青褐色	良好 2mm以下の黒・白色粒		
97	縄文土器	D一キ V層	脚台付加 口縁部	利鑿、貝殻条文連続刻突文に赤 色顕料付着、棒状工具による通 透刻突文、ナデ	ナデ	暗赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の赤褐色砂粒、3mm以下 の黒褐色砂粒	赤褐色	
98	縄文土器	C一カ V層	脚台付加 口縁部	利鑿、貝殻条文連続刻突文に赤 色顕料付着、棒状工具による通 透刻突文、ナデ	沈羅	暗赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の褐色光沢、0.5mm以下 の白色光沢	赤褐色	
99	縄文土器	B一エ V層	脚台付加 口縁部	ナデ、利鑿文	貝殻条文、穿孔	にぶい赤褐色 にぶい青褐色	良好 1mm以下の褐色光沢、細かいガラス 質の透明光沢	赤褐色	
100	縄文土器	B一カ V層	脚台付加 口縁部	ナデ、利鑿文、穿孔	横ナデ、利鑿文	明赤褐色 にぶい青褐色	良好 1mm以下の白色粒	赤褐色	
101	縄文土器	B一カ V層	脚台付加 口縁部	ナデ、連続刻突文	ナデ	明赤褐色 にぶい青褐色	良好 4mm以下の褐色光沢、3mm以下の 黄褐色光沢、2mm以下の灰白色	赤褐色	
102	縄文土器	C一エ V層	脚台付加 口縁部	利鑿文	ナデ	にぶい青褐色	良好 3mm以下の黒褐色光沢、2mm以下の ガラス質、1mm以下の中褐色砂粒	赤褐色	
103	縄文土器	C一エ V層	脚台付加 口縁部	ナデ、利鑿文、沈羅文	横のミガキ	にぶい青褐色 灰褐色	良好 4mm以下の褐色光沢、2mm以下の乳 白色光沢	赤褐色	
104	縄文土器	B一キ V層	脚台付加 口縁部	ナデ、全体的に黒変	横ナデ	明赤褐色 にぶい青褐色	良好 2mm以下の褐色光沢、1.5mm以下の透明光沢	赤褐色	

第7表 下星野遺跡A区 繩文後期～晩期土器觀察表（4）

同番号	種別	出土位置	器種・部位	文様及び調査		色調	造成	胎土	備考
				外 面	内 面				
105	縄文土器	C-エ V層	舞台付斜 面	縦・横・斜のナデ、一部保村彫	横ナデ	引手拂	明赤褐色 灰褐色	良好 良好	3mm以下の乳白色粘、1mm以下の 透明光沢粘
106	縄文土器	B-キ V層	土器加工円 盤	ナデ	ナデ	擦	擦	良好	1mm以下の灰・褐・白色砂粒、ガ ラス質の透明光沢粘を含む。
107	縄文土器	C-カ IV層	土器加工円 盤	ナデ	貝殻条痕文	にぶい擦	擦	良好	1mm以下の褐色砂粒、ガラス質の 透明光沢粘を含む。3mm程度の褐 色の粒を2個含む。
108	縄文土器	B-キ V層	土器加工円 盤	横ナデ、後の貝殻条痕文	横ナデ、前の貝殻条痕文の後ナ デか	にぶい赤褐色	灰褐色	良好	1.5mm以下の赤茶色砂粒、1mm以 下のガラス質の透明光沢粘・褐・ 白色の砂粒
109	縄文土器	B-キ V層	土器片盤			擦	擦	良好	0.5mm以下の白色・ガラス質の透 明光沢粘
110	縄文土器	S E 1	浅 枝 口縁部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 灰褐色	良好 良好	1.2mm以下の白・灰・白・透明光沢 砂粒
111	縄文土器	A区一格	浅 枝 口縁部	丁寧なナデ、沈線文	ナデ、丹青か	にぶい擦	良好	1.2mm以下の灰白色砂粒、0.5mm 以下のガラス質に光る砂粒	
112	縄文土器	S E 2	浅 枝 口縁部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 灰褐色	良好 良好	1mm以下の黒・褐・赤褐色・黑色光 沢・透明光沢粘
113	縄文土器	B-オ V層	浅 枝 口縁部	擦のミガキ	擦のミガキ	にぶい擦	にぶい黄褐色 灰褐色	良好	0.5mm以下の灰白色砂粒
114	縄文土器	A区一格	浅 枝 口縁部	ナデ、側方向の深い花彫文2条 沈線文1条	ナデから風化氣味、横方向の深い にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 灰褐色	良好	0.5mm以下の褐色・黑色透明光沢 砂粒	
115	縄文土器	S E 1	浅 枝 口縁部	横方向のミガキ、風化氣味	横ナデ、風化氣味	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 灰褐色	良好	0.5mm以下の白・黒色透明光 沢砂粒
116	縄文土器	A区一格	浅 枝 口縁部	丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色	良好	0.5mm以下の褐色砂粒
117	縄文土器	巨石モチ	浅 枝 口縁部	風化のため剥離不明	横のミガキ	浅黄	浅黄	良好	1mm以下の茶褐色粘、1mm以下の 黑色粘、細かな金属光沢粘
118	縄文土器	C-エ V層	浅 枝 口縁部 ひれ枝型鉢	ナデ、墨塗、横ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 灰褐色	良好	2mm以下の白色粘、1mm以下の透 明光沢粘状粒
119	縄文土器	S E 1	浅 枝 ひれ枝型鉢	透きガキ、沈線文	透きガキ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 灰褐色	良好	1mm以下の透明光沢粘状粒
120	縄文土器	B C キ V層	乳頭丸土器 口縁・部	横の貝殻条痕文、穿孔	横の貝殻条痕文	横灰 灰褐色	灰褐色	良好	1mm以下の明黄・灰白色粘
121	縄文土器	B-オ V層	深 枝 口縁部	口縁部はナデ、横の貝殻条痕文	横の貝殻条痕文	にぶい黄褐色	灰褐色	良好	5mm以下の褐色砂粒、1mm以下の 明黄粘・墨褐色粘
122	縄文土器	B-カ V層	深 枝 部	粘土の返り	横ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色	良好	1.5mm以下の灰白色・1mm以下の黑色 光沢粘・1mm以下の白色透明光沢 砂粒
123	縄文土器	B-オ V層	深 枝 部	横方向の貝殻条痕の後ナデ、一 組いナデ	灰褐色	灰褐色	灰褐色	良好	2.5mm以下の灰白色・黑色光沢 砂粒・1mm程の高層小 粒、4mm以下の中層砂粒

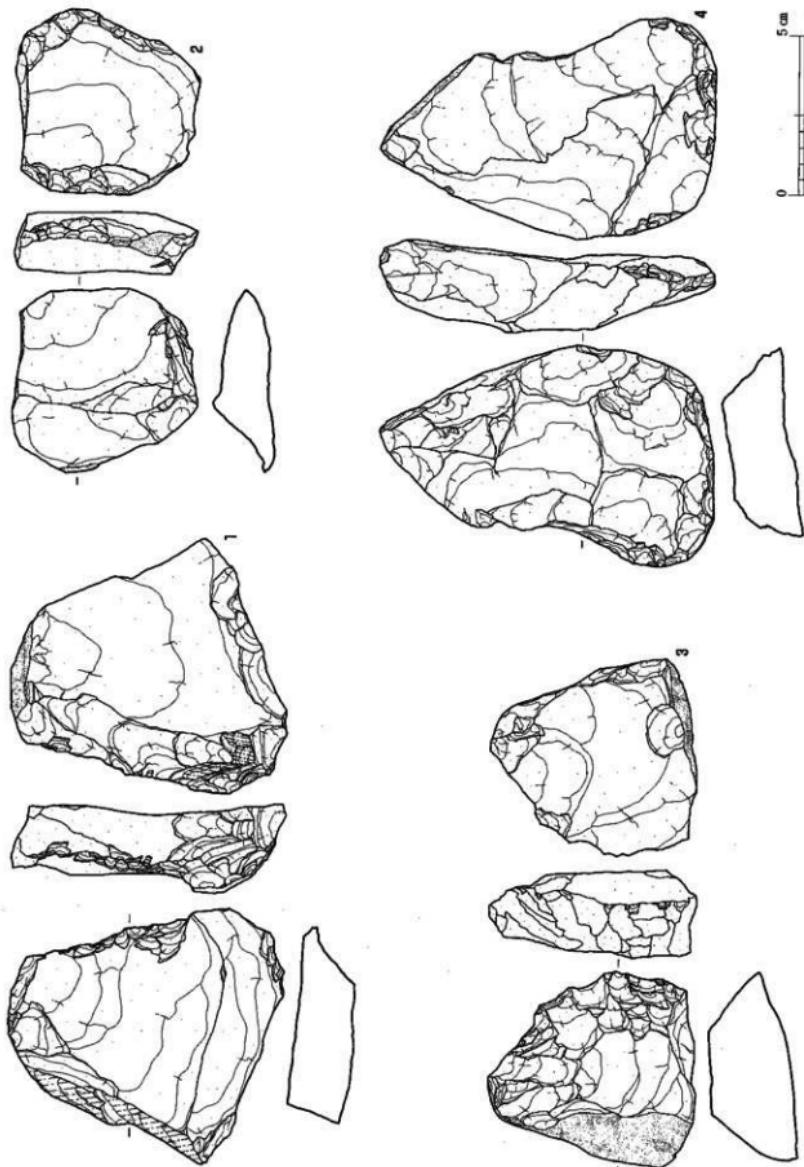
## (3) 石器

繩文後期～晩期の石器は第V層の黒色土を中心にして387点出土し、器種による出土状況の差異は見られなかった。石材は、砂岩が341点で88.1%を占め、その他流紋岩22点、礫岩9点、黒曜石4点、チャート4点、頁岩3点、珪質頁岩1点、ホルンフェルス1点、凝灰岩1点、尾鈴酸性岩（磨石片）1点である。

1~22はスクレイバーで34点出土している。そのうち4点が流紋岩でその他は砂岩でつくられている。23~29は使用痕剥片で24点出土している。そのうちチャートが1点、流紋岩が1点で、その他は砂岩である。30~31は二次加工剥片で8点出土している。30は頁岩で、流紋岩が1点、他は砂岩である。32~37はコアで7点出土している。34は32と33が接合した資料である。35は頁岩、36は流紋岩で他は砂岩である。38~43は磨石・敲石で8点出土している。44~45は石皿である。46は磨製石斧、47は切目石錐、48は磨製の石器、49~50は石鎌の未製品である。その他、チャート原石3点、剥片・碎片296点が出土している。

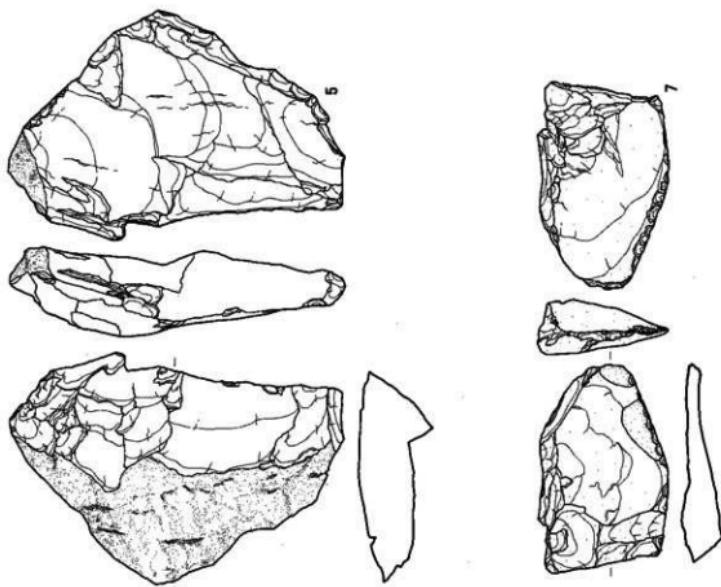
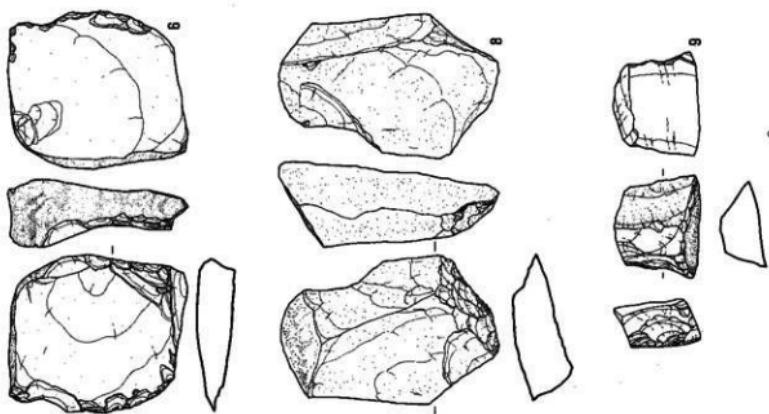
第14図 繩文後期～晚期石器実測図(1)

5 cm  
0

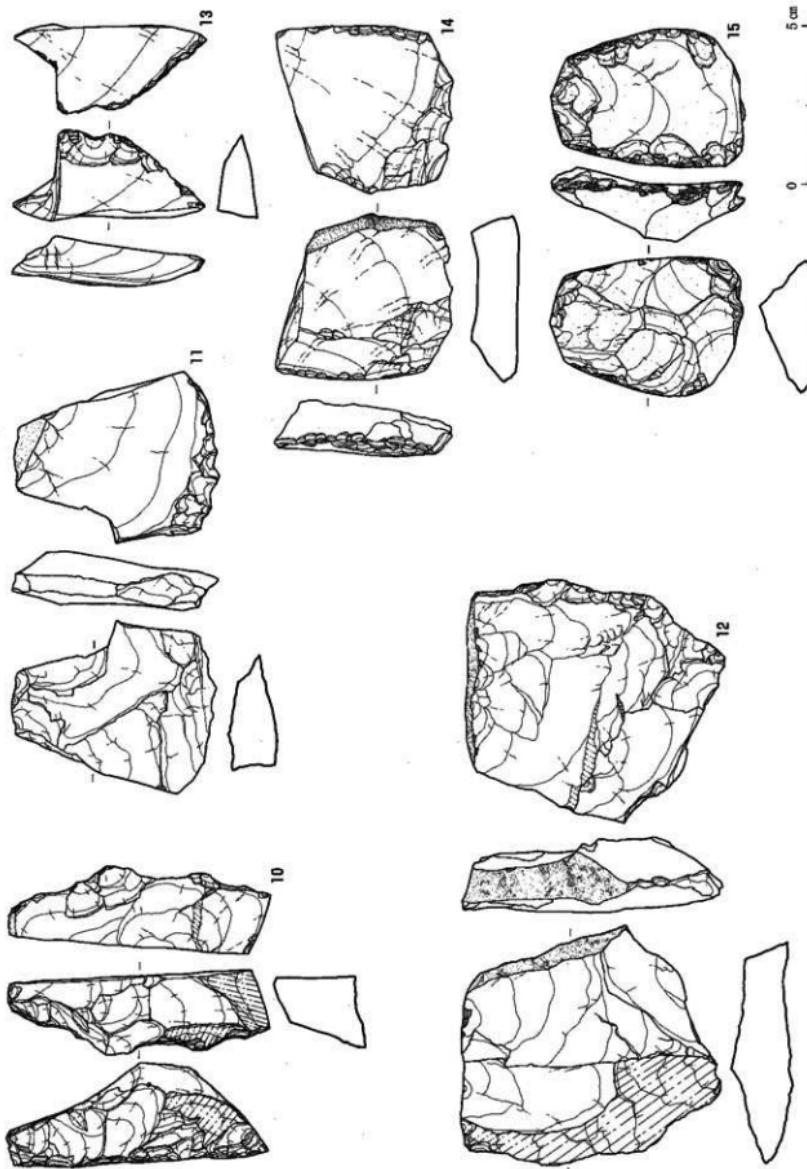
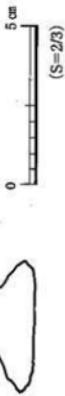


5 cm  
(S=2/3)

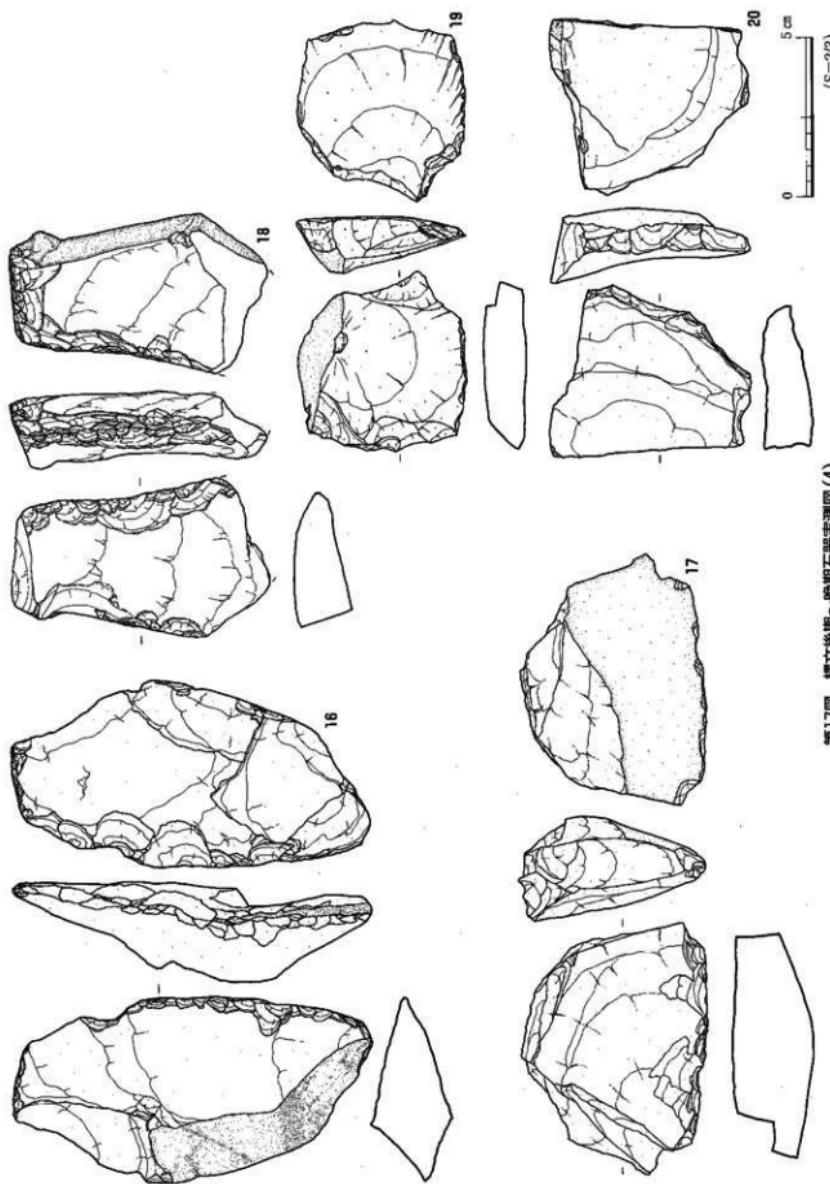
第15圖 線文後期～晚期石器測圖(2)



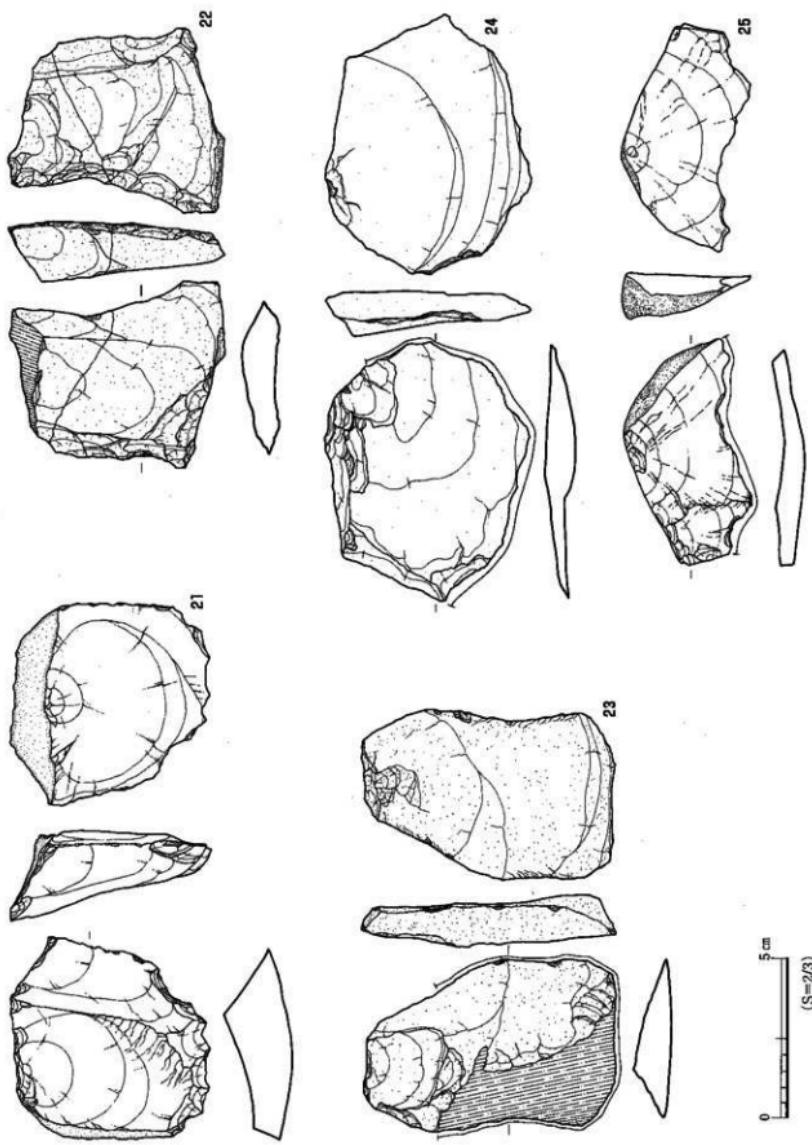
第16図 縄文後期～晚期石器実測図(3)



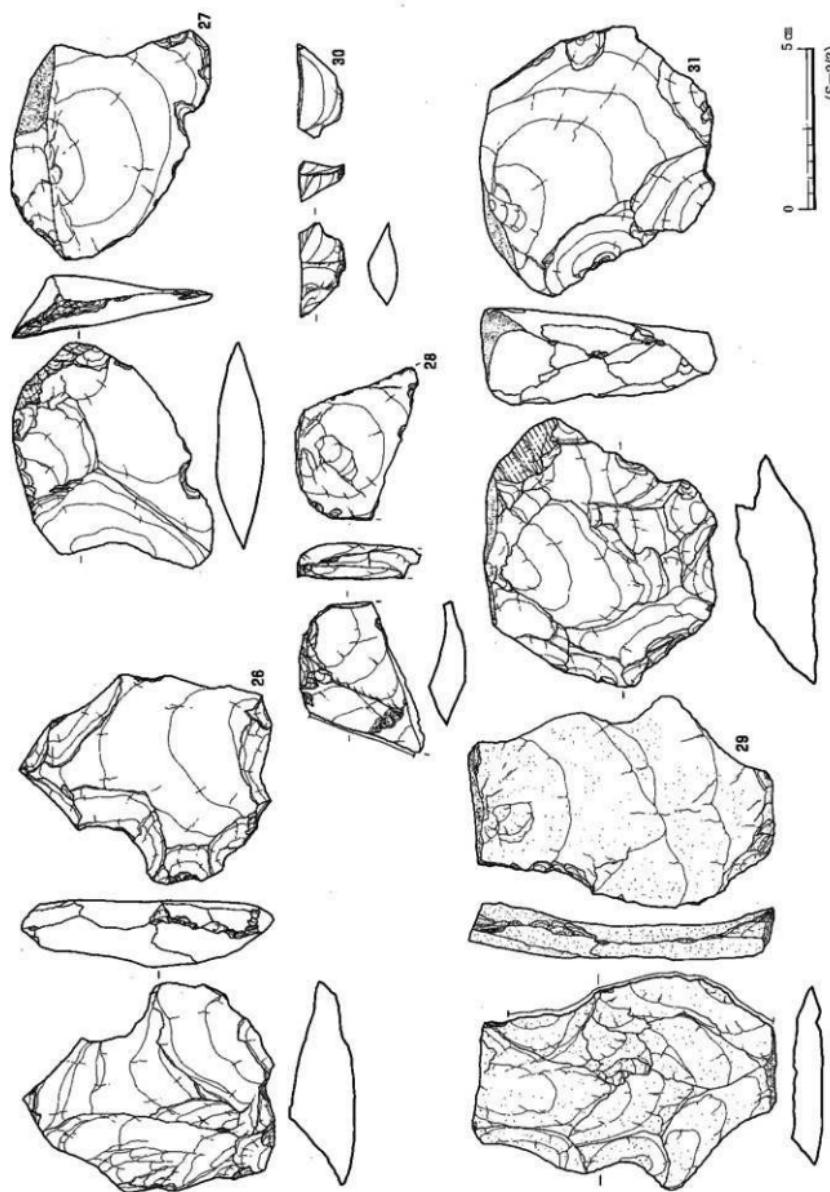
第17圖 繩文後期～晚期石器実測図(4)



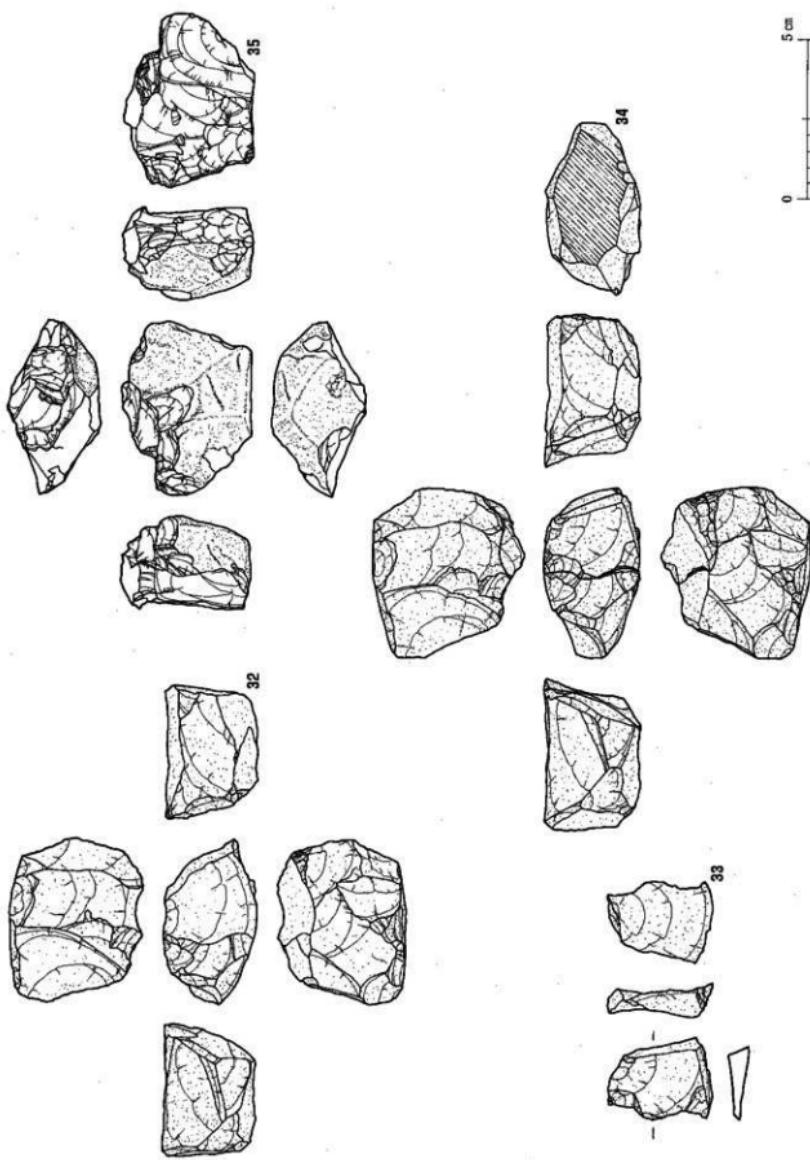
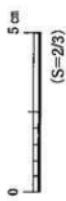
第18図 桶文後期～晚期石器実測図(5)



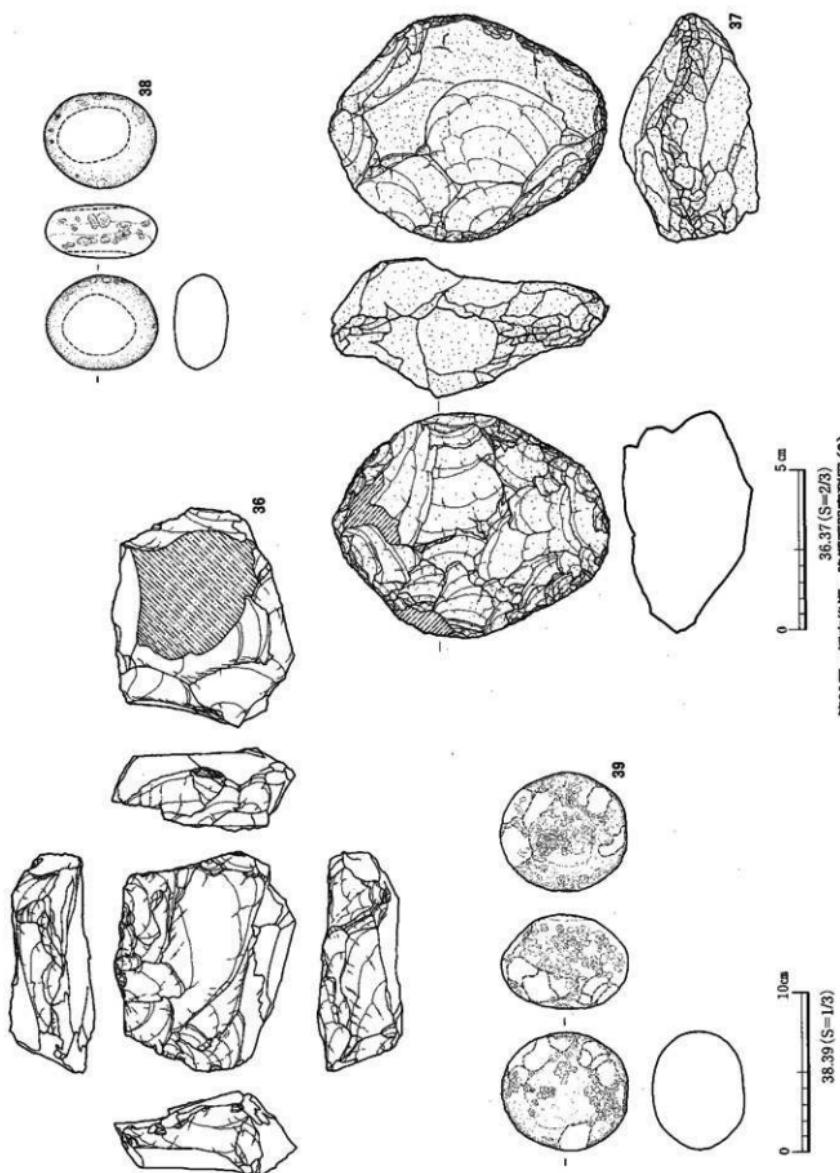
第19圖 繩文後期~晚期石器実測図(6)

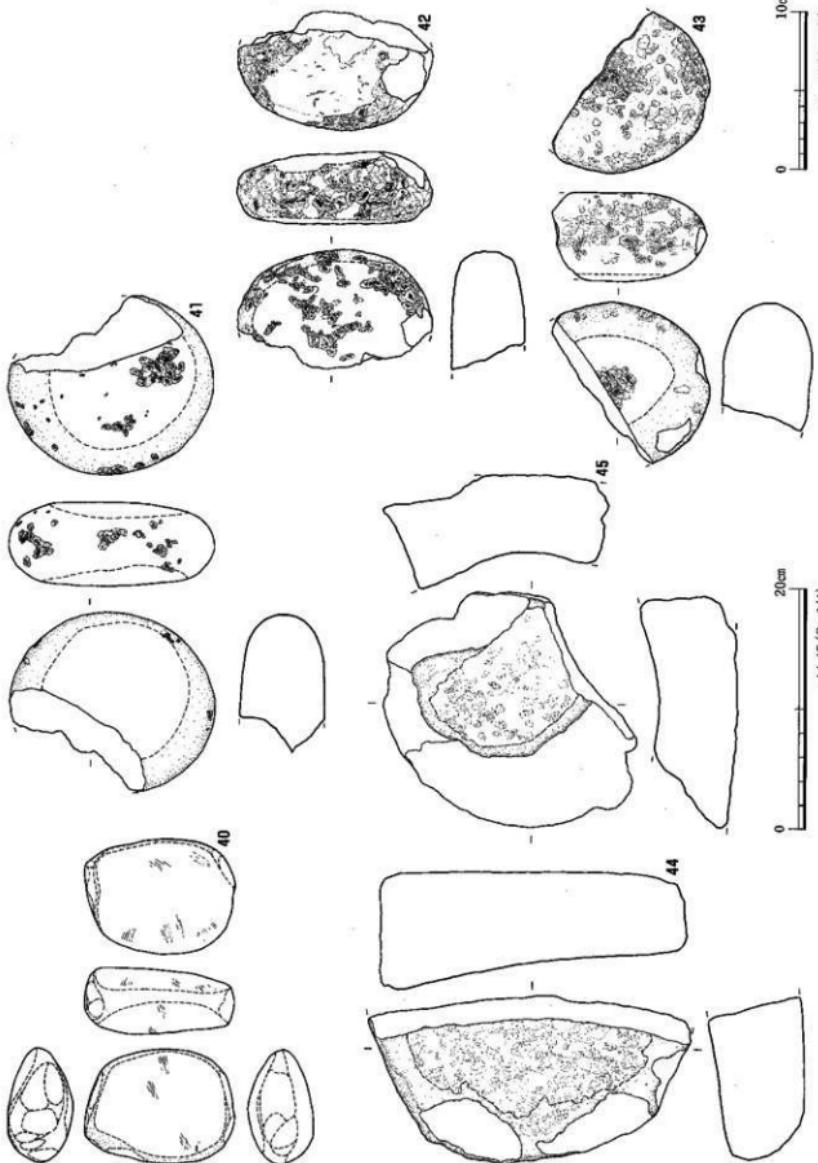


第20圖 條文後期~晚期石器實測圖 (7)

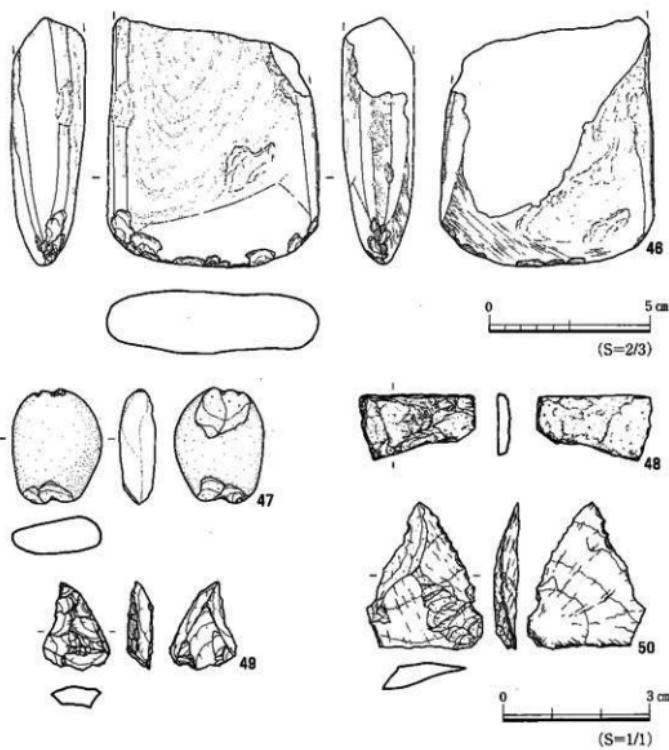


第21図 索文縄解～晚期石器実測図(8)





第22図 繩文後期～晩期石器実測図(9)



第23図 繩文後期～晩期石器実測図(10)

第8表 下星野遺跡A区 繩文後期～晩期石器計測表(1)

図番号	種別	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	スクレイパー	B-キTRV層	8.40	7.78	2.72	156.1	砂岩	実測
2	スクレイパー	C-エV層	5.65	5.65	1.85	65.2	砂岩	実測
3	スクレイパー	B-カV層	6.40	5.93	2.60	114.0	砂岩	実測
4	スクレイパー	B-キV層	10.18	6.80	2.80	158.5	砂岩	実測
5	スクレイパー	B-カV層	10.23	7.10	2.50	144.5	砂岩	実測
6	スクレイパー	V層	5.49	4.88	2.10	47.3	砂岩	実測
7	スクレイパー	B-オV層	4.00	6.35	1.68	34.8	砂岩	実測
8	スクレイパー	B-カV層	6.80	4.61	2.69	65.5	砂岩	実測
9	スクレイパー	V層	2.68	3.20	1.51	14.1	砂岩	実測
10	スクレイパー	C-カV層	8.00	2.64	3.21	54.3	砂岩	実測
11	スクレイパー	C-カIV層	6.21	5.27	1.78	47.2	砂岩	実測
12	スクレイパー	B-キTRV層	7.95	7.31	2.06	123.8	砂岩	実測
13	スクレイパー	SE2	5.83	2.78	1.51	18.8	流紋岩	実測
14	スクレイパー	V層	5.45	5.15	1.72	61.5	砂岩	実測
15	スクレイパー	B-オV層	5.90	4.22	2.20	44.3	砂岩	実測
16	スクレイパー	C-カTRV層	10.95	5.71	3.05	126.3	砂岩	実測
17	スクレイパー	B-オV層	5.70	7.75	2.95	140.0	砂岩	実測
18	スクレイパー	B-キV層	7.95	4.90	2.45	89.0	流紋岩	実測
19	スクレイパー	B-C-キV層	5.17	5.55	1.75	50.0	砂岩	実測
20	スクレイパー	V層	6.10	5.25	2.25	62.0	砂岩	実測
21	スクレイパー	SE1	6.10	6.20	2.00	80.0	流紋岩	実測

第9表 下星野遺跡A区 繩文後期～晚期石器計測表（2）

図番号	種別	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考	
22	スクレイパー	Ⅲ層	6.61	5.81	1.90	54.0	砂岩	実測	
23	使用痕剥片	B-牛V層	7.80	5.30	1.60	60.5	砂岩	実測	
24	使用痕剥片	B-オV層	6.32	7.90	1.40	49.0	砂岩	実測	
25	使用痕剥片	V層	3.96	7.00	1.45	24.6	砂岩	実測	
26	使用痕剥片	V層	7.70	6.40	2.02	81.0	砂岩	実測	
27	使用痕剥片	B-エオV層	6.10	6.90	1.90	52.3	砂岩	実測	
28	使用痕剥片	SE2	3.80	4.10	11.50	17.8	チャート	実測	
29	使用痕剥片	B-カV層	9.40	6.65	1.92	76.7	砂岩	実測	
30	二次加工剥片	C-カⅢ層	1.38	2.60	1.20	3.1	頁岩	実測	
31	二次加工剥片	B-オV層	7.12	8.20	2.98	169.7	砂岩	実測	
32	コア	B-キTRV層	2.90	4.10	5.11	—	砂岩	実測	
33	コア	B-カV層	3.25	2.68	1.05	—	砂岩	実測	
		B-キTRV層					砂岩	実測	
34	コア(32+33)	B-カV層	3.00	5.27	4.75	83.4	砂岩	32・33・34は接合資料	
35	コア	C-カV層	4.02	5.40	2.88	69.5	頁岩	実測	
36	コア	H-ケⅢ層	5.65	6.81	2.57	97.7	流紋岩	実測	
37	コア	C-エV層	8.65	7.08	4.30	235.0	砂岩	実測	
38	磨石	B-オV層	6.90	5.89	3.30	190.0	砂岩	実測	
39	磨石	C-エIV層	7.80	7.35	5.80	430.0	砂岩	実測	
40	磨石	B-キV層	9.31	7.20	4.15	388.0	珪質頁岩	実測	
41	磨石・截石	B-オV層	12.70	11.15	5.25	825.0	砂岩	実測	
42	磨石・截石	B-オV層	12.10	7.48	4.55	530.0	砂岩	実測	
43	截石	B-カV層	9.80	10.05	5.55	480.0	砂岩	実測	
44	石皿	V層	14.00	25.16	9.80	362.0	砂岩	実測	
45	石皿	V層	19.45	18.60	9.50	2270.0	砂岩	実測	
46	磨製石斧	B-キV層	7.63	6.50	2.20	120.0	カルンフェルス	実測・定角式・風化気味	
47	切目石鏟	B-C-キIV-V層	3.50	2.75	1.11	13.6	砂岩	実測	
48	磨製石鋸	B-カ	3.50	2.00	0.40	2.8	頁岩	実測・石臼孔の破片研磨痕	
49	石鍛冶製品	G-ク	2.60	2.05	7.38	3.4	砂岩	実測・ガラス質が非常に多い	
50	石鍛冶製品	V層	3.05	2.40	0.50	2.3	砂岩	実測	
		B-C-キV層	4.00	8.40	1.80	62.6	砂岩		
		B-キV層	8.00	6.80	2.40	161.7	砂岩		
		B-キV層	8.60	5.50	2.70	133.4	砂岩		
		B-キV層	7.60	7.30	0.90	46.5	砂岩		
		B-キV層	5.00	4.70	1.70	40.7	砂岩		
		C-カV層	5.00	2.60	0.90	13.5	砂岩		
		B-キTRV層	2.70	3.50	9.50	7.4	砂岩		
		SE1	8.00	4.10	1.70	41.1	砂岩		
		B-カV層	5.90	2.50	0.90	13.6	流紋岩		
		B-カV層	9.60	8.50	1.80	114.2	砂岩		
		SE2	7.20	5.20	1.00	43.5	砂岩		
		C-カIV層	6.60	3.10	1.70	31.4	砂岩		
		V層	7.60	5.30	12.50	59.5	流紋岩		
		二次加工剥片	B-キTRV層	6.50	4.80	1.80	48.0	砂岩	
		二次加工剥片	B-キV層	7.20	5.70	2.20	90.1	砂岩	
		二次加工剥片	B-キTRV層	5.10	3.70	1.30	25.4	砂岩	
		二次加工剥片	C-エV層	9.10	6.10	2.00	66.9	砂岩	
		二次加工剥片	C-カIV層	8.00	4.20	1.90	42.4	砂岩	
		使用痕剥片	B-エニV層	7.70	6.10	13.50	53.8	砂岩	
		使用痕剥片	B-エオV層	7.50	6.10	2.10	118.0	砂岩	
		使用痕剥片	B-カV層	7.60	6.30	1.50	62.4	砂岩	
		使用痕剥片	B-キV層	10.30	3.90	2.00	71.8	砂岩	
		使用痕剥片	B-キTRV層	6.50	4.20	2.40	54.8	砂岩	
		使用痕剥片	II層	3.80	4.90	0.80	14.2	砂岩	
		使用痕剥片	B-オV層	3.60	5.00	1.00	17.7	砂岩	
		使用痕剥片	B-C-キV層	7.50	4.90	1.40	48.0	砂岩	
		使用痕剥片	B-キV層	7.90	4.00	2.50	87.2	砂岩	
		使用痕剥片	B-エオV層	6.50	6.80	1.00	37.8	砂岩	
		使用痕剥片	B-キV層	5.50	4.60	2.00	33.0	砂岩	
		使用痕剥片	B-キV層	6.00	3.30	0.80	11.1	砂岩	
		使用痕剥片	C-カV層	7.30	8.50	2.60	189.4	砂岩	
		使用痕剥片	SE1	7.00	10.10	2.30	160.3	砂岩	
		使用痕剥片	B-カV層	7.90	6.30	1.10	58.1	砂岩	
		使用痕剥片	V層	8.10	5.00	2.00	67.8	流紋岩	
		使用痕剥片	SE1	5.20	5.50	1.80	59.0	流紋岩	
		剥片	B-カV層	9.40	8.50	2.70	258.9	砂岩	一側辺に微細な剥離が見られる
		剥片	B-カV層	7.20	6.20	1.10	51.4	砂岩	一側辺に微細な剥離が見られる
		コア	B-カV層	6.30	4.70	2.10	62.5	砂岩	
		磨石片	B-オV層	8.90	3.30	4.40	105.0	珪質岩	
		チャート原石	C-エIV層	6.50	3.20	2.90	73.0	チャート	
		チャート原石	SE2	7.60	5.50	6.40	317.1	チャート	
		チャート原石	B-キV層	7.10	6.80	4.90	314.8	チャート	

## 4 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物

### (1) 穫穴住居跡

竪穴住居跡は、調査区のはば中央部（C—キグリッド）に土層確認のためのトレンチ2を掘削中に断面で住居の壁の落ち込みを確認し検出された。プランを検討したが2軒以上の切り合いであり、また、埋土の堆積状況や土層断面・遺物の出土状況からもプランの決定は困難であった。

柱穴は床面で6本確認された。1本は住居跡の中央部で検出され、直径が30cm・掘込み部分の直径14cm・検出面からの深さ22cmである。南側の床面では直径10cmの柱穴が確認された。北東の壁際からは直径12cm～8cmの柱穴が4本確認された。また、柱穴と思われる跡が床面で3本・断面に1本確認されている。中央部には厚さ10～20cmの貼り床と思われる硬化面も確認された。床面のレベルを見ると、北側トレンチ1断面から中央部の断差にかけての部分が最も低く69.57mで、3.6m×2.8mの長方形プランと思われる（SA1）。次いで東側トレンチ2の断面で観察される床面が69.70mで、2.4m×3.6mの長方形プランと思われる（SA2）。最高い床面が南側の平坦面の69.90mで、3.8m×4.0mの正方形プラン（SA3）である。焼土と炭化材は土師器の壺（15）の上位10cmのところで検出された。住居跡の出土遺物は、弥生時代から古墳時代までの土器が出土しており、南側の床平坦面には壁際に弥生土器の壺が倒れた状態で出土した。トレンチ2の断面には土師器の脚台付鉢が出土している。床面直上の遺物や完形出土のものは少なく、遺構時期の判断は慎重さを要する。また、出土土器の接合状況を見ると住居内のみで接合した土器は少なく、住居跡外の土器片と接合した土器が多い。住居跡のある地形が谷地形であることを考えると、背後の斜面地からの遺物流入の可能性が十分にありえよう。床面のレベル差から3時期の住居跡が考えられ、床面の埋土が埋まった時期に新たに住居が建てられたと考えられる。また、前述のように切り合っているため正確な時期決定まではできないが、焼土とともに出土した壺の時期やそれ以前に使われていた住居にさまざまな時期の遺物が流入したものではないかと考えられる。



第24図 弥生～古墳時代遺構分布図

## (2) 土器

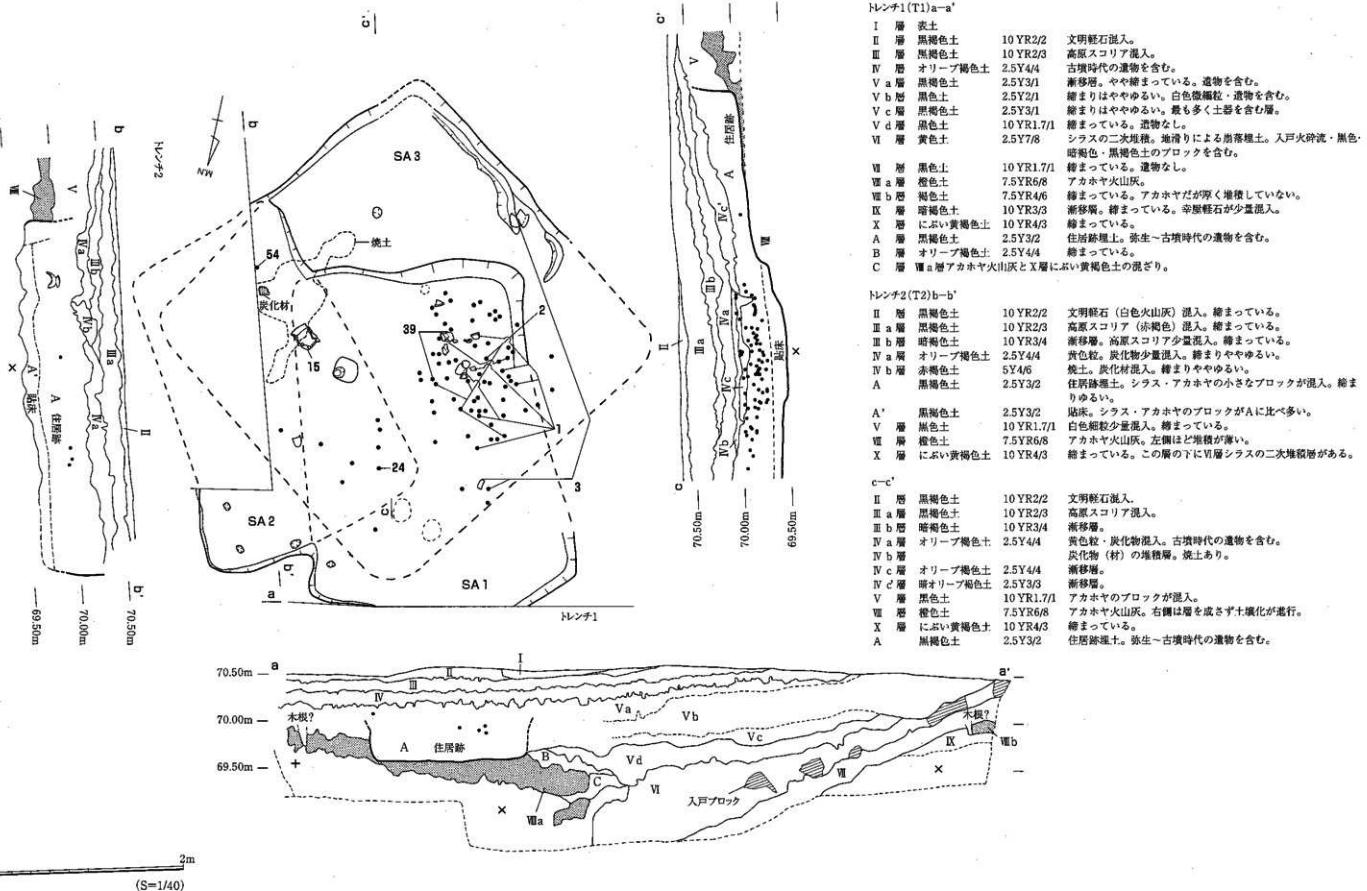
弥生から古墳時代の土器は、調査区中央部の谷地形に堆積していたIV層を中心に出土した。前述のとおり遺構のプランが確定できなかったことと、遺構内と遺構外が多く接合したことから、まず遺構内出土の土器と遺構外の土器と接合したものと図示し（第26～29図）、その後遺構外のみの出土土器を図示した（第30・31図）。また、住居跡の判断が困難を要するため遺構ごとではなく器種ごとに分けて図示した。

### 壺（第26・27図 1～22）

1は胴部の高い位置に胴部最大径がある。住居跡土器集中部から多くの土器片が出土した。ハケで調整され、頸部に指押さえの跡が見られそうであるが明瞭ではない。2はほぼ完形で出土し、1と同様に集中部からの出土が多い。胴部の高い位置に胴部最大径があり、ハケ状の工具痕が見られ、内面には胴下半部に黒変が見られる。3は南側の床面（S A 3）から、ほぼ完形に近い状態で出土した。少し歪な形をしており、頸部に粘土の貼付や工具痕が見られる。内外面に炭化物が付着しており、さらに外面には纖維痕らしきものもある。ハケ目が明瞭でない。4は外面を横ナデの後、指頭による浅いナデを施し、口縁部の内面には横方向のハケの後、指頭によるナデ上げが施されている。5は内外面共に丁寧な横ナデが施してある。6は口縁部の外面に横方向のナデが施され、所々煤が付着している。7は内面に炭化物付着の痕跡がわずかに見られる。8は風化著しく調整不明であるが、外面には煤付着が見られ、頸部内面には指頭によるナデ上げのような痕跡が見られる。9は砂粒の動きから下から上に工具痕が見られるが風化が著しい。外面には所々に煤付着の痕跡が見られる。10は内面に一部工具痕が見られ、外面にはハケの後ナデしている部分が見られる。11は内外面共に風化著しいがナデ調整である。12は壺の底部である。完形で出土している。底部外面にハケらしき工具痕が見られ、底部内面には爪跡のような弧をなした刺突痕が見られる。13の底部外面には指頭痕があり、指押さえ時の爪跡らしき痕跡や指紋が残っている。底面には植物らしき細かい凹穀状の圧痕が見られ、糊痕らしき痕跡もある。14の外面は風化気味だがナデ調整である。内面には黒斑部分が見られる。15は焼土の下から潰れた状態ではあるが完形で出土している。内外面ともに風化が著しく調整は不明である。僅かに外面には工具によるナデが頸部に、指ナデが胴部下位に見られ、内面には口縁部に指頭によるナデ、頸部に工具によるナデ、胴部から底部にかけては黒斑が見られる。16は口縁が緩やかに外反する壺である。風化が著しいため調整は不明である。17は口縁部が外反する壺である。風化が著しいが外面にはナデの痕跡が僅かに見られ、内面にはハケが施されている。18は内外面共に風化が著しい。19は外面にタタキの痕跡があるが風化気味のため明瞭ではない。内面には黒斑が見られる。20は風化が著しいが外面にハケの痕跡が見られる。

### 壺（第28・29図 23～36・53）

23は内外面共に目大きなハケ目が見られるが風化のため明瞭ではない。24は完形で出土している。頸部は短く外反し胴部中央部に最大径が位置する。内外面共に工具によるナデが見られ粘土の継目も一部見られる。底部は指頭痕が明瞭に残り、僅かに平底を呈する。25は同一個体の壺である。内外面共にハケ目で調整されている。26は櫛指波状文が施された二重口縁の壺である。27は外面に工具によるナデが施され、内面には指頭によるナデ上げや粘土の継目が明瞭に残る。底部内面



第25図 弥生～古墳時代竪穴住居跡測定図

には指押さえも見られる。28は同一個体の壺である。外面はハケの後丁寧にナデられている。内面は横方向のハケや指頭によるナデ上げ指押さえが見られる。29は長胴の壺と思われる。外面には一部黒変があり、内面は口縁部が工具ナデの後丁寧なナデ、頸部は指頭による浅いナデ上げが施されている。30の外面はハケの後横ナデ、内面は指頭によるナデ上げが施され、粘土の継目も見られる。31は壺の底部である。底部外面に指頭痕がある。32はハケの継目が見られる。33の内面にはハケの工具痕と指頭痕が明瞭に残っている。34はナデ調整である。35は風化著しいため調整は不明瞭であるがナデである。外面に炭化物が付着している。36は小型丸底壺の胸部と思われる。37は小型の壺である。風化気味であるがナデが施されている。38は小型の壺である。ハケとナデが施される。内面には粘土の継目が見られる。37と38はともに平底を呈する。

#### 高坏（第29図 39~51）

39は住居跡土器集中部からほぼ完形で出土している。調整は丁寧なナデの後、ミガキが施されるが単位は不明である。坏部の稜は緩やかである。40はミガキが施されているが単位は不明である。内面に黒斑部分がある。坏部の稜はやや明瞭である。41の調整はミガキであるが風化著しいため明瞭ではない。坏部の稜は明瞭である。42の調整はミガキであるが風化気味のため単位は不明である。内面に黒斑部分があり、基部に先端の丸い工具で押圧した跡がある。坏部の稜は明瞭である。43はハケの後、ナデ消されている。脚部の内面に絞痕がある。44は内面に工具痕が見られる。45はミガキが施され内面に黒変がある。46は風化が著しいため調整不明だがナデの痕跡がある。47は横ナデの後、ミガキが施されている。48の外面はハケの後、単位不明のミガキで調整されている。内面はハケ目で黒斑している。49はナデの後、ミガキが施される。外面には煤が付着し、内面には炭化物が付着している。50は高坏である。外面はハケ目で調整され、内面はミガキが施され、黒斑している。

#### ミニチュア土器（第29図 52）

52はミニチュア土器である。外面はハケで調整され一部黒変が見られる。内面は指ナデや指押さえが明瞭に見られ、器面調整不足によるひび割れも見られる。

#### 脚台付鉢（第29図 54）

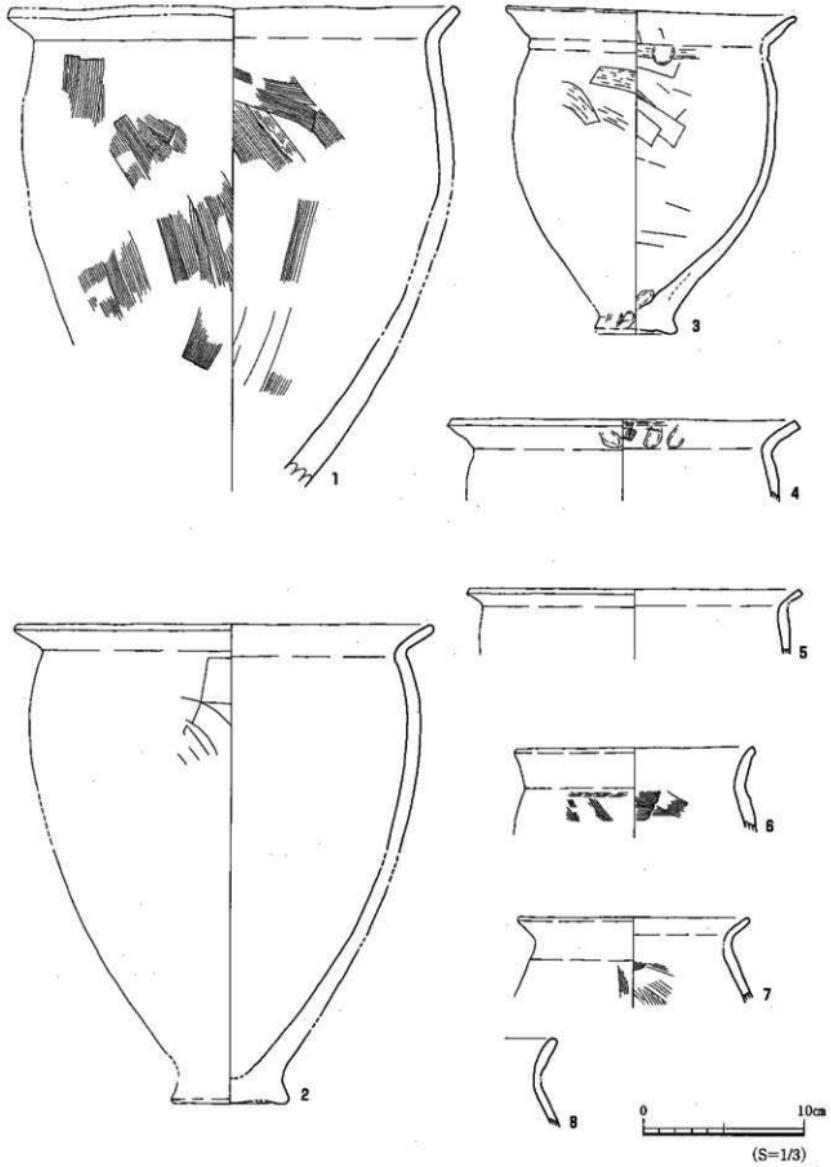
54はトレンチ2の壁に完形で出土している。内面に工具痕らしき線刻があり炭化物が付着している。

#### 鉢（第29図 55）

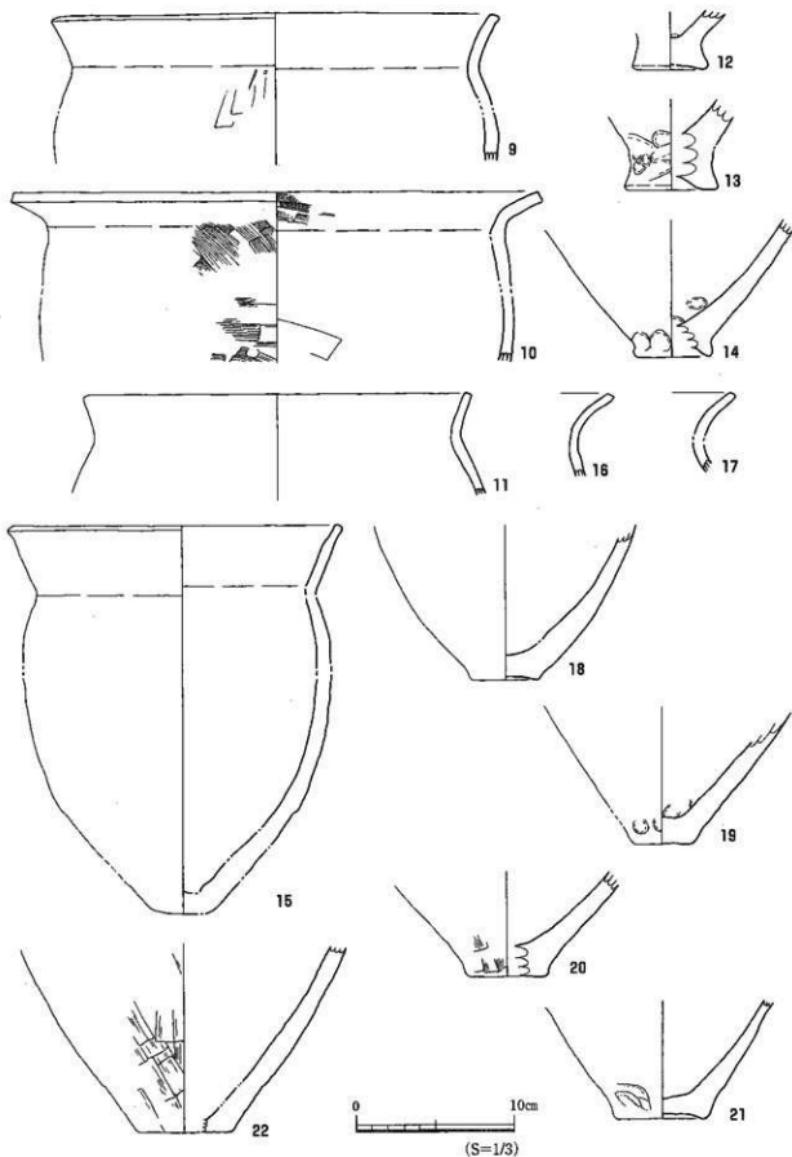
55は同一個体と思われる鉢である。内面に工具痕が見られる。

#### 包含層出土の土器（第30図・31図 56~96）

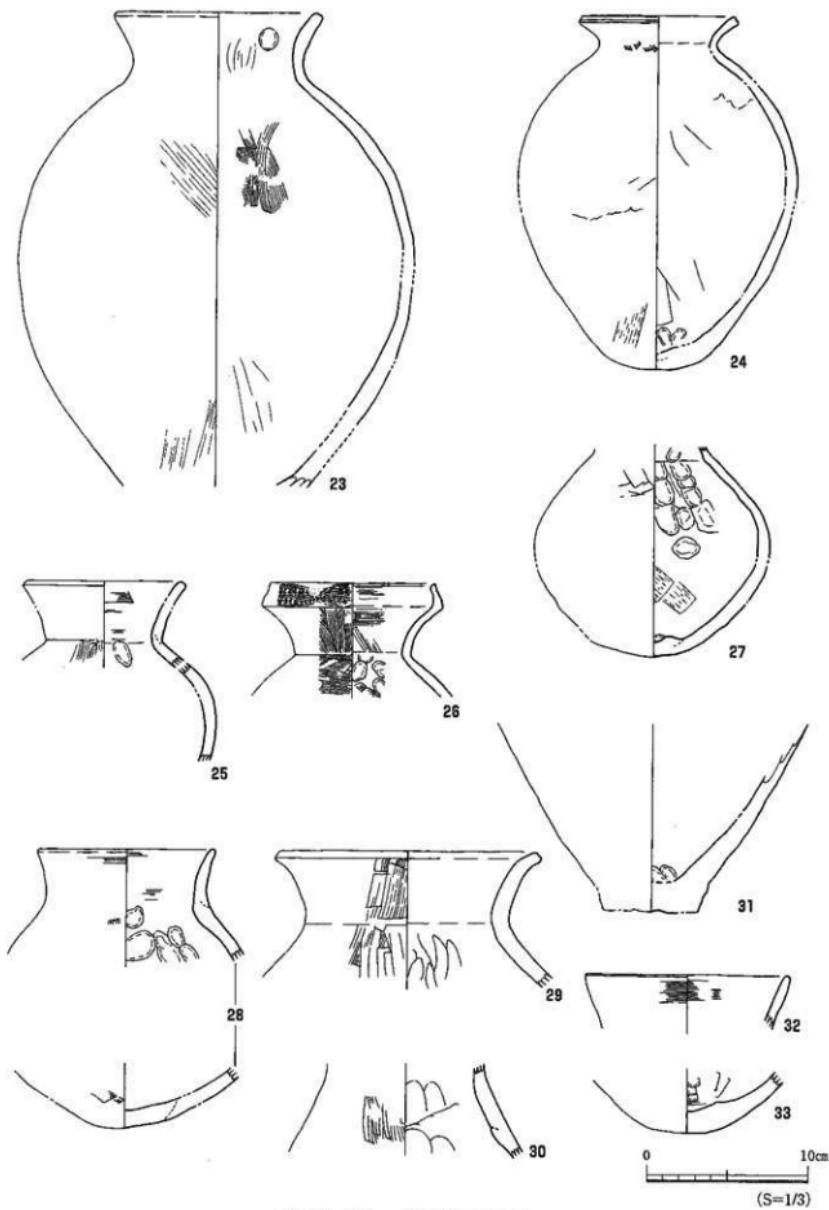
56は口縁端部が台形状を呈し、横方向の線刻が施されている壺である。57は口縁が「く」の字状を呈し、刻み目の突帯を有する中溝式の壺である。77は口頸部が短く外反し、平底を呈する壺である。86は小型丸底壺と思われるが、底部は僅かに平底を残している。87は外面に曲線の線刻を施している小型の壺である。



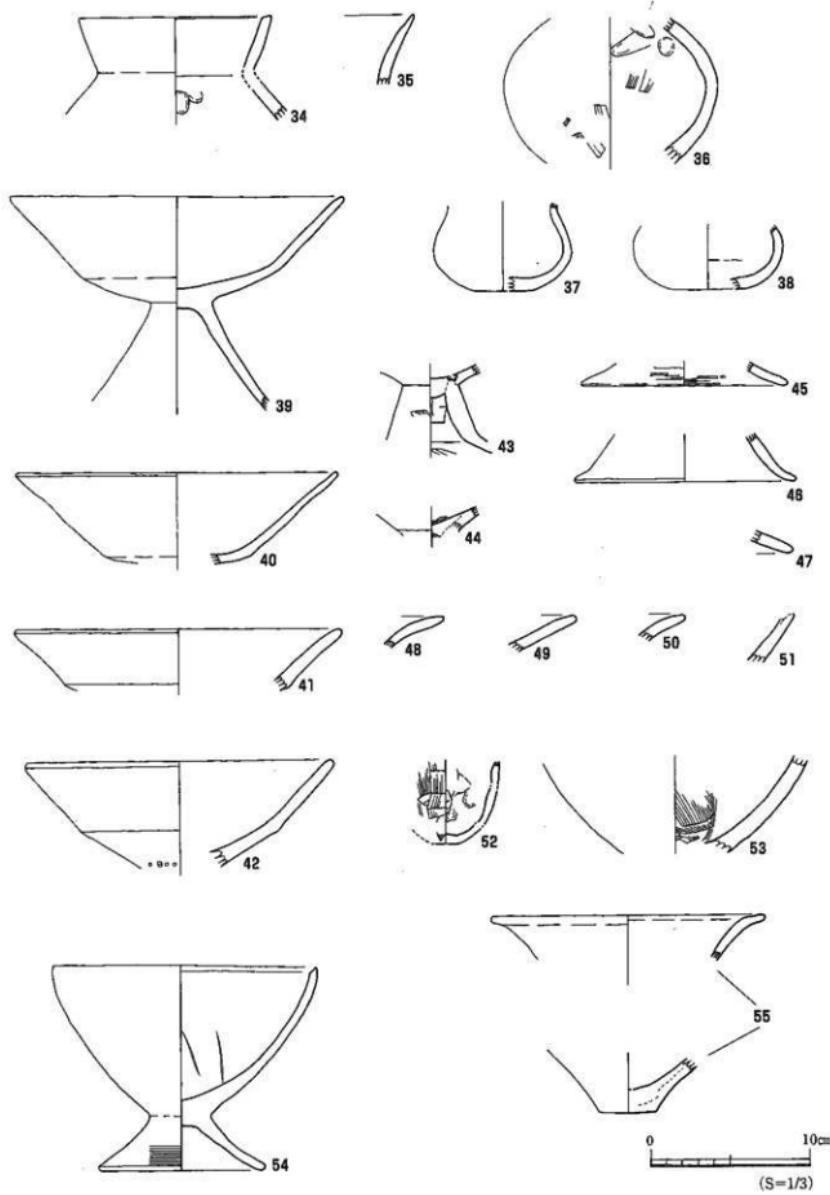
第26図 弥生～古墳土器実測図(1)



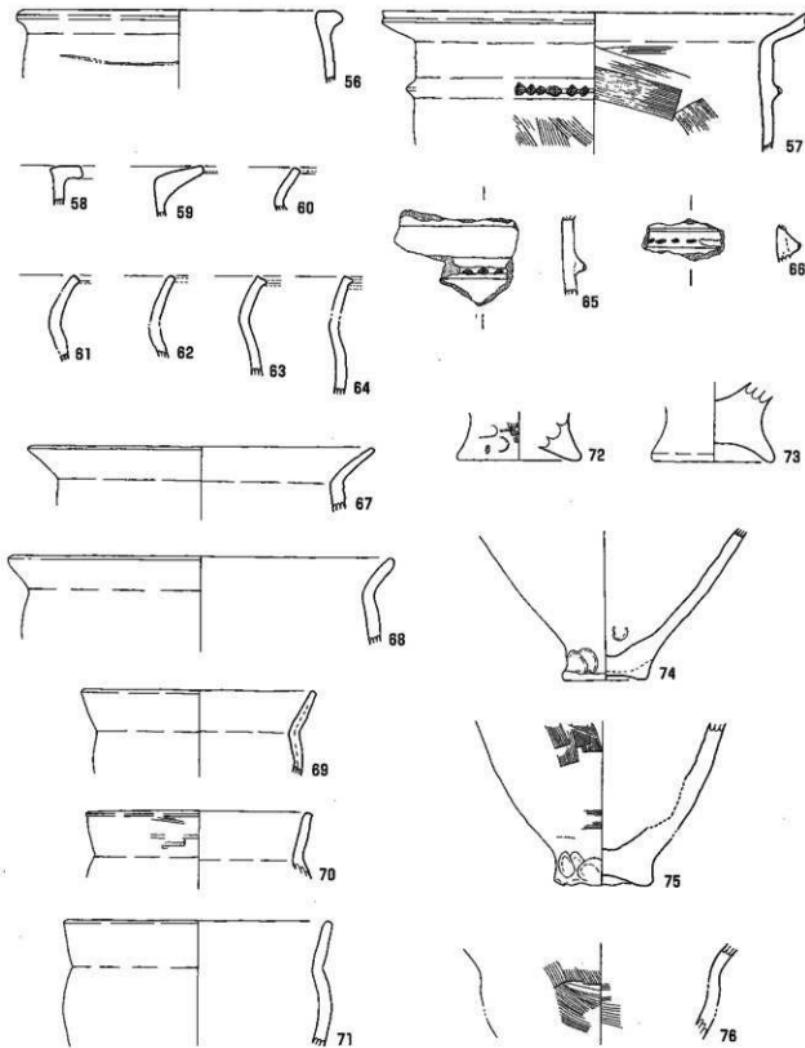
第27図 弥生～古墳土器実測図(2)



第28図 弥生～古墳土器実測図(3)

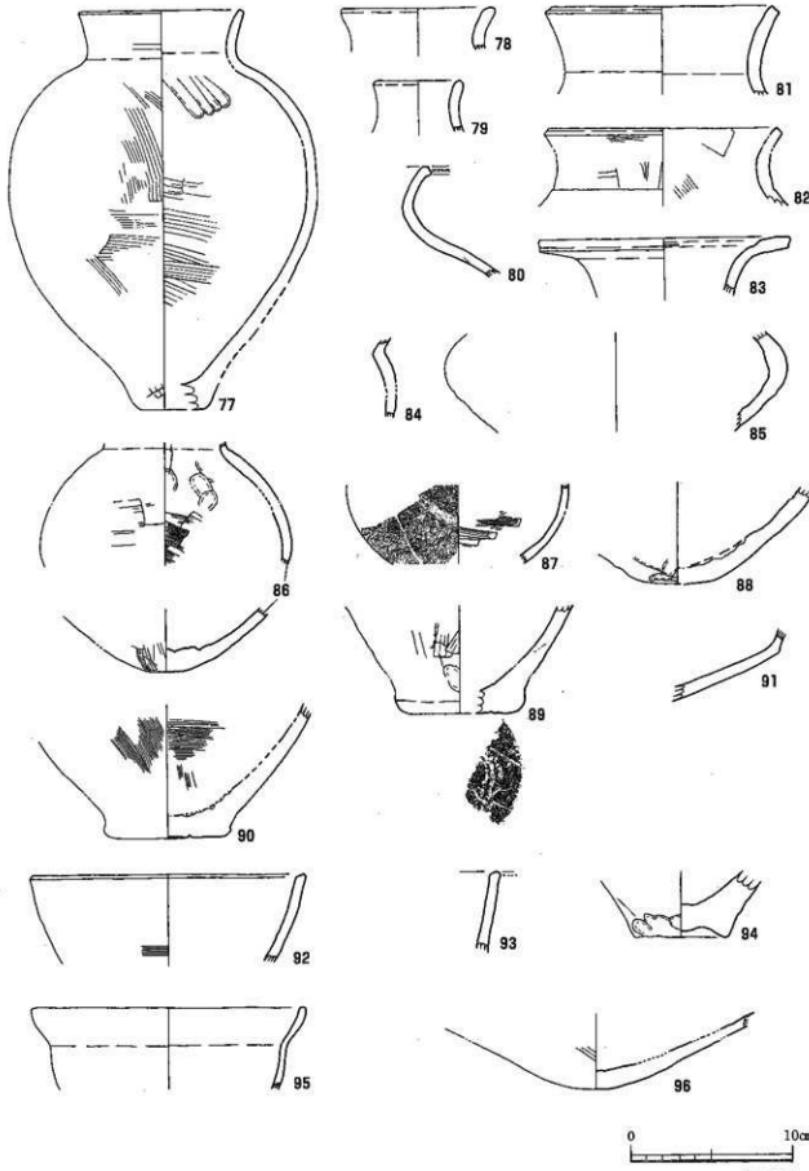


第29図 亦生～古墳土器実測図(4)



0 10cm  
(S=1/3)

第30図 弥生～古墳土器実測図(5)



第31図 弥生～古墳土器実測図(6)

第10表 下星野遺跡A区 弥生土器・土師器観察表(1)

器番号	種別	出土位置	器種・部位	法寸(cm)	文様及び調査		色調	地成	胎土	備考	
					外面	内面					
1	弥生土器	SA	壺	27.8	横・縦・斜・ハケ、横ナデ	横ハケ、指揮ささえの後削 痕、丁寧なナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	浅黄褐色	良好	5mm以下の褐色、4mm以下のオ リーブ黒色の粒が多い	
2	弥生土器	SA	壺	25.6	7.3	29.5	横ナデ、横縫風化気味、 工具痕あり、(ハケ?部分 が黒)、底塗ナデ	横ナデ、底部風化気味、 工具痕あり、(ハケ?部分 が黒)、底塗ナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2mm以下の褐色・褐色・灰褐色
3	弥生土器	SA	壺	17.9	5.1	20.3	全体的に風化、口縁裏側 不明、削痕削ナデ、輪付 着、丁寧なナデ	工具痕、輪付着、横・縦・斜・ ハケ、指揮ナデ、工具 痕による黒ナデ、ナデ の上上げ、横・斜・ナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2mm以下の褐色・軟質な茶褐色、 0.5mm以下の黒色光沢・無色透 明光沢砂粒
4	弥生土器	SA	壺	21.7			横ナデ、口縁裏側の後削 痕による黒ナデ、ナデ の上上げ、横・斜・ナデ	口縁裏側ハケ後削痕によ る黒ナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2.5mm以下の素褐色の砂粒
5	弥生土器	SA	壺	20.5			丁寧な横ナデ、輪付着 の調整不規則	丁寧な横ナデ、ナデ	ツヤ	良好	1.5mm以下の茶褐色、0.5mm以 下の黒色透明光沢砂粒
6	弥生土器	SA	壺	14.9			削付着、横・斜・輪付着 ナデ、斜・ハケ、削付着	横ナデ、斜・ハケ、削付着	ツヤ	良好	2.5mm以下の茶褐色、黒色、微 細な黒色透明光沢砂粒
7	弥生土器	SA	壺	14.2			横ナデ、削付着、ナデ、 斜・ハケ	横ナデ、斜・ハケ、風化物 付着	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2mm以下の褐色・褐色、1mm程 の透明なガラス質の砂粒
8	弥生土器	SA	壺	17.8			横ナデ、斜・ハケ、削付着 B-2層	風化著しいため調整不規 則定	ツヤ	良好	1.5mm以下の灰白色、1mm以下 の無色透明光沢・軟質な茶色、 0.5mm以下の黒色光沢砂粒
9	弥生土器	SA	壺	28.2			削付着、横・斜・輪付着 C-2層	風化の為調整不規 則	明赤褐色 ツヤ	良好	5mm以下の灰褐色、2mm以下の軟 質な茶褐色、0.5mm以下の黒色 の砂粒
10	弥生土器	SA	壺	33.4			横ナデ、斜・ハケ、横・斜 C-2層	横ナデ、斜・ハケ、削付着 風化氣味	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	5.5mm以下の褐色、3mm以下の 茶褐色の砂粒
11	弥生土器	SA	壺	24.3			ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	ツヤ	良好	3mm以下の透明、2mm以下の黑 色光沢・灰白色、1mm以下の白 色・透明砂
12	弥生土器	SA	壺	4.7			ナデ、斜・ハケ擦の工具 痕	ナデ、指揮さくか	ツヤ	良好	5mm以下の褐色、2mm以下の灰 色、0.5mm以下の黒色の砂 粒
13	弥生土器	SA	壺	5.8			ナデ、指揮痕、底部に輪 付着	ナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	4mm以下の褐色、3mm以下の灰 色・褐色の砂粒
14	弥生土器	SA	壺	5.0			ナデ、指揮痕、風化氣味	指揮痕、黒度	ツヤ	良好	3mm以下の灰白色、1mm以下の 灰白色・褐色砂粒
15	土師器	SA	壺	21.0	34.4	3.9	風化著しく調整不規 則的にナデか、ケズリも 見られる	風化著しく調整不規 則的にナデか、ケズリも 見られる	ツヤ	良好	4mm以下の灰白色、2.5mm以下 の黒色・乳白色光沢砂粒
16	土師器	SA	壺				ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	1mm以下の透明光沢、0.5mm以 下の灰褐色・褐色砂粒
17	土師器	SA	壺				風化著しく調整不規 則ナデか	斜・ハケ	ツヤ	良好	3mm以下の褐色・灰褐色、1mm以 下の灰白色・黑色光沢砂粒
18	土師器	SA	壺		4.2		ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	ツヤ	良好	2mm以下の褐色・透明、1mm以 下の灰褐色・褐色・透明砂粒
19	土師器	SA	壺		3.8		風化著しく調整不規 則タキの痕跡か、指揮痕、 黒斑	風化著しく調整不規 則タキの痕跡か、指揮痕、 黒斑	ツヤ	良好	2.5mm以下の褐色・茶褐色、1mm以 下の褐色・茶色・灰色・白色・乳白 色・褐色・茶色、1mm以下の無 色透明光沢砂粒
20	土師器	SA	壺		5.3		削・斜・ハケ、底部ナデ	風化著しく調整不規 則	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	4mm以下の茶褐色、2mm以下の 灰白色、0.5mm以下の無 色透明光沢砂粒
21	土師器	SA	壺		5.9		底部に植物の茎・初の庄 痕、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	3mm以下の褐色・灰褐色、1mm以 下の黒色光沢砂粒
22	土師器	SA	壺		6.0		削・斜・ハケ、ナデ	削・斜・ナデ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	3mm以下の褐色・茶褐色、1mm以 下の黒色光沢砂粒
23	弥生土器	SA	壺	12.8			横ナデ、タキの後ハケ IV層	横ナデ、タキの後ハケ 風化氣味	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	4mm以下の褐色・茶褐色・灰褐色 ・無色光沢砂粒
24	弥生土器	SA	壺	9.8	4.6	21.9	横ナデ、ミギカ、ていね いなナデ、斜・方向の工具 痕	横ナデ、指ナデ、垂ぎ目 ナデ	暗赤	良好	1.5mm以下の褐色、1.5mm以下の 軟質な茶褐色、0.5mm以下の無 色透明光沢砂粒
25	弥生土器	SA	壺		10.0		横ナデ、斜・輪付	横ナデ、斜・輪ハケ 指揮ナデ上げ	明赤褐色 ツヤ	良好	1.5mm以下の灰褐色・黑色光沢 ・1mm以下の灰白色・褐色・無質な茶 褐色・無色透明光沢砂粒
26	弥生土器	SA	壺	10.1			横接状次文、横・縦・斜 N層	横接状次文、横・縦・斜・ 輪付	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2mm以下の褐色、1.5mm以下の茶 褐色・0.5mm以下の黒色光沢砂 粒
27	弥生土器	SA	壺				横ナデ、横・斜・工具 C-C-2層	工具ナデ、横・斜・工具 痕、指揮による横・斜ナ デ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2.5mm以下の褐色・茶褐色・無質 な茶褐色・2mm以下の灰白色、1mm 以下の黒色光沢・無色透明光沢砂 粒
28	弥生土器	SA	壺	10.9	6.1		風化、横・斜・ハケ、横ナ デ、ミギカ	風化、横・斜・ハケ、指揮痕、 指ナデ上げ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	2mm以下の褐色、1.5mm以下の茶 褐色・茶色・1mm以下の灰白色 ・黑色光沢・透明光沢砂粒
29	弥生土器	SA	壺		16.4		横ナデ、斜・斜方向の工 具	横ナデ、横・斜・方向の工 具ナデ	ツヤ	良好	2mm以下の褐色、1.5mm以下の灰 白色・茶色・0.5mm以下の無色光 沢砂粒
30	弥生土器	SA	壺	B-2層			粘土の縫合部	貝ナデ後丁寧なナデ、指 ナデ上げ	にぶい黄褐色 ツヤ	良好	4mm以下の褐色・茶色・黑色光 沢砂粒
31	弥生土器	SA	壺	C-C-2層			指方向のナデ、いいナデ V層	指方向のナデ、指ナデ、 粘土の縫合部に指 指痕	明赤褐色 ツヤ	良好	4mm以下の褐色、3mm以下の灰 白色・1mm以下の無質な赤褐色 の砂粒

第11表 下星野遺跡A区 弥生土器・土器観察表(2)

面番号	種類	出土位置	器種・部位	計量(cm) 口径底径×高さ	文様及び特徴		色調	焼成	胎土	備考
					外 面	内 面				
32	弥生土器	S A BC-2号屋 口縁部	壺	12.4	ナデ、ハケ	ハケ	にぶい黄褐色 に黒褐色	良好 3mm以下の褐色・乳白色、微細 な透明光沢の粒	良存率1/4	
33	弥生土器	S A C-2号屋 壺、瓶			ナデ、風化気味	指痕、工具痕	壺 にぶい黄褐色	良好 2mm以下の褐色・褐色、1.5mm 以下の黒色光沢の粒	良存率1/2	
34	土器部	S A CDカキ E-吉澤	壺、瓶	12.0	ナデ	ナデ、指痕痕	にぶい黄褐色 灰	良好 2mm以下の透明・灰褐色・黒色の 粒		
35	土器部	S A	壺		ナデ、煤付着、風化し い。	ナデ、風化気味	壺	良好 1mm以下の灰色・透明光沢の砂		
36	土器部	S A	壺		ナデ、縫・斜方向のハケ	指痕ナデ、指痕痕、ナデ、 鉄方向のハケ	にぶい褐色 砂	良好 3mm以下の褐色、2mm以下の黑 色の砂粒		
37	土器部	S A C-2号屋 脚部	壺	3.0	ナデ、風化気味	ナデ、風化気味	にぶい黄褐色 砂	良好 1mm以下の茶色・褐色・乳白色 の粒		
38	土器部	S A C-2号屋 脚部、底部	壺	4.4	ナデ	ナデ、粘土織目	にぶい黄褐色 砂	良好 1mm以下の褐色・茶色・灰褐色の 砂粒		
39	土器部	S A	壺	20.8	ナデ、ミガキ、風化気味	ナデ、風化気味	浅黄 にぶい黄褐色	良好 0.5mm以下の黒色・灰白色・透 明の粒		
40	土器部	S A BC-2号屋 N-V層	壺、瓶	19.8	ナデ、横方向のミガキ	横方向のミガキ、風度、 ナデ	赤褐色 黒褐色	良好 0.5mm以下の茶色・黒褐色の粒	良存率1/9	
41	土器部	S A BC-2号屋 N-V層	壺、瓶	20.4	ナデ、煤付着、風化し い	風化気味	にぶい赤褐色 灰褐色	良好 1mm以下の褐色・灰色・透明、 0.5mm以下の透明光沢の粒	良存率1/5	
42	土器部	S A C-2号屋	壺	18.8	ナデ、横方向のミガキ、風化氣 味、先端の丸いT字による開口	横方向のミガキ、風度、 風化気味	壺 明治褐色	良好 1mm程の茶色・乳白色・褐色の 砂粒		
43	土器部	S A BCD-2号屋 H-吉澤	壺、瓶、 平底一底部		ナデ、ハケ後ナデ、ハ ケ、工具痕、 ナデ	ハケ後ナデ、 工具痕、 ナデ	にぶい褐色 砂	良好 1mm以下の褐色・灰色、0.5mm 以下の黑色光沢、0.2mm以下の 透明光沢の粒		
44	土器部	S A C-2号屋	壺	4.0	ナデ、粘土の織目	ナデ、工具痕あり	壺、にぶい 灰 灰	良好 0.5mm以下の 黒色・灰白色・透明の 砂粒		
45	土器部	S A	壺	12.8	横方向のミガキ、縫合	ナデ、黒度	壺 明治赤褐色	良好 1mm以下の茶色・灰色、0.5mm以 下の茶色・灰褐色の砂粒	良存率1/7	
46	土器部	S A	壺	13.5	風化者したため調整不明	風化者したため調整不明	壺	良好 2mm以下の茶色・灰色、乳白色 の砂粒	良存率1/2	
47	土器部	S A	壺		横ナデ後ミガキ	横方向のミガキ	壺 壺	良好 1mm以下の茶色・灰白色・較 質な茶色、0.5mm以下の透明光 沢の粒		
48	土器部	S A C-2号屋	壺、瓶		横ナデ、横方向のハケ後 ミガキ	横ナデ、横方向のハケ、黒度	壺 黑褐色	良好 2mm以下の乳白色・黒茶色・灰 色の粒		
49	土器部	S A C-2号屋	壺、横ナデ後横方 向のミガキ、煤付着		横ナデ、横ナデ後横方 向のミガキ、煤付着	にぶい水銀 のミガキ、 煤付着	壺 にぶい褐色 砂	良好 1mm以下の茶色・乳白色・褐色 の粒		
50	土器部	S A	壺		ナデ、横方向のハケ	黒度、横方向のミガキ	壺 黑	良好 0.5mm以下の褐色・乳白色的 砂粒		
51	土器部	S A	壺		横方向のナデ後斜方向 のミガキ	横方向のナデ後斜方向 のミガキ、風度 のミガキ、風度	壺 明治褐色	良好 1mm以下の茶色・茶色・風度・ 乳白色的砂粒		
52	土器部	S A BC-2号 N-V層	壺	17.0	横方向のハケ、ナデ、風 度	ナデ、風度 にぶい割れあり、縫合ナデ、 指痕痕	壺 にぶい褐色 砂	良好 2mm以下の茶色・灰色、1mm以下の 秋葉色茶色の砂粒	良存率1/2	
53	土器部	S A C-2号屋	壺		ナデ	縫・斜のハケ	にぶい褐色 砂	良好 0.5mm以下の褐色・0.5mm以下の 乳白色・透明な白		
54	土器部	S A C-2号屋	脚台付 口縁一部	16.3 10.3 12.8	横ナデ、ナデ、 ナデ、縫・斜方向のハ ケ	横方向のハケ、ナデ、 ナデ、縫・斜方向のハ ケ	壺 にぶい褐色 砂	良好 1mm以下の黒色・透明、0.5mm 以下の茶色の砂粒	良存率1/2	
55	土器部	S A	壺	17.0 3.6	磨耗のため調整不明	ナデ、縫・斜方向の工具ナデ	壺 黑	良好 1mm以下の茶色・灰色、 1.5mm以下の茶色茶色の砂粒		
56	弥生土器	C-2 N-V層	壺 口縁部	20.1	風化者したため調整不明 横ナデか、横方向の縫合	風化者したため調整不明 横ナデか、横方向の縫合	壺	良好 2.5mm以下の茶色・灰褐色の砂 粒、1mm以下の黑色光沢・無色 透明光沢の粒	良存率1/7	
57	弥生土器	B-キ N-V層	壺 口縁一部	26.0	横ナデ、突奇、キザミ、 縫・斜方向のハケ、 縫・斜方向のハケ	風化のため調整不明、 横・斜 縫・斜方向のハケ	壺 にぶい褐色 砂	良好 3mm以下の褐色・灰色・黑色、 褐色・乳白色の砂粒	良存率1/6	
58	弥生土器	B-カ N-V層	壺 口縁部		横ナデ、風化気味	ナデ、粘土の折り返し	にぶい褐色 砂	微細な織合灰色・灰白色、 1.5mm以下の茶色茶色の砂粒		
59	弥生土器	S E 2	壺 口縁部		横ナデ、横方向のハケ、 ナデか、一部赤斑	横方向のハケかナデ	にぶい褐色 砂	良好 2mm以下の灰白色、1.8mm以下 の浅い黄色・褐色・褐色・黑褐色 の砂粒		
60	弥生土器	S C 2	壺 口縁部		横ナデ、横方向の指痕痕	ナデ	にぶい褐色 砂	良好 3.5mm以下の灰褐色、2mm以下 の灰白色の砂粒		
61	弥生土器	C-カ N-V層	壺 口縁一部		横ナデ	ハケか、風化者しい	にぶい褐色 砂	良好 4mm以下の灰褐色、1.5mm以下 の灰白色、1mm以下の茶質な赤 茶色・黒褐色透明光沢砂粒		
62	弥生土器	C-カ N-V層	壺 口縁部		横ナデ、煤付着、ハケ	横方向の張いハケ、 ハケの後指痕え	壺 にぶい褐色 砂	良好 2mm以下の灰褐色、灰白色、 1mm以下の茶質な赤茶色の砂粒		
63	弥生土器	C-オ N-V層	壺 口縁一部		横ナデ、ハケ	壺・斜ナデ、ハケ	明治褐色 にぶい褐色 砂	良好 2mm以下の灰褐色、黑色光沢、 1.5mm以下の灰白色・赤褐色、 透明光沢、1mm以下の赤褐色砂 粒		

第12表 下星野遺跡A区 弥生土器・土師器観察表（3）

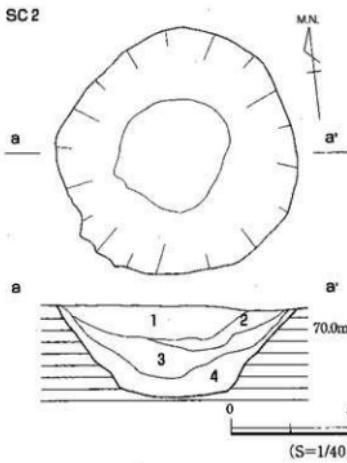
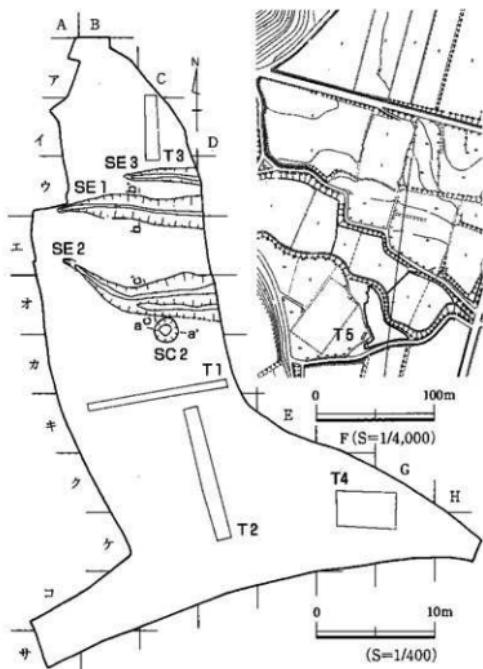
番号	種別	出土位置	器種・部位	法量 （底径 ×口径 ×高さ）	文様及び測定	色調		焼成	胎上	備考	
						外面	内面				
64	弥生土器	B.C-1 M層	東 東部	24.6	横ナデ、ハケ	横ハケの後ナデ、ハケ	黒 暗灰	にない・橙	良好	3mm以下の褐色・灰褐色、1mm以下の灰質を含む茶色の砂粒	
65	弥生土器	S.E.2	東 東部		縦付帯帯に斜方向のキザ ミ、風化気味、横ナデ	斜方向の横ナデ	にない・黄褐	浅黄	良好	3.5mm以下の褐色、2mm以下の赤褐色、1.5mm以下の黑色光沢、1mm以下の白地、無色透明光沢の砂粒	
66	弥生土器	C.カ M層	東 東部		縦付帯帯、風化古い、 斜方向のキザミ、横ナデ	斜方向のハナ、ナデか	にない・黄褐	灰黄褐	良好	3mm以下の褐色、1mm以下の灰白色、無色透明光沢の砂粒	
67	弥生土器	C.エ M層	東 東部	21.3		ナデ、風化気味	にない・褐	明褐	良好	2mm以下の褐色光沢、透明光沢、残存率10%	
68	弥生土器	S.E.2 D-1 M層	東 東部	23.9	風化古い為調査不明	風化古い為調査不明	程	褐	良好	3.5mm以下の赤色・灰色・褐色 の砂粒	
69	弥生土器	B.-カ M層	東 東部	14.4	風化古い為調査不明	風化古い為調査不明 一部ナデ	にない・褐	良好	4mm以下の青褐色、3mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色光沢の砂粒		
70	弥生土器	B.C-1 M層	東 東部	13.9	風化古い為調査不明、 横方向のハケ	風化古い為調査不明、 横方向のハケ	程	褐	良好	3mm以下の赤褐色・灰褐色 の砂粒	
71	弥生土器	C.-カ M層	東 東部	16.5		風化古い為調査不明	斜ナデ	赤灰	にない・褐	良好	3mm以下の褐色・黑色の砂粒
72	弥生土器	D.-カ M層	東 東部	7.6	底面に窓、柄の圧痕、指 痕、工具によるナデ	残存部なし	にない・褐	灰黄褐	良好	3mm以下の赤褐色、灰白色、 2mm以下の黑色の粒	
73	弥生土器	B.-カ M層	東 東部	7.2	強い横ナデ	風化古い為調査不明 ナデ	にない・褐	にない・褐	良好	3mm以下の赤褐色・褐色・灰色 の砂粒	
74	弥生土器	B.C-エ オカ M-1 V層	東 東部	5.6	風化古い為調査不明	風化古い為調査不明 指痕、ナデか	にない・褐	暗灰	良好	4.5mm以下の褐色光沢、3.5mm以 上の黒褐色、1.7mm以下の黒色 の砂粒	
75	弥生土器	C.-オカ M層	東 東部	6.1	ナデ、縦・横方向のハケ 縦腹	ナデ、風化気味	にない・黄褐	褐	良好	4mm以下の褐色・褐色、2mm以 下の白地光沢、半透明の粒	
76	弥生土器	C.-オカ M-1 V層	東 東部		横方向のナデ、横・斜方 向のハケ、ナデ	横・斜方向のナデ、痕・明褐 色、横方向のハケ、底面	明褐	良好	3mm以下の墨色・灰色・褐色・ 白色光沢、半透明光沢		
77	弥生土器	D.C-1 M層	東 東部	9.8	横・斜・横方向のハケ、 横ナデ、窓・斜方向のハ ク痕	ハケ・工具ナデ接着ナ デ、横・斜方向のハケ	にない・黄褐 程	褐	良好	3mm以下の褐色・灰褐色、2mm以 下の黒色の砂粒	
78	弥生土器	B.-カ M層	小型窓 東部	9.4		横ナデ	斜・横方向のナデ、指痕	にない・黄褐	良好	1.8mm以下の褐色、1.2mm以 下の黒褐色・灰褐色の砂粒	
79	弥生土器	D.-キヤ V層	小型窓 東部	2.5	風化古い為、横ナデか	横ナデ、風化気味	にない・黄褐	褐	良好	2mm以下の赤褐色、1.3mm以下 の褐色光沢、1mm以下の黒褐色 の砂粒	
80	弥生土器	C.-オカ M層	窓 東部		横ナデ、ナデ、ハケの痕	横ナデ上げ	にない・黄褐	灰	良好	1.5mm以下の褐色、4mm以 上の黒褐色、3mm以下の半透明褐色・ 白色光沢、2mm以下の灰褐色の粒	
81	弥生土器	S.E.2	窓 東部	14.4	横ナデ、斜方向のナデ	風化古い為、斜方向のナ デ	にない・程	にない・黄褐	良好	2mm以下の褐色、1.5mm以 下の黒褐色の砂粒	
82	弥生土器	S.E.2	窓 東部	14.6	横ナデ、斜・横方向の工 具痕・ハケ	横ナデ、斜・横方向のハ ク痕	にない・黄褐	褐	良好	2.5mm以下の褐色・白色光沢の砂 粒	
83	弥生土器	B.-キ C.-オカ M層	窓 東部	15.4	横ナデ、ナデ	風化古い為、横ナデ、横方 向のハケ、ナデ	にない・黄褐	褐	良好	2.5mm以下の褐色・白色光沢の砂 粒	
84	弥生土器	S.E.2	小型窓 東部		風化古い為調査不明	風化古い為調査不明	程	褐	良好	2.9mm以下の赤褐色・深灰色・ 青褐色・にない褐色、1.7mm以 下の赤褐色の砂粒	
85	弥生土器	C.-オカ V層	窓 東部		堅着着、風化古ししく削除 不規	風化古ししく削除不規	程	灰	良好	3.8mm以下の褐色・灰褐色・にない 褐色・灰白色・褐色の砂粒	
86	弥生土器	C.-カ V層	小丸丸底盤 窓・底盤	2.6	横・斜・横方向のハケ、 横ナデ、風化	複数によるナデ、痕原流 横・斜方向のハケ、横ナ デ、盆内側面の横ナ デ、風化	横	褐	良好	2.5mm以下の褐色・白色光沢・ 無色透明光沢、1mm以下の灰白色・ 黑色光沢、半透明の砂粒	
87	弥生土器	C.-キ V層	小型窓 東部		ナデ、黒斑、反文化物附 風化気味、鉢脚	ナデ、横・斜方向の工具痕	黒褐	褐	良好	0.5mm以下の黒色・褐色の砂粒	
88	弥生土器	C.-エ V層	窓 東部	4.5	横ナデ、指痕によるナデ 指痕、風化気味	風化古い為、横方向のハ ケ	にない・黄褐	褐	良好	3mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色、 0.5mm以下の半透明褐色、1mm以 下的灰白色・灰褐色のガラス質 の砂粒	
89	弥生土器	C.-キ V層	窓 東部	8.0	縦方向のハケ、横・斜 向のナデ、風化に経年圧 迫による凹	ナデ、風化古い為調査不 明	にない・赤	灰	良好	3mm以下の褐色・灰褐色、2mm以 下の灰褐色のガラス質、1mm以 下の褐色の砂粒	
90	弥生土器	C.-オカ V- S.C.2	窓 東部	7.8	斜ハケ、横・横ナデ、指 痕、風化	横・横のハケ、風化古い 為、工具等の工具痕	明赤褐	暗灰	良好	2.5mm以下の灰褐色・黑色光沢、 4mm以下の灰褐色、1.5mm以下 の赤褐色の砂粒	
91	弥生土器	M層	窓 東部		風化古い為調査不明、 風化古い為調査不明、 ナデか、指痕えとか	にない・程 横	にない・黄褐	灰	良好	2.5mm以下の褐色、1.2mm以下の 灰褐色・乳白色、1mm以下の黒色 の砂粒	
92	土師器	C.-カキ M層	窓 東部	17.0	風化古い為、ハケか	風化気味、ナデ	程	にない・黄褐	良好	1mm以下の灰色・茶色・褐色の 砂粒	
93	土師器	C.-カキ M層	窓 東部		横方向のナデ	横方向のナデ	にない・黄褐	黄褐	良好	4mm以下のにない褐色・2mm以 下の灰褐色・暗褐色・褐色、2mm 以下の黑色光沢の砂粒	
94	土師器	D.-オ V層	窓 東部	5.6	風化気味、工具の痕跡、 ナデ、風化古い為、鉢脚	ナデ、風化古い為、工具等 の工具痕跡	にない・黄褐	灰	良好	2mm以下の灰褐色・半透明光沢、 1mm以下の黑色光沢、黑色光沢、 1.5mm以下の褐色の砂粒	
95	土師器	A.-区 M層	窓 東部	8.5	風化気味、ナデ	丁寧なナデ	程	褐	良好	1.2mm以下のにない褐色・黑色 の砂粒	
96	弥生土器	C.-オカ M層	窓 東部	4.4	丁寧なハツミガキ、黒斑	ナデ、羽離が多い	程	黑	良好	3mm以下の赤色・褐色・黑色 の砂粒	

## 5 古代以降の遺構

### (1) 古代の土坑

古代の土坑は、調査区の中央部（C～オ・カグリッド）で1基検出された。長軸210cm・短軸202cmのほぼ円形を呈する。断面形は摺鉢状を呈し、底面は長軸95cm・短軸90cmのほぼ平坦な円形を呈する。検出面からの深さは72cmを測るが、埋土の状況から当時の生活面はさらに上層にあり、もっと深い土坑であったと考えられる。出土遺物には弥生土器等があるが流れ込みのため一括資料とした。埋土には高原スコリアが混入し、特に第3層はスコリアの堆積層となっていることからこの土坑の時期を古代と判断した。しかし、土坑内出土の遺物量が少なく流れ込みのため遺構の時期は慎重を要する。埋土4層から炭化材が出土したが、放射性炭素年代測定によると<sup>13</sup>Cの年代が与えられた。

また、IV層と溝状遺構埋土からは古代の布目痕土器も出土している。



- 1 層 暗オリーブ褐色土 2.5Y 3/3  
高原スコリア混入。縮まっている。下部は高原スコリアが少ない。炭化物が所々に混入している。
- 2 層 黒色土 10YR 2/1  
高原スコリア混入。縮まりはゆるい。1層に比べ黒い。
- 3 層 黒褐色土 10YR 2/2  
高原スコリア層。縮まりはややゆるい。褐色・白色の鉱石が混入している。
- 4 層 黒色土 7.5YR 2/1  
高原スコリアわずかに混入。大きな炭化物が多い。縮まりはややゆるい。

第32図 古代以降の遺構分布図・土坑実測図

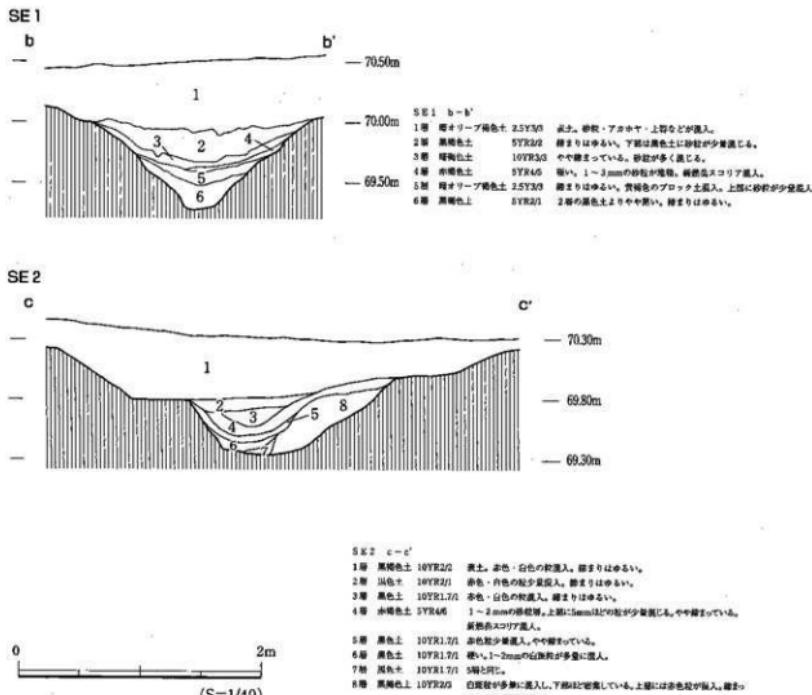
## (2) 中世・近世の溝状遺構

溝状遺構は、調査区の中央部から北部にかけて表土を除去すると3条検出された。いずれも西から東に流れていたと思われるが、背後の丘陵地帯には溜池などの水源がないため雨等による流水が主であったと思われる。時期は中世1条と近世2条である。

1号溝状遺構(SE1)は西から東にほぼ直線的に流れ、長さ12.5m・幅2.75m・検出面からの深さ約0.75mを測る。埋土中に1717年噴出の霧島新燃保輕石(新燃岳スコリア)が堆積していることから近世の溝状遺構と思われる。遺物は弥生土器等が出土している。

2号溝状遺構(SE2)は同じく西から東へやや曲がりながら流れ、長さ16m・幅3.75m・検出面からの深さ約0.9mを測る。下流部には段差の部分がある。埋土中に1471年噴出の桜島文明軽石が堆積していることから中世の溝状遺構と思われる。遺物は弥生土器・古代の布目痕土器等が出土している。

3号溝状遺構(SE3)は直線的に西から東へ流れ、長さ6m・幅1.4mを測る。近世の溝である。調査の都合上、溝の分布を記録するのみで終わった。



第33図 溝状遺構実測図

### 第3節 C区の調査

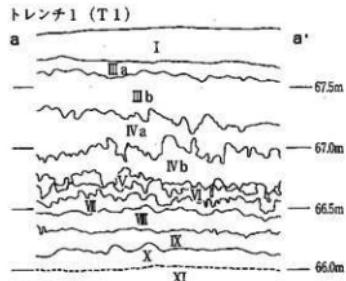
#### 1 C区の層序

C区の基本層序は右のとおりであるが、C区の北側と西側は表土を除去した時点でⅢa層黒色土が現れ、それ以上の地層は削平されていたが、東側と南側の一部にはアカホヤ火山灰の二次堆積層が残っていた。旧地形は北東から南西の谷に向かって緩やかに傾斜しているものと思われる。各層の特徴を簡単に示すと、I層は耕作土で柔らかい。II層はアカホヤ火山灰の二次堆積層である。III層は縄文早期の包含層で、桜島バミスでa・b層に分けた。IIIa層は黒色土でとても硬く、微細なガラス質・白色粒・黄色粒が多く混入している。IIIb層は黒褐色土で桜島薩摩輕石（桜島バミス）や炭化物粒を含み、微細なガラス質・白色粒・黄色粒も少量混入している。IV層は霧島小林輕石を含む層で、土色の違いによりa・b層に分けた。IVa層は軟質な暗褐色土にブロック状に霧島小林輕石を含む硬質土が混入しており、微細なガラス質・白色粒・黄色粒を含んでいる。細石刃文化期の包含層である。

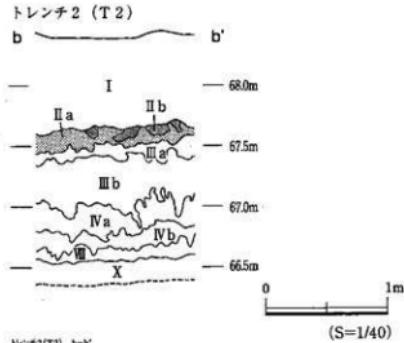
IVb層は黒褐色土でIVa層と同様であるが黄色粒は含まれていない。

V層は暗褐色土で柔らかい。VI層は褐色土で小礫を含む層である。VII層は褐色土で上層より柔らかくシラス・小礫が混入している。VIII層は粘質の褐色土である。IX層は褐色土で上層より硬いシラスである。X層はぶい黄褐色土でシラスである。XI層は疊層である。

I 層	表土（耕作土）
II 層	アカホヤ火山灰二次堆積層
IIIa層	黒色土
IIIb層	黒褐色土
IVa層	暗褐色土
IVb層	黒褐色土
V 層	暗褐色土
VI 層	褐色土
VII 層	褐色土
VIII 層	褐色土
IX 層	褐色土
X 層	ぶい黄褐色土
XI 層	疊層



ハッチ1(T1) a'-a'  
I 層 表土  
II 層 黒色土 7.5YR3/2 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。  
III 層 黒褐色土 7.5YR3/2 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。  
IV 層 暗褐色土 7.5YR3/3 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
V 層 黑褐色土 7.5YR3/3 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
VI 层 褐色土 7.5YR4/2 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
VII 层 褐色土 7.5YR4/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
VIII 层 褐色土 10YR4/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
IX 层 褐色土 10YR4/6 シラス・土層と河川堆積。  
X 层 ぶい黄褐色土 10YR5/4 シラス・土層と河川堆積。  
XI 层 疋層



ハッチ2(T2) b'-b'  
I 層 表土  
IIa 層 黑褐色土 10YR4/4 黒褐色土。アカホヤ火山灰二大山灰。  
IIb 層 黑褐色土 10YR4/6 硬く密っている。アカホヤ火山灰のワックス。  
IIIa 層 黑褐色土 10YR3/2 硬く密っている。アカホヤ火山灰のワックス。  
IVa 層 暗褐色土 10YR3/4 硬く密している。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
IVb 层 黑褐色土 10YR3/2 硬く密している。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
V 层 黑褐色土 10YR3/4 硬く密している。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
VI 层 ぶい黄褐色土 10YR5/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
VII 层 ぶい黄褐色土 10YR5/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
VIII 层 ぶい黄褐色土 10YR5/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
IX 层 ぶい黄褐色土 10YR5/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。  
X 层 ぶい黄褐色土 10YR5/4 白色・白色・オフホワイト質粒多く含む。白色・白色・ガラス質粒多く含む。

第34図 土層断面図

## 2 細石刃文化期の遺構と遺物

### (1) 集石遺構

集石遺構は、調査区の中央部と南端でIV a層から3基検出された。いずれも掘込みではなく所々石が集中するタイプである。遺物はいずれの集石遺構からも出土しなかった。

S I 1 (Bーカグリッド) は少量の石が赤変しているが、中心部の変色土ではなく炭化物もほとんど混入していない。底面はIV b層である。180cm×170cmの範囲で石が集中している。石数は262個である。

S I 2 (Cーオグリッド) はほとんどの石が赤変しており破断した石が多い。石の範囲は170cm×130cmで、石数は81個である。

S I 3 (Bーコグリッド) は少量の石が赤変しており、集石遺構周辺の明褐色土に比して黒色に変色している範囲 (134cm×133cm) があり炭化物も多い。石の範囲は180cm×135cmで、石数は108個である。

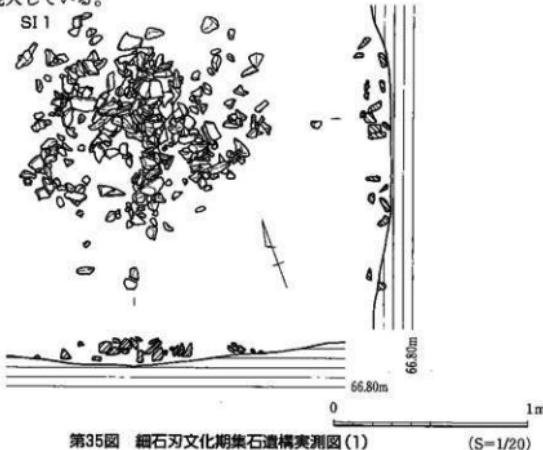
### (2) 土坑

土坑は、調査区の中央部でIV a層から3基検出された。

S C 1 (Cーエグリッド) は、平面が円形プランで皿状の断面を呈する。埋土はIII b層の黒褐色土で遺物はなく、底面は検出面と同じIV a層である。長軸59cm・短軸50cm・検出面からの深さ10cmを測る。

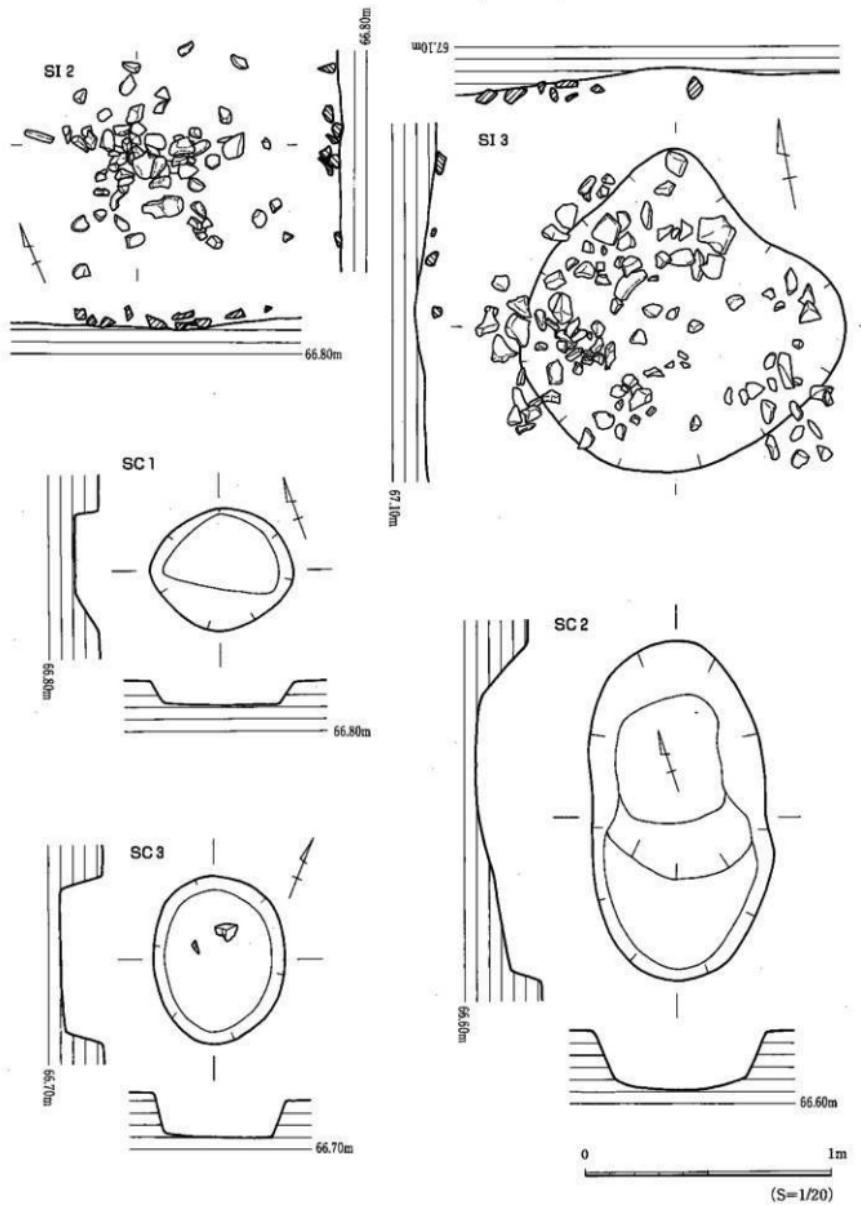
S C 2 (Dーエグリッド・北) はIV a層の上部面で検出された。底面は検出面と同じIV a層である。平面は稍円形プランで底面は2段になっている。長軸139cm・短軸71cm・検出面からの上段の深さ17cm・下段の深さ24cmを測る。埋土には炭化物粒が混入している。

S C 3 (Dーエグリッド・南) はIV a層の上部面で検出された。平面は円形プランで箱状の断面を呈する。長軸69cm・短軸54cm・検出面からの深さ17cmを測る。底面から焼け石が2点出土した。埋土には炭化物粒が混入している。

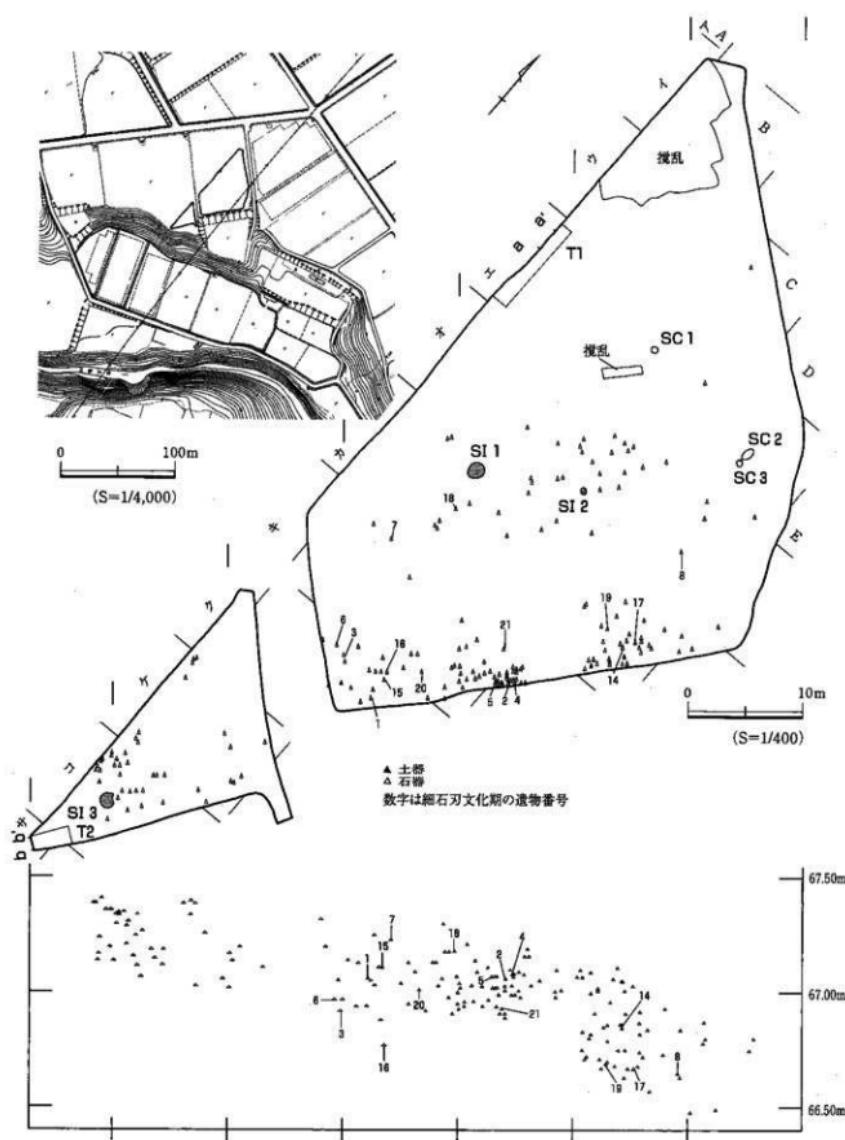


第35図 細石刃文化期集石遺構実測図(1)

(S=1/20)



第36図 細石刃文化期集石遺構実測図(2)・土坑実測図



第37図 細石刃文化期遺構・遺物分布図 [IV層]

### (3) 遺物

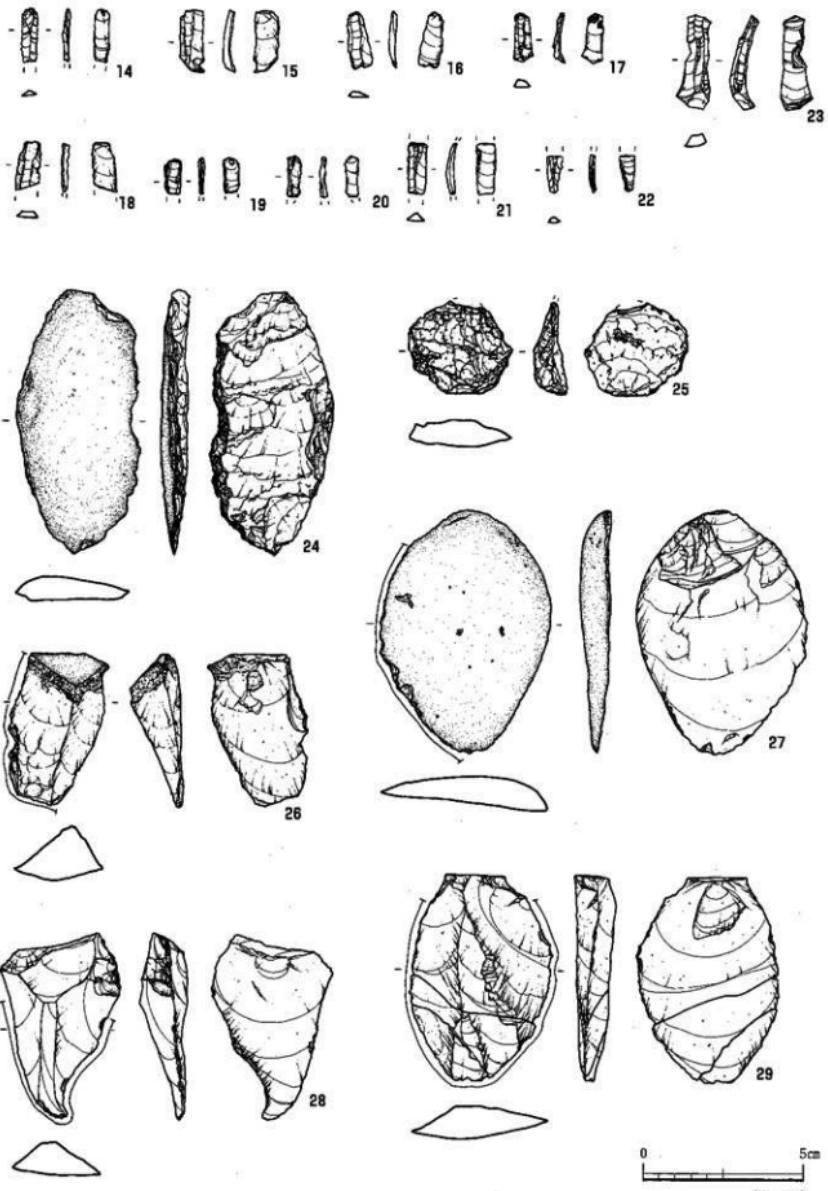
C区のIV層は小林軽石を含む層であるが、自然堆積の状態は残存せず上下に激しく移動している層である。また、調査区も谷への傾斜地になっていることから遺物の移動もあるものと思われる。遺物の出土状況は第37図に示した。

石器はIV a層から185点出土した。1～13は細石核である。III a層出土が1点、III b層出土が4点含まれるが（繩文早期層）、土層の乱れや遺物の移動を考慮して細石刃文化期の遺物として取り扱った。本遺跡の細石核は野岳型もしくはそれに類似するタイプで占められている。14～23は細石刃である。III b層出土が2点含まれる。細石核の石材は黒曜石のみであるが、細石刃には黒曜石の他に砂岩1点と頁岩1点が含まれる。なかでも23は大きいものである。24・25はスクレイパーである。26～36は使用痕剥片である。石材は頁岩が多いが黒曜石・流紋岩・砂岩なども含まれている。37は二次加工剥片である。その他、剥片・碎片が148点出土している。石材は、黒曜石111点(60.0%)、頁岩40点(21.6%)、流紋岩15点(8.1%)、砂岩12点(6.5%)、チャート7点(3.8%)である。

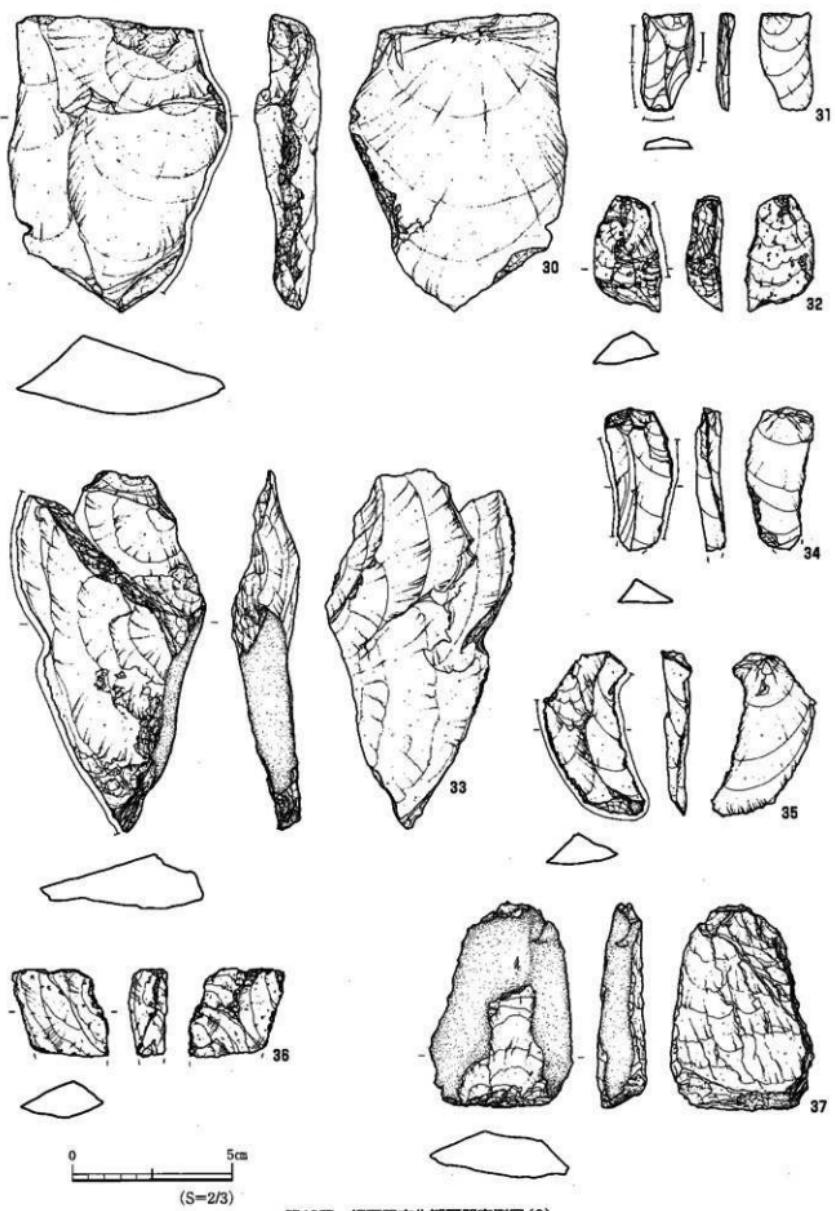
土器はIV a層から3点出土している。実測図は載せていないがいずれも細片である。1点の表面には貝殻条痕文が見られる。



第38図 細石刃文化期石器実測図(1)



第39圖 細石刃文化期石器實測圖(2)



第40圖 細石刃文化期石器實測圖(3)

第13表 下星野遺跡C区 細石刃文化期石器計測表

図面号	種別	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	細石核	IV a層・Cク	1.80	1.30	1.20	3.0	黒曜石	
2	細石核	IV a層・Dキ	2.00	2.10	1.00	3.0	黒曜石	打面調整・野岳型
3	細石核	IV a層・Bク	1.50	1.15	1.55	3.0	黒曜石	打面調整・野岳型
4	細石核	IV a層・Dキ	1.71	1.31	1.05	2.1	黒曜石	打面調整
5	細石核	IV a層・Dキ	1.60	1.50	1.70	2.4	黒曜石	
6	細石核	IV a層・Bク	1.95	1.25	1.70	3.6	黒曜石	打面調整
7	細石核	IV a層・Bキ	2.50	1.65	1.50	5.8	黒曜石	
8	細石核	IV a層・Dオ	2.10	0.95	2.40	4.9	黒曜石	
9	細石核	III b層・Bオ	1.55	1.50	1.30	2.3	黒曜石	
10	細石核	III b層・Bコ	1.10	1.40	1.00	1.8	黒曜石	
11	細石核	III b層・Dエ	1.90	1.25	1.05	2.5	黒曜石	
12	細石核	III b層・Dオ	2.50	2.40	1.45	6.9	黒曜石	
13	細石核	III a層・Bオ	2.10	2.10	1.35	5.3	黒曜石	
14	細石刃	IV a層・Dカ	1.66	0.48	0.15	0.1	黒曜石	
15	細石刃	IV a層・Cク	1.90	0.75	0.24	0.4	砂岩	
16	細石刃	IV a層・Cク	1.75	0.75	0.17	0.1	黒曜石	
17	細石刃	IV a層・Dカ	1.48	0.58	0.23	0.1	黒曜石	
18	細石刃	IV a層・Bカ	1.46	0.67	0.18	0.2	頁岩	
19	細石刃	IV a層・Dカ	1.08	0.90	1.67	0.1	黒曜石	打面調整痕
20	細石刃	IV a層・Cキ	1.23	0.40	0.15	0.1	黒曜石	
21	細石刃	IV a層・Cキ	1.46	0.54	0.23	0.1	黒曜石	
22	細石刃	IV b層・Cキ	1.12	0.80	1.78	0.1	黒曜石	使用痕
23	細石刃	IV b層・Bク	2.85	0.97	0.41	1.0	黒曜石	
24	スクレイパー	IV a層・Bカ	8.10	3.62	0.82	26.1	頁岩	
25	スクレイパー	IV a層・Dカ	2.85	3.15	0.86	6.5	黒曜石	不純物が多い
26	使用痕剥片	IV a層・Dカ	4.70	2.80	1.74	16.6	頁岩	
27	使用痕剥片	IV a層・Cオ	7.45	5.20	0.95	36.0	頁岩	
28	使用痕剥片	IV a層・Bコ	5.70	3.60	1.45	20.8	頁岩	
29	使用痕剥片	IV a層・Cク	6.30	4.25	1.10	26.4	頁岩	
30	使用痕剥片	IV a層・Dカ	8.95	6.50	2.13	106.6	砂岩	
31	使用痕剥片	IV a層・Cウ	3.00	1.55	0.35	2.2	頁岩	
32	使用痕剥片	IV a層・Bケ	3.51	2.08	9.03	5.9	黒曜石	
33	使用痕剥片	IV a層・Cク	10.95	5.45	1.74	83.5	流紋岩	刃部調整後使用痕
34	使用痕剥片	IV a層・Bケ	4.35	1.90	0.80	6.6	頁岩	下位の類部欠損
35	使用痕剥片	IV a層・Cク	5.05	2.24	0.81	8.9	頁岩	
36	使用痕剥片	IV a層・Cキ	2.70	2.50	1.16	7.4	黒曜石	不純物が多い
37	二次加工剥片	IV a層・Bオ	6.30	4.30	2.17	41.7	頁岩	

### 3 繩文早期の遺構と遺物

#### (1) 集石遺構

集石遺構は、調査区の北東部と南部でⅢ a層から2基・Ⅲ b層から8基検出された。どちらも谷へ傾斜し始めた場所である。S I 6の他は全て円形の掘込みを持つタイプで石が密集している。

S I 4は、石の間に炭化物が混入し埋土は黒く変色している。遺物はなし。

S I 5は、礫群の中から検出され、周りには多数の礫が散在していた。

S I 6は、所々石が集中している集石である。掘込みはなく遺物もなし。

S I 7は、遺物はなし。

S I 8は、遺物はなし。下部の石は赤変していない。

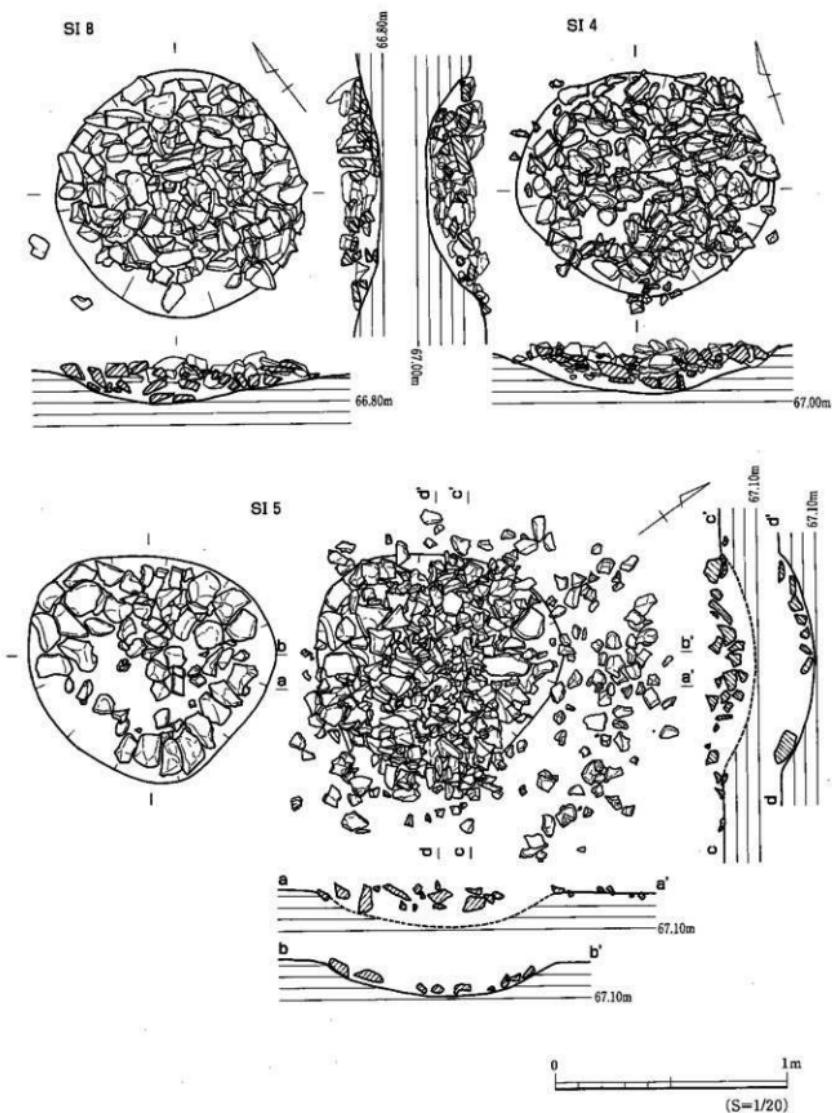
S I 9は、掘込みの底部に敷石を持つものである。底面には多くの炭化物が混じり黑色土が堆積している。遺物はなし。

S I 10は、掘込みの底部に敷石を持つものである。遺物はなし。

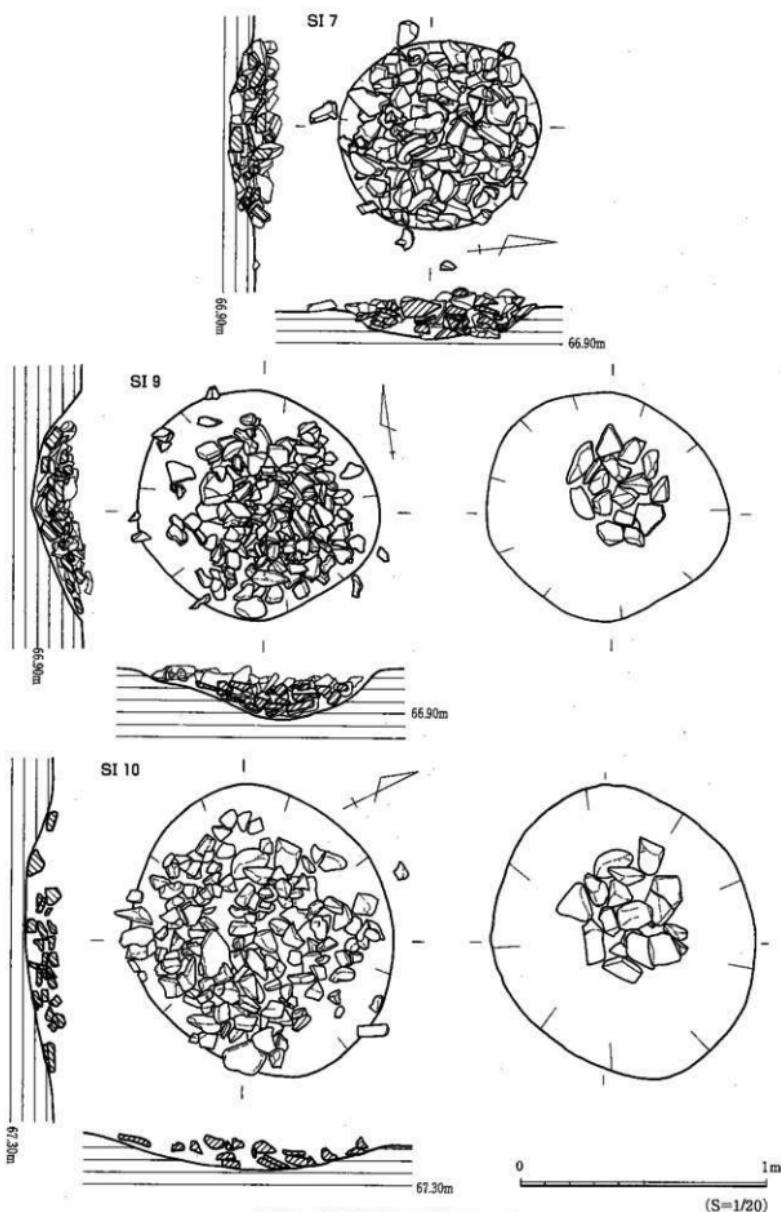
S I 11は、掘込みの底部に敷石を持つものである。遺物はなし。

S I 12は、掘込みの底部に敷石を持つものである。遺物はなし。

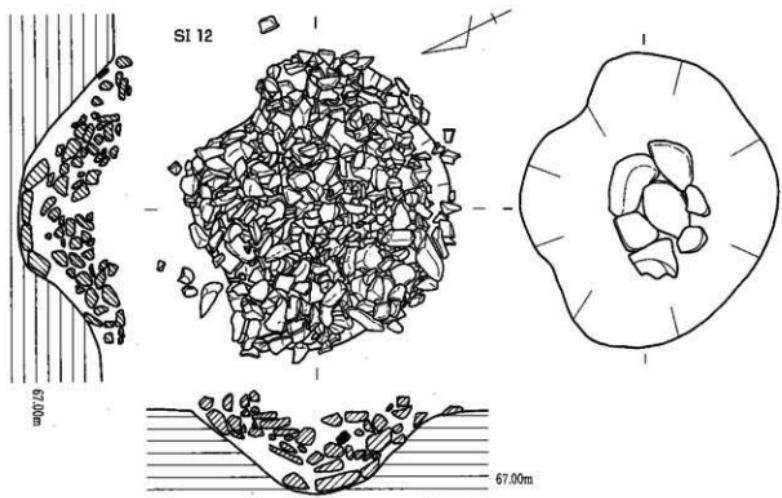
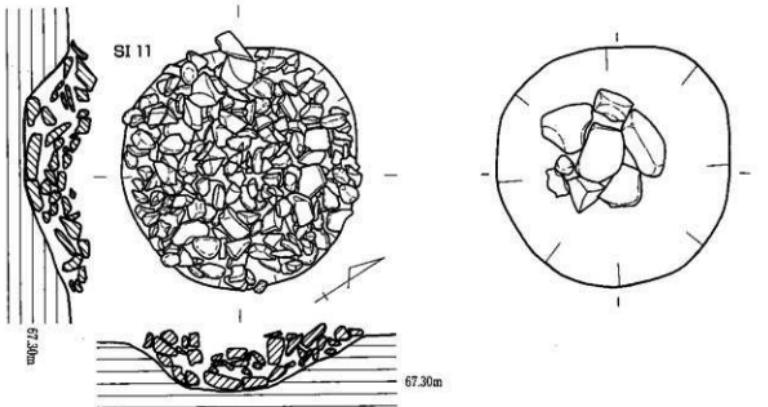
S I 13は、石はあまり密集していない。中心部は炭化物が混じり埋土は黒く固くなっていた。遺物はなし。



第41図 繩文早期集石遺構実測図(1)

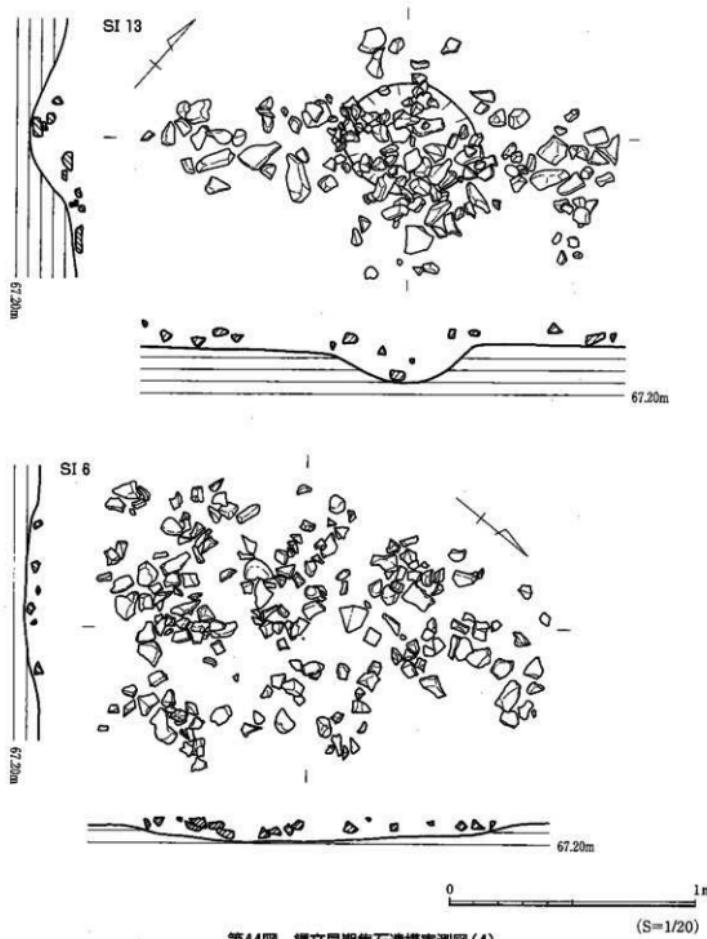


第42図 縄文早期集石遺構実測図(2)



0 1m  
(S=1/20)

第43図 繩文早期集石遺構実測図(3)



第44図 繩文早期集石造構実測図(4)

(S=1/20)

第14表 下星野遺跡C区 繩文早期集石造構計測表

検出位置・層	縄の範囲(cm)	土塊の大きさ(cm)	土坑の深さ(cm)	敷石の有無	石数	備考
SI 4 D-エ・Ⅲa層	120×105	112×97	23	なし	約250	
SI 5 D-エ・Ⅲa層	180×155	107×98	14	あり	444+a	敷石は環状に敷かれている
SI 6 D-エ・Ⅲb層	185×151	土塊なし	土坑なし	なし	約188	
SI 7 C-オ・Ⅲb層	95×85	83×77	10	なし	約160	
SI 8 D-オ・Ⅲb層	110×110	107×107	12	なし	148+a	
SI 9 D-オ・Ⅲb層	105×97	100×94	21	あり	約295	敷石は底面の中心部に16個
SI 10 D-オ・Ⅲb層	110×110	117×109	12	あり	約280	敷石は底面の中心部に17個
SI 11 B-ケ・Ⅲb層	109×98	99×96	18	あり	約490	敷石は底面の中心部に8個
SI 12 B-ケ・Ⅲb層	130×120	121×106	35	あり	約210	敷石は底面の中心部に7個
SI 13 B-コ・Ⅲb層	220×240	52×46	15	なし	196	

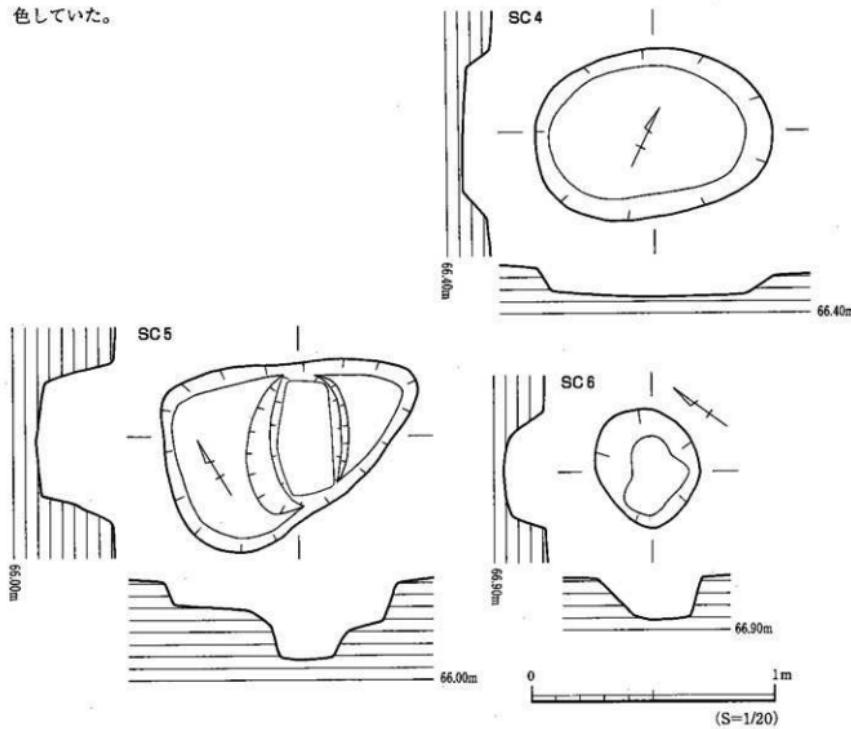
## (2) 土坑

土坑は、調査区の中央部東端でⅢ a層から1基、Ⅲ b層から2基検出された。いずれの土坑からも遺物の出土はなかった。

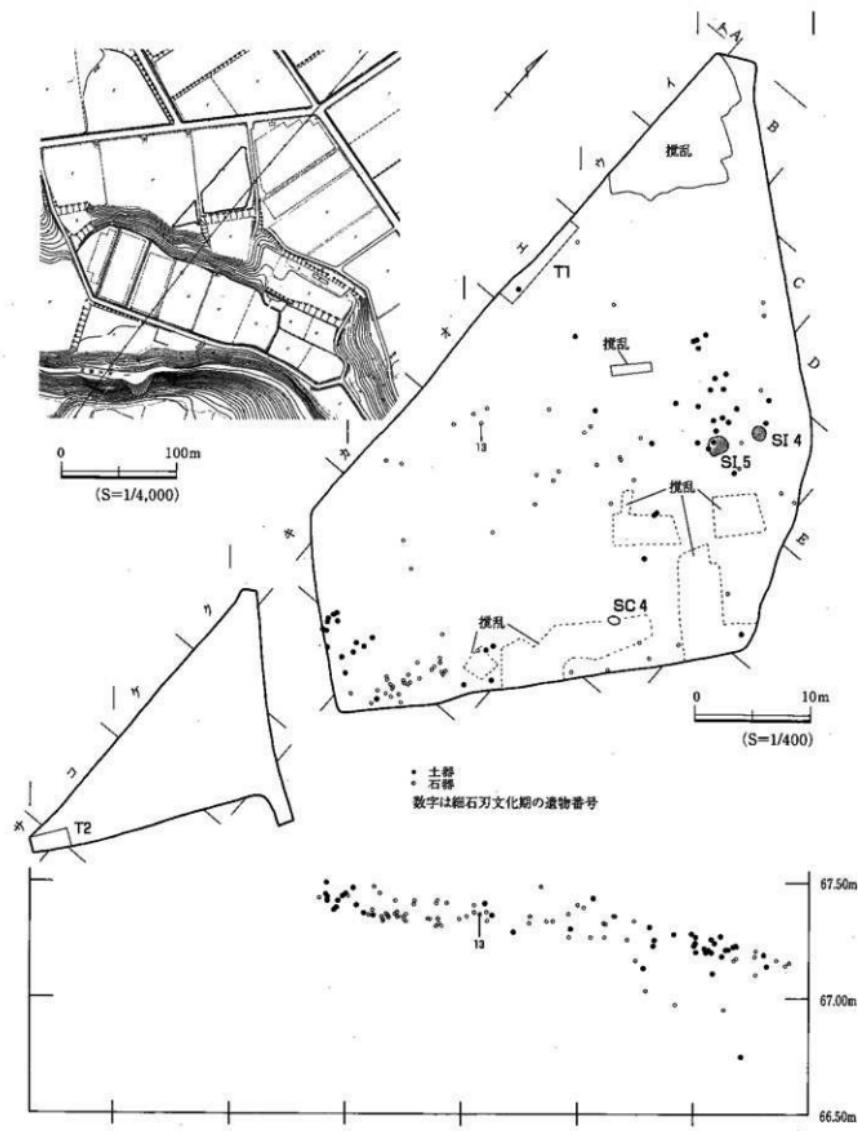
SC 4 (D-カグリッド・南)は、Ⅲ a層で検出された。平面は橢円形プランで皿状の断面を呈する。埋土は粒子状のさらさらとした黒色土で微細な炭化物粒が混入している。長軸97cm・短軸69cm・検出面からの深さ10cmを測る。

SC 5 (D-カグリッド・北)は、Ⅲ b層上部面で検出された。平面は隅丸三角形プランで断面は3段の平坦部を持つ。埋土は黄色粒を多く含む硬い土である。長軸95cm・短軸66cm・検出面から上段の平坦面までの深さ11cm・中段までの深さ18cm・底面までの深さ32cmを測る。

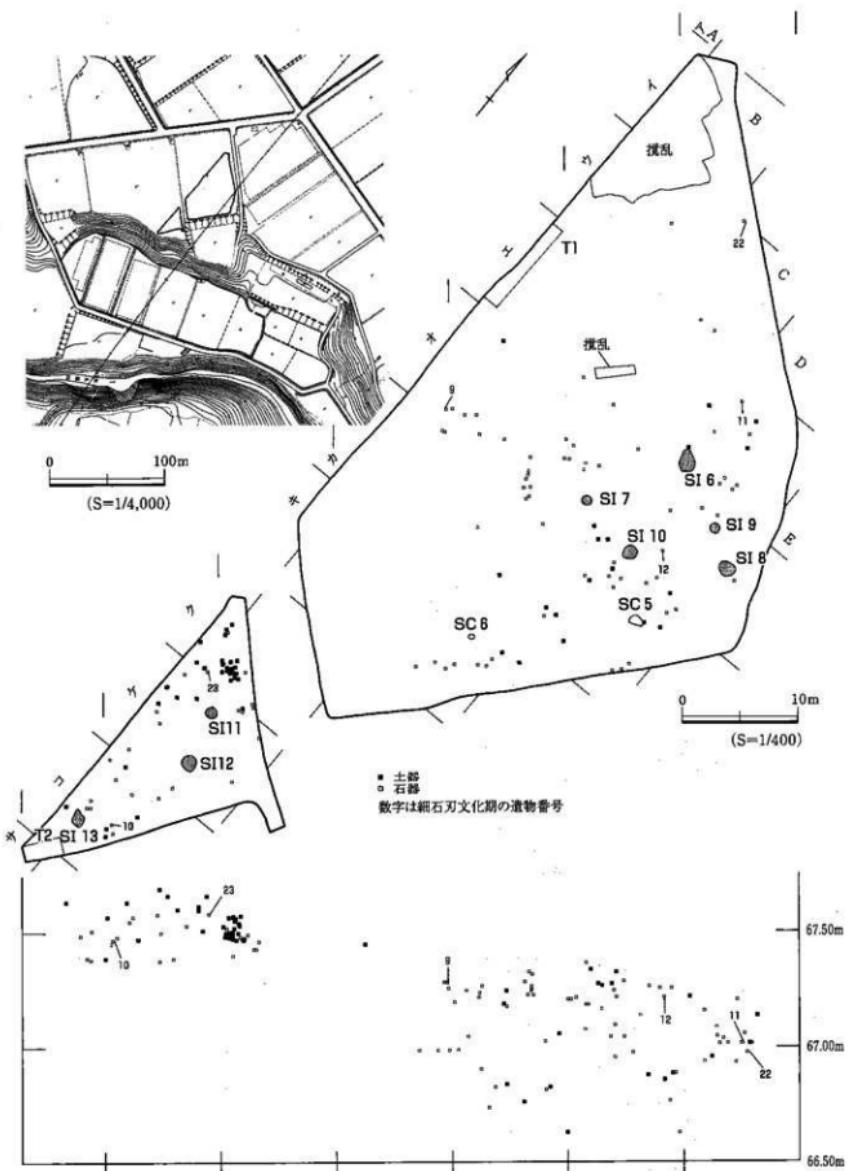
SC 6 (C-キグリッド)は、Ⅲ b層で検出された。平面は円形プランで断面は皿状を呈し、底面はⅣ a層に達する。埋土は大きい粒子状のさらさらとした黒色土である。長軸49cm・短軸43cm・検出面からの深さ17cmを測る。炭化物なし。掘込みの周辺部は黄色に変色していた。



第45図 純文早期土坑実測図



第46図 摺文早期遺構・遺物分布図(1)【Ⅲa層】



第47図 縄文早期遺構・遺物分布図(2)【IIIb層】

### (3) 土器

土器は、Ⅲa層とⅢb層から出土した。いずれも縄文早期の土器のためⅢ層として報告するが、土層が不安定なために遺物も移動していることが予想される。文様や形態から4類に分類した。

#### I類 貝殻条痕文を施すもの（1～5）。

1はⅢa層とⅢb層から出土している。口唇部に連続の刻みが施され口縁部には連続の押圧文が施される。2は口唇部に連続の刻みが施してあるが風化のため不明瞭で確認できない。3は口縁部まで貝殻条痕文が施されている。4は斜方向の貝殻条痕文である。5は綫方向の貝殻刺突文が横方向にめぐる。

#### II類 貝殻刺突文を施すもの（6～8）。

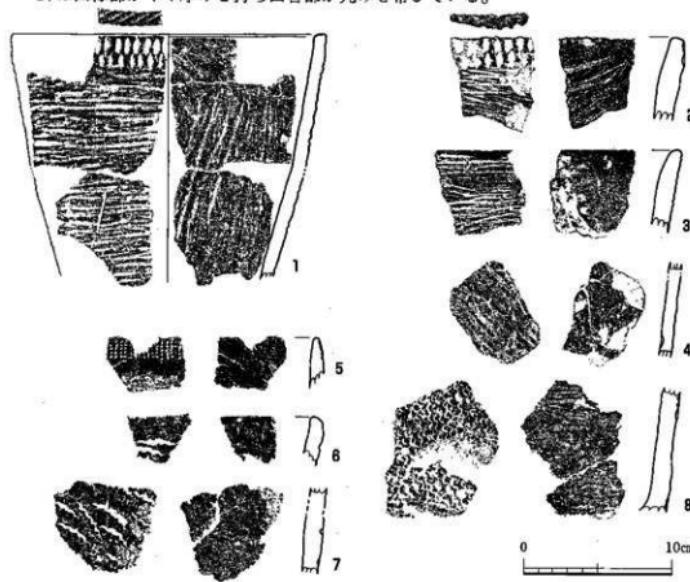
6は横方向の貝殻刺突文が施されやや内湾する。7は斜方向の貝殻刺突文が施される。8は底部付近の脛部で、綫方向の貝殻刺突文が施され、底部付近には綫方向の刺突文が横方向にめぐる。

#### III類 沈線文と撲糸文と刺突文を施すもの（9～16）。

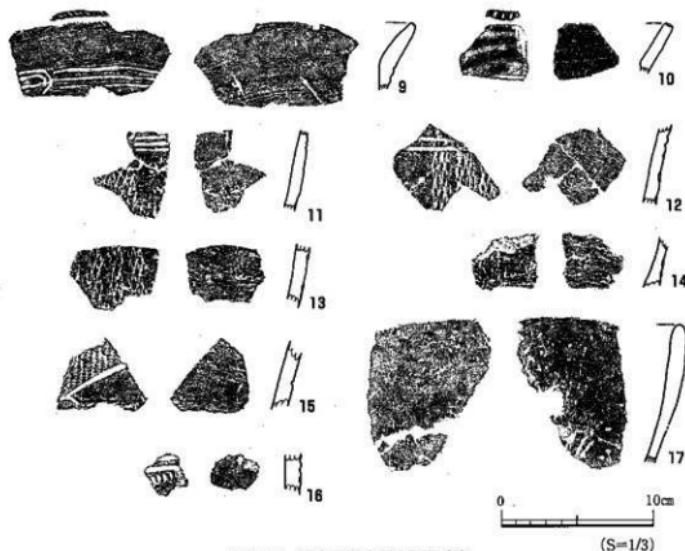
9は口唇部に刻みを持ち3条の沈線文が施してある。10は口唇部に刻みが施され丁寧にナデられている。11・12・13は3条の沈線文の下位に網目状の撲糸文が施される。15は縄文と沈線文が施してある。16は沈線文と刺突文が施してある。

#### IV類 土器表面に文様のないもの（17）。

17は口縁部がやや厚みを持ち口唇部が丸みを帯びている。



第48図 縄文早期土器実測図(1)



第49図 縄文早期土器実測図(2)

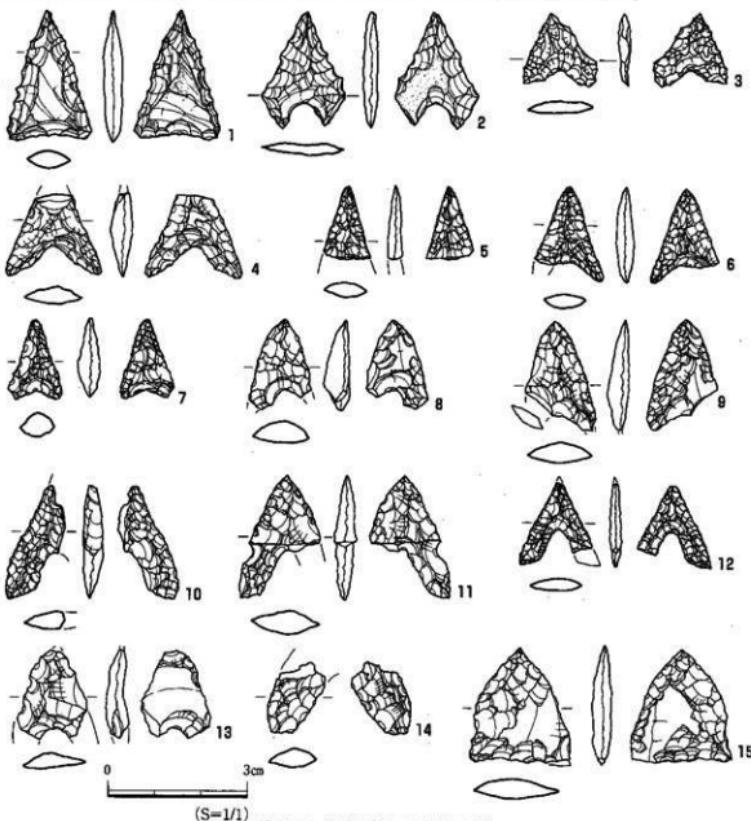
第15表 下星野遺跡C区 縄文早期土器観察表

図番号	種別	出土位置	器種・部位	文様及び測量		色調	焼成	胎土	備考
				外 面	内 面				
1	縄文土器	II-a層 A-1-B-1 D-1-D-2	深 体 口縁-側面	口唇部の直線刻み、横方向の 直線押出し、横方向の貝殻条痕 文、隔壁	新方向の貝殻条痕文	にぶい黄褐色 黒褐色	良好	3mm以下の乳白色、2mm以下の 白褐色 褐色、黄褐色、黑色光沢、透明光 沢の粒	前半式
2	縄文土器	III-b層 D-2カ	深 体 口縁部	ナデ、ナデの後横方向の直線押 出し、横方向の貝殻条痕文	新方向のナデ	にぶい黄褐色 褐色	良好	2mm以下の乳白色、0.8mm以下の 白褐色 白色光沢	前半式
3	縄文土器	III-c層 C-オ	深 体 口縁部	横方向のミヨリ、横方向の貝殻 条痕文	ナデ	にぶい黄褐色	良好	2mm以下のガラス質・乳白色の 砂粒	
4	縄文土器	III-d層 D-オ	深 体 肩	横方向の条痕文	ナデ	にぶい黄褐色	良好	3mm以下の乳白色、1.2mm以下の 白褐色、1mm以下のガラス質の 砂粒	前半式
5	縄文土器	III-e層 D-カ	深 体 口縁部	ナデ、ナデの後横方向に継びの 貝殻条痕条文	ナデ	浅黄褐色 黒褐色	良好	3mm以下の白色透明、1mm以下の 無色透明光沢、黑色光沢、浅黃 色光沢	前半式
6	縄文土器	III-f層 D-ク	深 体 口縁部	ナデ、ナデの後横方向の貝殻条 痕文	ナデ	黄褐色	良好	2mm以下の白色・灰色・半透明 光沢・金色の粒	下鉄峰式
7	縄文土器	III-g層 D-カ	深 体 肩	横方向のナデ、貝殻条痕条文	横ナデ	にぶい黄褐色 褐色	良好	2mm以下の白色・黄褐色の粒が 多い	下鉄峰式
8	縄文土器	III-h層 B-ク	深 体 肩-底脚部	貝殻条痕条文、刺突文	横ナデ	明赤褐色 褐色	良好	2mm以下の白色透明の粒	下鉄峰式
9	縄文土器	III-i層 A-ケ	深 体 口縁-側面	U字形に削り、横・新方向のナ デ	横ナデ	にぶい黄褐色	良好	1mm以下の乳白色・黑色・黒色 無/神式 光沢の粒	
10	縄文土器	III-j層 B-ク	深 体 肩	3条の沈線文、横ナデ、両面に 丁寧なナデ、粗い横ナデ	横ナデ	にぶい黄褐色 灰褐色	良好	1mm以下の赤茶色の粒と黒色光 沢の粒	無/神式 直柱状の粒
11	縄文土器	III-k層 B-ク	深 体 肩	横方向の擦突文、横方向の2条 の沈線文、縦方向の網目状擦突 文	丁寧なナデ	浅黄褐色	良好	2mm以下の褐色・ガラス質の粒	無/神式
12	縄文土器	III-l層 A-ク	深 体 肩	横方向の網目状擦突文	丁寧な横ナデ	明黄褐色 褐色	良好	2mm以下の褐色・ガラス質の粒	無/神式
13	縄文土器	III-m層 B-コ	深 体 肩	横方向の網目状擦突文、風化 痕	横ナデ	にぶい黄褐色	良好	3mm以下のガラス質の粒、2mm 以下の褐色	無/神式 直柱状の粒
14	縄文土器	III-n層 B-ク	深 体 口縁-側面	口唇部に削り、丁寧なナデ、沈 线文、付着物	丁寧なナデ	浅黄褐色 暗褐色	良好	2mm以下の柱状透明光沢・乳白 色の粒	無/神式
15	縄文土器	III-o層 B-ケ	深 体 肩	陶文、ナデ、沈線文、ナデ、鉛 溶融	横ナデ	にぶい黄褐色	良好	1mm以下のガラス質・黑色・淡 褐色	無/神式
16	縄文土器	III-p層 B-ク	深 体 肩	2条の沈線文、刺突列点文、ナ デ	横ナデ	褐色	良好	金色に光る微細な粒、細かな黒い 粒、灰白色的微細な粒	無/神式
17	縄文土器	III-q層 D-エ	深 体 口縁	丁寧なナデ、保有者	丁寧なナデ、指痕あり	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	良好 良好	2mm以下のガラス質・乳白色的 砂粒	

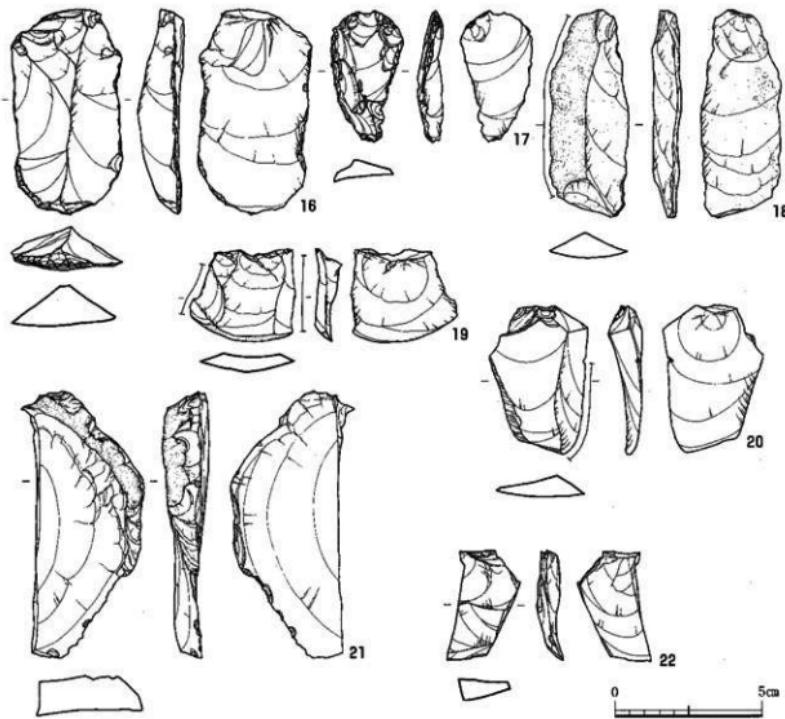
#### (4) 石器

石器は、Ⅲ a 層から 114 点、Ⅲ b 層から 142 点、Ⅳ a 層から 1 点（石鎌）出土した。Ⅳ a 層出土の石鎌はⅣ a 層とⅢ b 層の境界が乱れていることから縄文早期の石器として報告した。

石鎌（1～15）は、Ⅲ a 層から 10 点、Ⅲ b 層から 4 点、Ⅳ a 層から 1 点出土した。石材は砂岩が 1 点、黒曜石が 3 点、他はチャートである。全体の形状は二等辺三角形を呈する無茎鎌で、基部の抉りが浅い凹基無茎鎌（1～9・13）、抉りが深い凹基無茎鎌（10～12・14）、抉りのない平基無茎鎌（15）に分類できる。1 は局部磨製石鎌、4 はⅣ a 層出土の砂岩の石鎌、6 は経島産の黒曜石でつくられている。11 は節理面を使用している石鎌である。14 は大型の石鎌である。石鎌以外の石器は、スクレイパー（16・17）、使用痕剥片（18・19・20）、二次加工剥片（21）、剥片（22）が出土している。石材は、チャートがⅢ a 層のみ（33 点）の出土で、黒曜石は、Ⅳ a 層（29 点）・Ⅲ b 層（28 点）ほど出土している。その他は、頁岩と流紋岩でほとんど占められ、砂岩は僅かである。



第50図 縄文早期石器実測図(1)



第51図 繩文早期石器実測図(2)

第16表 下星野遺跡C区 繩文早期石器計測表

図番号	種別	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	石鎌	B-才・Ⅲa層	2.75	1.79	0.37	1.6	頁岩	
2	石鎌	D-才・Ⅲa層	1.50	1.80	0.30	0.9	チャート	
3	石鎌	D-キ・Ⅲa層	1.50	1.59	0.27	0.4	チャート	
4	石鎌	D-カ・N-a層	1.8+ε	2.10	0.50	1.0	砂岩	欠損
5	石鎌	C-カ・Ⅲb層	1.5+ε	1.0+ε	0.30	0.4	チャート	欠損
6	石鎌	D-オ・Ⅲb層	2.00	1.5+ε	0.30	0.7	黒曜石	欠損・縦島産・折断による成形
7	石鎌	B-オ・Ⅲa層	1.70	1.20	0.50	0.6	黒曜石	
8	石鎌	B-コ・Ⅲb層	1.9+ε	1.3+ε	0.60	1.0	チャート	欠損
9	石鎌	B-エ・Ⅲa層	2.4+ε	1.5+ε	0.45	1.2	チャート	欠損
10	石鎌	C-キ・Ⅲa層	2.4+ε	1.3+ε	0.40	0.9	チャート	欠損
11	石鎌	C-キ・Ⅲa層	2.60	1.7+ε	0.50	1.1	チャート	欠損・節理面あり
12	石鎌	C-カ・Ⅲa層	1.90	1.50	0.30	0.4	チャート	欠損
13	石鎌	B-ケ・Ⅲb層	1.9+ε	1.6+ε	0.50	1.1	チャート	欠損
14	石鎌	C-カ・Ⅲa層	1.5+ε	1.2+ε	0.40	0.7	黒曜石	欠損・大型の石鎌と思われる
15	石鎌	C-キ・Ⅲa層	2.50	2.20	0.40	1.8	チャート	欠損
16	スクレイパー	C-カ・Ⅲb層	6.80	3.60	1.35	35.9	流紋岩	
17	スクレイバー	B-オ・Ⅲb層	4.35	2.40	0.63	5.4	黒曜石	
18	使用痕剥片	B-エ・Ⅲb層	6.88	2.62	0.85	14.3	流紋岩	
19	使用痕剥片	C-カ・Ⅲb層	3.20	3.42	0.58	7.4	流紋岩	
20	使用痕剥片	C-ズ・Ⅲb層	4.90	3.20	0.85	12.1	流紋岩	
21	二次加工剥片	C-オ・Ⅲb層	8.90	3.50	1.60	47.0	流紋岩	
22	剥片	C-オ・Ⅲb層	3.65	1.95	0.70	5.7	流紋岩	意識的に折っている

## 第4節 まとめ

下星野遺跡は、細石刃文化期、縄文時代早期・後期・晩期、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世にまたがり人々の生活文化に触ることができる遺跡である。本遺跡の遺構としては、細石刃文化期の集石造構・土坑、縄文時代早期の集石造構・土坑、縄文時代後期の土坑、弥生から古墳時代の竪穴住居跡、古代の土坑、中世・近世の溝状造構が検出されている。また、遺物としては細石刃文化期の細石核・細石刃・スクレイパー等の石器類や縄文時代の早期・後期の土器・石鎚等の石器類、弥生から古墳時代の壺・壺等の土器類が多数出土している。また、調査区内の火山灰を自然科学分析で同定したところ、霧島小林軽石（1,5万年前）・霧島薩摩テフラ（1,05万年前）・桜島火山起源の末吉軽石（7,500年前）・鬼界アカホヤ火山灰（6,300年前）・霧島御池軽石（3,000年前）・桜島文明軽石（1,471年）・霧島新燃保軽石（1,717年）等の示標テフラが検出された。以下それぞれの時代について簡単にまとめてみたい。

### 1 細石刃文化期

この期の遺構としては、C区で集石造構が3基・土坑が3基確認された。集石造構は、いずれも掘込みを持たず所々礫が集中する集石であるが、明かに石が赤変しており火の使用が伺える。検出層は小林軽石を含む層であり、この期の石器類と共伴している。特にS I 3は、石の集石状況は疎であるが、明らかに黒色に変色した炭化物粒を含む土層が検出された。おそらくは火を使う段階では密集させていた石を使用後に散在させたものと思われる。また、集石の周辺には石器類の遺物が他の区画より多く出土していることも検討を要する。本遺跡の縄文早期の集石造構とは形態を異にすることは明らかである。土坑は3基検出されたが、隣接している2基の土坑SC2・3の埋土中には炭化物粒が含まれており火の使用が考えられる。また、調査時は別々の土坑として考えたが形状から炉穴の可能性も否定できない。

この期の遺物としては土器と石器が出土している。土器は3点出土し貝殻条痕文が施されているが、出土層のIVa層が上層と不安定な境界を示しているため他の石器類と共にすることは断定できない。石器は細石核13点・細石刃10点・スクレイパー2点・使用痕剥片11点・二次加工剥片1点・その他剥片類が出土している。石器全体の出土位置は、調査区中央部・南端部・南東部に分けることができ、さらに南東部も3ブロックに分けることができる。D-キグリッドの壁際に特に集中しておりその中には細石核も3点含まれる。細石核は全て黒曜石製で野岳タイプであるが、細石刃には砂岩と頁岩が含まれている。出土位置は南東部の台地縁辺部に多く集中しており、黒曜石以外の頁岩・砂岩等も利用しながら石器の加工場として考えができる。

### 2 縄文時代早期

縄文時代早期の遺構としては、大小の礫を用いた集石造構がみられた。A区4基・C区10基である。C区の集石造構は明確な掘込みを持つタイプであるが、A区の集石造構にはC区のような掘込みを持つタイプはない。しかし、早期の出土土器を比較すると前平式土器・塞ノ神式土器がどちらの集石造構検出層からも出土していることから、時期的には大きな時代差はないよう思える。C区の集石造構であるが、礫群の広がりを見せる1基を除いて石の密な集積状況と掘込みをもつというほぼ共通した構造になっている。調査区の中央部には集石造構のための準備礫か使用後の廃棄

礫がどちらともいえない赤変した礫群が広がっている。石の大きさは、底石に両手で抱えるくらいの大きなものがあるが、ほとんどは片手で持ち運びができるほどの大きさ・重さである。おそらく地盤の礫層が付近の斜面に露呈していたものか、谷から持ち運んだものだと推定される。特に使用後に近い状態の集石遺構がS I 8・9であろう。円形を呈し中央部は窪む断面をしており、使用した廃棄礫は周辺にあまり広がっていない。平坦面のB区では集石遺構・礫群とともに検出されなかつたことから、立地的には谷を望む様な緩やかな傾斜地の周辺に作られるようである。

縄文時代早期の遺物としては、土器と石器が出土しているが縄文後期の遺物量と比べると少ない。土器は文様や形態から分類した。I類はヘラ状工具による斜め方向の連続刺突文や斜め方向の貝殻条痕文を持つものでいわゆる前平式土器である。II類は底部に櫛齒状工具による縦位の連続刺突文・貝殻腹縁による縦位や斜位の連続刺突文を持つもので下剥峰式土器に相当する。III類は、棒状工具・ヘラ状工具による凹線文や沈線文または網目状の撲糸文などが施されているもので、塞ノ神式土器に相当する。IV類は無文の土器である。また、A区からは前平式土器・塞ノ神式土器が出土している。下星野遺跡の早期土器はA区とC区で同時代の土器が出土している。また、隣接する杉木原遺跡や竹ノ内遺跡でも同様の時期の土器が出土していることから、早期の時代には住環境に適している地域であったと思われる。

### 3 縄文時代後期から晩期

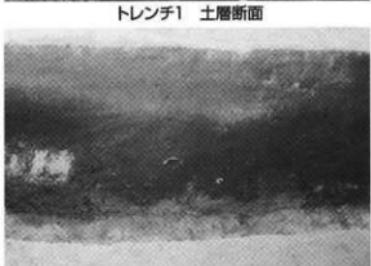
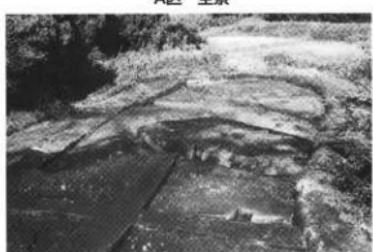
縄文時代後期から晩期の本遺跡は、C区には遺物・遺構が検出されていないためA区の遺構と遺物が全てである。特に包含層から出土した後期の土器は、市来式を中心とし多数出土した。分類のI類は、口縁部を肥厚させ断面が三角形または逆くの字形に成形し、文様として貝殻腹縁刺突文や、沈線文や凹線文を施すもので、市来式土器である。II類は、市来式土器に比較すると口縁部形態に大きな変化が見られ、断面三角形の肥厚口縁がほとんどなく、くの字口縁か外反口縁と変化しているもので、文様は口縁部屈曲の上下に斜位の貝殻腹縁刺突文や短沈線文を巡らすものを基本とする、丸尾式土器である。III類は、市来式の特徴である口縁部文様帶の肥厚や逆くの字形の屈曲が全く見られないもので、外面のくびれ付近から口縁部が外傾または外反し文様はこの付近に貝殻腹縁刺突文などが施され、口唇部が丸みを帯びているのも特徴となっている草野式土器である。後期の土器はこの3タイプの出土量が多いことから後期の中心を成している。同じ台地上の竹ノ内遺跡でも同様の時期の土器が多く出土していることから、本遺跡との関連性が考えられる。

### 4 弥生時代から古墳時代

この時期の本遺跡はC区に遺構・遺物がなく、A区のみの検出となった。遺構としては住居跡が複数軒、遺物としては弥生中期から古墳中期までの土器が出土した。床面と想定されるレベルが3面あることから切り合いを3軒（3時期）と判断し、中央部の低い床面に対するプランが約3.6m×2.8mの長方形プラン。東側トレント2の断面床面に対するのが2.4m×3.6mの長方形プラン。南側の高い床面に対するプランが3.8m×4.0mのはば正方形のプランであることが推定できる。また、整理作業時に、北に柱穴らしき変色部分があることなどから、この地では永続的に生活していたものと思われる。小さな谷に面し背後は緩やかな丘陵地帯がひかえたA区では縄文後期の時代から生活の場として住みやすい環境であったと思われる。

## 参考文献

- ・「宮崎県史 通史編 原始・古代1」宮崎県史刊行会 1997
- ・「草野貝塚」「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)」鹿児島市教育委員会 1988
- ・「下弓田遺跡」「日向遺跡総合調査報告」第1輯 宮崎県教育委員会 1961
- ・「丸野第2遺跡」「田野町文化財調査報告書第11集」田野町教育委員会 1990
- ・「芳ヶ迫第1～3遺跡・札ノ元遺跡」「田野町文化財調査報告書第3集」田野町教育委員会 1986
- ・「図解技術の考古学」潮見 浩 有斐閣 1988
- ・「日本土器辞典」大川清、鈴木公雄、工楽普通編集 雄山閣 1996
- ・「宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集」宮崎県教育委員会 1985
- ・「宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集」宮崎県教育委員会 1988
- ・「広木野遺跡・神殿遺跡A地区」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第7集」宮崎県埋蔵文化財センター 1997
- ・「市位遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第10集」宮崎県埋蔵文化財センター 1998
- ・「白鳥平B遺跡」「熊本県文化財調査報告第142集」熊本県教育委員会 1994
- ・「赤木遺跡・下剣峯遺跡・大四郎遺跡・内和遺跡」鹿児島県西之表市教育委員会 1978
- ・「南九州における縄石刃文化終末期の様相」宮田栄二・坂詔秀一先生還暦記念会 1996
- ・「椎屋形第1・第2遺跡・上の原遺跡」宮崎市教育委員会 1996
- ・「早期九州貝殻文系土器様式」「縄文土器大観」1 新東晃一 小学館 1989
- ・「塞ノ神・平格式土器様式」「縄文土器大観」1 新東晃一 小学館 1989
- ・「上の原第3遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第13集」宮崎県埋蔵文化財センター 1999
- ・「宮崎県内の平格式土器・塞ノ神式土器集成」「宮崎縄文研究会資料集2」宮崎縄文研究会 1998



A区 集石遺構・住居跡